

お仲間林遺跡

発掘調査報告書

財団法人
山形県埋蔵文化財センター



6-1995-891-01

1995

1995
891
6

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

な か ま ぼやし
お仲間林遺跡
発掘調査報告書

平成7年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



1995-891



遺跡遠景(西から)



調査区全景(西から)



Aブロック遺物出土状況(北から)



Eブロック遺物出土状況(南西から)





序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが平成5年度に発掘調査を実施したお仲間林遺跡の調査成果をまとめたものです。

お仲間林遺跡は、山形県のほぼ中央に位置する西川町にあります。西川町は北に月山、南西に朝日岳を望み、町の中央を流れる寒河江川の河岸段丘に開けた緑豊かな街です。古くから出羽三山信仰の中継地として栄え、近年は村おこしのモデル地域として知られています。

調査では、後期旧石器時代の石器の集中地点が数ヶ所に発見され、石器の素材となる石刃を生産した跡との推定もなされています。入間ダムの工事中道路建設に係わる調査のため発掘面積は多くありませんが、旧石器時代の生活を理解するうえでよい資料を得ることができました。

埋蔵文化財は祖先が長い歴史の中で創造し育ててきた貴重な遺産といえます。私たちは国民的財産の文化財を大切に保護し、さらに郷土の歴史の中で培われた文化を後世に引き継がねばなりません。一方、平和で豊かな暮らしは私たちが等しく切望しているところです。近年、高速自動車道やバイパス、農業基盤整備事業など国県等の事業が増加していますが、これに伴い事業区域内で発掘調査を必要とする遺跡が増加の傾向にあります。

事業区内の遺跡の調査は、埋蔵文化財保護と開発事業実施のため、適切かつ迅速に行われることが今日求められています。こうした要請に適切に対処するとともに埋蔵文化財調査体制の充実を図ることが急務とされ、平成5年4月に財団法人山形県埋蔵文化財センターが設立されました。職員一同、県民と関係各位の要望に応え本県の埋蔵文化財保護のため一層の努力をいたす所存です。今後とも当センター発足の目的が遂行されるようご支援ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

本書が文化財保護活動の啓蒙普及、学術研究、教育活動などにおいて皆様のご理解の一助ともなれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力をいただいた地元の方々をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます。

平成7年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター
理事長 木場清耕

例言

- 1 本書は最上川水系寒河江川直轄砂防事業に係る「お仲間林遺跡」の緊急発掘調査の報告書である。
- 2 調査は建設省東北地方建設局新庄工事事務所の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 調査要項は下記のとおりである。

遺跡名	お仲間林遺跡 (CNKOB)		遺跡番号	491
所在地	山形県西村山郡西川町大字入間字兵助新田2677・1554-2			
調査期間	発掘調査	平成5年4月1日～平成6年3月31日		
	現地調査	平成5年5月12日～平成5年7月29日		
	資料整理	平成6年4月1日～平成7年3月31日		
調査主体	財団法人 山形県埋蔵文化財センター			
調査担当者	調査研究課長	佐々木洋治		
	主任調査研究員	佐藤 庄一		
	調査研究員	氏家 信行		
	調査研究員	黒坂 雅人		
- 4 発掘調査及び本書を作成するにあたり、建設省東北地方建設局新庄工事事務所、西川町教育委員会、西村山教育事務所等関係機関の協力を得た。また加藤稔、阿部祥人、工藤敏久、五十嵐彰、渡辺丈彦、荒木利見、会田容弘、藤原敏妃、柳田俊雄の各氏から貴重な御助言、御指導を賜った。記して感謝申し上げる。
- 5 本書の作成・執筆は佐藤庄一、黒坂雅人が担当した。第2図の調査区相互の位置関係については、慶應義塾大学民族学考古学研究室より資料を提供していただいた。また、第七章2は慶應義塾大学大学院渡辺丈彦氏より玉稿を賜った。ここに記して感謝申し上げます。本報告書は短期間でまとめざるを得なかったことから、事実報告を主体としている。今後、これらをもとに考察を深めて行く必要があると考えている。編集は尾形典典、須賀井新人が担当し、全体については佐々木洋治が監修した。
- 6 遺物実測図のうちの打製石器、接合資料については、株式会社シン技術コンサルに実測業務を委託した。
- 7 出土遺物、調査記録類については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

凡例

- 1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

ST…堅穴住居跡	SK…土壙	SL…屋外炉
EP…住居跡内柱穴	RQ…登録礫	S…礫
- 2 遺構・遺物番号は、現地調査段階での登録番号をそのまま報告書での番号として踏襲した。なお、本書では前年度に実施された遺跡詳細分布調査における出土遺物も同時に扱っており、それらの登録番号についても現地調査のものをそのまま踏襲している。また母岩番号は整理段階で任意に付したものである。
- 3 報告書執筆の基準は下記のとおりである。
 - (1) 調査区概要図・分布図・遺構実測図中の方位は磁北を示している。
 - (2) グリッドの南北軸は、N-45°-Wである。
 - (3) 遺構実測図は1/20・1/40で採録し、各挿図毎にスケールを付した。
 - (4) 石器・接合資料の実測図は1/2の縮尺とし、各々にスケールを付した。これらのうち、ドットで表現されている部分は原礫面を示し、斜破線の部分は節理面を表している。また接合資料の実測図中リングが破線となっているものは主要剝離面であることを示している。
 - (5) 石器実測図に付された挿図番号は図版に付した番号と対応する。
 - (6) 遺物分布図は全体図を1/300で採録した。母岩毎の水平・垂直分布図は、特に遺物集中の著しいA・C・Eの各ブロックから出土した接合資料について1/40で採録し、一部に1/10の部分拡大図を併載した。いずれも各挿図毎にスケールを付している。
 - (7) 平面分布図に記された番号は各遺物の登録番号である。また垂直分布図は各図に示した位置にあるベルトの土層断面に投影させた。
 - (8) 母岩毎の分布図に使用した記号は以下のとおりである。

■…石核	●…石刃	▲…剝片
□…打面調整剝片	○…石核調整剝片・稜付石刃	△…碎片
 - (9) 縄文土器の拓影・実測図は1/2の縮尺とし、各々にスケールを付した。
 - (10) 遺物図版の縮尺は約1/2で採録したが、巻頭図版は任意の縮尺としている。

目次

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の立地と環境	
1 地理的環境	3
2 歴史的環境	3
III 調査の経過	4
IV 調査の概要	
1 基本層序	6
2 遺構と遺物の分布	9
V 旧石器時代の遺構と遺物	
1 集石遺構	10
2 石器	10
3 属性表	66
VI 縄文時代以降の遺構と遺物	
1 住居跡	80
2 石囲炉	81
3 土壌	81
4 縄文土器	81
5 石器	82
VII 考察	
1 遺物集中地点について	92
2 お仲間林遺跡出土の硬質頁岩原石について	99
VIII 調査のまとめ	109
報告書抄録	110

挿図

第1図 遺跡位置図	2	第8図 石核実測図(3)	14
第2図 調査区概要図	5	第9図 石核実測図(4)	15
第3図 A L-100区深掘土層断面図	6	第10図 石核実測図(5)	16
第4図 遺物分布図	7	第11図 石核実測図(6)	17
第5図 集石遺構平面図	11	第12図 石核実測図(7)	18
第6図 石核実測図(1)	12	第13図 石核実測図(8)	19
第7図 石核実測図(2)	13	第14図 ナイフ形石器実測図	21

第15図 ナイフ形石器・スクレーパー実測図	22	第48図 母岩27分布図・母岩42実測図	59
第16図 母岩38実測図・分布図	27	第49図 母岩24実測図・分布図	60
第17図 母岩35実測図(1)	28	第50図 母岩25実測図	61
第18図 母岩35実測図(2)	29	第51図 母岩23実測図	62
第19図 母岩36実測図	30	第52図 母岩25・母岩23分布図	63
第20図 母岩35・母岩36分布図	31	第53図 母岩30実測図	64
第21図 母岩37実測図	32	第54図 母岩33実測図	65
第22図 母岩37実測図・分布図	33	第55図 剥片・石刃計測模式図	66
第23図 母岩39実測図・母岩40分布図	34	第56図 S T 1 実測図	80
第24図 母岩40実測図・母岩39分布図	35	第57図 S L 5 実測図	80
第25図 母岩8・母岩15実測図	36	第58図 S K 2・S K 4 実測図	81
第26図 母岩8・母岩15分布図・ 母岩7実測図	37	第59図 縄文土器拓影図	81
第27図 母岩3実測図	38	第60図 石鏃模式図	82
第28図 母岩6実測図	39	第61図 尖頭器模式図	83
第29図 母岩9実測図	40	第62図 石鏃・尖頭器実測図	83
第30図 母岩4・母岩10実測図	41	第63図 尖頭器実測図	84
第31図 母岩43実測図(1)	41	第64図 石匙模式図	85
第32図 母岩43実測図(2)	43	第65図 石匙実測図	85
第33図 母岩11実測図	44	第66図 石筥模式図	87
第34図 母岩12実測図	45	第67図 石筥実測図(1)	88
第35図 母岩17実測図	46	第68図 石筥実測図(2)	89
第36図 母岩12・母岩17分布図	47	第69図 石筥実測図(3)	90
第37図 母岩16実測図・分布図	48	第70図 搔器・削器実測図	91
第38図 母岩19実測図・分布図	49	第71図 母岩28・母岩29分布図	98
第39図 母岩18実測図	50	第72図 円磨度の測定法	103
第40図 母岩20実測図	51	第73図 円磨の程度のクラス分け	103
第41図 母岩18・母岩20分布図	52	第74図 原石の形態概念図	103
第42図 母岩21実測図・分布図	53	第75図 硬質頁岩の形態	103
第43図 母岩26実測図(1)	54	第76図 硬質頁岩の円磨度	104
第44図 母岩26実測図(2)	55	第77図 お仲間林遺跡出土硬質頁岩 原石と接合資料の形態	105
第45図 母岩22実測図	56	第78図 お仲間林遺跡出土硬質頁岩 と接合資料の重量	105
第46図 母岩26・母岩22分布図	57		
第47図 母岩27実測図	58		

付 表

表-1 石核属性表 67	表-26 母岩18属性表 74
表-2 ナイフ形石器・スクレーパー属性表 67	表-27 母岩20属性表 74
表-3 母岩36属性表 67	表-28 母岩21属性表 74
表-4 母岩38属性表 68	表-29 母岩22属性表 74
表-5 母岩35属性表 69	表-30 母岩26属性表 75
表-6 母岩37属性表 70	表-31 母岩27属性表 76
表-7 母岩39属性表 70	表-32 母岩24属性表 77
表-8 母岩40属性表 71	表-33 母岩28属性表 77
表-9 母岩 8 属性表 71	表-34 母岩25属性表 78
表-10 母岩15属性表 71	表-35 母岩29属性表 78
表-11 母岩 7 属性表 71	表-36 母岩23属性表 79
表-12 母岩 3 属性表 72	表-37 母岩42属性表 79
表-13 母岩 6 属性表 72	表-38 母岩30属性表 79
表-14 母岩 9 属性表 72	表-39 母岩31属性表 79
表-15 母岩 4 属性表 72	表-40 母岩32属性表 79
表-16 母岩10属性表 72	表-41 母岩33属性表 79
表-17 母岩43属性表 72	表-42 母岩34属性表 79
表-18 母岩 5 属性表 72	表-43 母岩41属性表 79
表-19 母岩13属性表 72	表-44 石鏃属性表 83
表-20 母岩44属性表 72	表-45 尖頭器属性表 83
表-21 母岩11属性表 73	表-46 石匙属性表 85
表-22 母岩12属性表 73	表-47 石籠属性表 87
表-23 母岩17属性表 73	表-48 搔器・削器属性表 87
表-24 母岩16属性表 73	表-49 硬質頁岩原石観察表(1) 107
表-25 母岩19属性表 73	表-50 硬質頁岩原石観察表(2) 108

図 版

巻頭図版1 遺跡近景・調査区全景	図版29 母岩37
巻頭図版2 Eブロック遺物出土状況他	図版30 母岩38・母岩38接合打面調整剥片
巻頭図版3 母岩35	図版31 母岩38接合剥片・石刃他
巻頭図版4 母岩26	図版32 母岩39・母岩40
図版1 Aブロック石刃出土状況他	図版33 母岩 8
図版2 集石遺構検出状況	図版34 母岩15
図版3 G-93区頁岩原石出土状況他	図版35 母岩 7・母岩 3
図版4 P~S-95~98区付近調査状況他	図版36 母岩 4・母岩 6
図版5 V・W-97・98区遺物出土状況他	図版37 母岩10・母岩13・母岩 5
図版6 R-95区遺物出土状況他	図版38 母岩11・母岩16
図版7 Z~AC-97~100区付近作業状況他	図版39 母岩17
図版8 Eブロック遺物出土状況他	図版40 母岩18
図版9 Eブロック作業状況他	図版41 母岩19・母岩20
図版10 Eブロック遺物出土状況他	図版42 母岩22
図版11 Gブロック遺物出土状況他	図版43 母岩23
図版12 AC-1・2区土層断面他	図版44 母岩24・母岩21
図版13 Fブロック遺物出土状況他	図版45 母岩25
図版14 Fブロック作業状況他	図版46 母岩27
図版15 AL~AO-98~100区付近作業状況他	図版47 母岩27接合剥片・石刃他
図版16 ST1完掘状況・土層断面	図版48 母岩26
図版17 SK2土層断面・完掘状況	図版49 母岩29
図版18 SK4完掘状況・SL5検出状況	図版50 母岩28A・B
図版19 SL5土層断面・完掘状況	図版51 母岩28C
図版20 調査区完掘状況	図版52 母岩30・母岩31・母岩32
図版21 石核(1)	図版53 母岩33・母岩34
図版22 石核(2)	図版54 母岩41
図版23 石核(3)	図版55 石鏃・尖頭器
図版24 石核(4)	図版56 尖頭器・石匙
図版25 ナイフ形石器	図版57 石籠(1)
図版26 ナイフ形石器・スクレーパー	図版58 石籠(2)
図版27 母岩35	図版59 石籠(3)
図版28 母岩36	図版60 搔器・削器・加工痕ある剥片

I 調査に至る経過

お仲間林遺跡の発見は、昭和51年の夏に地元の研究者宇野修平氏が入間の段丘上からナイフ形石器と石刃を採集したことによる。発見地付近が村の入会地で「お仲間林」と呼ばれていたことから、そのまま遺跡名にしたという。山形県教育委員会が昭和53年3月発行した『山形県遺跡地図』にも、旧石器時代から縄文時代の遺物包蔵地として登録されている。

昭和54年の春に、山形県総合学術調査の一環として、加藤稔・荒木利見両氏によって遺跡北東部36㎡を対象とした6日間の試掘調査が行われ、尖頭器・ナイフ形石器・彫刻刀形石器・石核等が出土した。昭和57年には、菊地重則氏が木葉形尖頭器・搔器・石刃等を採集し、その報告を行っている。

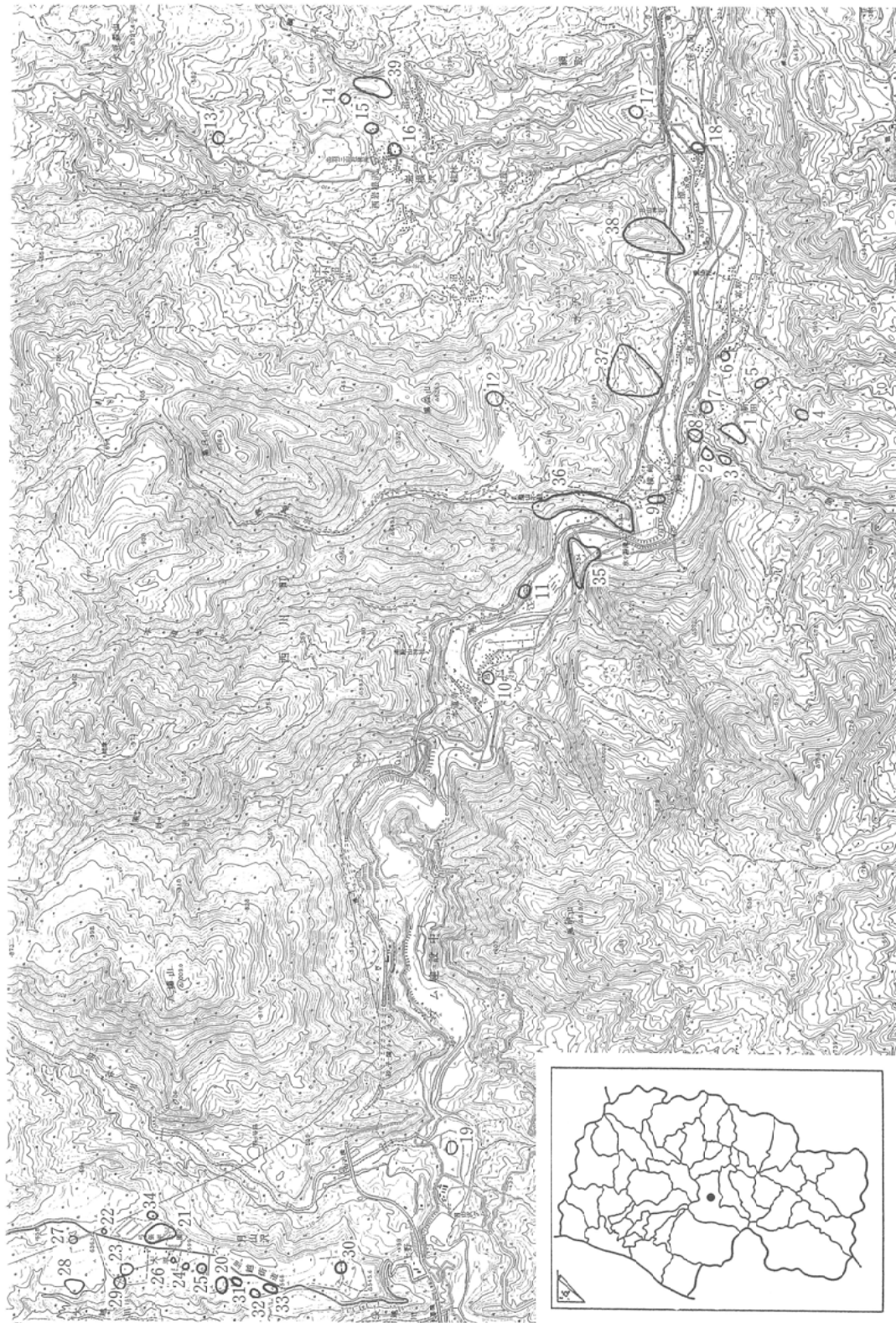
また昭和61年と平成4年の二回、慶應義塾大学文学部民族学考古学研究室が遺跡北東部を対象とした学術調査を実施している。入間の段丘に初めて本格的な学術調査の手が入れられたことになる。昭和61年の調査成果は『お仲間林1986』として同研究室によって平成3年に刊行されているが、発掘調査や記録整理にコンピューターを導入し、遺物の分布や剥片剥離技術に応用するなど精緻な分析がなされている。

その後、平成4年になって最上川水系寒河江川直轄砂防事業に係わる入間ダムの工事用道路建設事業が建設省によって計画され、お仲間林遺跡が工事予定地に含まれることとなったため、それに先立ち同年9月に山形県教育委員会が、遺跡の内容把握と開発計画の調整を図る目的で試掘調査を行った結果、遺跡は旧石器時代の良好な包蔵地であることが明らかになった。遺跡の範囲は、東西90m、南北230mにわたり、遺跡の面積は約20,700㎡と推定されている。

この調査内容をもとに、山形県教育委員会が建設省東北地方建設局や関係機関と遺跡の保存について協議を重ねた結果、寒河江川直轄砂防事業に遺跡がかかる場所について、財団法人山形県埋蔵文化財センターが建設省東北地方建設局新庄工事事務所から委託を受け平成5年度に発掘調査を実施することになったものである。

発掘調査に至るまでの関係機関との主な協議経過は以下のとおりである。

- | | |
|-----------|--|
| 平成5年3月11日 | 建設省東北地方建設局新庄工事事務所長から文化庁長官あて埋蔵文化財発掘の通知があった。 |
| 平成5年3月15日 | 建設省東北地方建設局新庄工事事務所長から山形県教育長文化課長あて埋蔵文化財発掘調査の実施と見積りの依頼があった。 |
| 平成5年3月30日 | 山形県教育委員会教育長から建設省東北地方建設局新庄工事事務所長あてに調査の受託と見積りの回答を行う。 |
| 平成5年4月1日 | 建設省東北地方建設局新庄工事事務所長から財団法人山形県埋蔵文化財センター理事長あてに委託契約についての協議がなされる。同日付けで委託契約を締結。 |



第1図 遺跡位置図(S=1:50,000)

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

お仲間林遺跡は山形県西村山郡西川町大字入間字兵助新田に所在する。町役場のある海味地区からは、西に直線距離で約5kmのところに位置している。西川町は、北の月山(標高1,980m)と湯殿山(標高1,504m)の深い山裾、西の大朝日岳(高1,870m)を頂点とする朝日連峰の急峻な山岳地帯、南の小朝日岳付近から北東方向にのびる丘陵にはさまれた山間地域である。また、月山山麓は日本でも有数の豪雪地帯であり、遺跡の近辺でも日陰では4月下旬頃まで雪の残るところがある。町の中央を流れる寒河江川は、朝日山系に源を発し、大井沢の谷あいをもぬって北流した後、月山沢付近で東に流れをかえて本導寺一水沢・入間一問沢一海味一陸合を蛇行する。西川町の人口の多くが集中するこの中流域では、本流および支流の両岸に河岸段丘がよく発達し、そうした平坦地を利用して集落や水田が営まれている。寒河江市白岩付近から下流域にいたり、河北町と寒河江市一带に広い扇状地を形成しながら河北町溝延付近で最上川に合流する。

遺跡は寒河江川と支流の大入間川の合流点から南に約400mの位置にあり、この両河川によって形成された河岸段丘上に立地している。遺跡のある段丘面は直下の氾濫原からみて2段目にあたり、北の平坦面と南の山麓緩斜面からなりたっている。大入間川に面する西側斜面および北側の寒河江川に面する斜面は、ともに段丘崖の発達が顕著である。遺跡の中心は段丘北側の平坦面上と考えられ、標高282m前後、大入間川の現河床面からの比高約43mをはかる。現在の地目は畑地となっている。

2 歴史的環境

月山、湯殿山の麓に位置する西川町は、古くから出羽三山信仰の登拝者で賑わったところである。また、村山地方と庄内地方を結ぶ陸路の最短コースである「六十里越街道」の道筋でもある。さらに古い時代に目をむければ、寒河江川の発達した河岸段丘と深い山並みが石器時代の人々に豊かな恵みを与えていたことが容易に推測できよう。現在でも山菜と川魚は町の特産品となっている。第1図は寒河江川中流域の遺跡分布を示したものである。街道沿いには中世城館跡が庄内側への守備を固めるように点々と分布し、また、縄文・旧石器時代の遺跡は、寒河江川流域のみならず、弓張平遺跡群や岩根沢付近の遺跡群にみられるように山間の高地にまで分布する。この遺跡分布の傾向は先の歴史的背景を如実に物語っているものといえる。当該地域の石器時代遺跡の立地におけるもう一つの特徴は、寒河江川およびその支流が良質な頁岩の産地となっていることである。近年この流域では、お仲間林遺跡をはじめ縄文時代の集落跡である山居遺跡^(注1)、同じく下流の寒河江市富沢I遺跡^(注2)などが調査され、豊富な石材と結びついて石器生産を積極的におこなっている原産地型遺跡の存在が明らかになりつつある。

注1. 山形県埋蔵文化財センター(1994) 山居遺跡 調査説明資料
 注2. 山形県埋蔵文化財センター(1994) 富沢I遺跡 調査説明資料

III 調査の経過

調査は遺跡範囲約20,700㎡のうち、路線内にかかる約1,080㎡を対象としておこなった。平成4年9月の山形県教育委員会による遺跡詳細分布調査の結果から、遺物は表土からIV層上面まで密に分布していることが予想されたため、調査にあたっては重機を使用せずに表土から人力によって掘り下げた。掘り下げは4～8mの区画ごとにベルトを残しておこない、土層断面の観察および記録終了後にベルトを撤去した。I層からの出土遺物は開墾、耕作等により原位置をとどめていないため2×2mグリッドごと一括してとりあげた。またII～IV層から出土した遺物の記録は、一点ごとに光波測距による位置データを電子野帳にとりこみ、コンピューターに入力する方法をとった。なお、今回もちいたグリッドの軸方向および番号は、昭和61年に慶應義塾大学が実施した発掘調査の際に設定されたものをそのまま踏襲してある。現地調査は平成5年5月12日から7月29日まで実働56日間実施した。現地調査終了後、出土遺物の洗浄、ネーミング作業をおこない、さらに報告書の作成作業とそれともなう遺物整理作業は、平成6年度事業として平成6年4月1日から平成7年3月31日まで実施している。以下に現地調査の経過を略記する。

5月12日 現地に器材を搬入。午後3時から関係者立ち会いのもと鉄入れ式をおこなう。

5月13日～6月1日 現場事務所設営場所確保のため調査区北西端に先行調査区100㎡を設定、掘り下げにはいる。H・I-94・95区を中心に遺物集中地点(Aブロック)、I～K-91～94区から頁岩原石の集石遺構を検出。5月26日までに掘り下げ終了。6月1日に記録作業を終了する。この間19日から光波測距機を使用しての遺物とりあげ作業にはいり、21日からL～S-95～100区の掘り下げ作業を並行して実施する。

6月2日～6月16日 I～K-95～98区、L・M-93・94区、R～Y-95～100区を中心に掘り下げをおこなう。R-95区を中心にCブロックを検出する。16日までの登録遺物点数2,679点。

6月17日～6月30日 Z～A C-96～100区、A D～A G-97～2区、A H～A K-99～2区について掘り下げをおこなう。Z～A B-98・99区付近にEブロック、A I-99区にFブロック、A H-1・2区にGブロックをそれぞれ検出した。30日までの登録遺物点数4,418点。

7月1日～7月20日 A L～A X-98～3区について掘り下げを実施したほか、S T 1・S K 2・S K 4の精査および記録をおこなった。この間7日にGブロック精査終了、13日にFブロックの精査を終了するがEブロックは継続作業となる。19日までの登録遺物点数6,400点。20日に調査説明会があり、約30名の出席があった。

7月21日～7月29日 Y～A B-95・96区、S L 5の精査を実施したほか、A L-100区に深掘り区を設定し、土層断面観察をおこなった。また、28日までにEブロックの精査とベルトの撤去を終了した。最終の登録遺物点数7,828点。29日に器材撤収、現地作業を終了する。



第2図 調査区概要図

IV 調査の概要

1 基本層序 (第3図)

AL-100区内に深掘り区を設定し、礫層上面まで掘り下げ、その北東壁について断面観察をおこなった。その概要は以下のようになる。

I層 10Y R 3 / 3 暗褐色シルト：耕作土。直径2~20cmの凝灰岩風化礫、炭化物を含む。II・III層を粒状に含む。多量の遺物を包含する。

II層 10Y R 2 / 3 黒褐色シルト：直径5~10cmの凝灰岩風化礫と炭化物を若干含む。III層を塊状に含む。多量の遺物を包含する。

III層 10Y R 4 / 4 褐色粘土質シルト：粗砂を含む。部分的に凝灰岩風化礫、頁岩角礫を多量に含み、また炭化物を若干含む。硬くしまっている。II・III層間の境界は波状をなす部分が多い。多量の遺物を包含する。

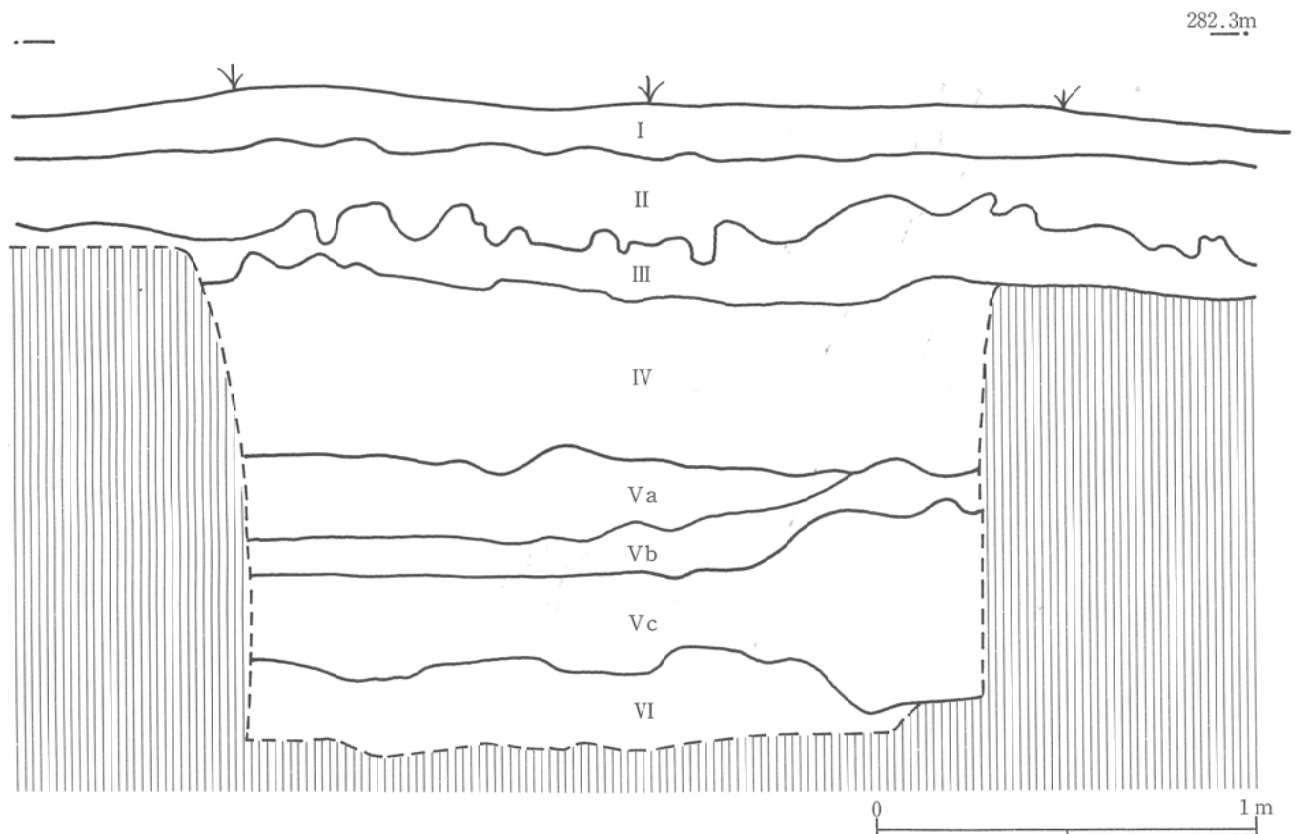
IV層 10Y R 5 / 6 黄褐色粘土質シルト：直径10~100cmの凝灰岩風化礫、頁岩角礫、同垂角礫を多量に含む。硬くしまっている。上面に遺物が混入するものの、基本的にIV層以下は無遺物層と考えられる。

Va層 10Y R 7 / 2 におい黄褐色粘土：粗砂を含む。硬くしまっている。

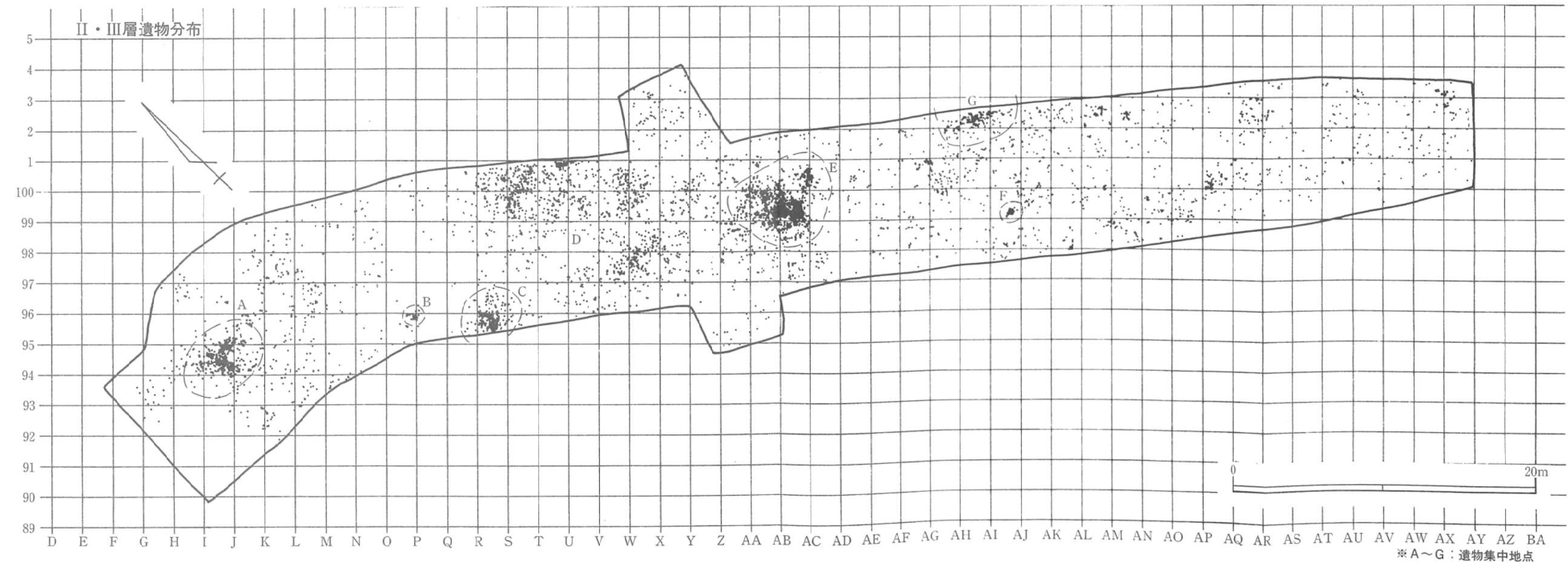
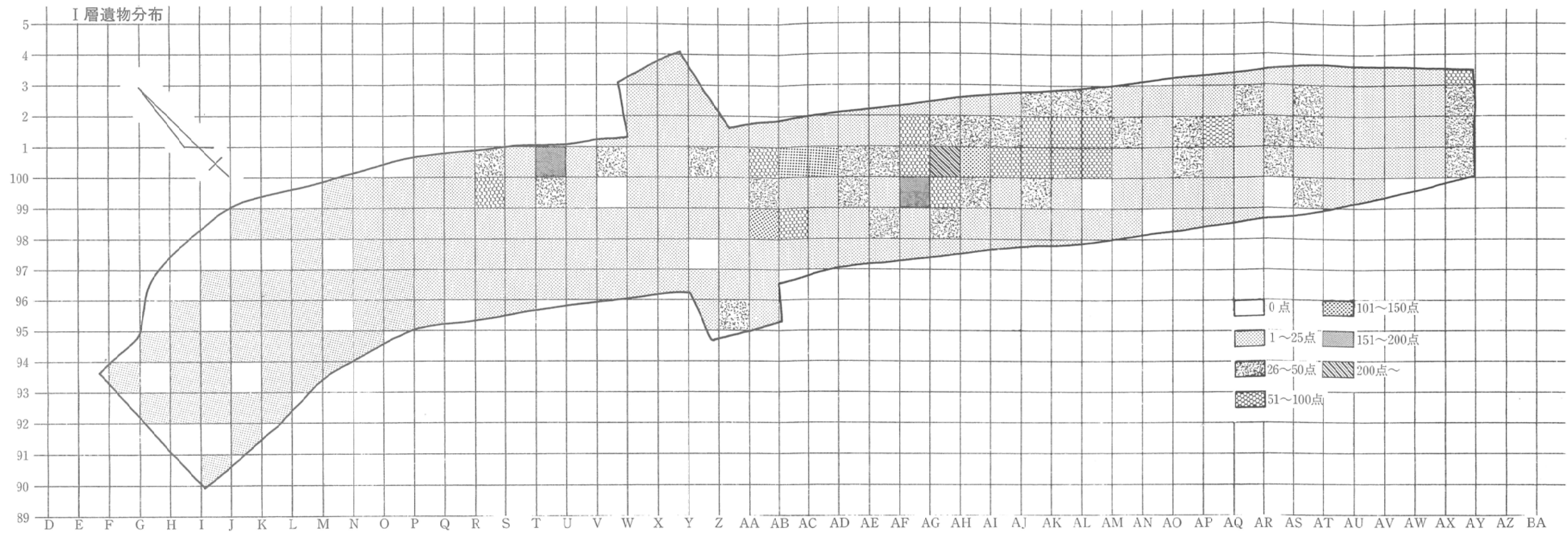
Vb層 7.5Y R 5 / 8 明褐色粘土：質的にVa層に同じ。酸化鉄を多く含む。

Vc層 10Y R 7 / 2 におい黄褐色粘土：Va層に同じ。凝灰岩風化礫を若干含む。

VI層 砂礫層：直径10~50cm大の円礫と粗砂より構成される。硬くしまっている。



第3図 AL-100区深掘り土層断面図



第4図 遺物分布図

2 遺構と遺物の分布

各層序ごとの遺構と遺物の分布は以下のようになる。

I層は調査区全体で平均15cmの厚さで堆積する。遺物は地表面にも多量に散布し、調査区内から表面採集資料を含めて3,980点が出土した。AM-2区出土の縄文土器片(第59図3)1点の他は剥片を主体とする石器遺物である。これら石器群の中で二次調整の加えられたいわゆるtoolは37点あるが、すべて縄文時代の所産と考えられる。I層中の遺物は開墾時あるいはその後の耕作などによって水平、垂直方向ともに攪乱を受けており、III層に分布の主体をもつ遺物集中地点の母岩別資料中に64点の石核・剥片が接合している。第4図上はI層出土の遺物をグリッドごとに図式化したものである。遺物は調査区南東半に偏る傾向が顕著であり、同図下のII・III層遺物分布のありかたとは大きく異なっている。

II層は縄文時代の遺構確認面であり、層厚20~30cmで堆積する。遺構は縄文時代の竪穴住居跡1棟(ST1・第56図)、炉跡1基(SL5・第57図)、所属時期不明の土壇2基(SK2・SK4・第58図)を検出した。検出区はST1がAQ・AR-2・3区、SL5がAO-100区、SK2がAK-2区、SK4がAM・AN-99区で、調査区南西半からまわって検出され、I層の遺物分布に対応している。遺物は調査初期の段階でグリッドごとに取り上げた83点と1,631点の登録遺物の合計1,714点が出土した。これらもすべて剥片類を主体とした石器遺物である。toolは縄文時代19点、旧石器時代5点が確認されており、両時代の遺物群が混在する状況がうかがえる。母岩別資料には115点の石核、剥片類が接合した。

III層は25cm前後の層厚をもつ。5,325点の登録遺物のほか、土壌洗浄により約150点の剥片、碎片が得られた。旧石器時代の主たる遺物包含層であり、II層出土の遺物とあわせて7カ所の集中地点の存在が明らかとなった(第4図下)。AブロックはH~J-93~95区内に分布する。6点の石核を含む535点からなる。BブロックはO・P-95・96区内に分布する。直径約50cmの範囲に48点の剥片・碎片が集中する。石核は出土していない。CブロックはQ~S-95・96区内に分布する。403点からなり、3点(内2点は同一母岩)の石核がある。DブロックはQ~Y-96~100区の広範囲にわたる。もともといくつかのブロックが存在していたものとみられるが、攪乱のための二次的な移動が水平および垂直方向に顕著である。22点の石核を含む1,062点が出土している。Eブロックは調査区のほぼ中央、Z~AC-98~100区内に分布する。今回の調査区の中では最も石器の集中した地点である。2,753点からなり、27点の石核がある。FブロックはAI-99区内で検出された。直径約20cmの範囲に424点の剥片、碎片が集中する。破損したサイドスクレーパー1点があり(第15図7)、この石器の製作にかかわる一括廃棄と考えられる。GブロックはAG~AI-1・2区内に分布する。一部を検出したに留まるが、8点の石核を含む212点が出土した。

IV層は旧石器時代の地山と考えられる。上面から204点の遺物が出土しているがその約半数は頁岩原石である。Aブロック南西の集石遺構はIV層上面検出である。

V 旧石器時代の遺構と遺物

1 集石遺構 (第5図)

調査区西端、I~K-91~94区内、IV層上面で検出された頁岩原石を主体とする礫群である。東西長、南北長ともに約4.5mの範囲に分布し、その平面形は西に向かって連弧状をなし、南辺が約4mの直線状になる。約190点からなり、このうちIV層起源と思われる小形の角礫および凝灰岩質、泥岩質の角礫、破碎礫等を除いて64点の頁岩原石がある。法量は、長径6~31cm、重量0.1~14.1kgの範囲に分布する(表-49)。この地点は段丘崖の傾斜変換線まで約8mの位置にあり、段丘下の大入間川から原石を搬入して一旦集積した場所である可能性が高い。なお、礫群中には良質の大形原石が少ないことから、石刃生産のために使用する原石を選択して持ち出した後に遺棄されたものとも考えられる。いずれにせよ石器製作工程の最初期の段階を示す遺構として注目される。

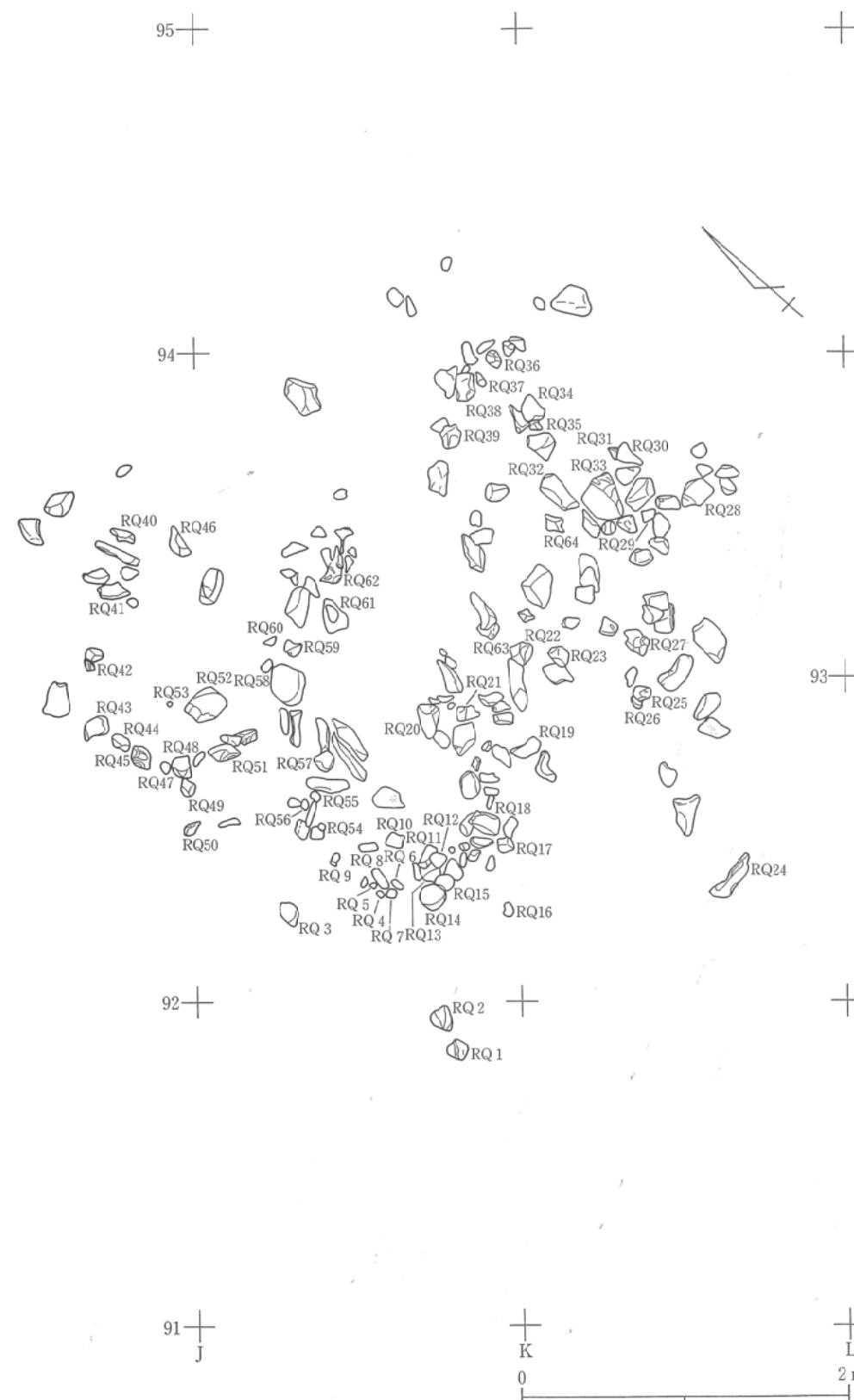
2 石器

今回の発掘調査では総数11,370点あまりの遺物が出土した。このうち遺跡内に持ち込まれたと思われる頁岩原石、自然礫などが全体の約3.7%にあたる450点あるほかは、石核・剥片類などの石器遺物で占められる。時代区分の指標となる道具として使用された石器は70点と全体の約0.6%に過ぎない。I層およびII層中の石核・剥片類は、縄文時代の遺物と混在し、後述するIII層に中心をもつ遺物集中地点の中核をなす母岩別資料との関連が求められないものについては、帰属する時代の認定が困難である。しかし、III層への縄文時代遺物の混入は、石鏃1点(第62図2)と石筥1点(第67図9)が確認されたのみであり、おそらく他にあってのごく僅かと考えられる。また、III層中、特に遺物集中地点の石器群の多くは、当該地域の旧石器時代後期に特徴的にみられる石刃の製作過程を反映したものである。したがってIII層以下IV層上面にかけては、ほぼ純粋な旧石器時代の遺物包含層とみることができる。以下ではII層からIV層にかけて出土した旧石器時代の石器と考えられるものについてその概要を述べるが、石核、母岩別資料についてはI層の出土遺物も一括してとりあげる。

石刃・剥片類

2次調整を加えて道具として使用するための素材となる、目的的に剥離された縦長剥片のうち最大長と最大幅の比率が2:1より大きくなるものを石刃とした。比率が2:1より大きい場合でも調整剥離などを目的としていることが明らかなものは除外した。この定義にあてはまる剥片はII層からIV層にかけて403点出土している。これは同じ層序から出土している石器総数約6,950点の5.8%にあたり、相対的に非常に少ない数量であることがわかる。これは生産場所からの大量の持ち出しを示唆するものである。母岩別資料への接合は270点ある。

石刃以外の剥片は、石刃剥離の前段階あるいは作業中の整形にかかわる石核調整剥片、稜付石刃、打角の調整などの打面の整形にかかわる打面調整剥片、目的剥片の剥離中に生



第5図 集石(頁岩原石)遺構平面図

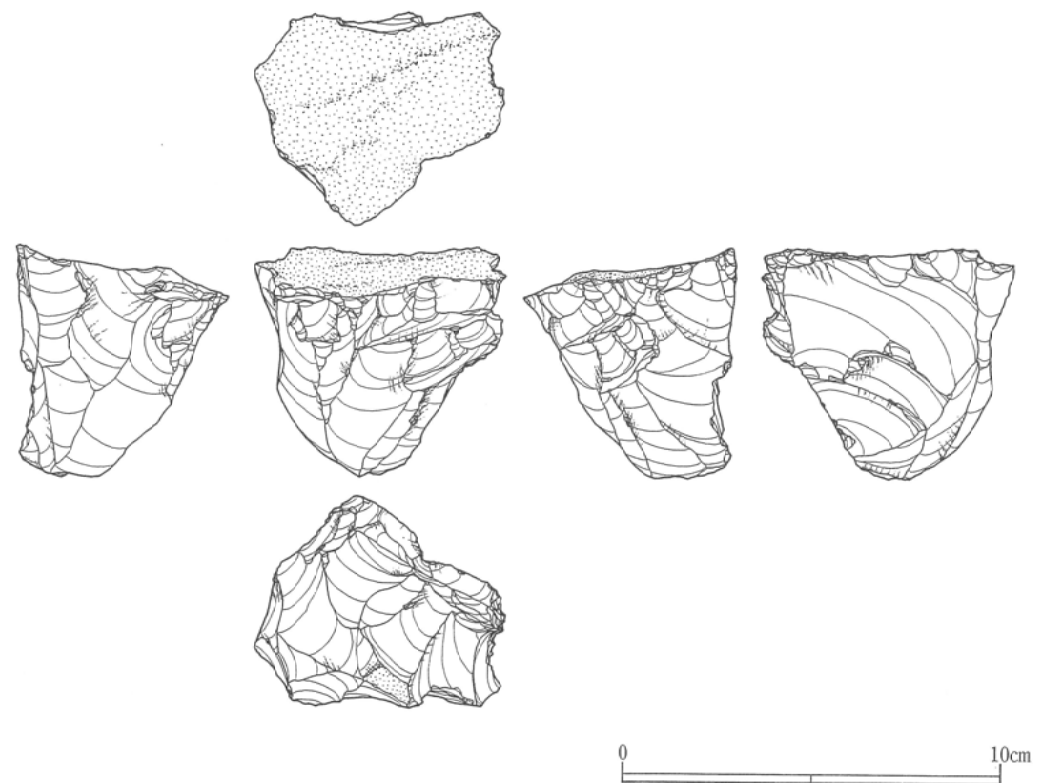
成した失敗品、破損品などがある。その他素材となる石刃に対して二次調整を施した際に出たものも含まれる。これらについては母岩に接合したものを除けば個々の剥片の性格を把握することが困難であり、今後それぞれ資料についての詳細な分析が必要である。

石核 (第6図～第13図・図版21～図版24・表-1)

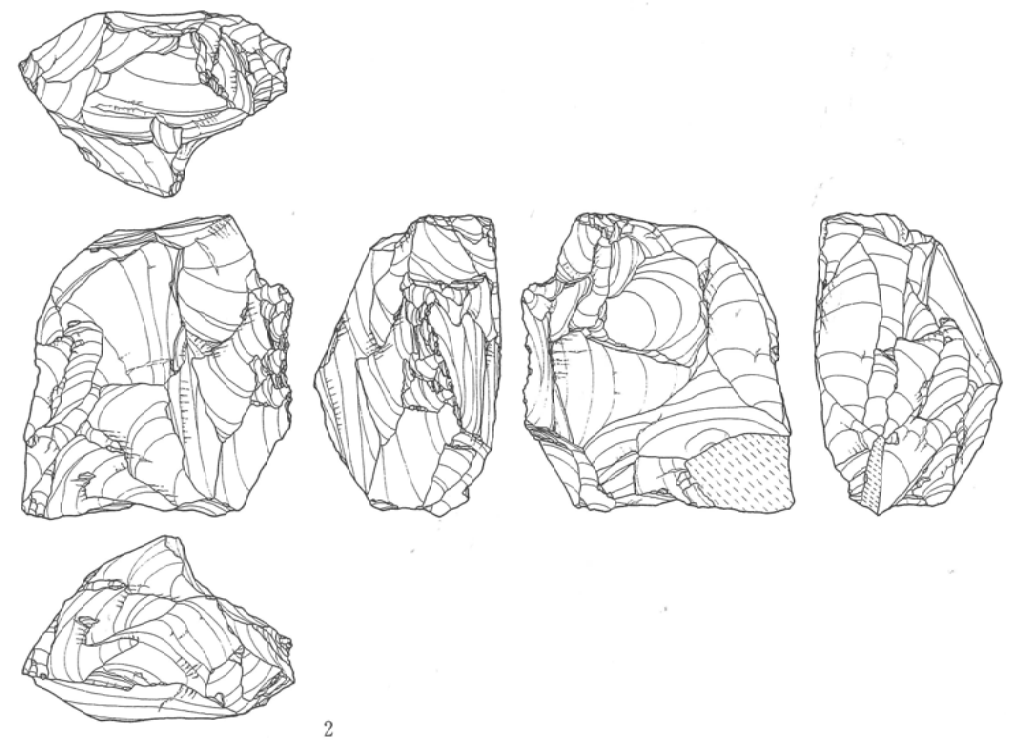
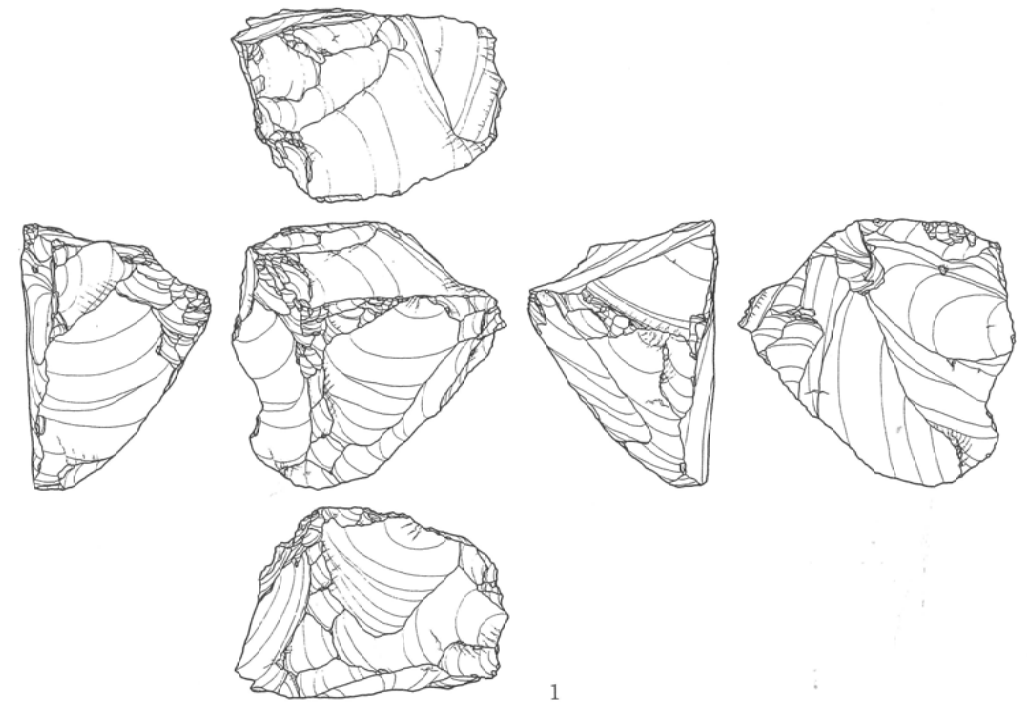
石核は86点が出土した。このうち接合資料に関連するものは52点ある(紙面の都合上これらの単体での実測図が掲載できなかったため、データについては表-3～表-43を参照されたい)。これらは石刃の連続的な剥離作業の結果として残されたいわゆる「石刃核」と、石刃の意識的な剥離の痕跡が認められないものとして大別される。さらに打面のとり方により、単一の打面のみを利用して剥離を繰り返す単設打面の石核と打面が石核の相対する両端に設定された両設打面の石核、3方向以上に打面が設けられる多設打面の石核が存在する。

石刃核は全部で36点出土したが、両設打面が圧倒的に多く、単設打面は5点(母岩3B・母岩4・母岩43・母岩44・母岩29E)のみである。前者4点は石刃の剥離工程の早い段階で何らかの理由により放棄されたと考えられ、母岩29Eは最終剥離がリバースヒンジフラクチャーを起こして下部の状況が把握できない。

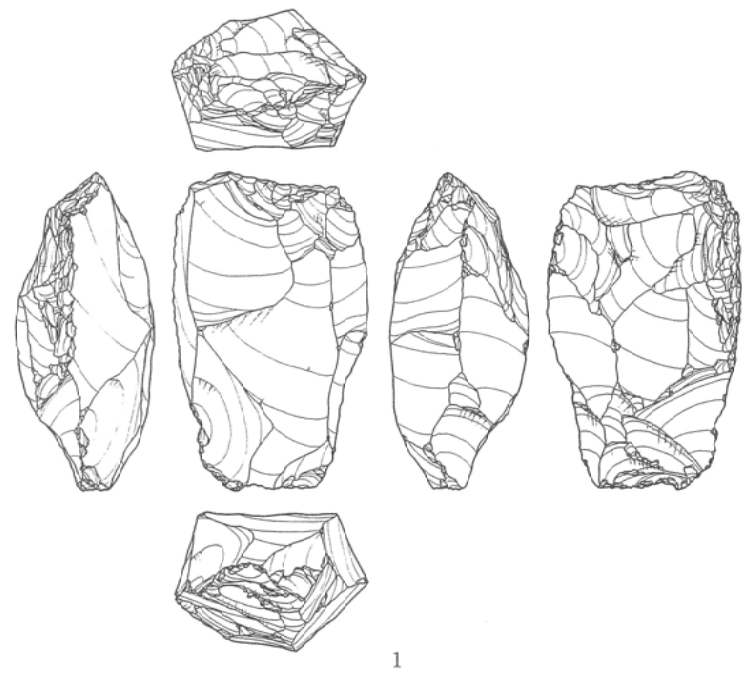
その他の石核では、単設打面をもつもの13点(第12図・図版22-3・図版23-7・図版24-1・母岩6A・母岩6B・母岩29A～D・母岩31A・母岩34・母岩41A)、両設打面をもつもの4点(第6図・図版22-2・母岩7・母岩28C)を除き、多設打面の石核である。



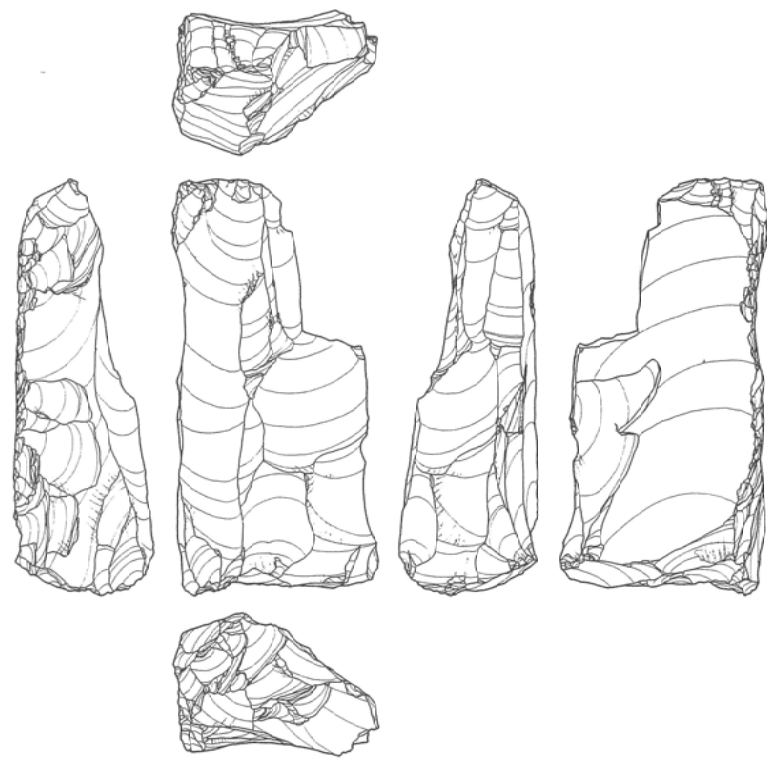
第6図 石核実測図(1)



第7図 石核実測図(2)



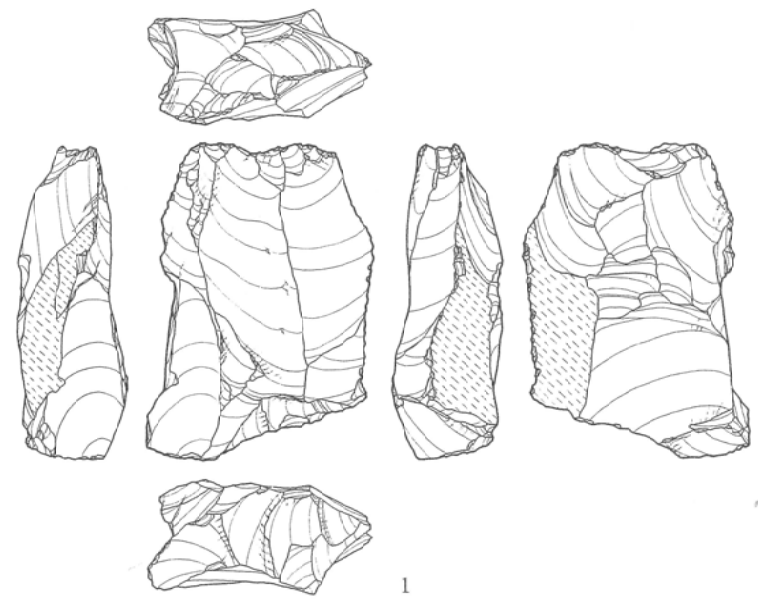
1



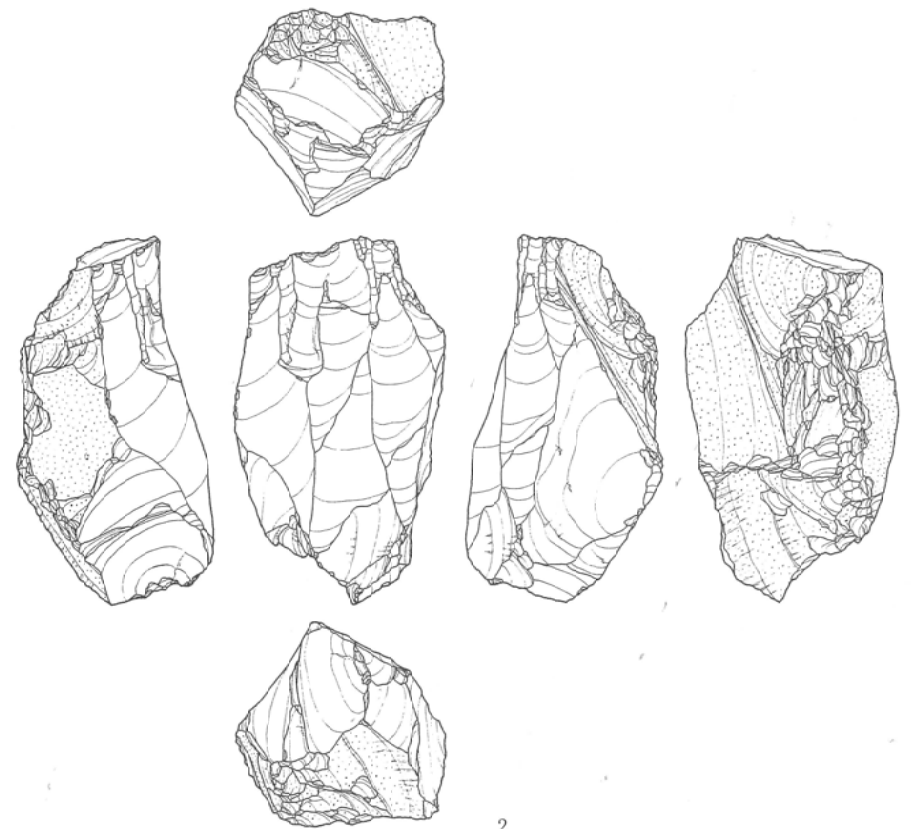
2



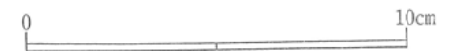
第 8 图 石核实测图(3)



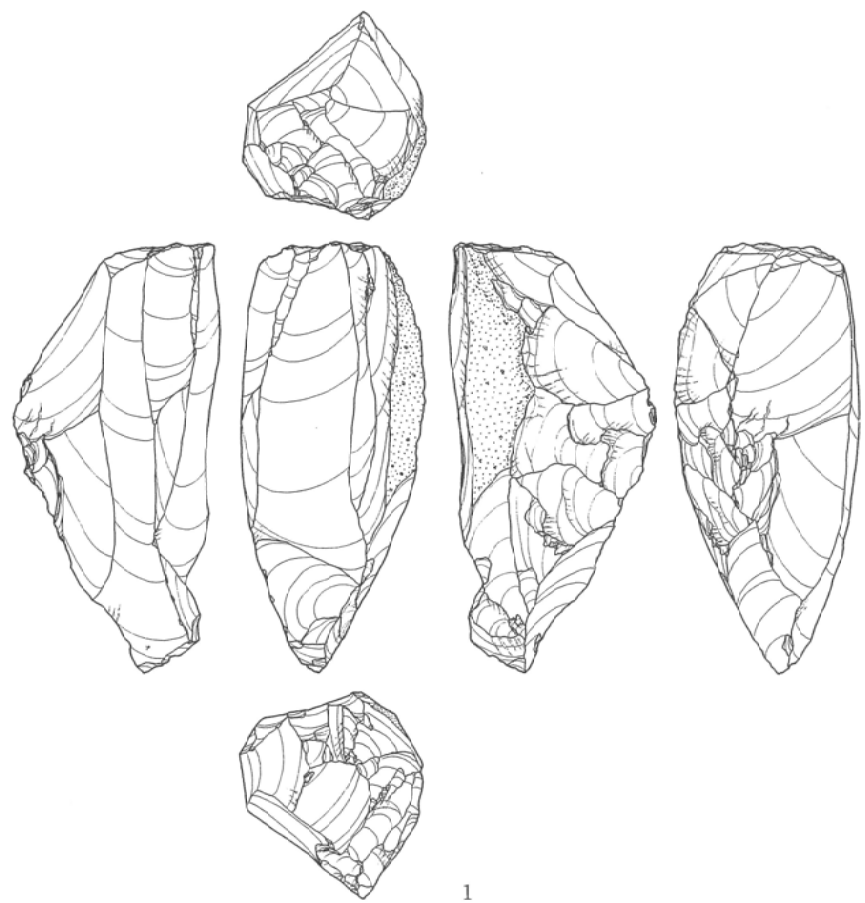
1



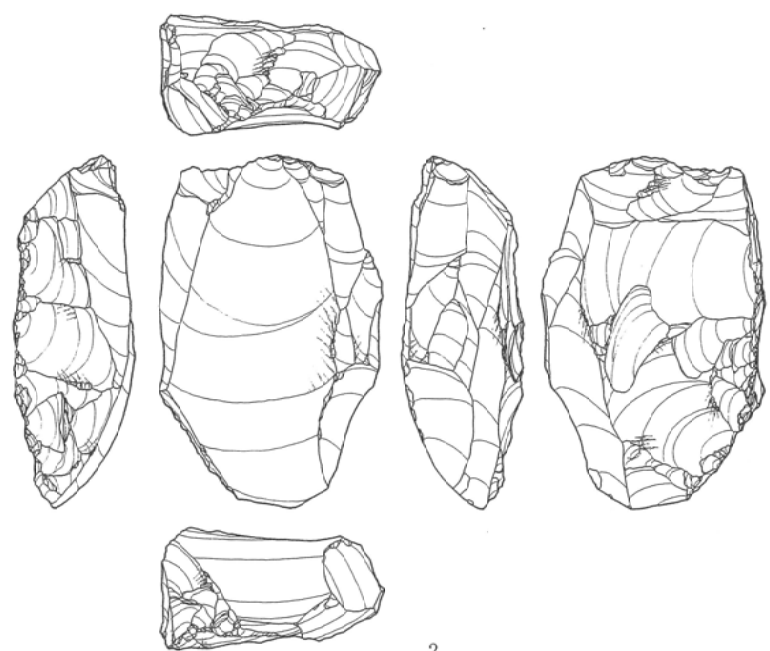
2



第 9 图 石核实测图(4)



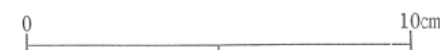
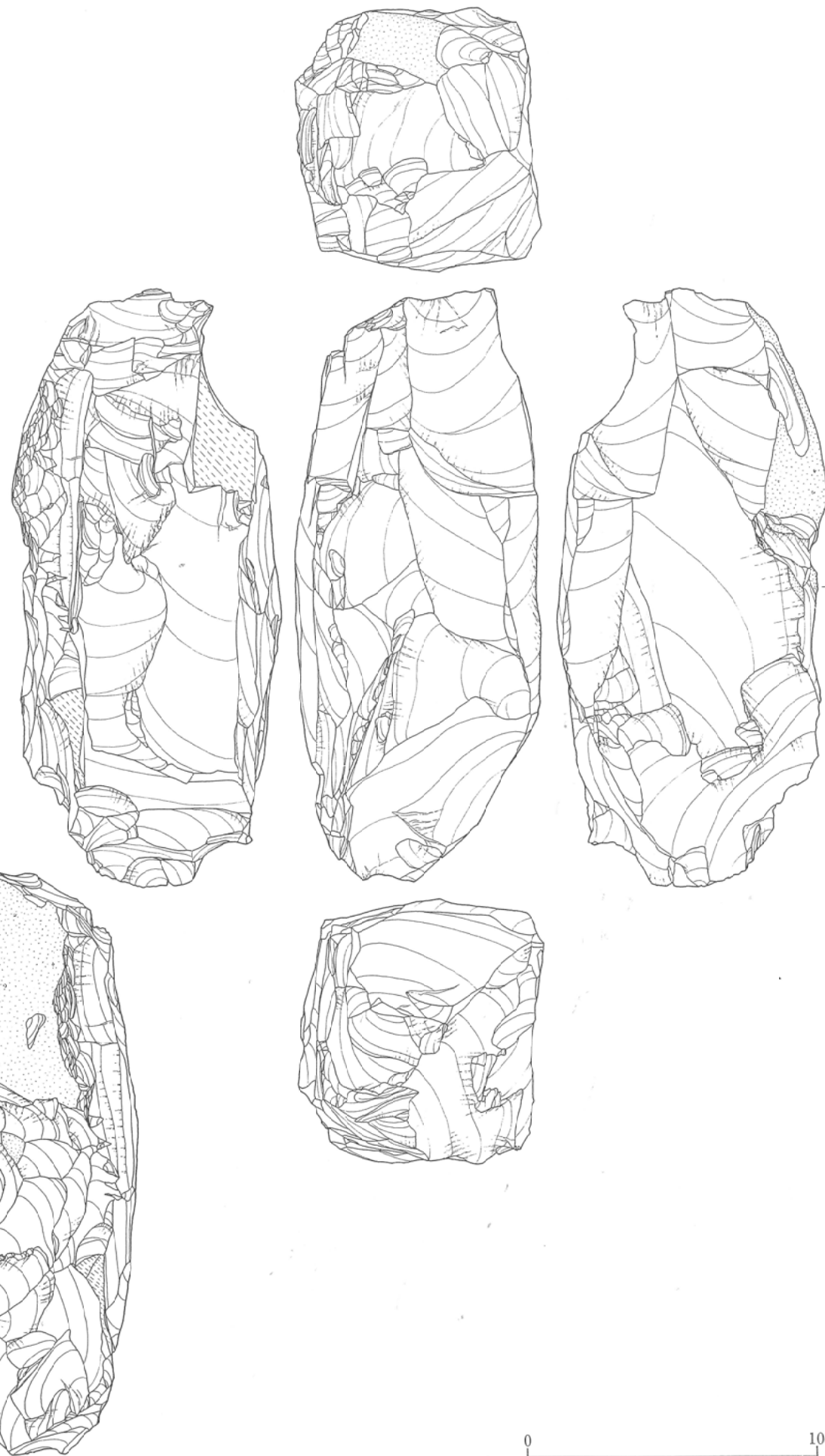
1



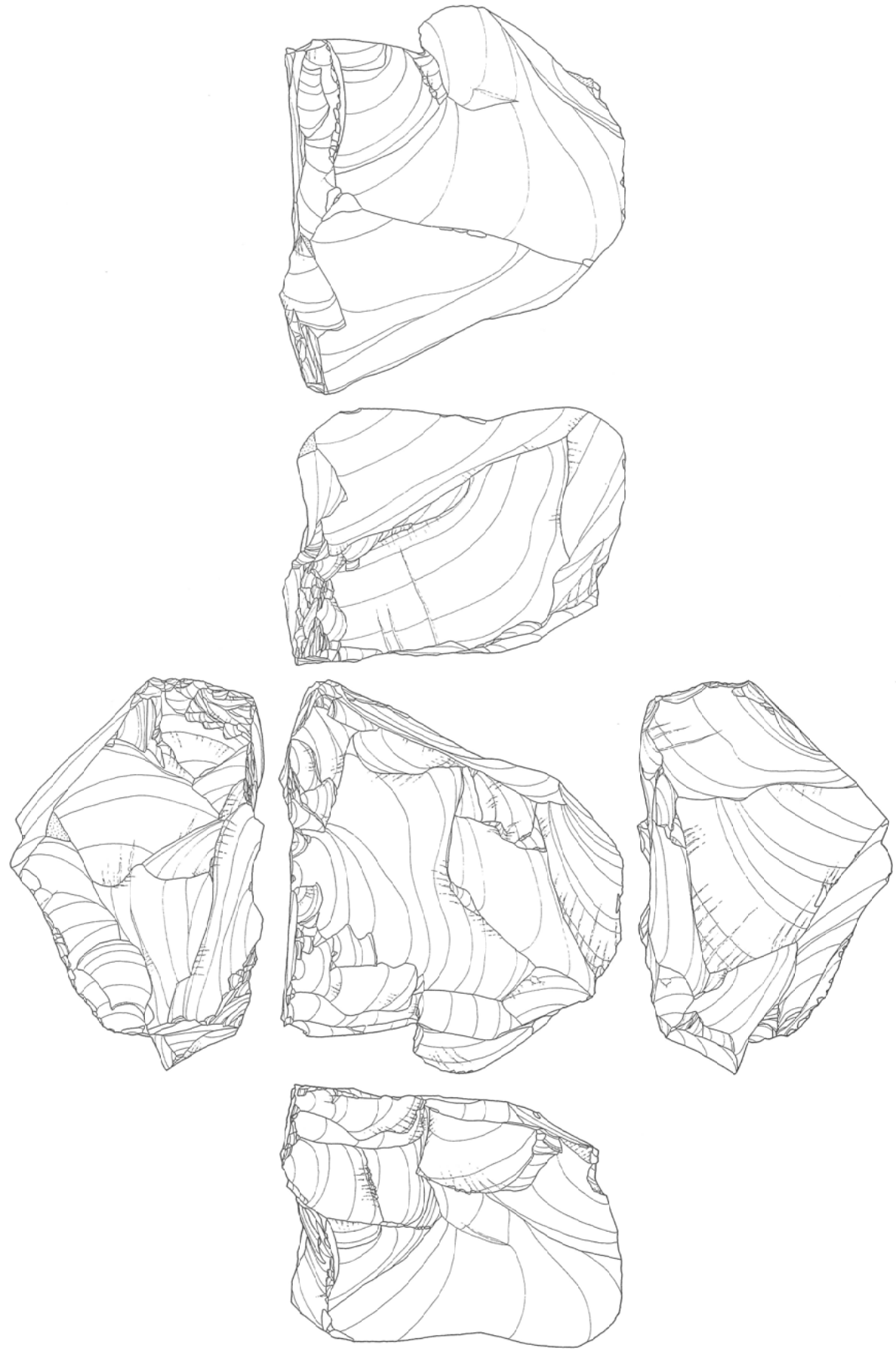
2



第10图 石核实测图(5)

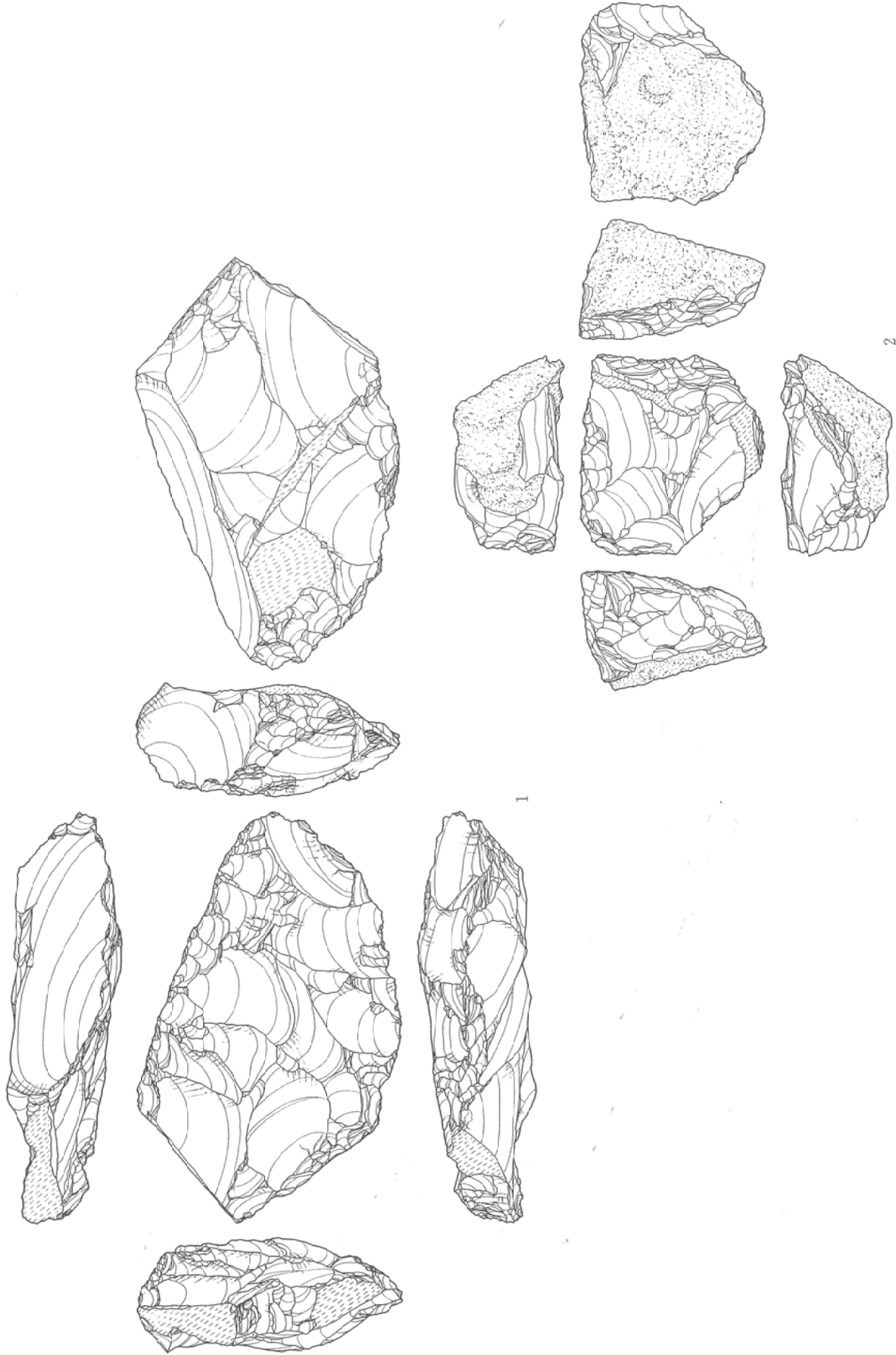


第11图 石核实测图(6)



0 10cm

第12图 石核实测图(7)



0 10cm

第13图 石核实测图(8)

単設、両設の石核は第6図を除いて作業面が1面だけであり、しかも剥離工程の早い段階で放棄され、大割りの分割面、表皮、節理面などを大きく残している。多設打面をもつものは調整剥離と目的剥離の区別がつかないものが多い。

各層序ごとの石核の出土点数は次のとおりである。

I層：5点の石刃核を含む20点が出土しており、そのうち4点に剥片が接合した。

II層：6点の石刃核を含む17点が出土しており、そのうち9点に剥片が接合した。

III層：22点の石刃核を含む44点が出土しており、そのうち34点に剥片が接合した。

IV層：3点の石刃核を含む5点が出土しており、すべてに剥片が接合した。

接合資料の中の石刃核の点数は、I層3点、II層5点、III層18点、IV層3点である。I層、II層から出土した石核でIII層以下との関連をもたないものは、縄文時代の遺物群に属する可能性がある。また、III層主体の遺物集中地点の中に石刃核以外の石核が相当数含まれることが注目される。

ナイフ形石器 (第14図・第15図1・2・図版25・図版26・表-2)

ナイフ形石器は7点出土した。いずれも頁岩製である。出土地点は、調査区のほぼ中央に集中する傾向があり、Dブロックから4点(第14図1・3・4・第15図2)、Eブロック北西から2点(第14図2・第15図1)が得られている。また第15図5はFブロック内出土である。出土層位はII層4点、III層3点である。以下に分類を中心に概要を述べる。

1類：片側縁に刃潰しの二次加工を施し刃部末端が尖頭状となった、いわゆる切出形のナイフ形石器である。

a：基部が切断されているもの(第14図1・5)。第14図1は石刃を素材として背面側右側縁全体に刃潰し加工を施している。第14図5は同じく背面側右側縁および主要剥離面側左側縁に刃潰し加工がみられる。最大長36mmと小形であり、破損品の可能性もある。

b：基部が切断されていないもの(第14図2)。石刃を素材とし、背面側の基部右側縁および左側縁末端部に二次加工が施される。

2類：基部に二次加工を施すもの。刃部は無加工となる。以下のように細分される。

a：基部に対する調整加工を背面側に施し、打面および打瘤を除去するもの(第14図3・4)。第14図3は背面に表皮を残した石刃を素材とし、背面側の基部両側縁に加工を施している。上半部を欠損する。第14図4は両設打面の石核からとられた細身の石刃を素材とし、基部両側縁に二次加工が施されたものである。基部調整はそれほど顕著ではなくもともと小さい打面の素材を用いている。末端を欠損するが両端が尖頭状になると思われる。

b：背面側基部に二次加工が施されたもの(第15図2)。大形で幅広の石刃を素材として、背面側左側縁に二次加工が認められる。打面は意識的な除去ではなく素材を剥離する際に破碎したものとみられる。

c：主要剥離面側基部に二次加工を施すもの(第15図1)。素材は大形の稜付石刃

である。主要剥離面側基部の右側縁に調整加工が施される。

スクレーパー (第15図3~7・図版26・表-2)

スクレーパーは5点出土した。すべて頁岩製である。

1類：素材の末端部分にスクレーパーエッジを形成するもの。さらに細分できる。

a：主要剥離面側の末端部分に二次加工を施したもの(第15図4)。石刃を素材としたエンドスクレーパーである。Dブロック内II層からの出土である。末端のエッジを除いては二次加工がまったく施されない。

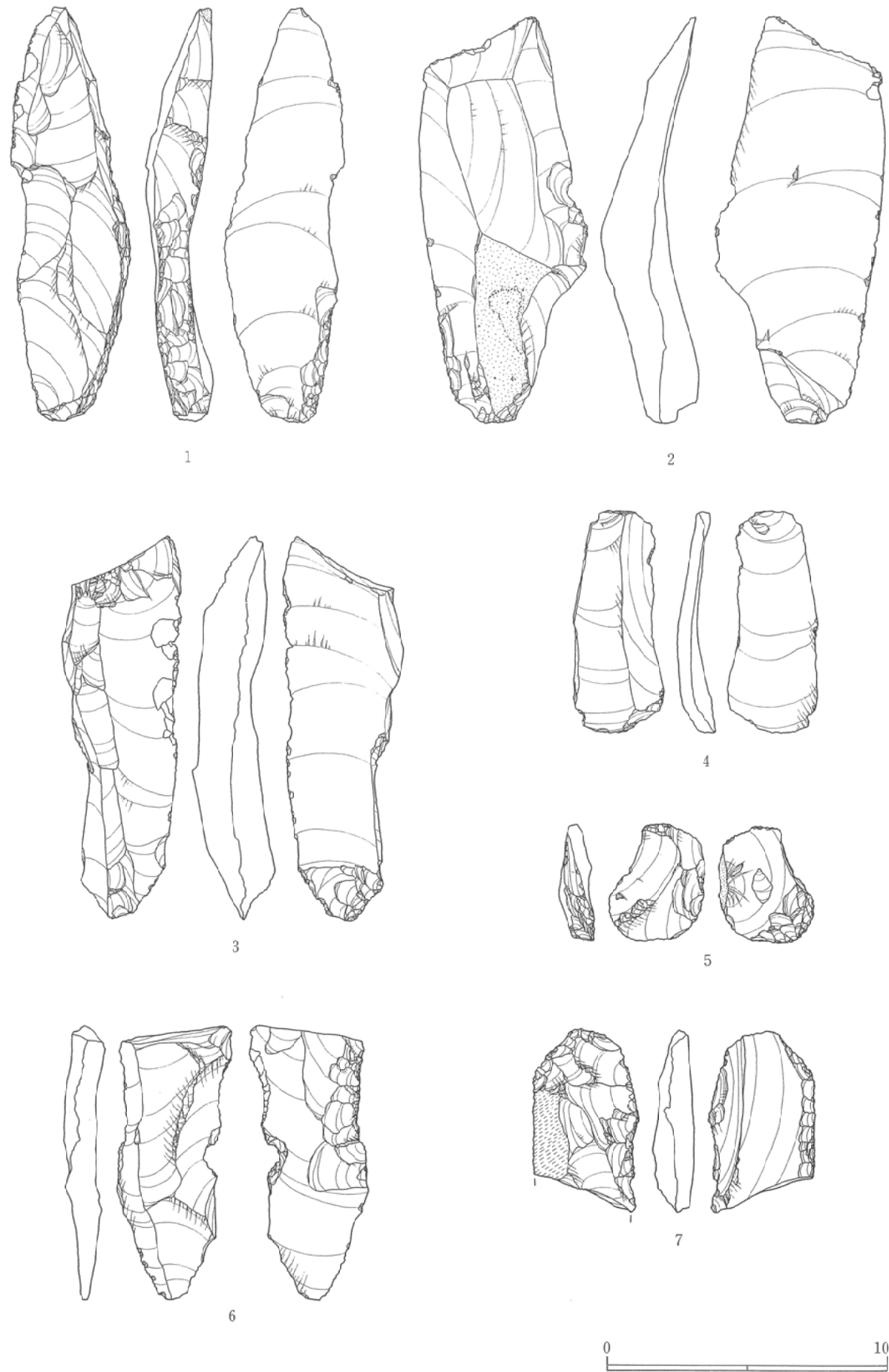
b：主要剥離面側の末端部分に二次加工を施したもの(第15図3・5)。新庄市乱馬堂遺跡⁽⁵⁾で注目された「裏面搔器」に近似するものである。第15図3は大形の石刃を素材として、主要剥離面の打面側に刃部を作出する。Dブロック内III層出土。第15図5は横長の剥片を用いて主要剥離面側の左側縁に二次加工を施して刃部としている。Bブロック内III層出土である。

2類：縁辺部に連続的な調整加工を施して刃部を作出しているもの(第15図6・7)。第15図6は石刃を素材とするが、基部を欠損する。主要剥離面側の両側縁に二次加工を施している。AブロックIV層から出土した。第15図7は横長剥片の基部を切断したものを素材に縁辺加工を施して刃部としている。FブロックIII層出土で、製作途中の破損品と考えられる。

注. 新庄市教育委員会(1982)「乱馬堂遺跡発掘調査報告書」新庄市教育委員会報告書6



第14図 ナイフ形石器実測図



第15図 ナイフ形石器・スクレーパー実測図

接合資料

今回の調査では石核、石刃、剥片について多数の接合資料が得られた。接合資料にかかわる石核は52点を数える。これらは41の母岩に整理できた。石器の接合作業およびそれにとりあう分析は完全に終了しておらず、今後も作業を継続しておこなう必要があるが、以下では現段階までの整理状況の中で石核を中心に接合しているものについて、その概要を述べる。

母岩38 (第16図・図版30・図版31・表-4)

H~J-94・95区内から出土した。第16図に最終剥離工程に近い時点の実測図を掲載した。この段階以前の工程に属する石核調整剥片および打面調整剥片があり(図版30・31)、両設打面の石刃核を中心に打面調整剥片23点、石核調整剥片10点、石刃29点、その他の剥片・碎片11点の合計74点が接合した。作業開始以前の素材の状況を復元するには至っていない。

母岩35 (第17図・第18図・第20図・図版27・表-5)

I・J-94・95区から出土した。両設打面の石刃核を中心に石核調整剥片20点、稜付石刃3点、打面調整剥片12点、石刃28点、その他の剥片8点の合計72点で構成される。分割しない原礫を素材とし、初期段階からの剥離工程を復元し得るものである。

母岩36 (第19図・第20図・図版28・表-3)

I・J-94・95区から出土した。両設打面の石刃核を中心に石核調整剥片6点、稜付石刃2点、打面調整剥片4点、石刃10点、その他の剥片3点の合計26点で構成される。分割礫を素材とし、比較的初期の工程まで復元できる。

母岩37 (第21図・第22図・図版29・表-6)

I-94区に分布の主体をもつが石刃核のみN-98区から出土している。最終剥離において作業面が節理によって分離するアクシデントが観察され、これによって作業を放棄したと考えられる。両設打面の石刃核を中心に石核調整剥片4点、打面調整剥片4点、石刃14点、その他の剥片21点の合計44点で構成される。

母岩39 (第23図・第24図・図版32・表-7)

I-94区に分布の主体をもつ。両設打面の石刃核を中心に打面調整剥片13点、石刃11点、その他の剥片8点の合計33点で構成される。両端以外の全面を作業面としており、石刃核は円筒形となる。

母岩40 (第23図・第24図・図版32・表-8)

H・I-94区に分布する。両設打面の小形の石刃核を中心に石核調整剥片2点、打面調整剥片1点、石刃3点の合計7点で構成される。なお石核調整剥片の2点は工程の中間段階で打面を90度転移した目的剥片の可能性もある。

母岩8 (第25図・第26図・図版33・表-9)

Q・R-95区に分布の主体をもつ。両設打面の石刃核を中心に石核調整剥片1点、打面調整剥片3点、石刃5点、碎片1点の合計11点で構成される。

母岩15 (第25図・第26図・図版34・表-10)

R-95区を主体に分布する。2つの石刃核からなる。15Aは両設打面の石刃核と石核調整剥片3点、打面調整剥片9点、石刃4点、その他の剥片・碎片6点、15Bは両設打面の石刃核と石刃1点、剥片2点が接合する。分離以前の剥片も含めて合計29点で構成される。

母岩7 (第26図・図版35・表-11)

V~X-97区から出土した。両設打面の石核を中心に剥片3点が接合する。

母岩3 (第27図・図版35・表-12)

W-97区II層を主体に分布し、10m以上離れたR-100区からも1点接合した。多設打面の石核を中心に6点の剥片があるほか、単設打面の石刃核が1点節理面で接合した。

母岩6 (第28図・図版36・表-13)

V・W-96~98区、I・II層から出土した。単設打面をもつ石核2点と節理面で破碎した剥片3点からなる。

母岩4 (第30図・図版36・表-15)

V・W-96・97区II・III層から出土した。単設打面をもつ石刃核を中心に石刃1点、剥片2点で構成される。

母岩5 (図版37・表-18)

V・W-97区III層から出土した。多設打面の石核に剥片が1点接合する。

母岩3~7については、いずれも節理の発達が著しいが、ガラス質の強い素材であり、出土区が接近していることから同一母岩の可能性はある。

母岩10 (第30図・図版37・表-16)

W・X-97・98区を主体に分布する。多設打面をもつ石核を中心に最終工程に近い段階の剥片3点により構成される。

母岩13 (図版37・表-19)

V~X-97~99区II・III層中から出土した。分割礫を素材として接合した2点の剥片のほか小剥離を数回実施した後に放棄されている。

母岩43 (第31図・第32図・表-17)

W-97・98区II層から出土した。分割された礫を素材とした単設打面の石刃核に石刃1点が接合する。素材の2面に対して大まかな調整剥離をおこなった後、3回程程度の石刃剥離を実施するがその段階で放棄されている。

母岩44 (図版37・表-20)

W-96区I層より石刃核が、W-98II層より石刃が1点出土した。剥片素材の単設打面をもつ小形の石刃核である。数回の剥離で放棄されている。

母岩9 (第29図・表-14)

U~W-100区III層から出土した。多設打面をもつ石核を中心に剥片3点で構成される。

母岩11 (第33図・図版38・表-21)

U・V-99・100区II・III層を主体に分布するが、石核は約14m離れたAB-98区内から

の出土である。石核は多方向からの剥離がなされるが作業面は1面のみに設定される。構成は打面調整剥片2点、その他の剥片2点の合計5点からなる。なお母岩9および母岩11は石質や原礫面の状況が酷似しており、同一母岩の可能性が高い。

母岩12 (第34図・第36図・表-22)

AB-98・99区II・III層からの出土である。石核1点と剥片5点で構成されるが、実質的な剥離作業にははいつておらず、分割作業中の廃棄とみられる。

母岩17 (第35図・図版39・表-23)

AB-99区III層を主体に分布するが、I層出土の石刃が10点含まれる。両設打面の石刃核を中心に石核調整剥片1点、打面調整剥片2点、石刃20点、その他の剥片2点の合計26点で構成される。初期工程の調整剥片が接合するものの最終に近い工程の復元に留まる。

母岩16 (第37図・図版33・表-24)

AA・AB-99区III層を主体に分布するが、石刃核のみAB-98区からの出土である。両設打面の石刃核を中心に打面調整剥片1点、石刃9点の合計11点で構成される。

母岩19 (第38図・図版41・表-25)

AA・AB-98・99区III層を主体に分布する。両設打面の小形の石刃核を中心に石刃3点、剥片1点からなる。

母岩18 (第39図・第41図・図版40・表-26)

AA・AB-99・100区III層を中心に分布するが、石刃核はZ-100区I層出土である。両設打面をもつ石刃核を中心として打面調整剥片2点、石刃12点、剥片1点の合計16点で構成される。第39図正面および右側面を作業面とする。

母岩20 (第40図・第41図・図版41・表-27)

AA・AB-99区III層を主体に分布する。両設打面の石刃核を中心に打面調整剥片7点、石刃5点、その他の剥片・碎片3点の合計16点で構成される。

母岩21 (第42図・図版44・表-28)

AA-99区II~IV層を主体として分布するが、両設打面の石刃核を中心に打面調整剥片3点、石刃6点、剥片1点の合計11点で構成される。

母岩26 (第43図・第44図・第46図・図版48・表-30)

AA-99区III・IV層を主体として分布する。両設打面をもつ石刃核を中心に石核調整剥片8点、打面調整剥片17点、稜付石刃3点、石刃25点、その他の剥片16点の合計70点で構成される。初期工程の調整剥片を欠くが、ほぼ原礫の段階まで復元し得る資料である。

母岩22 (第45図・第46図・図版42・表-29)

AA-99区I~IV層を主体として分布する。両設打面をもつ石刃核を中心に打面調整剥片5点、石核調整剥片1点、石刃11点、その他の剥片3点の合計21点で構成される。

母岩27 (第47図・第48図・図版46・図版47・表-31)

AA・AB-98・99区を主体に分布する。両設打面の石刃核を中心に打面調整剥片16点、稜付石刃2点、石核調整剥片13点、石刃28点、その他の剥片6点の合計66点で構成される。

母岩42 (第48図・表-37)

Z-99出土の両設打面の石刃核に最終剥離の石刃1点が接合した。

母岩24 (第49図・図版44・表-32)

AA・AB-99区を主体に分布する。両設打面の石刃核を中心に打面調整剥片2点、石核調整剥片5点、稜付石刃1点、石刃12点、その他の剥片1点が接合する。

母岩25 (第50図・第52図・図版45・表-34)

AA・AB-99区を主体に分布する。両設打面の石刃核を中心に石核調整剥片13点、打面調整剥片5点、石刃14点、その他の剥片4点の合計37点で構成される。

母岩23 (第51図・第52図・図版43・表-36)

AA・AB-99区を主体に分布する。両設打面の石刃核を中心に打面調整剥片1点、石刃8点、その他の剥片・碎片6点の合計16点で構成される。

母岩28 (第71図・図版50・図版51・表-33)

Z・AA-99・100区III層が主体となるが、他の母岩に比較してかなり広域に分布する。原礫を3分割したそれぞれから剥片が剥離される。28Aは多設打面の石核に打面調整剥片1点、石刃2点、剥片27点が接合する。28Bは多設打面の石核に8点の剥片が接合する。28Cは両設打面の石核に打面調整剥片1点、石刃1点、剥片・碎片17点が接合する。

母岩29 (第71図・図版49・表-35)

Z・AA-99・100区III層を主体として分布する。全体の調整剥離を実施した後、6分割されて各々から剥片を剥離している。石刃核は2点あり、最大の29Fは稜付石刃1点、石刃1点、剥片6点で構成される。

母岩30 (第53図・図版52・表-38)

AH-2区III層を主体として分布する。分割礫を素材とした多設打面の石核を中心に6点の剥片からなる。

母岩31 (図版52・表-39)

表-39中で4376と3950はひとつの剥片であり、それを切断し、その基部側を石核として利用したものである。

母岩32 (図版52・表-40)

AH-2区III層から出土した。多設打面の石核に剥片2点が接合した。

母岩33 (第54図・図版53・表-41)

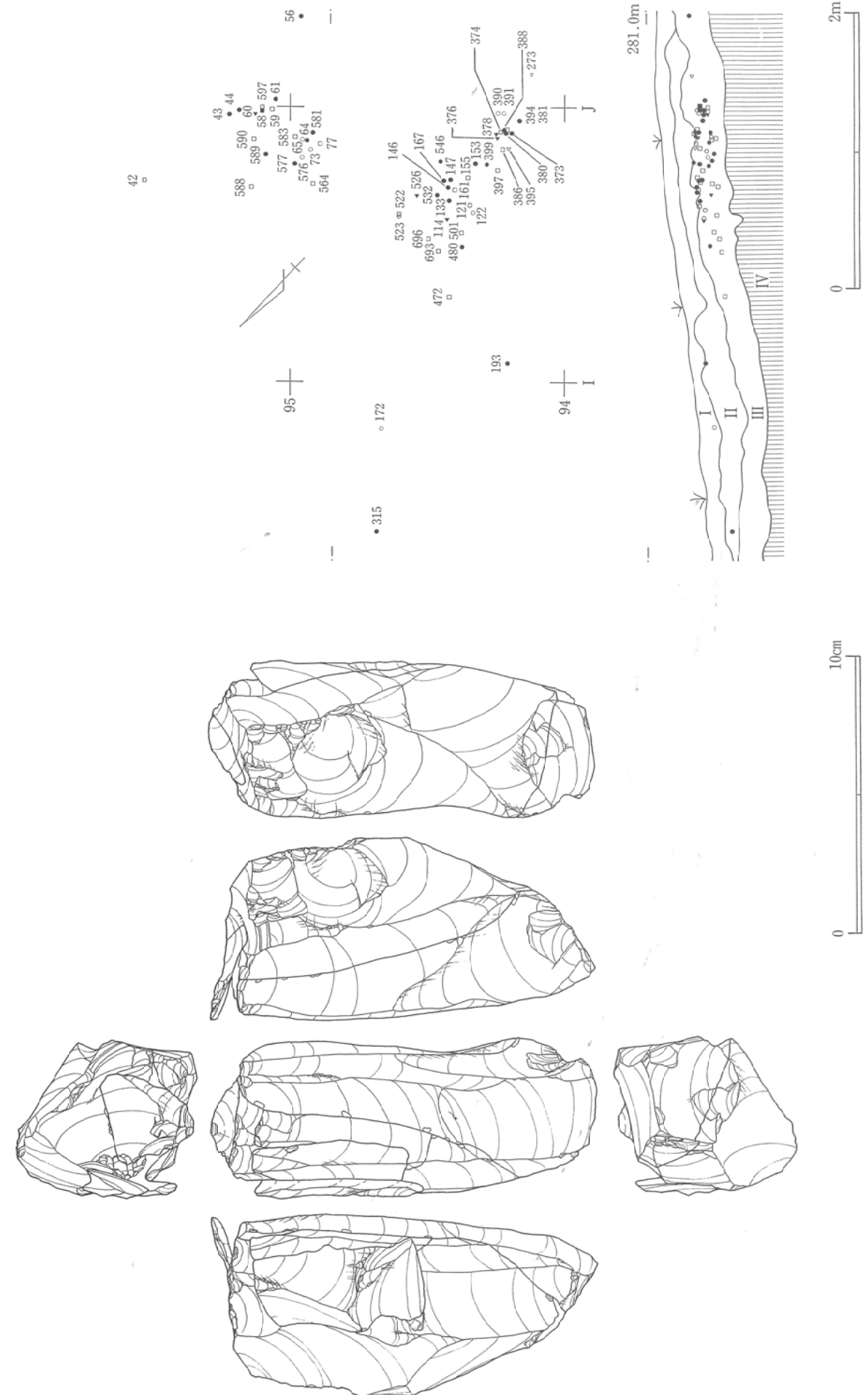
AH・AI-2区III層から出土した。両設打面の石刃核に石刃と剥片が各1点接合する。石刃核は各作業面では単方向からの剥離となる。

母岩34 (図版53・表-42)

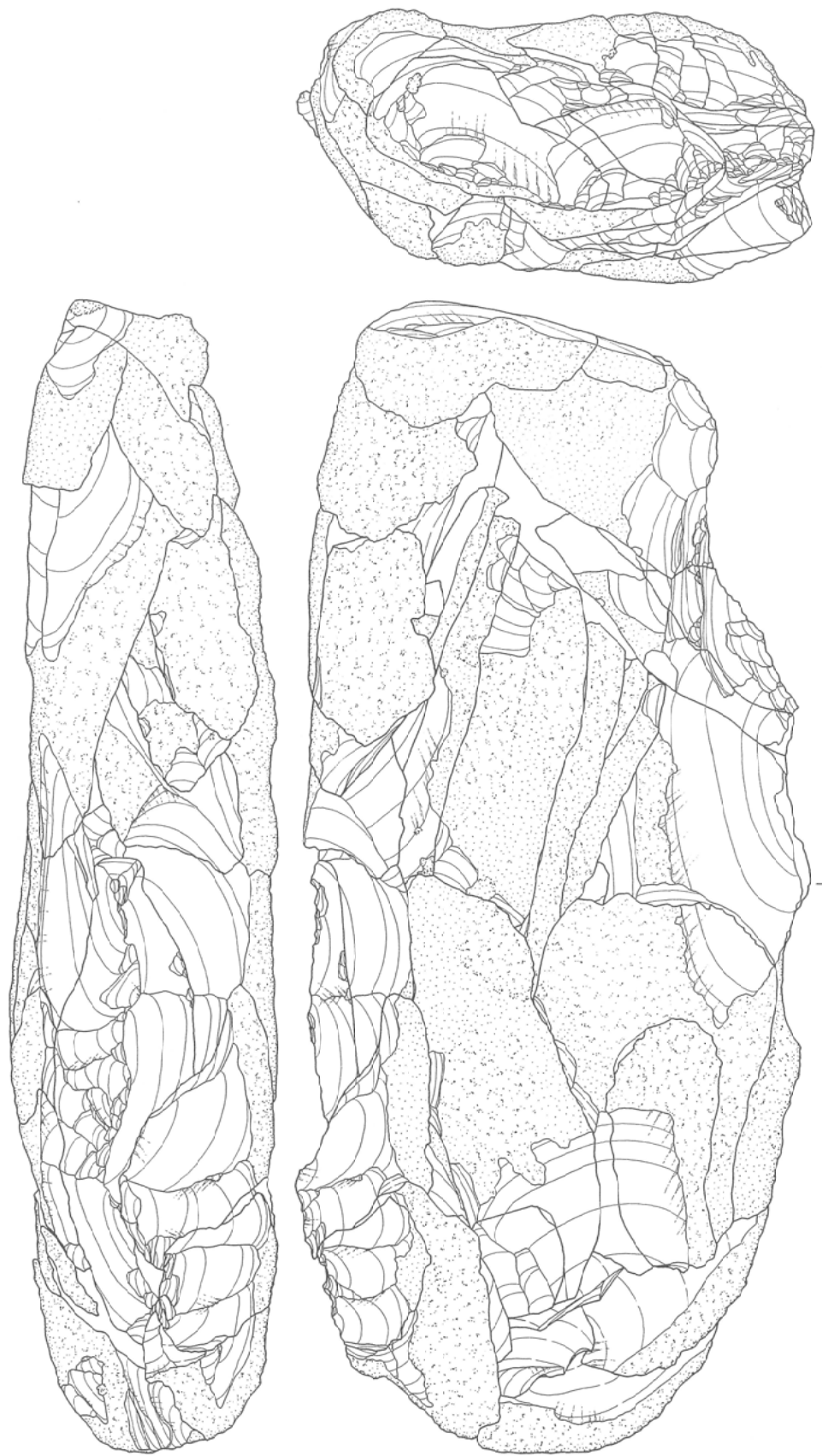
AG~AI-1・2区III層から出土。単設打面の石核に石刃1点と剥片4点が接合。

母岩41 (図版54)

AG-1・2区III層を主体に分布する。分割礫を素材とし、41Aは単設打面の石核に打面調整剥片、剥片、碎片が各1点接合する。41Bは分割面で41Aと接合した剥片である。



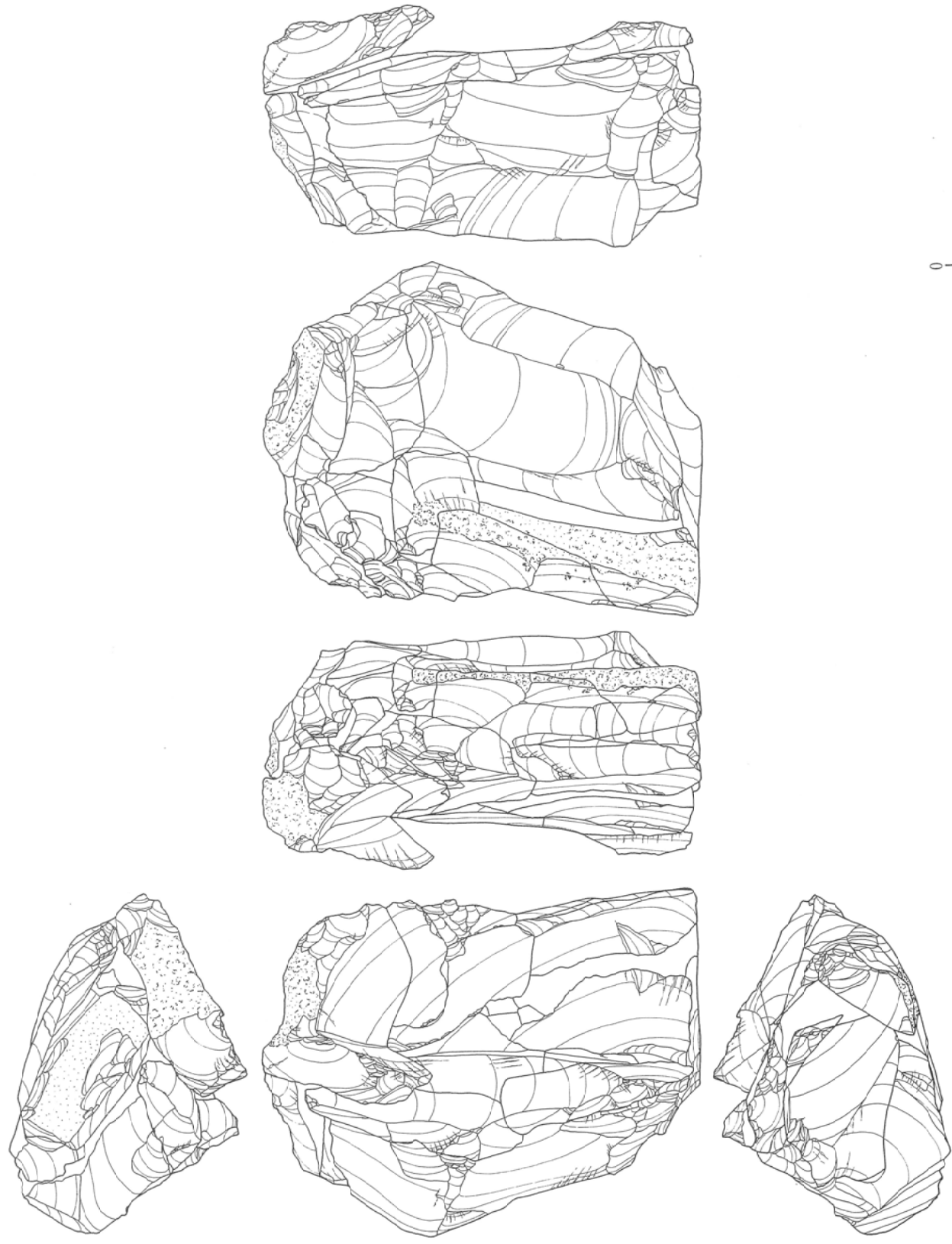
第16図 母岩38実測図・分布図



第17图 母岩35实测图(1)



第18图 母岩35实测图(2)



0 10cm

第19图 母岩36实测图

94
H+

95 +

96 +

97 +

母岩35分布图



03

322

I+

196

169

488

491

+

+

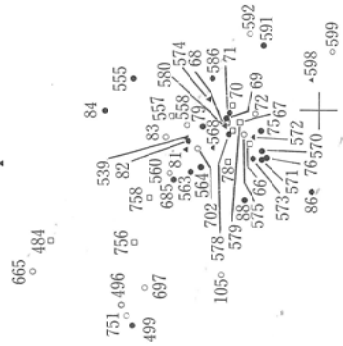
94

I+

489

95

母岩36分布图



665

484

84

539

555

751

496

756

499

697

560

83

557

580

685

81

563

564

574

568

79

68

586

579

88

782

566

70

71

592

591

572

69

591

573

571

572

86

76

570

598

599

592

591

590

589

588

587

586

585

584

583

582

581

580

579

578

577

576

575

574

573

572

571

570

569

568

567

566

565

564

563

562

561

560

559

558

557

556

555

554

553

552

551

550

549

548

547

546

545

544

543

542

541

540

539

538

537

536

535

534

533

532

531

530

529

528

527

526

525

524

523

522

521

520

519

518

517

516

515

514

513

512

511

510

509

508

507

506

505

504

503

502

501

500

499

498

497

496

495

494

493

492

491

490

489

488

487

486

485

484

483

482

481

480

479

478

477

476

475

474

473

472

471

470

469

468

467

466

465

464

463

462

461

460

459

458

457

456

455

454

453

452

451

450

449

448

447

446

445

444

443

442

441

440

439

438

437

436

435

434

433

432

431

430

429

428

427

426

425

424

423

422

421

420

419

418

417

416

415

414

413

412

411

410

409

408

407

406

405

404

403

402

401

400

399

398

397

396

395

394

393

392

391

390

389

388

387

386

385

384

383

382

381

380

379

378

377

376

375

374

373

372

371

370

369

368

367

366

365

364

363

362

361

360

359

358

357

356

355

354

353

352

351

350

349

348

347

346

345

344

343

342

341

340

339

338

337

336

335

334

333

332

331

330

329

328

327

326

325

324

323

322

321

320

319

318

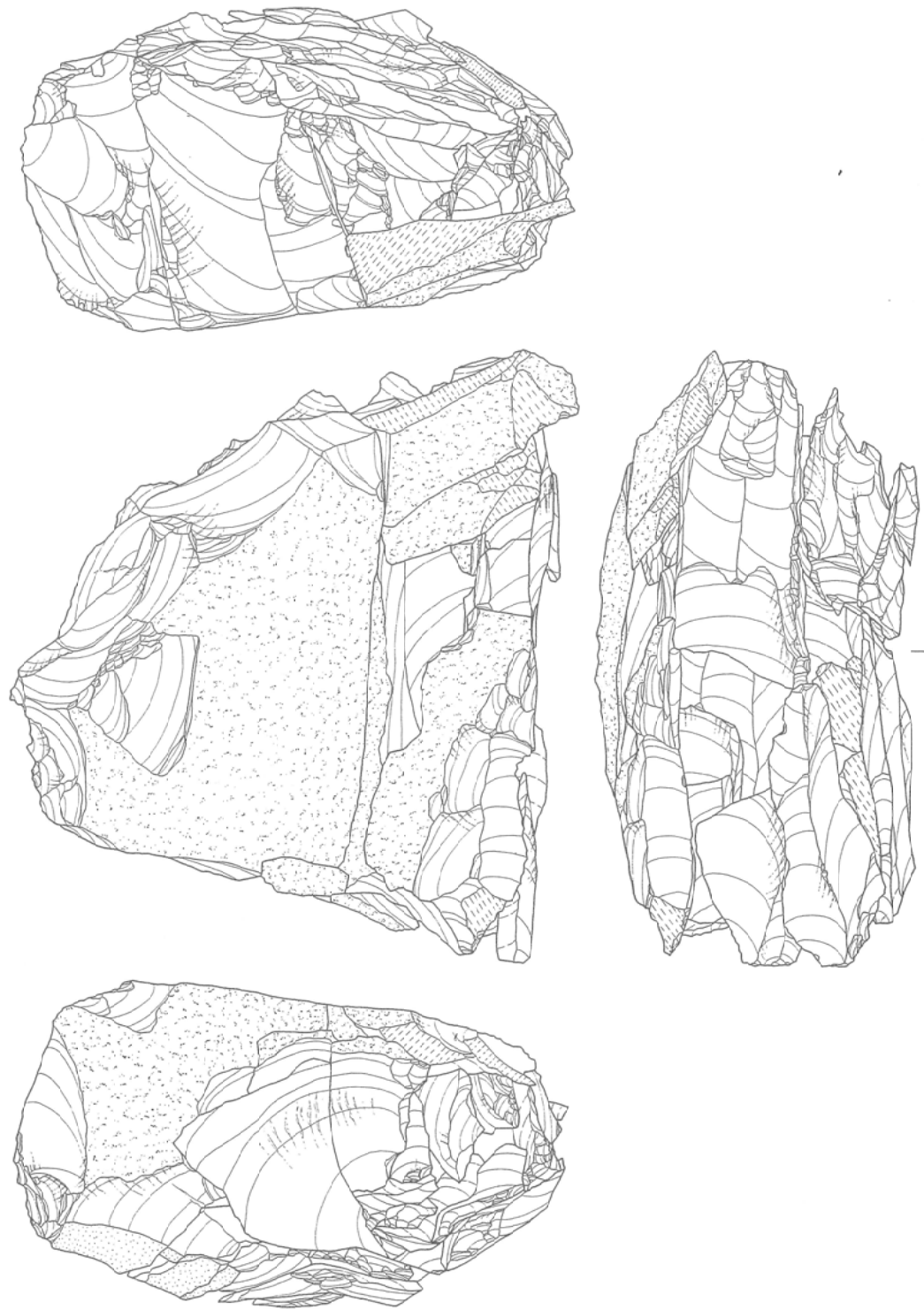
317

316

315

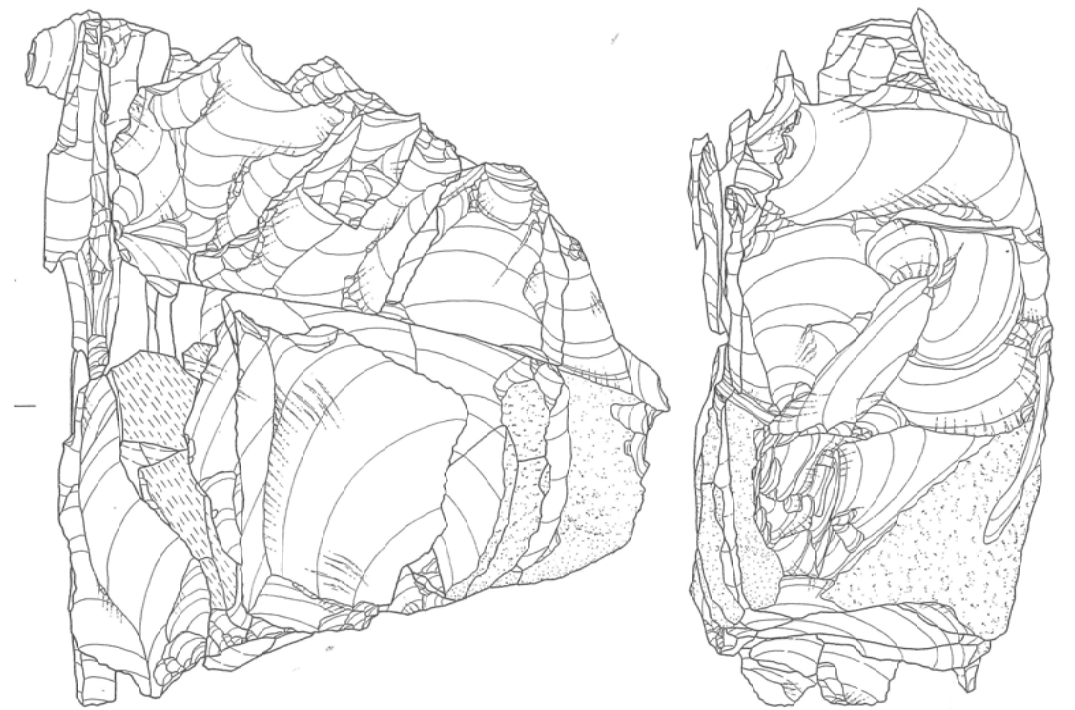
314

313

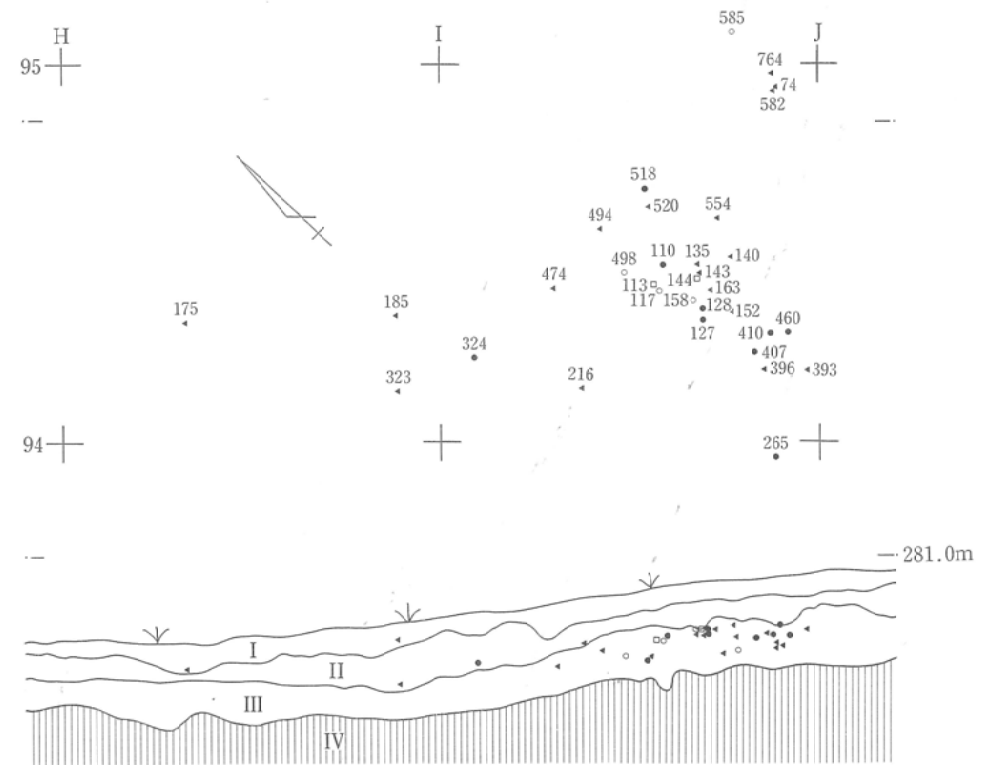


0 10cm

第21图 母岩37实测图

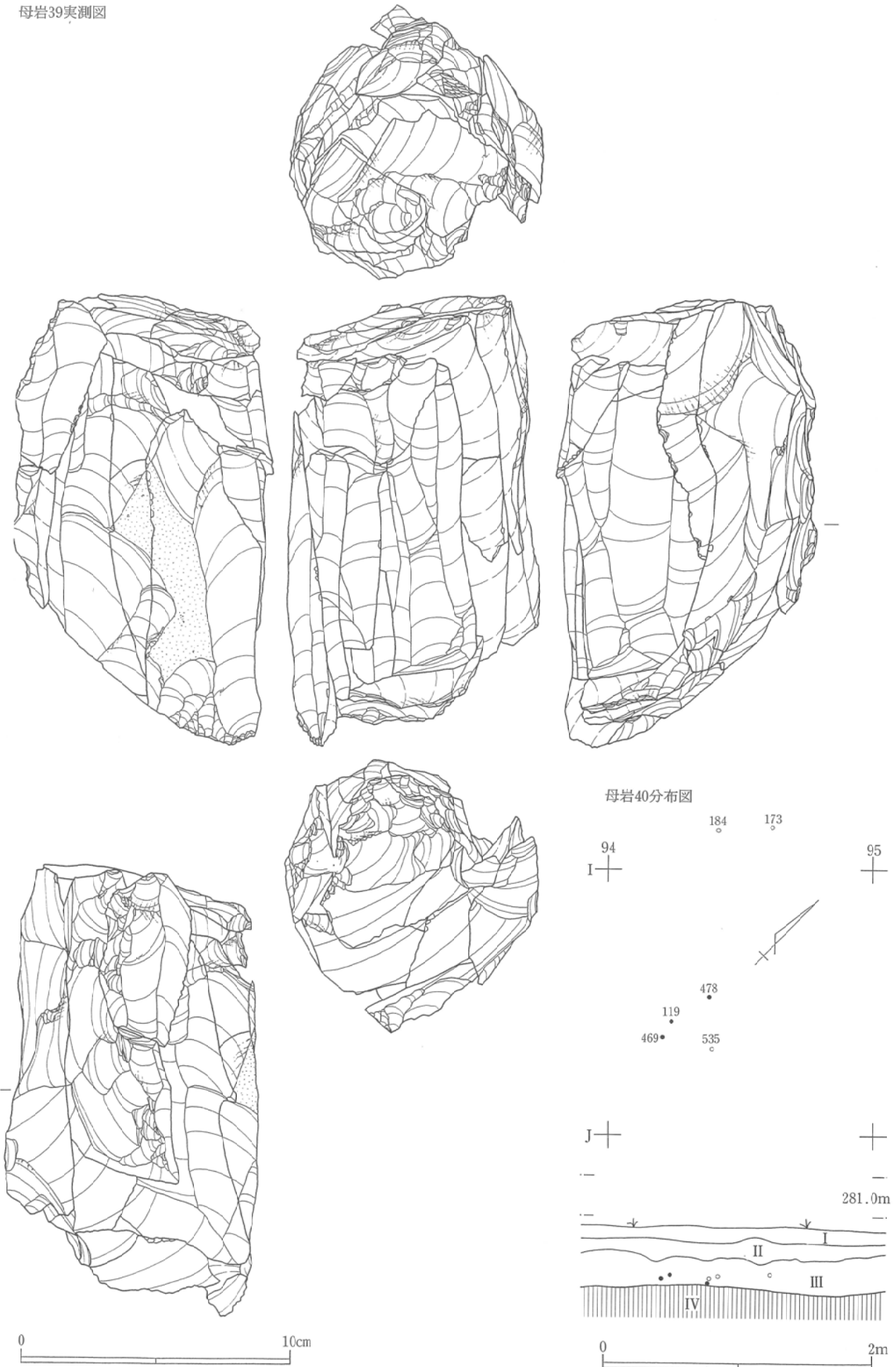


0 10cm

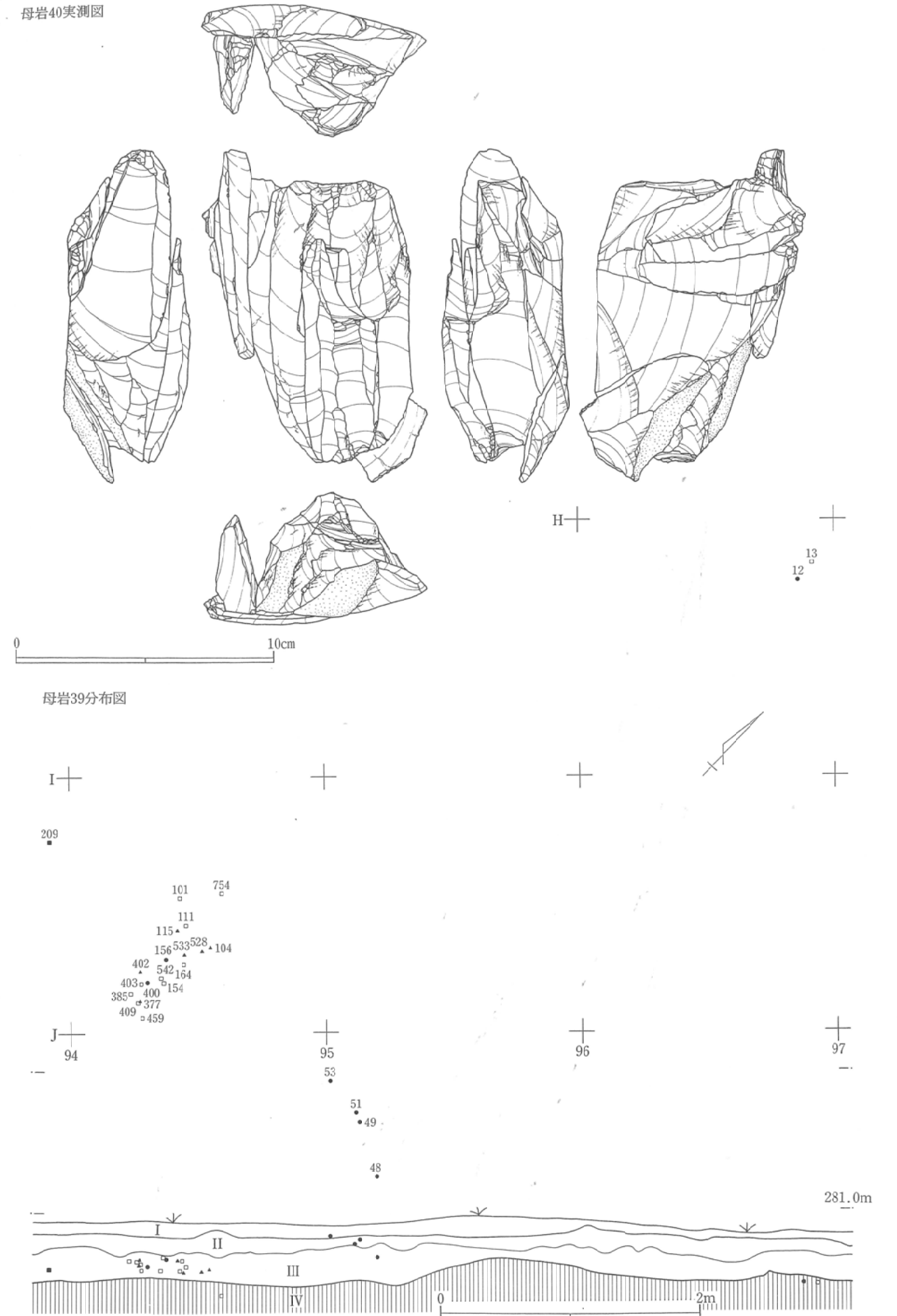


0 2m

第22图 母岩37实测图·分布图

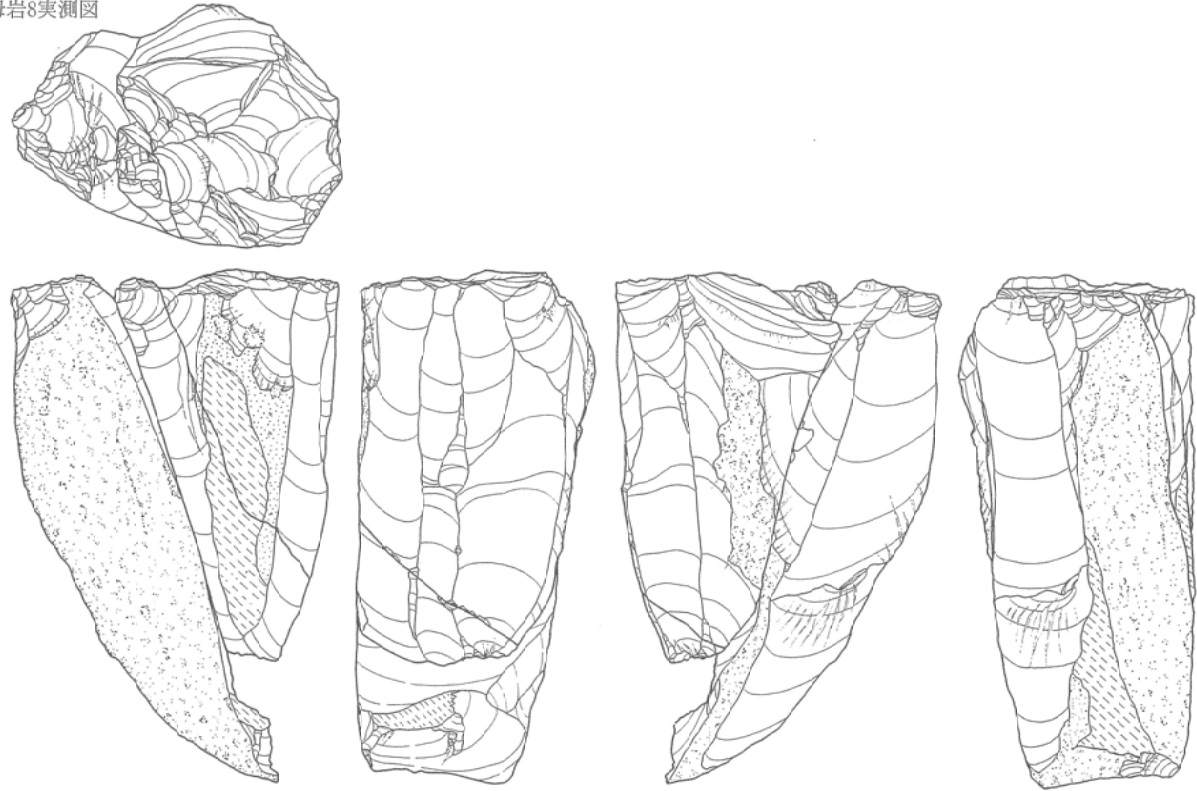


第23图 母岩39实测图·母岩40分布图

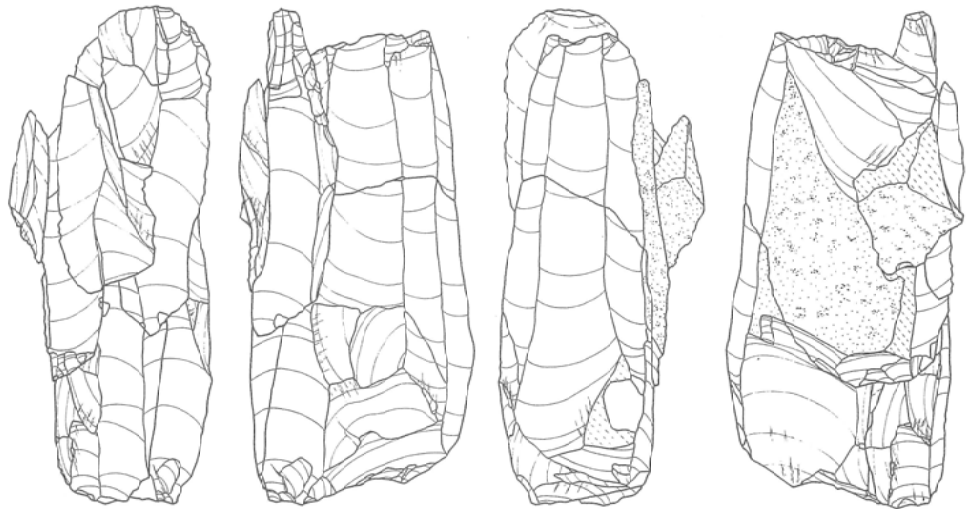
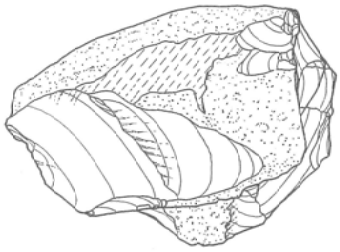


第24图 母岩40实测图·母岩39分布图

母岩8实测图

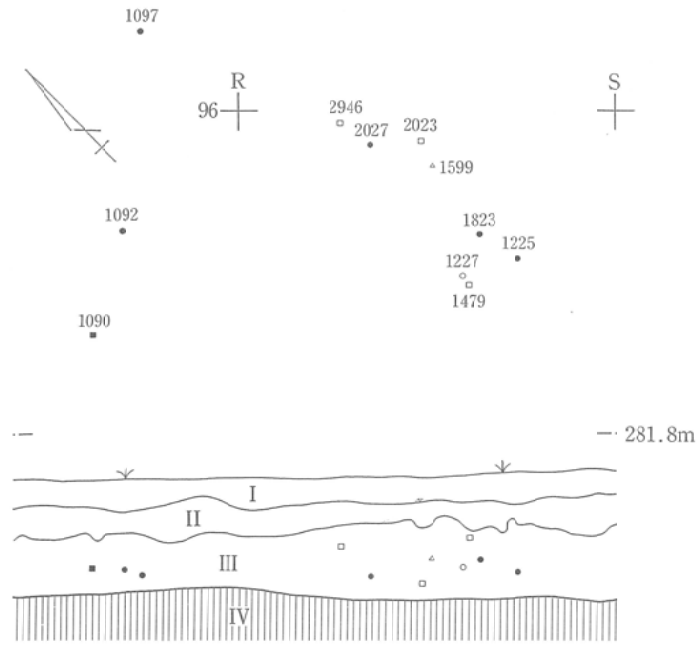


母岩15A实测图

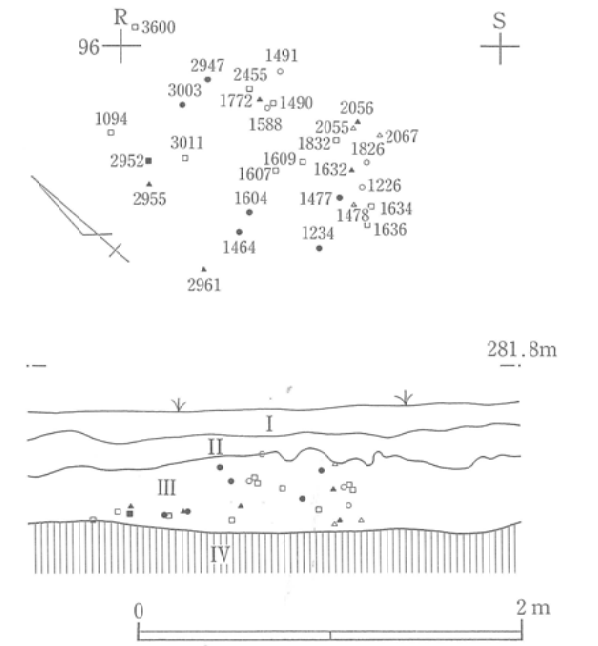


第25图 母岩8·母岩15A实测图

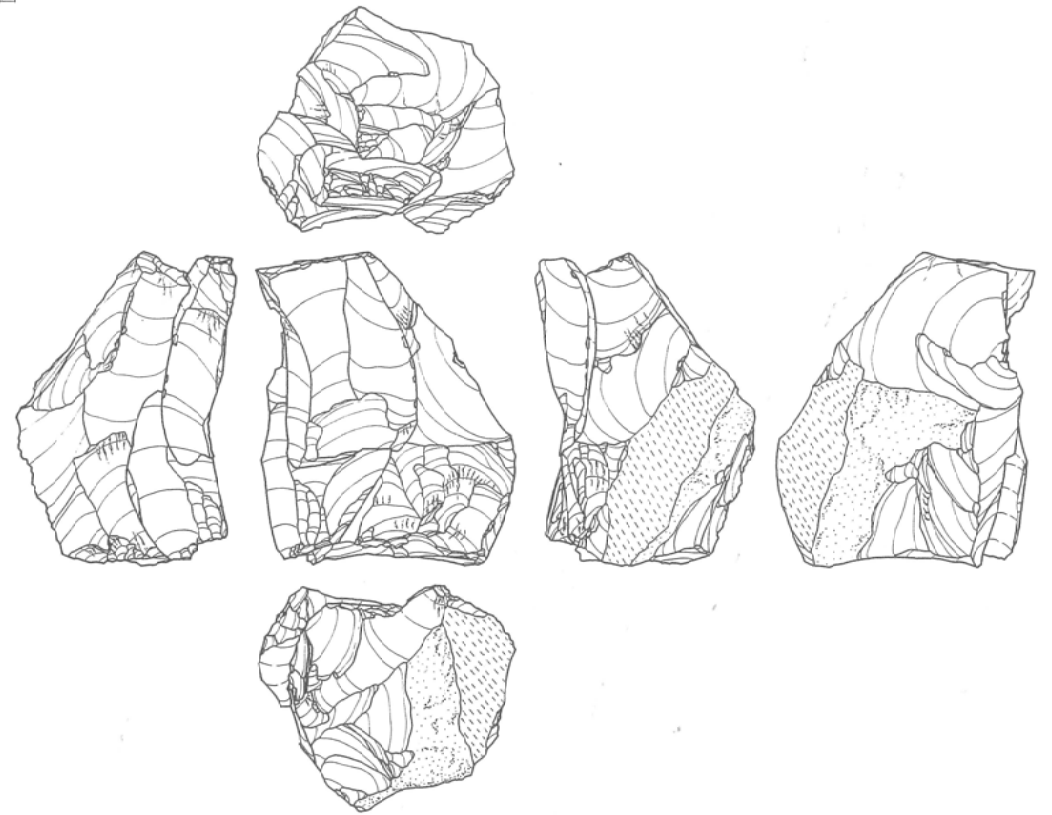
母岩8分布图



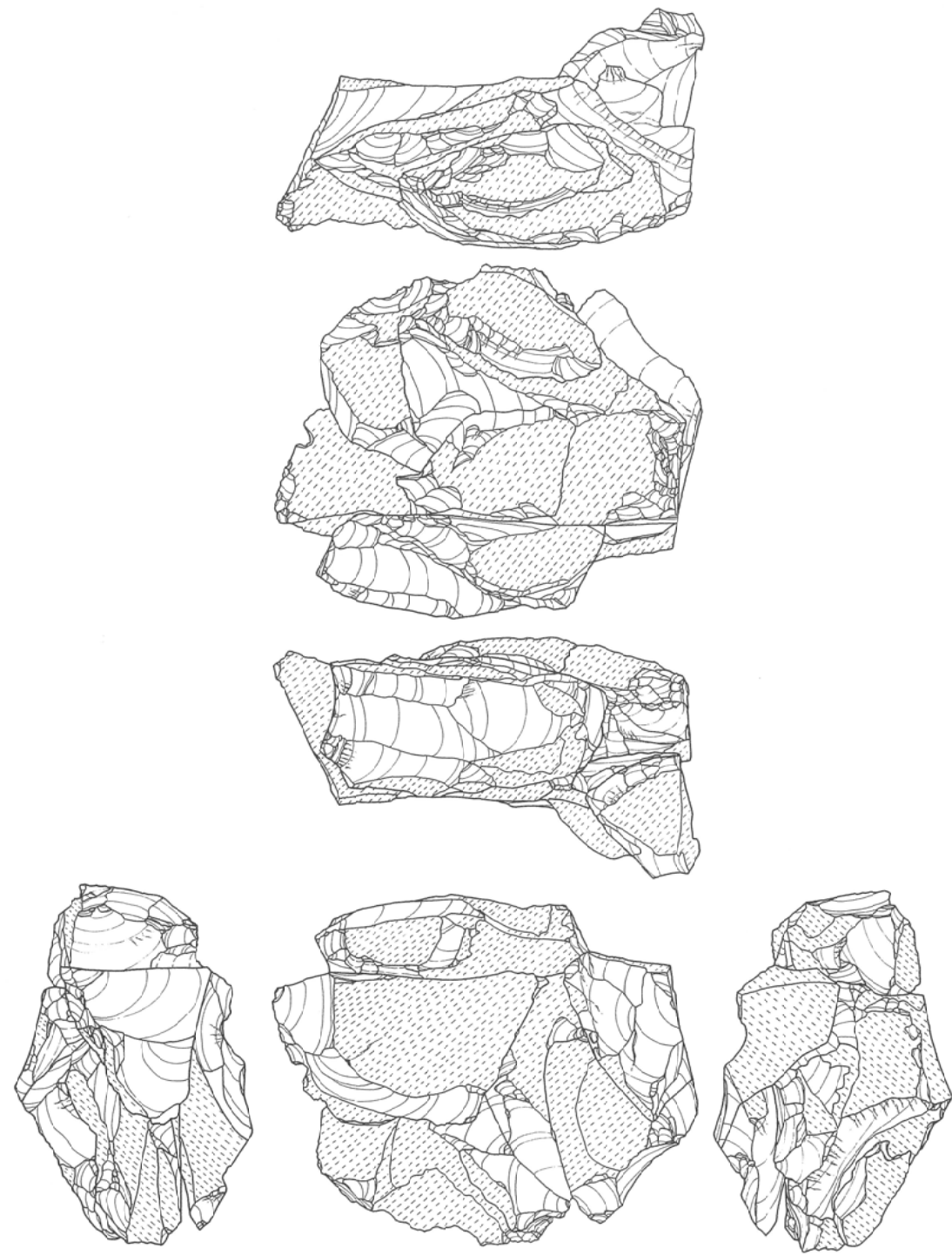
母岩15分布图



母岩7实测图

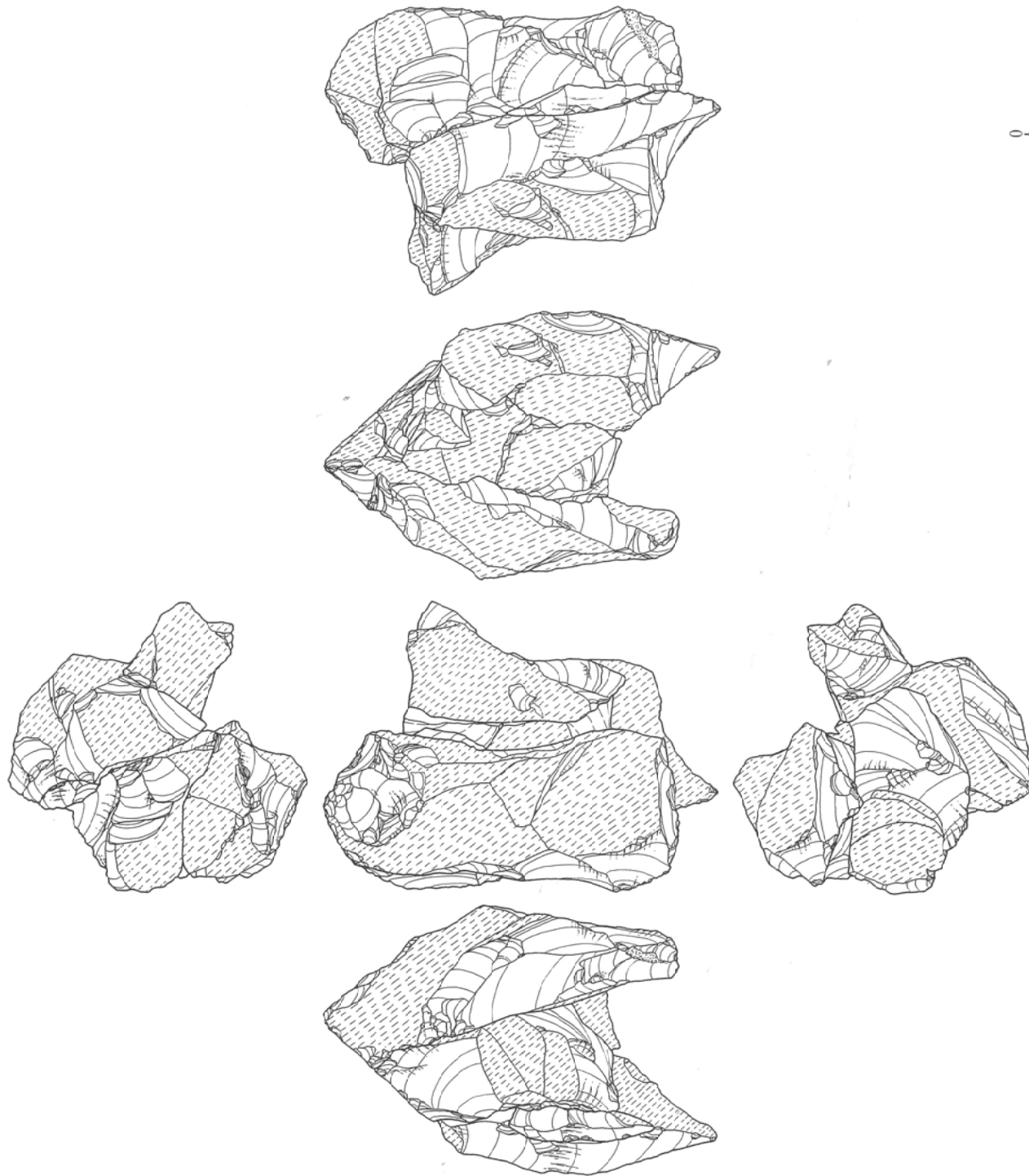


第26图 母岩8·母岩15分布图·母岩7实测图



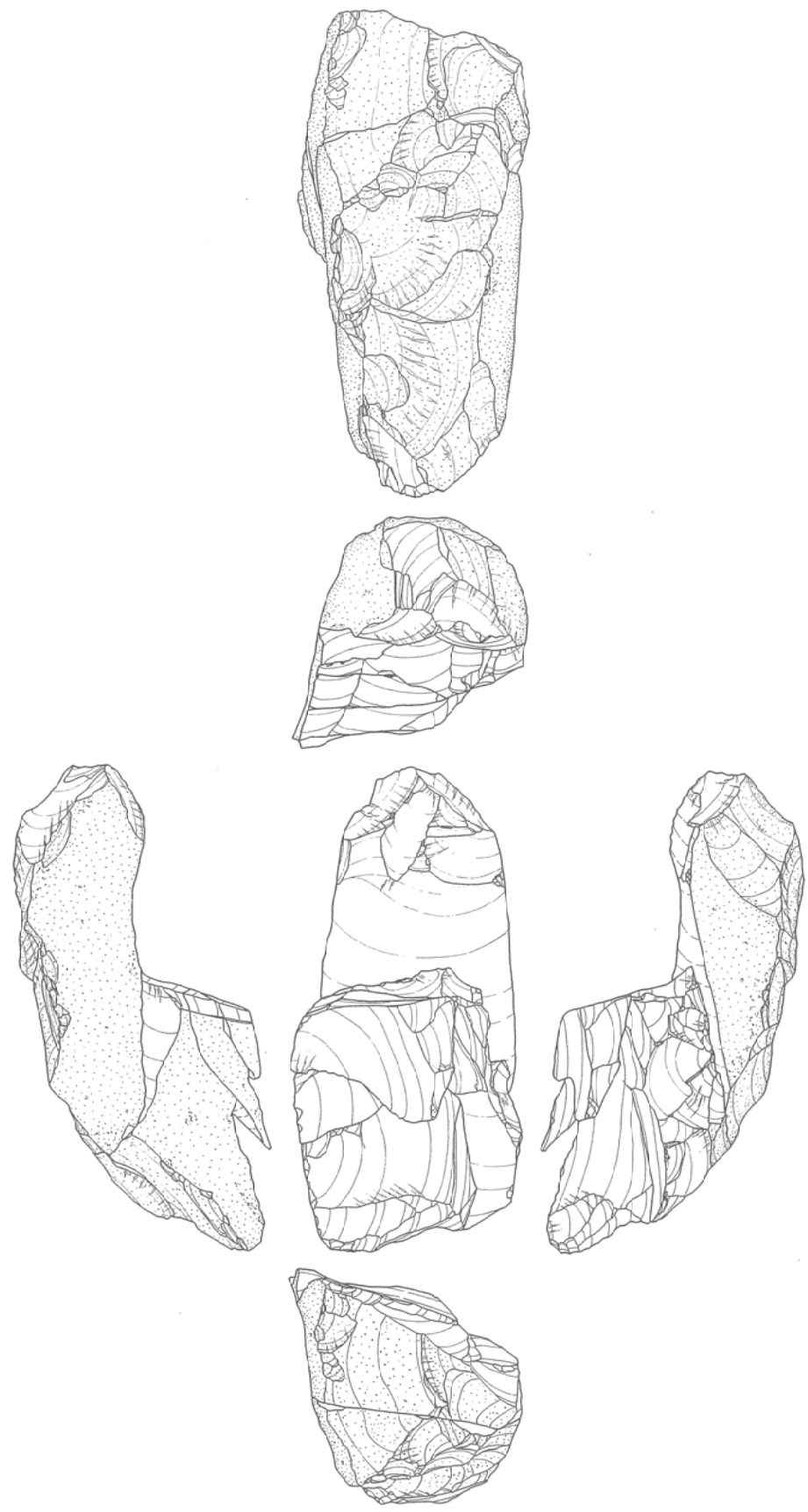
0 10cm

第27图 母岩 3 实测图



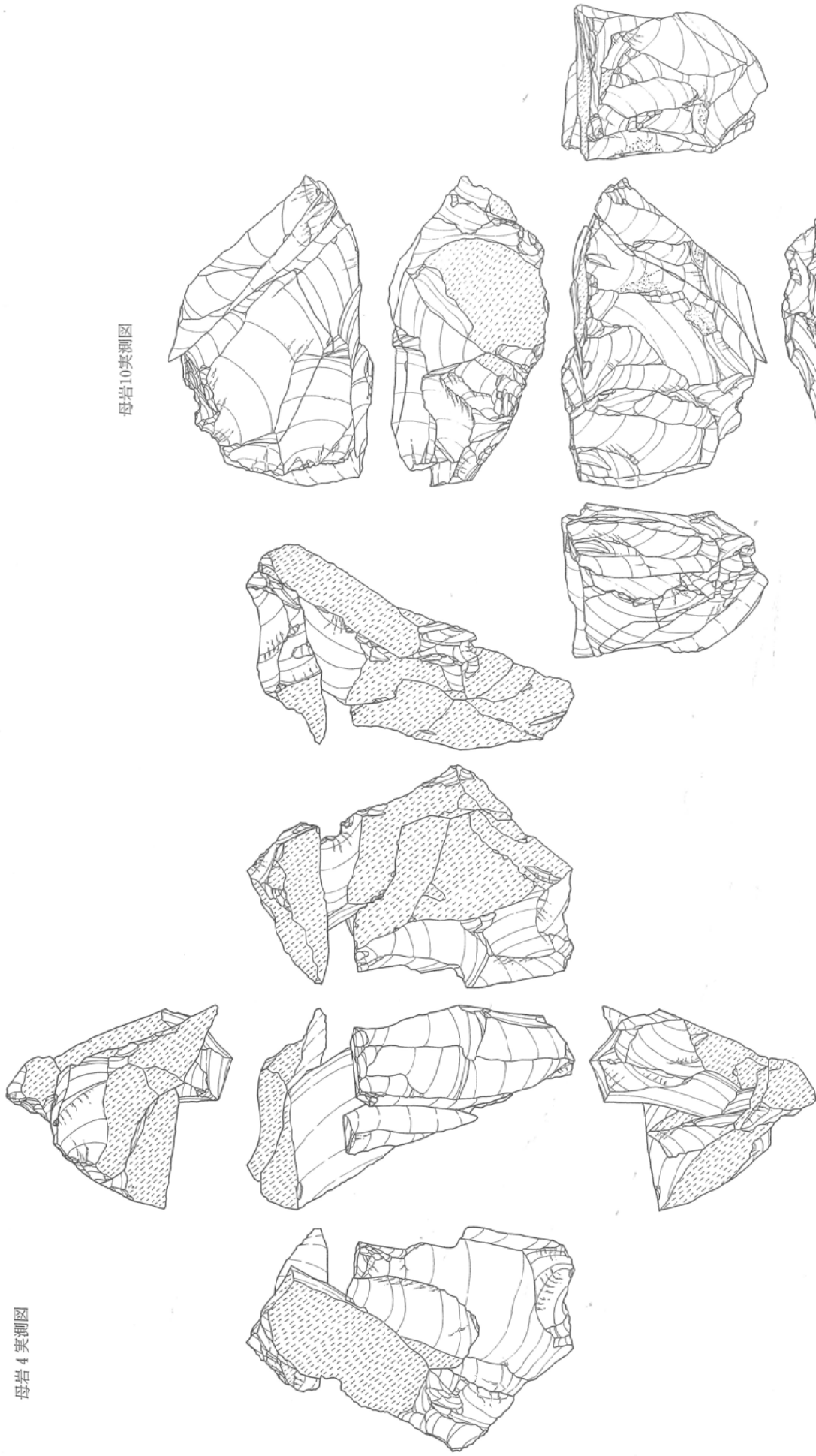
0 10cm

第28图 母岩 6 实测图



第29图 母岩9 实测图

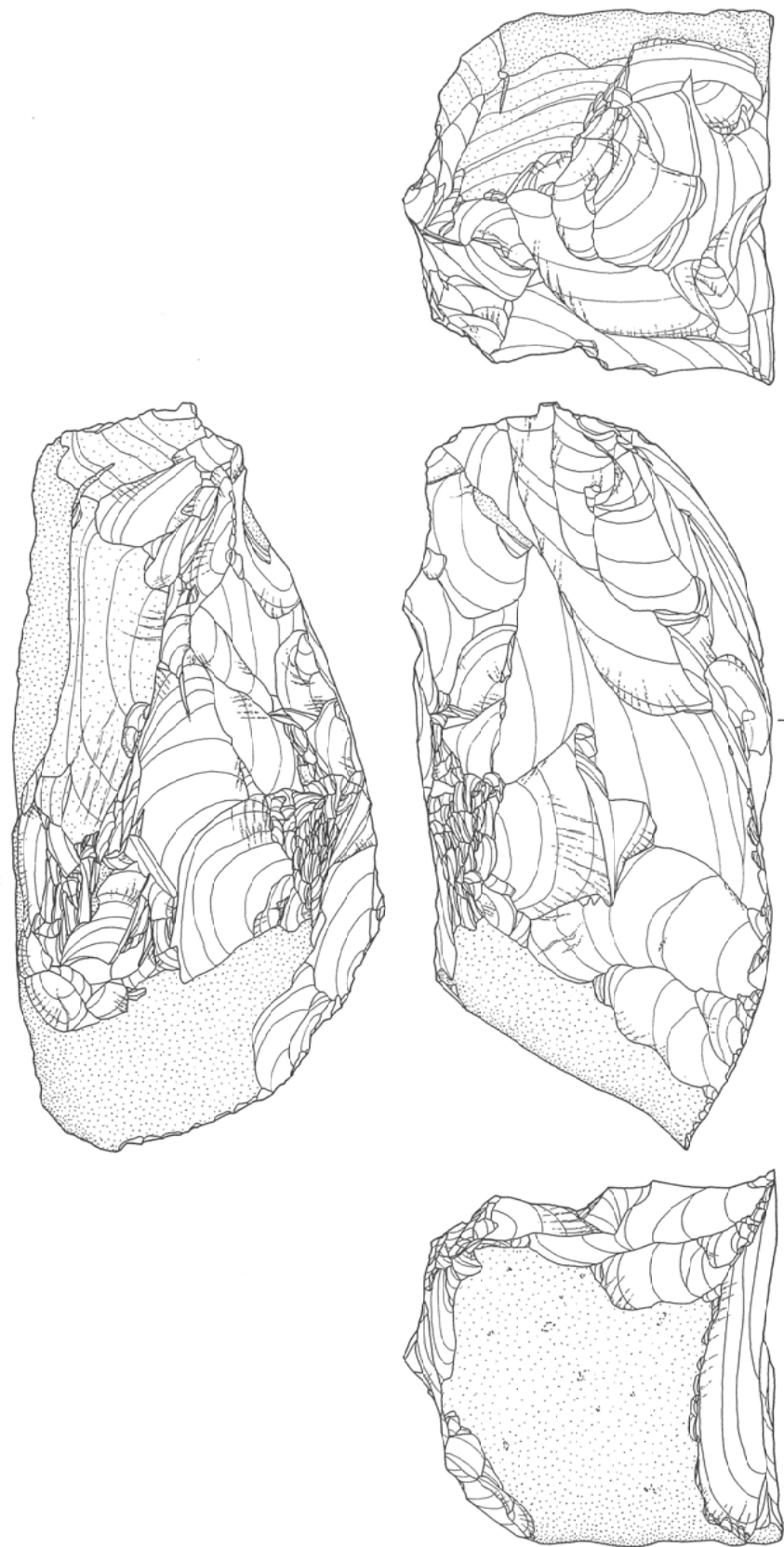
母岩4 实测图



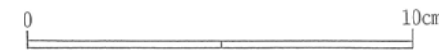
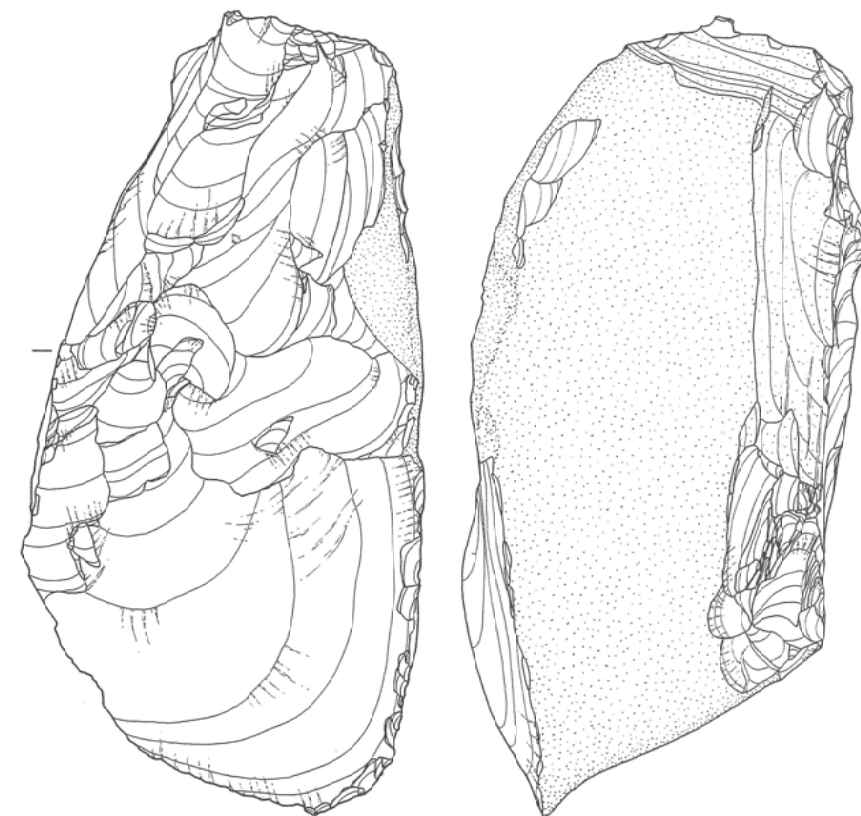
母岩10 实测图



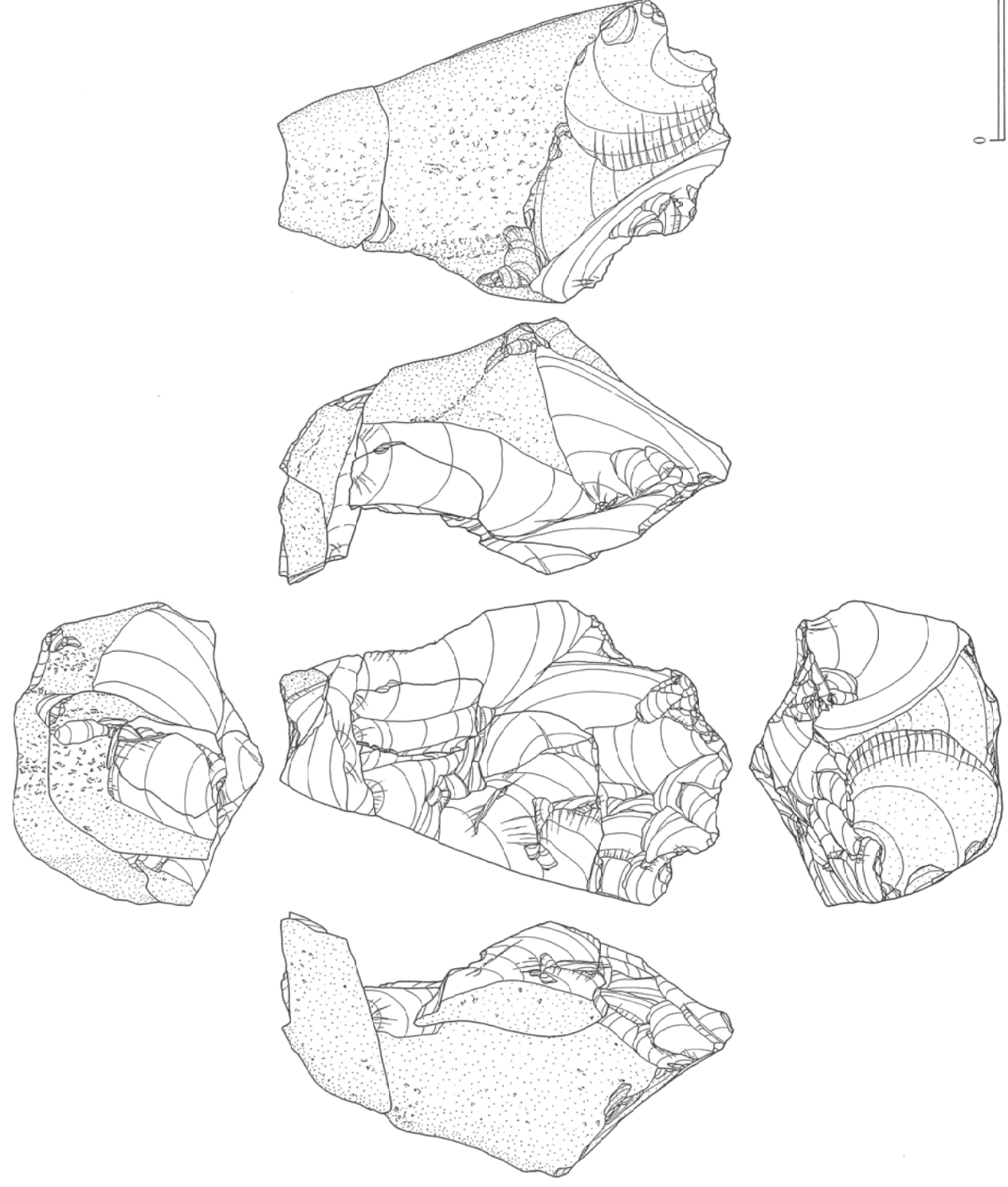
第30图 母岩4 · 母岩10 实测图



第31图 母岩43实测图(1)

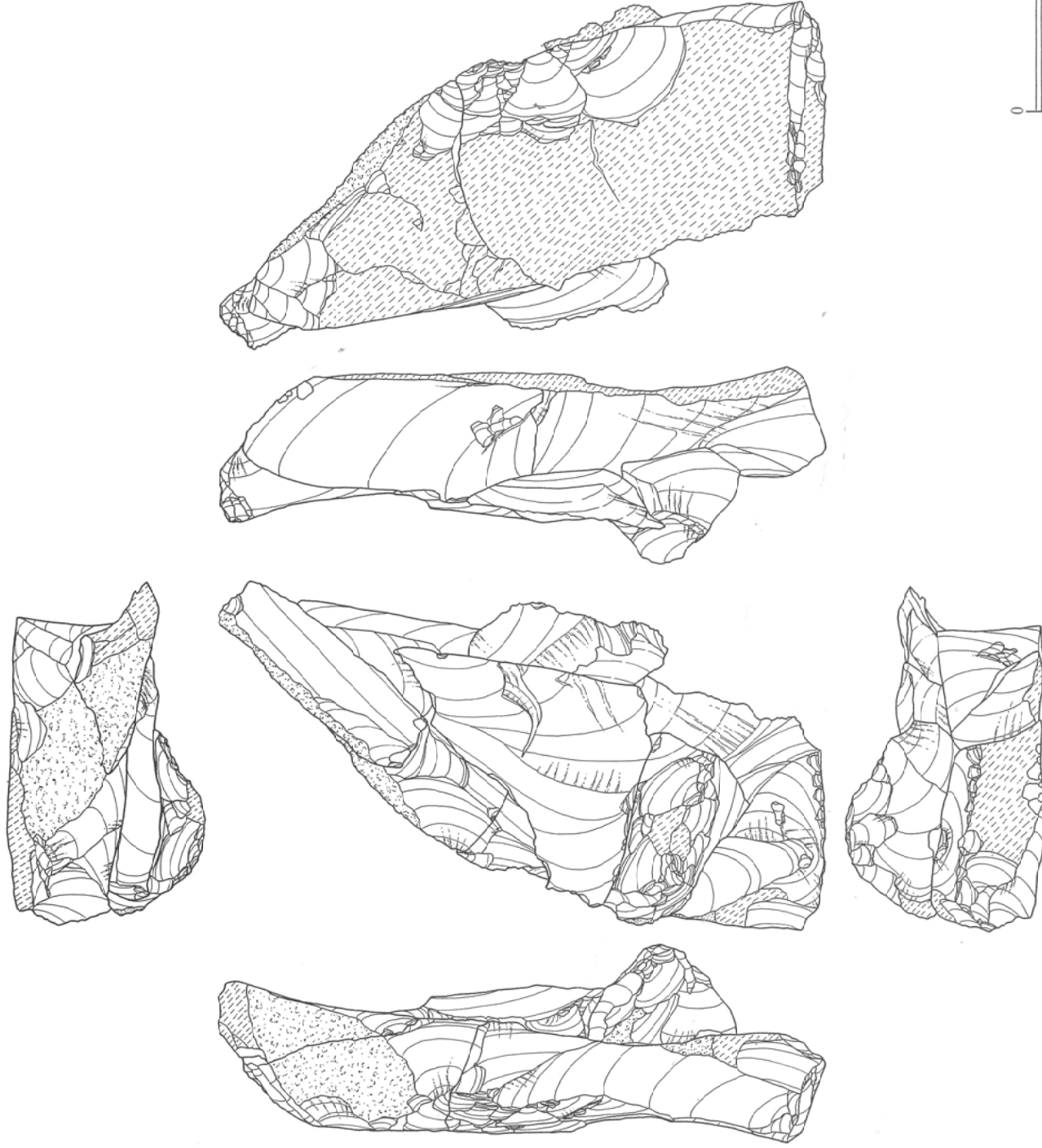


第32图 母岩43实测图(2)



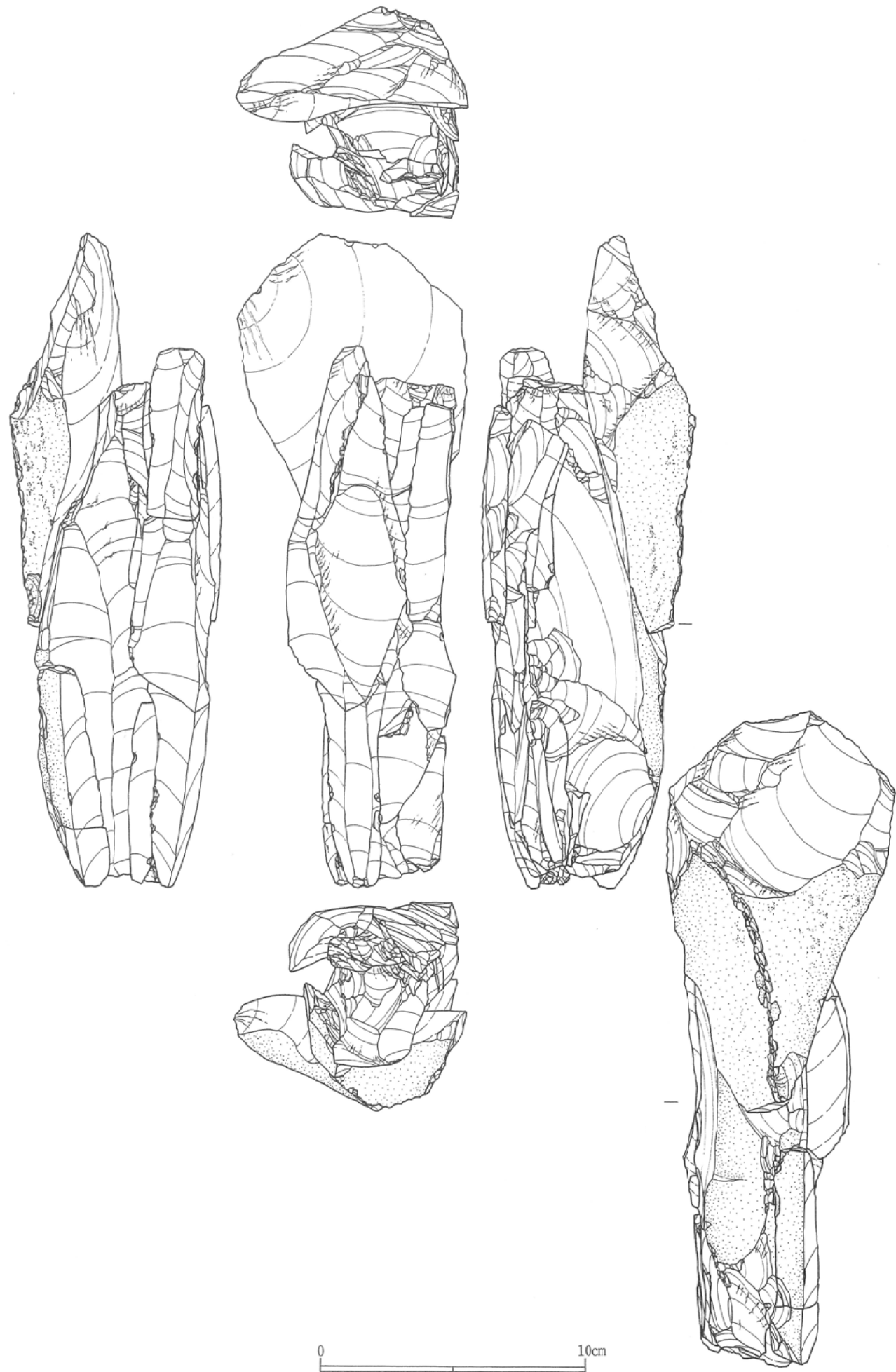
0 10cm

第33图 母岩11实测图

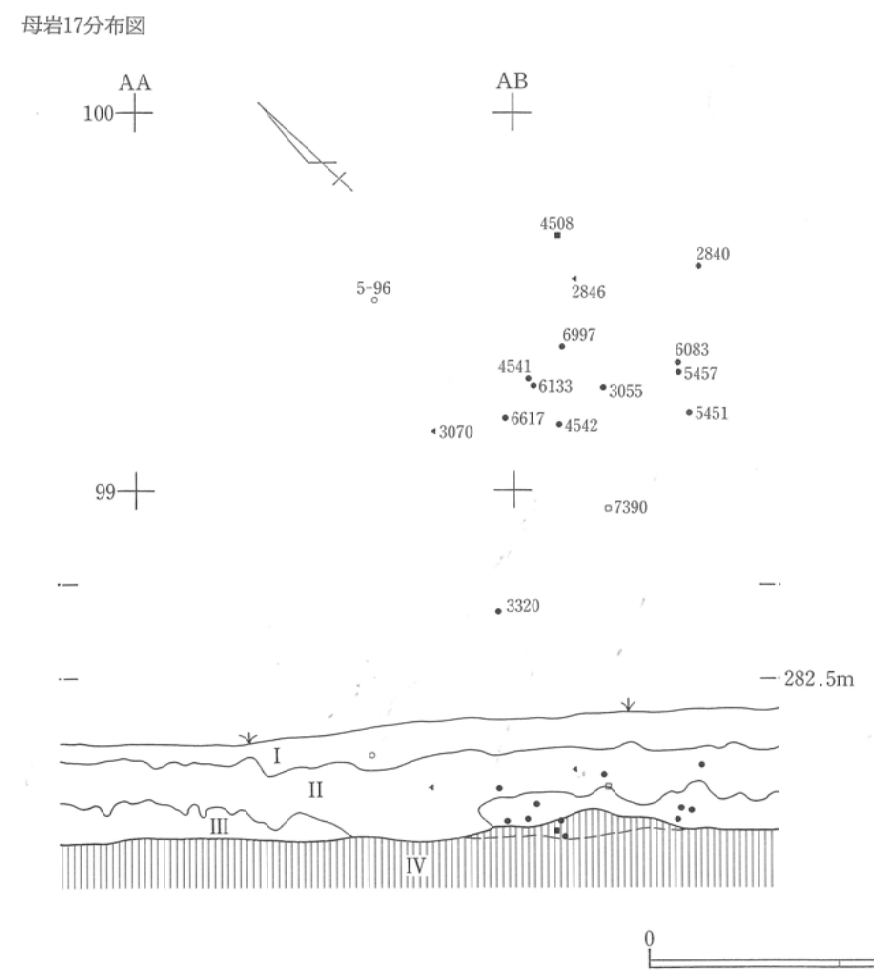
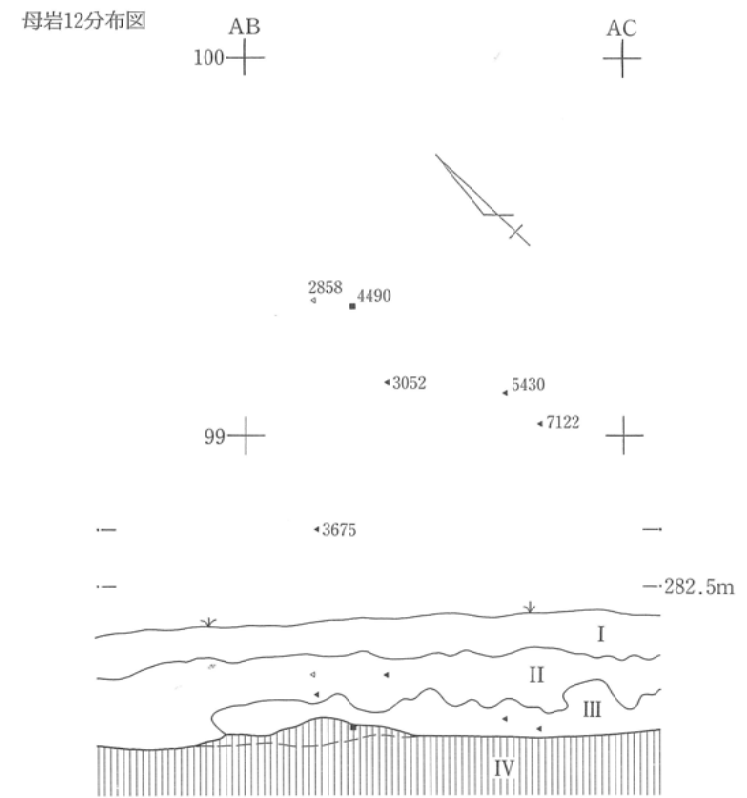


0 10cm

第34图 母岩12实测图



第35图 母岩17实测图

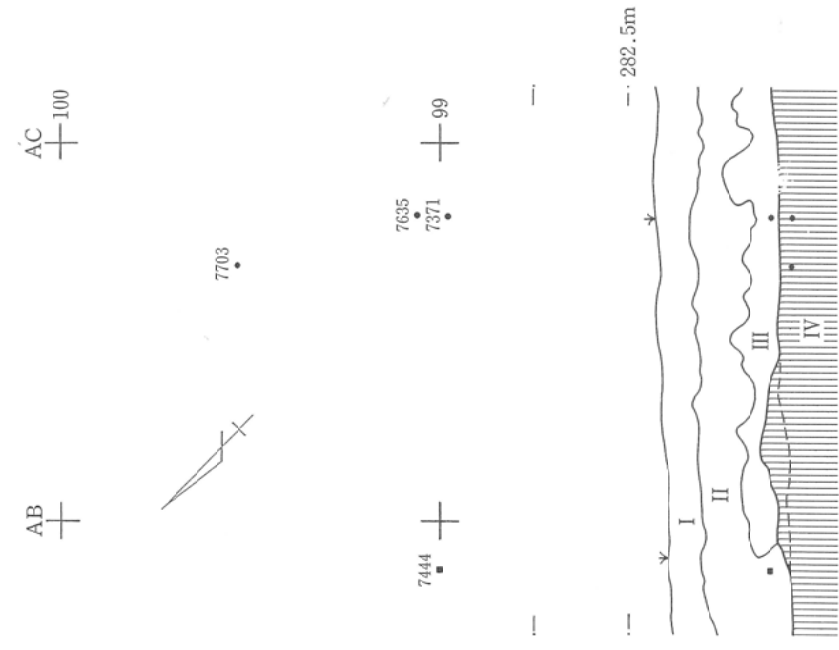
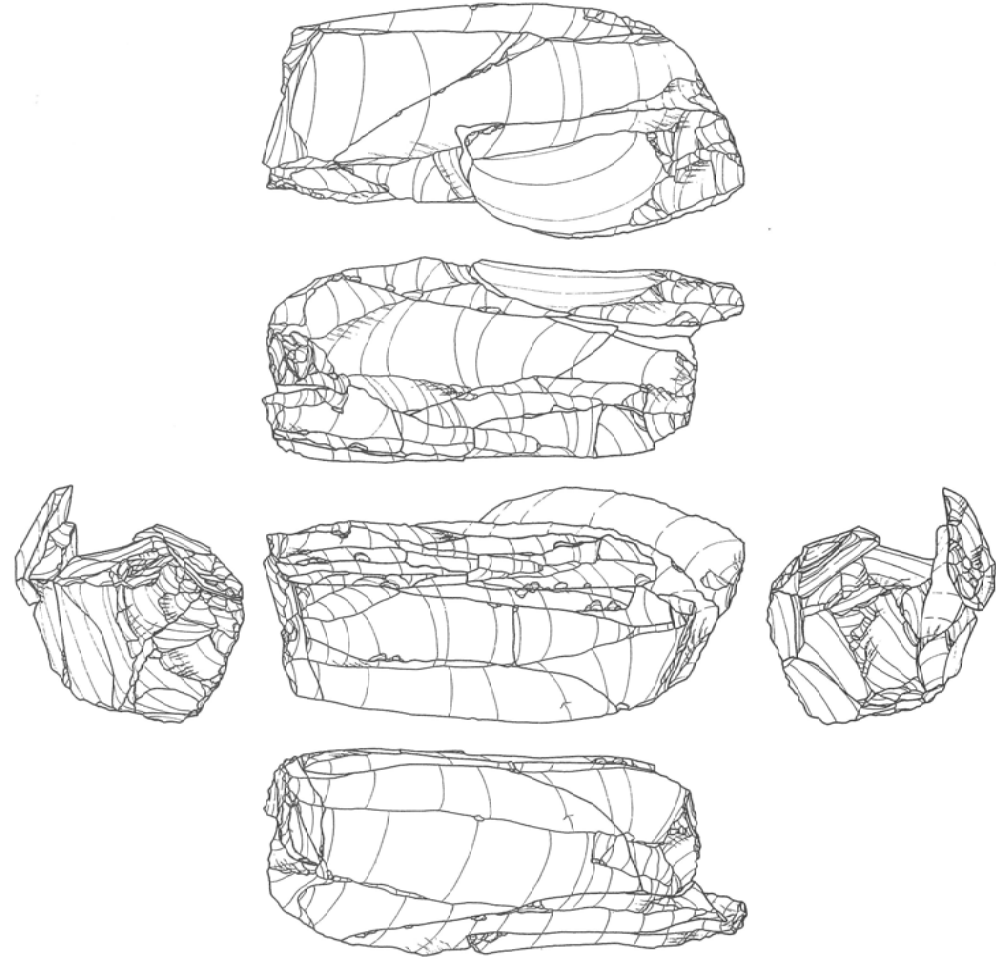


第36图 母岩12·母岩17分布图



0 10cm

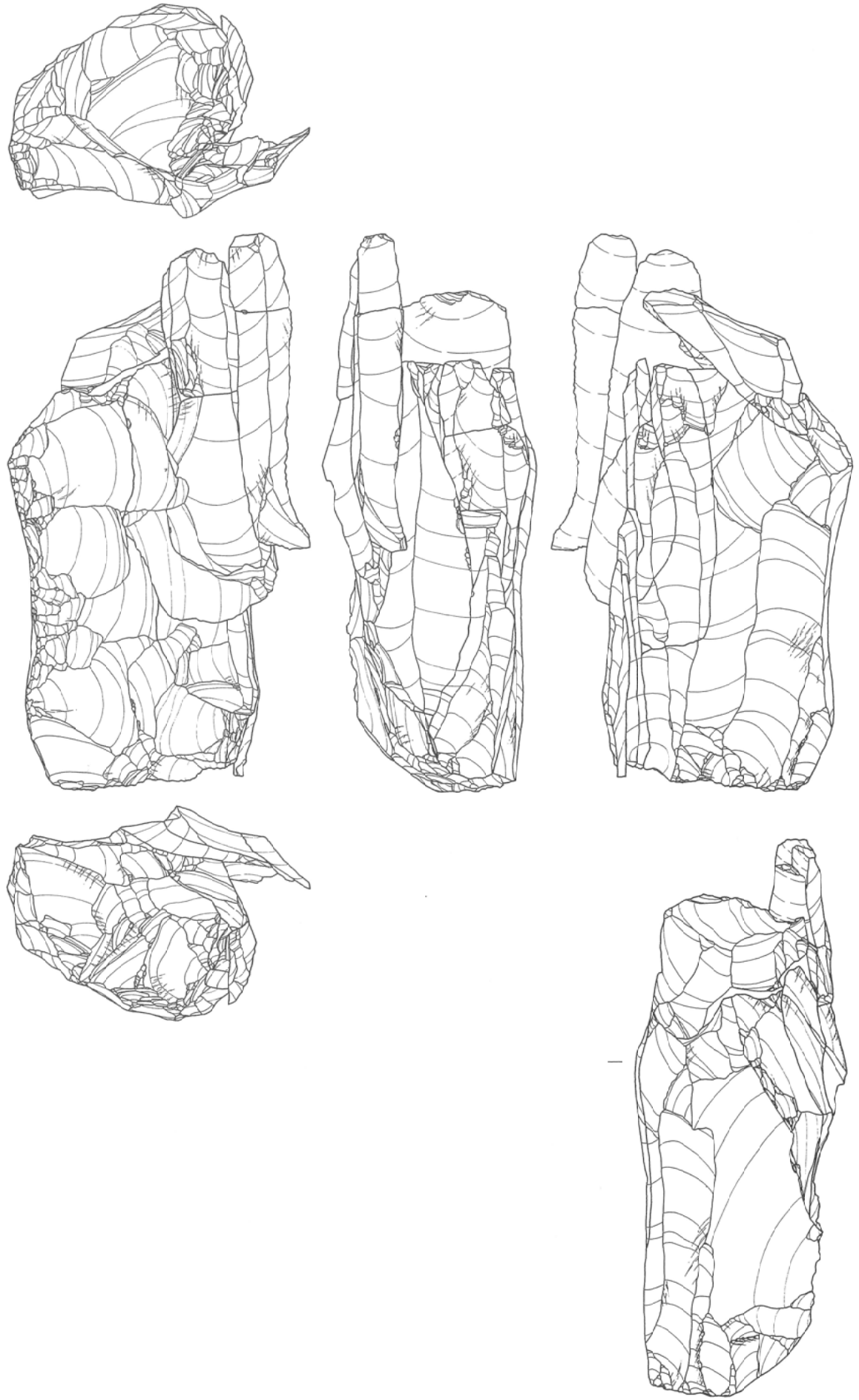
第37图 母岩16实测图·分布图



0 10cm

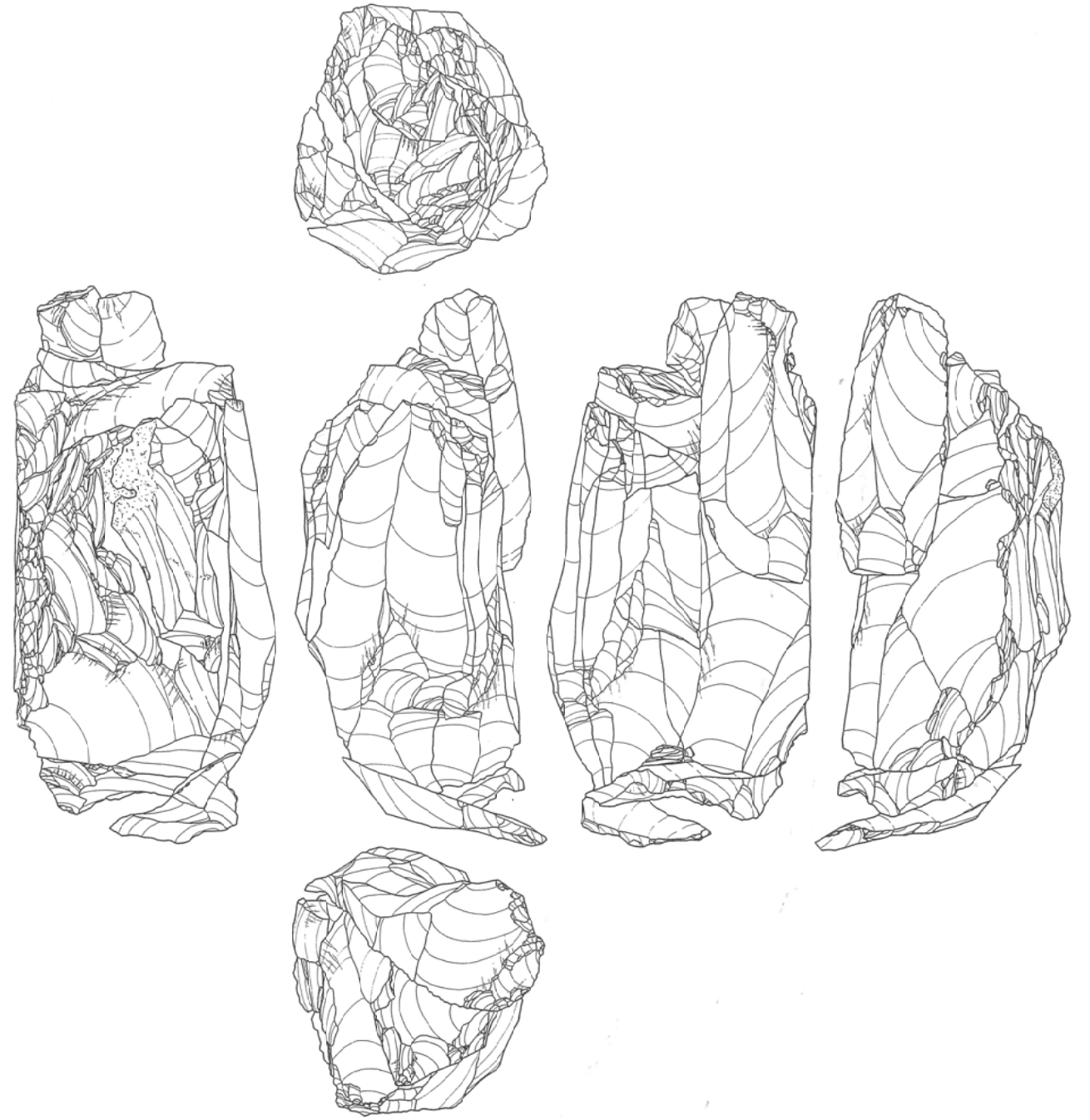
第38图 母岩19实测图·分布图





0 10cm

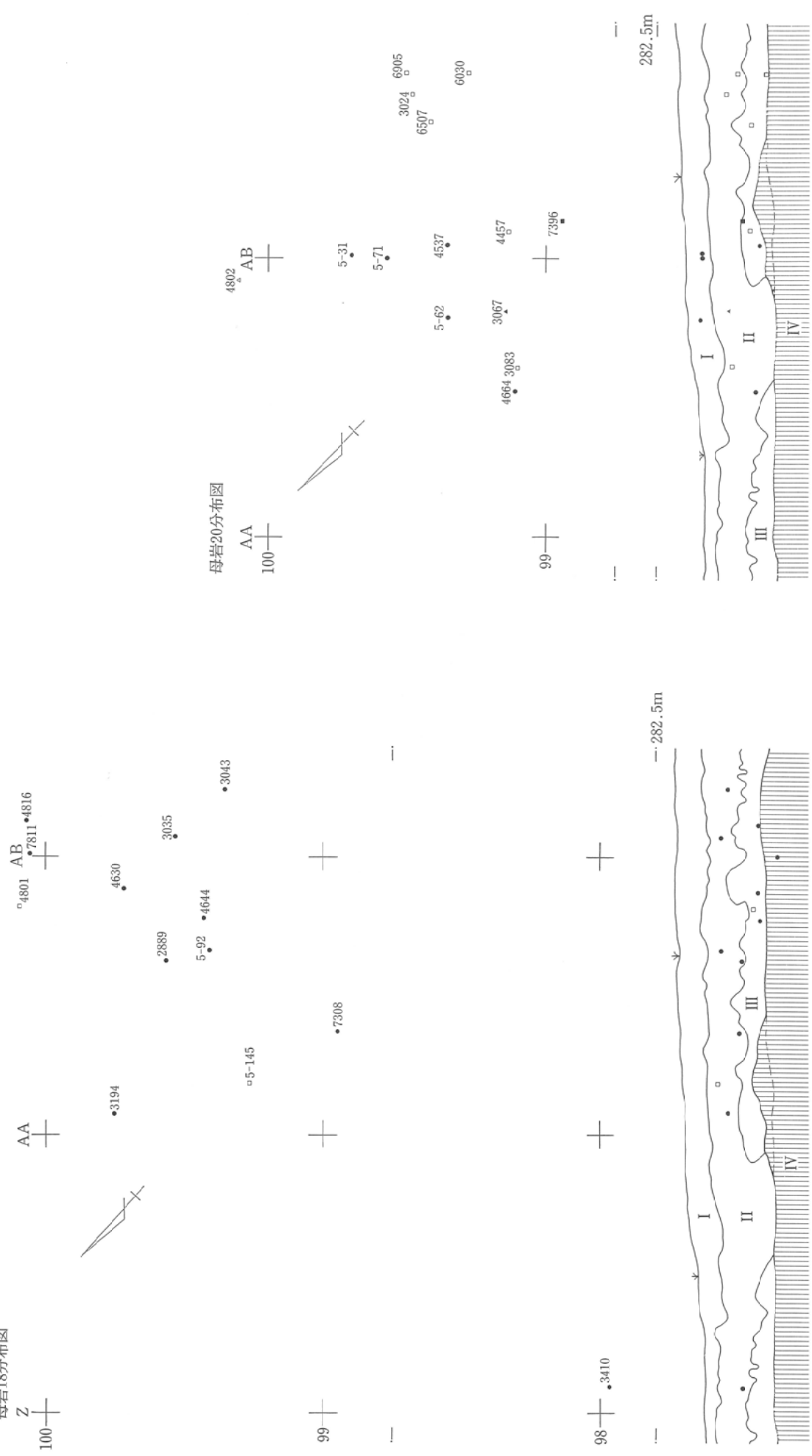
第39图 母岩18实测图



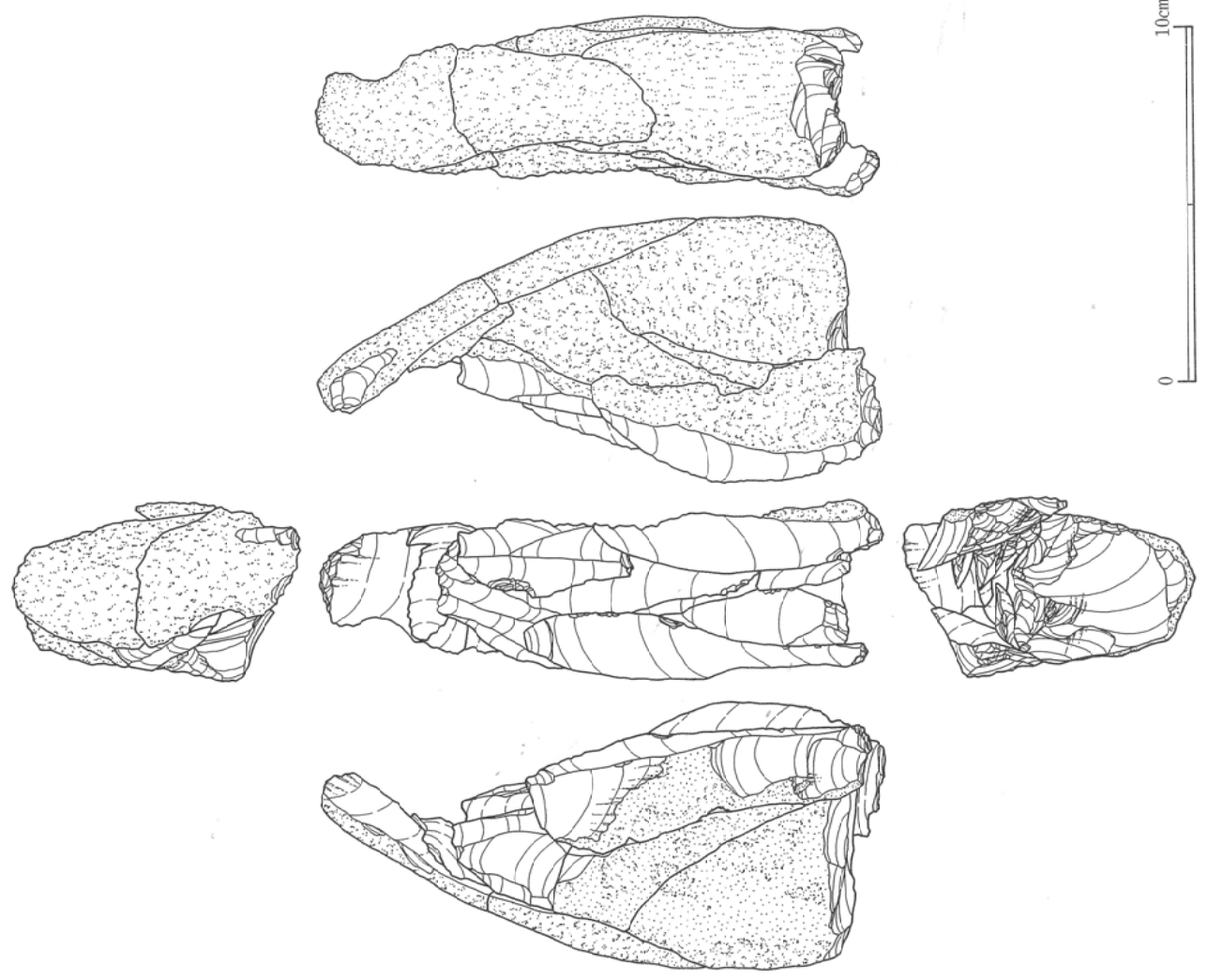
0 10cm

第40图 母岩20实测图

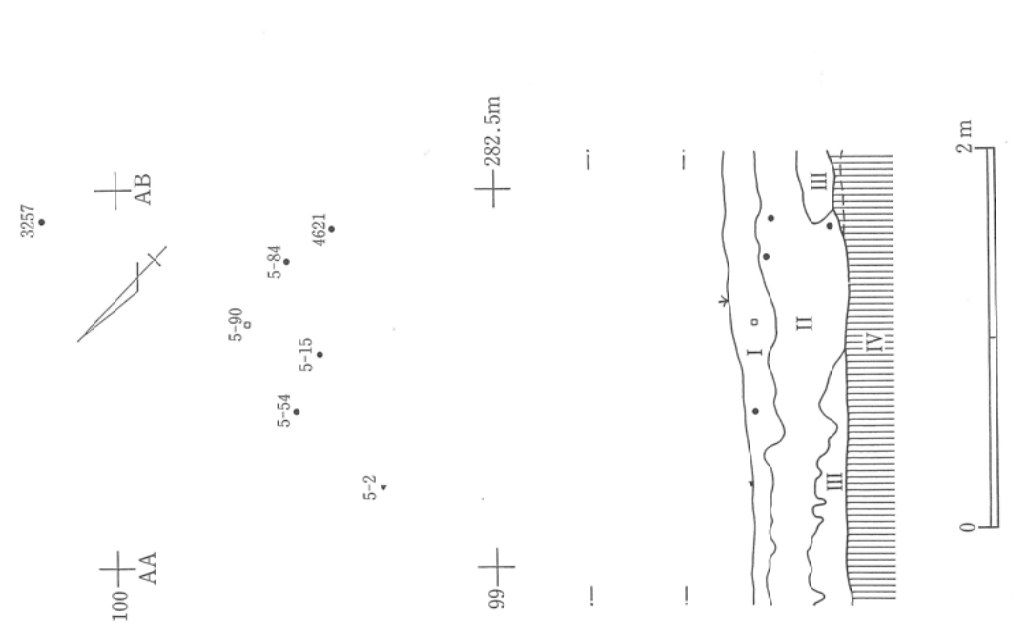
母岩18分布图

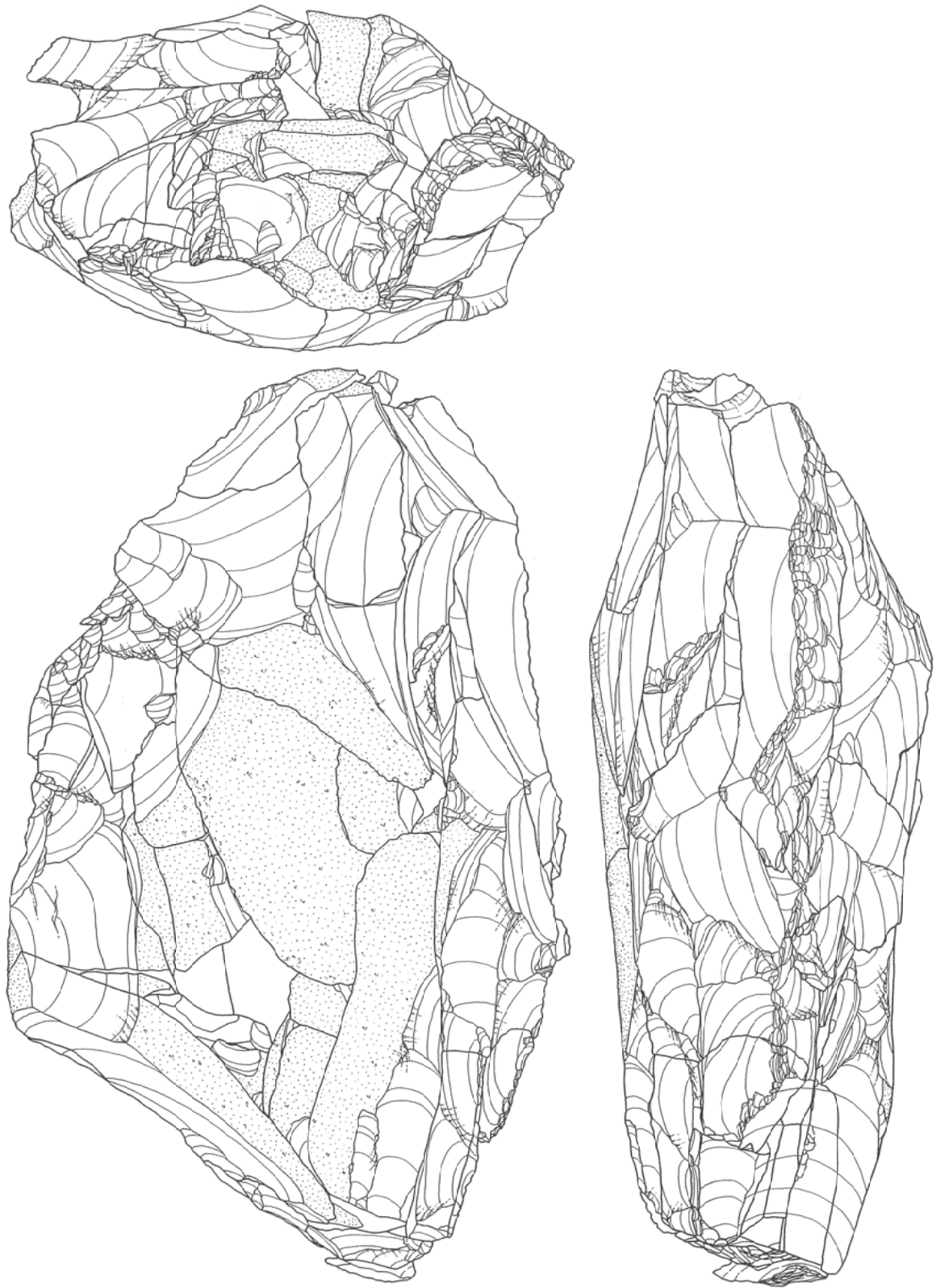


第41图 母岩18·母岩20分布图



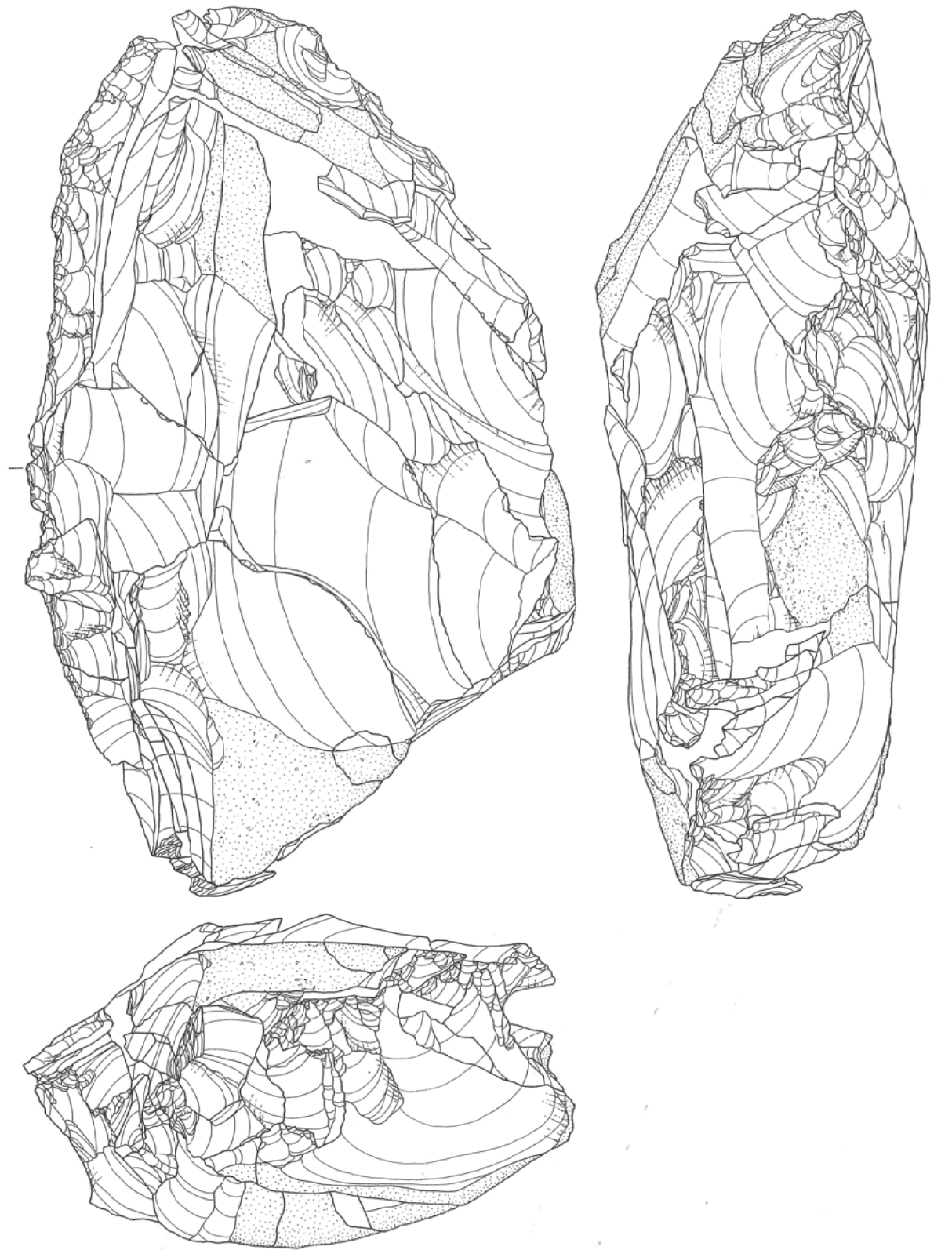
第42图 母岩21实测图·分布图





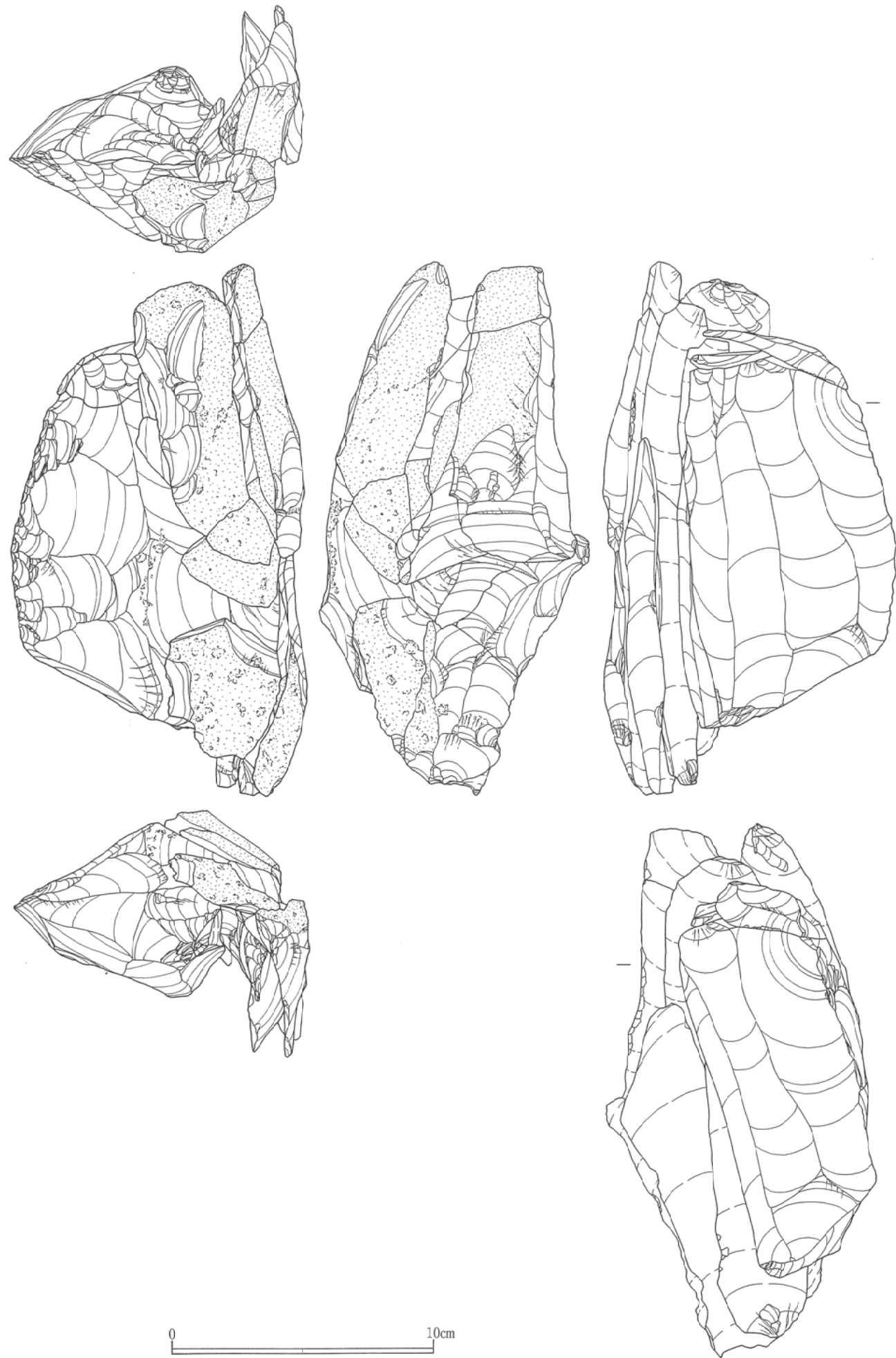
0 10cm

第43图 母岩26实测图(1)



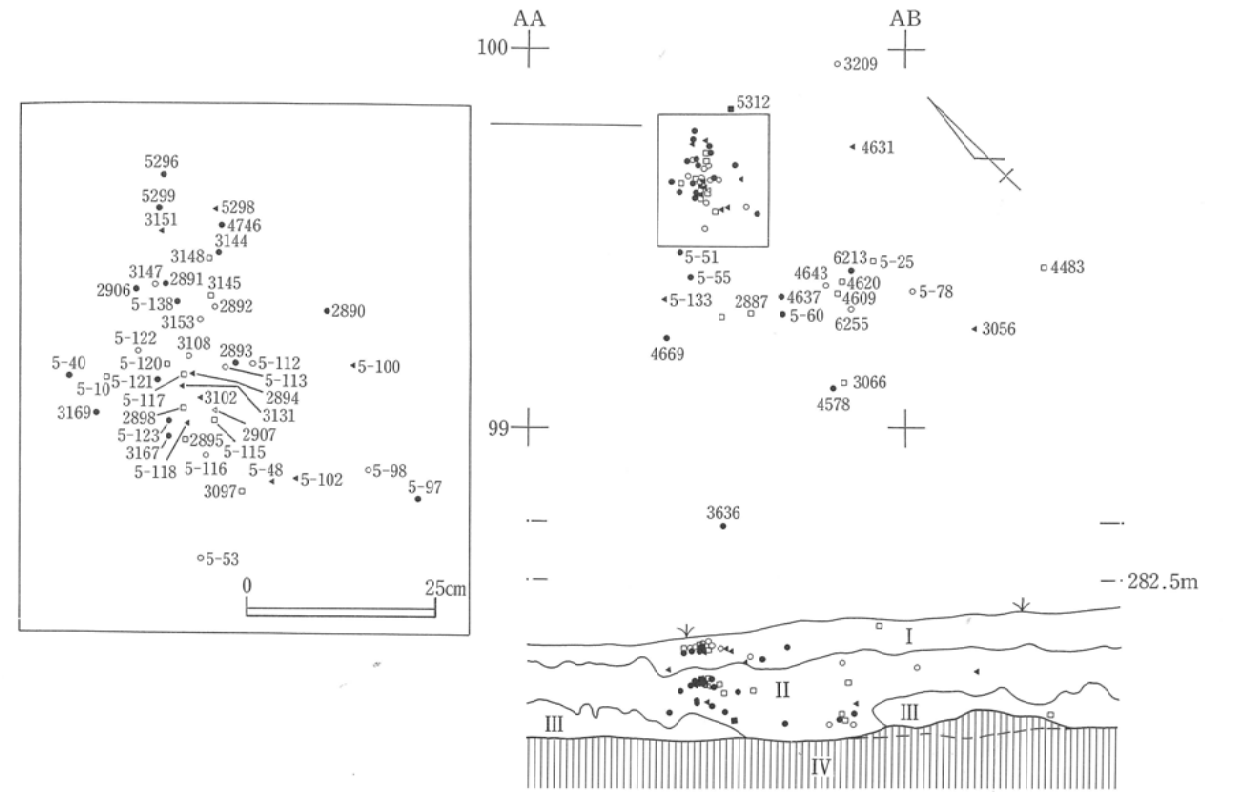
0 10cm

第44图 母岩26实测图(2)

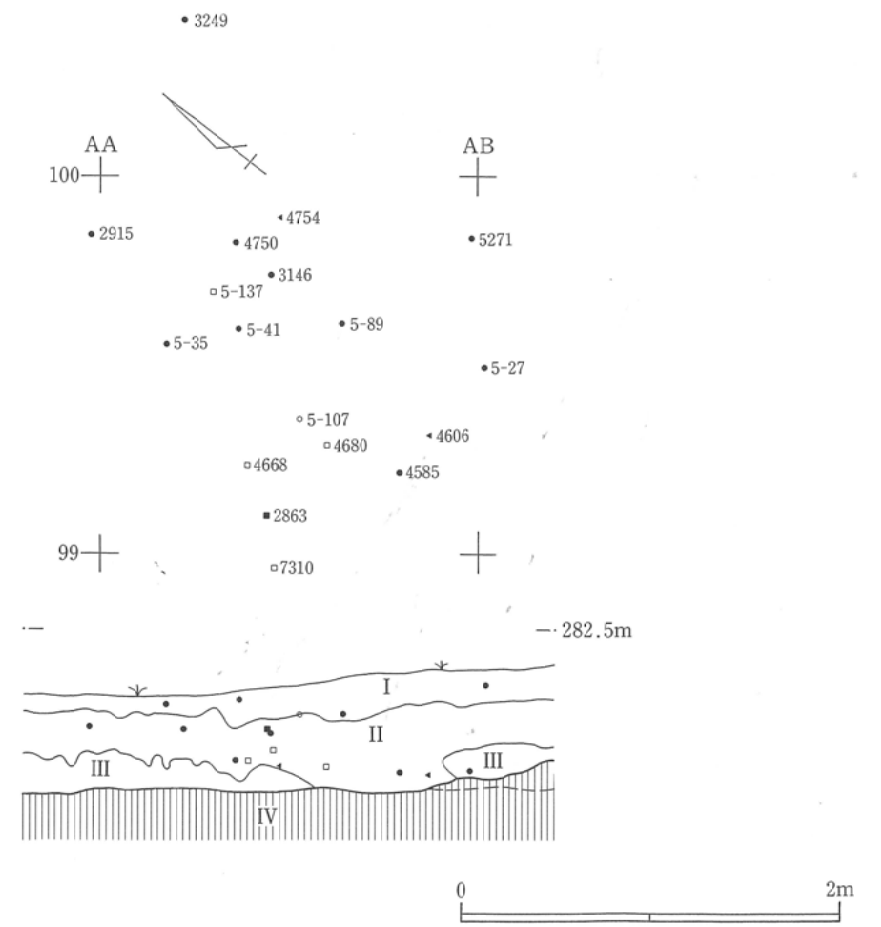


第45图 母岩22实测图

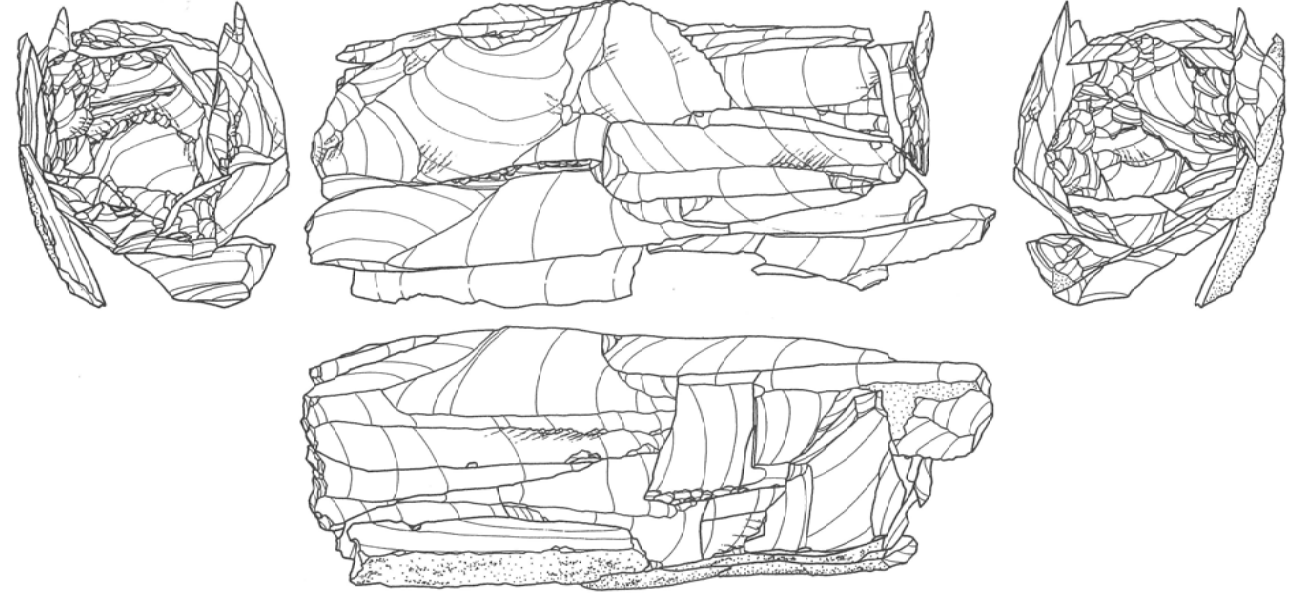
母岩26分布图



母岩22分布图



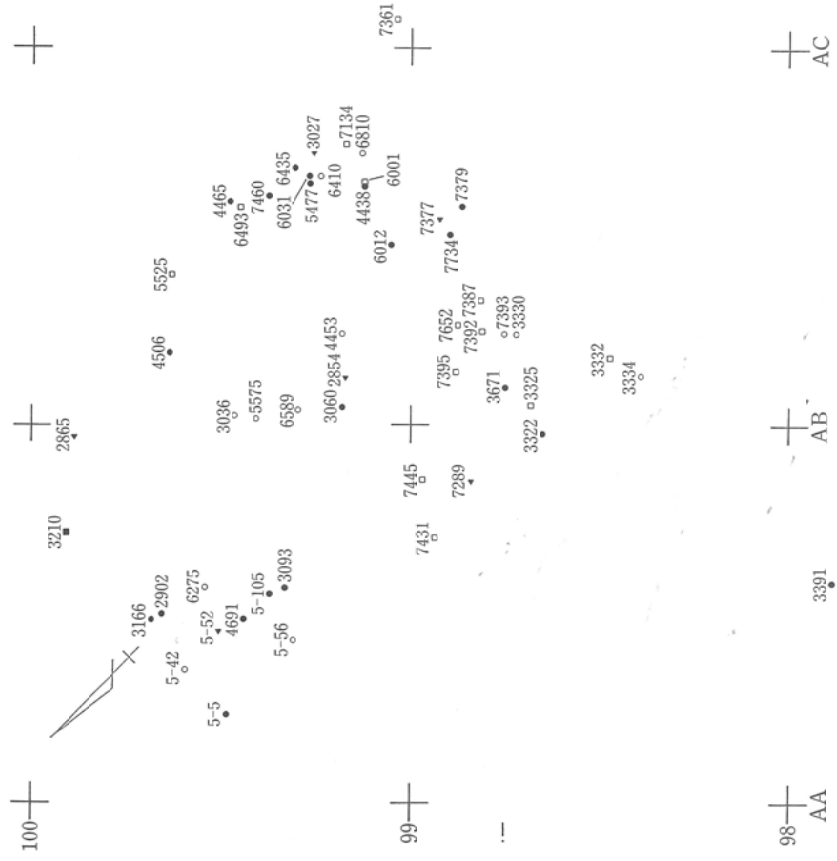
第46图 母岩26·母岩22分布图



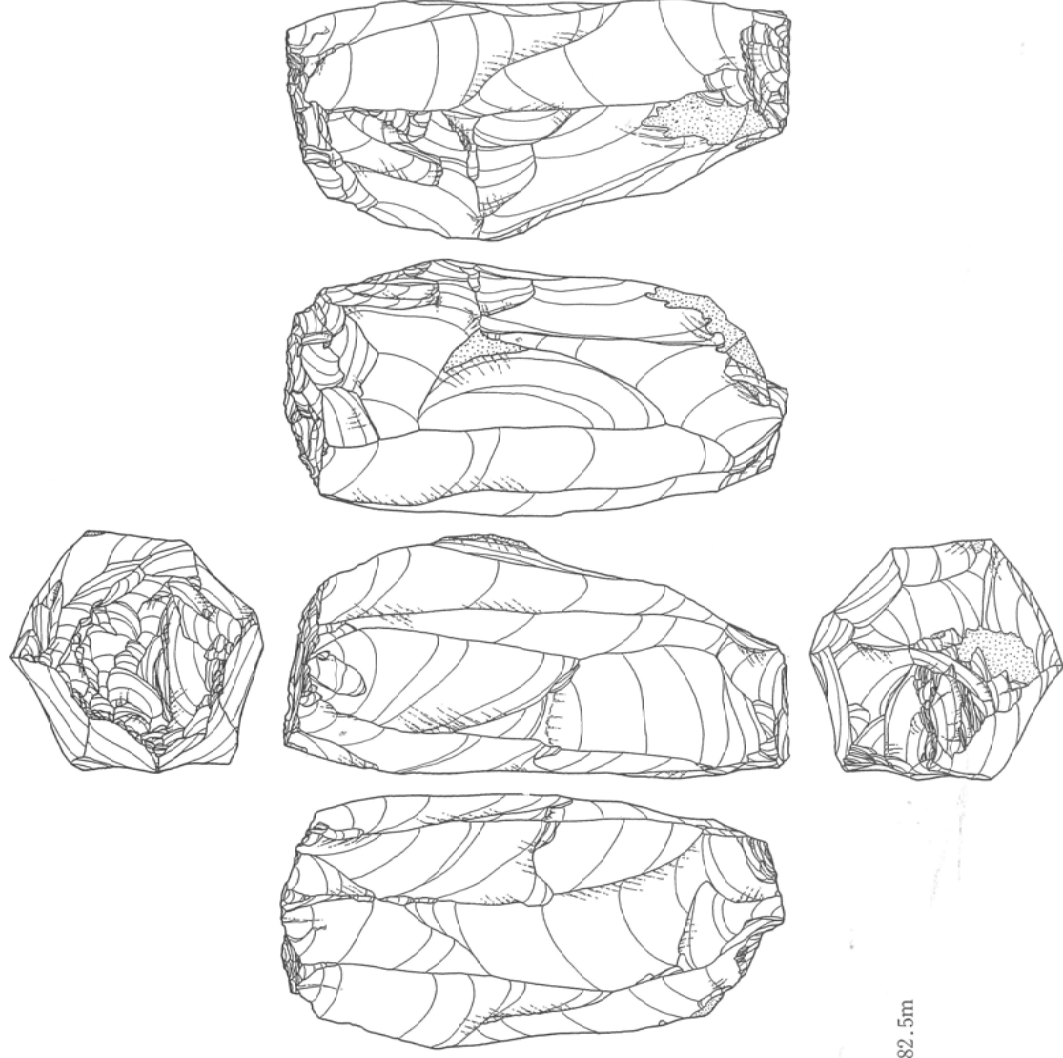
0 10cm

第47图 母岩27实测图

母岩27分布图

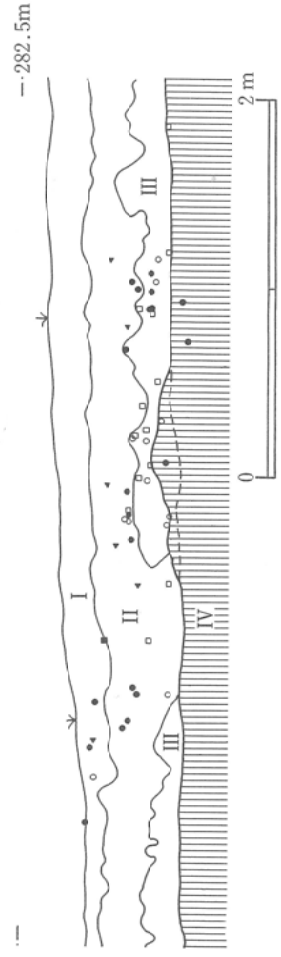


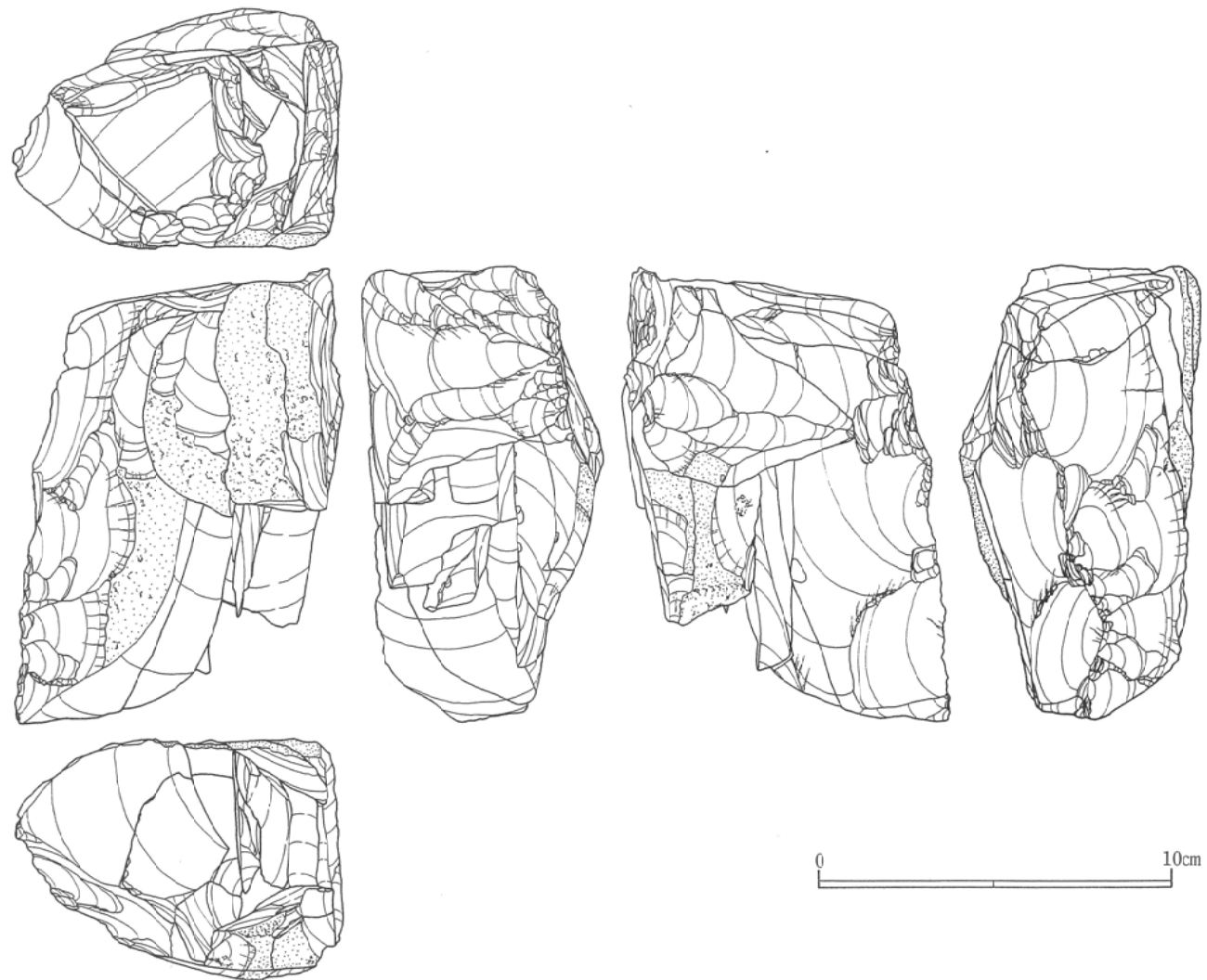
母岩42实测图



0 10cm

第48图 母岩27分布图·母岩42实测图





100+

0 10cm

5-79
5-69
6227 2847
6230 6165 3059
7665
6475 7167
6853

3068

4450

3029

99+
AA

AB

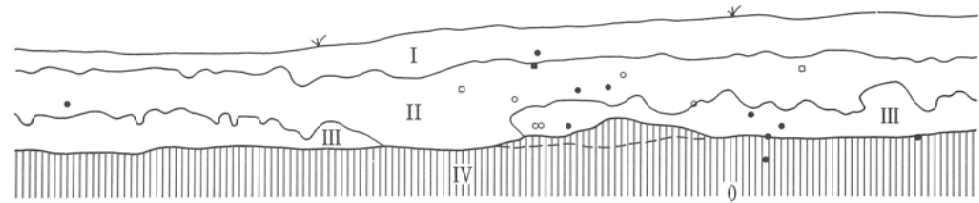
7364+
AC

3674

3319

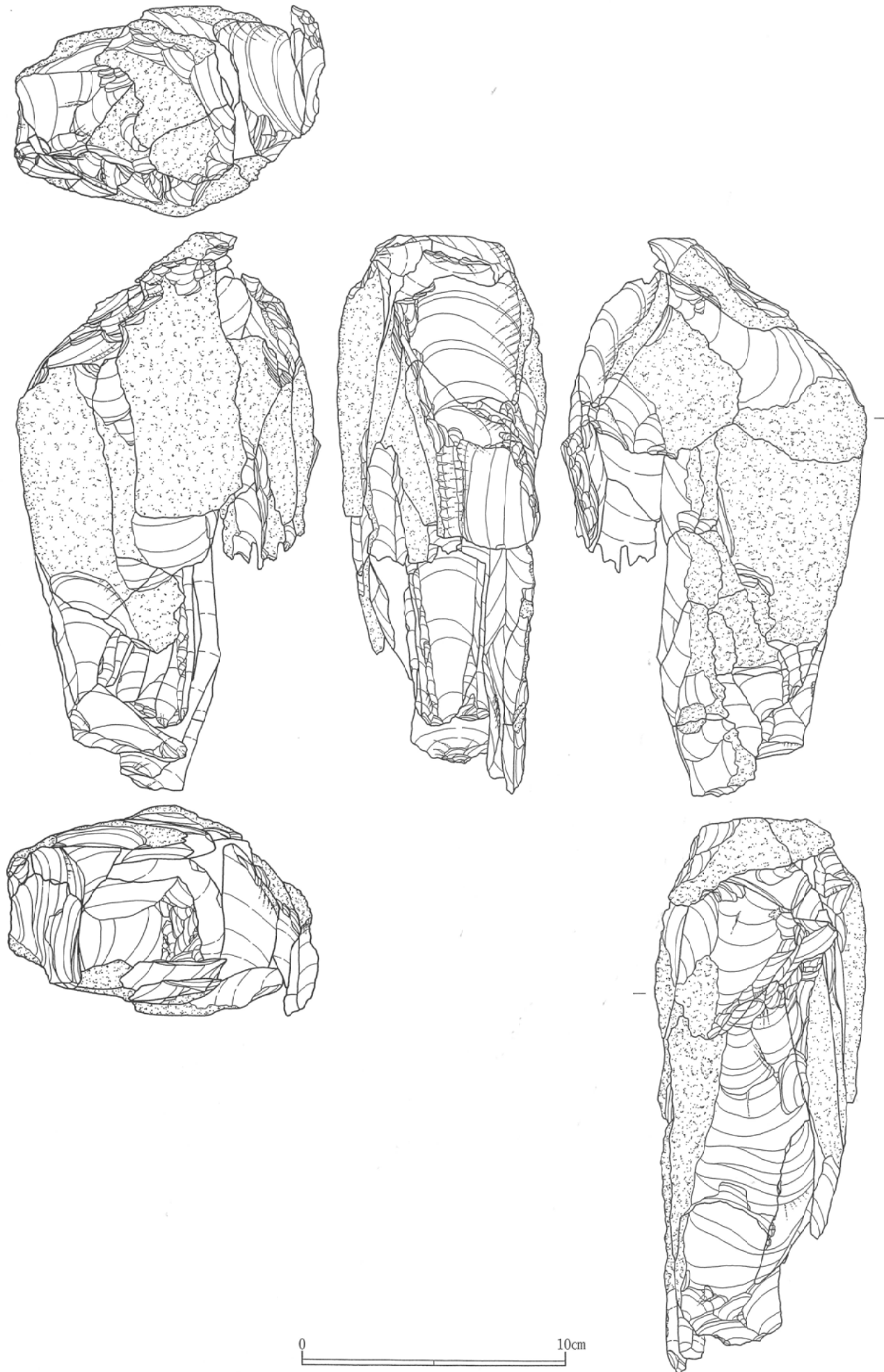
3290

-282.5m



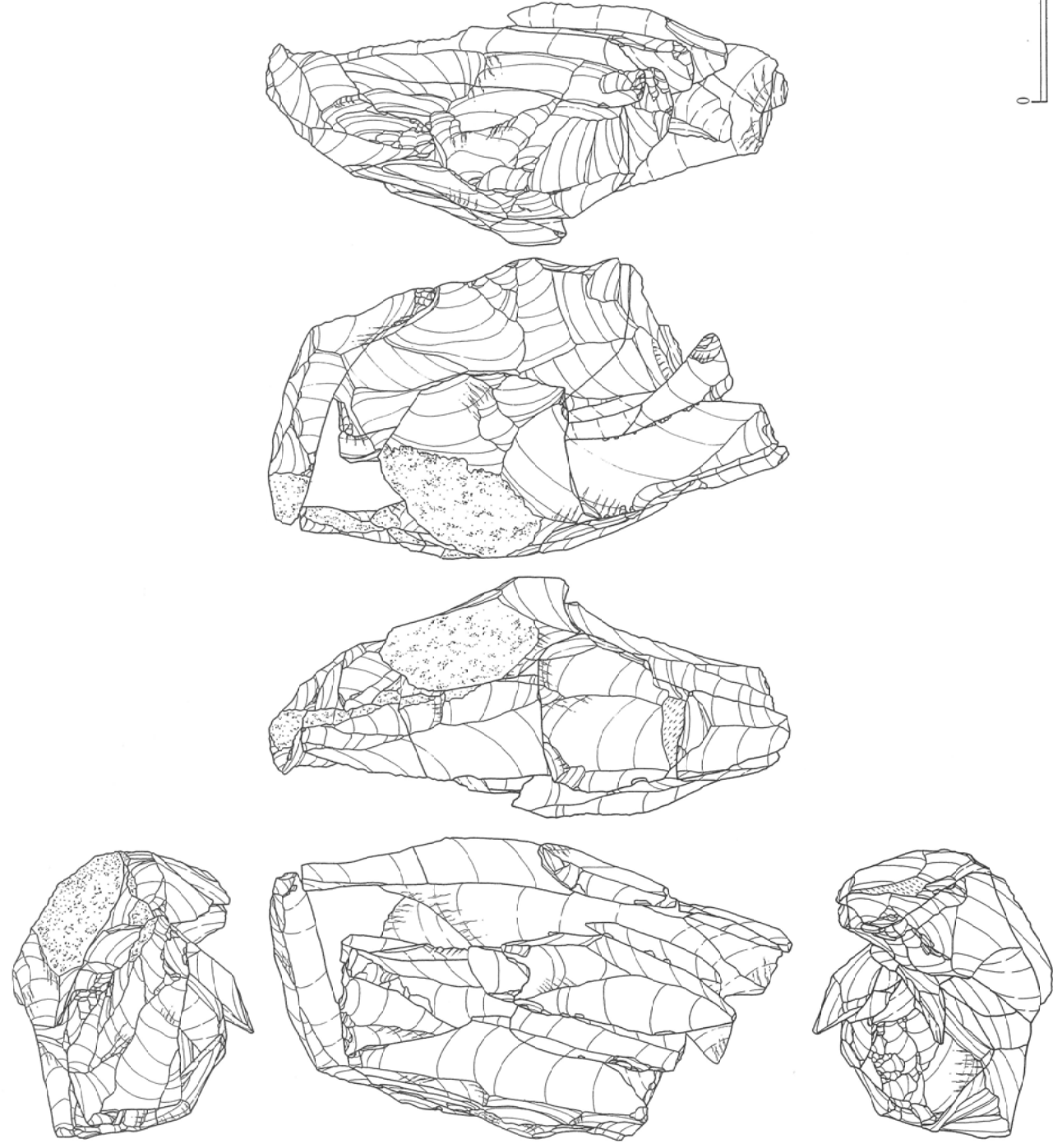
0 2m

第49图 母岩24实测图·分布图



0 10cm

第50图 母岩25实测图

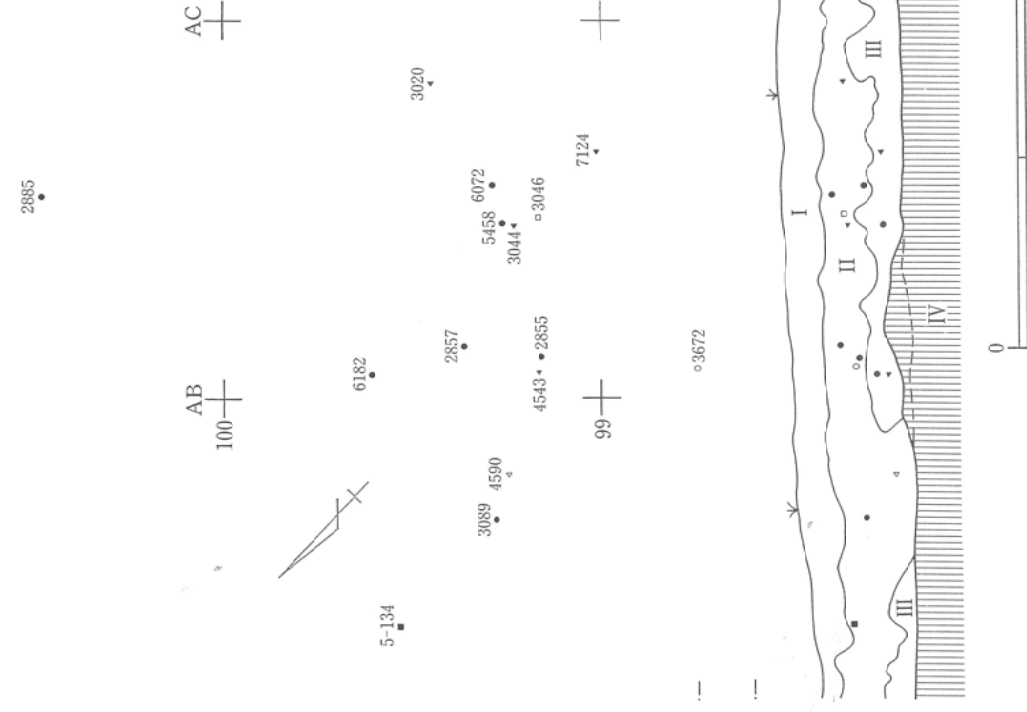


第51图 母岩23实测图

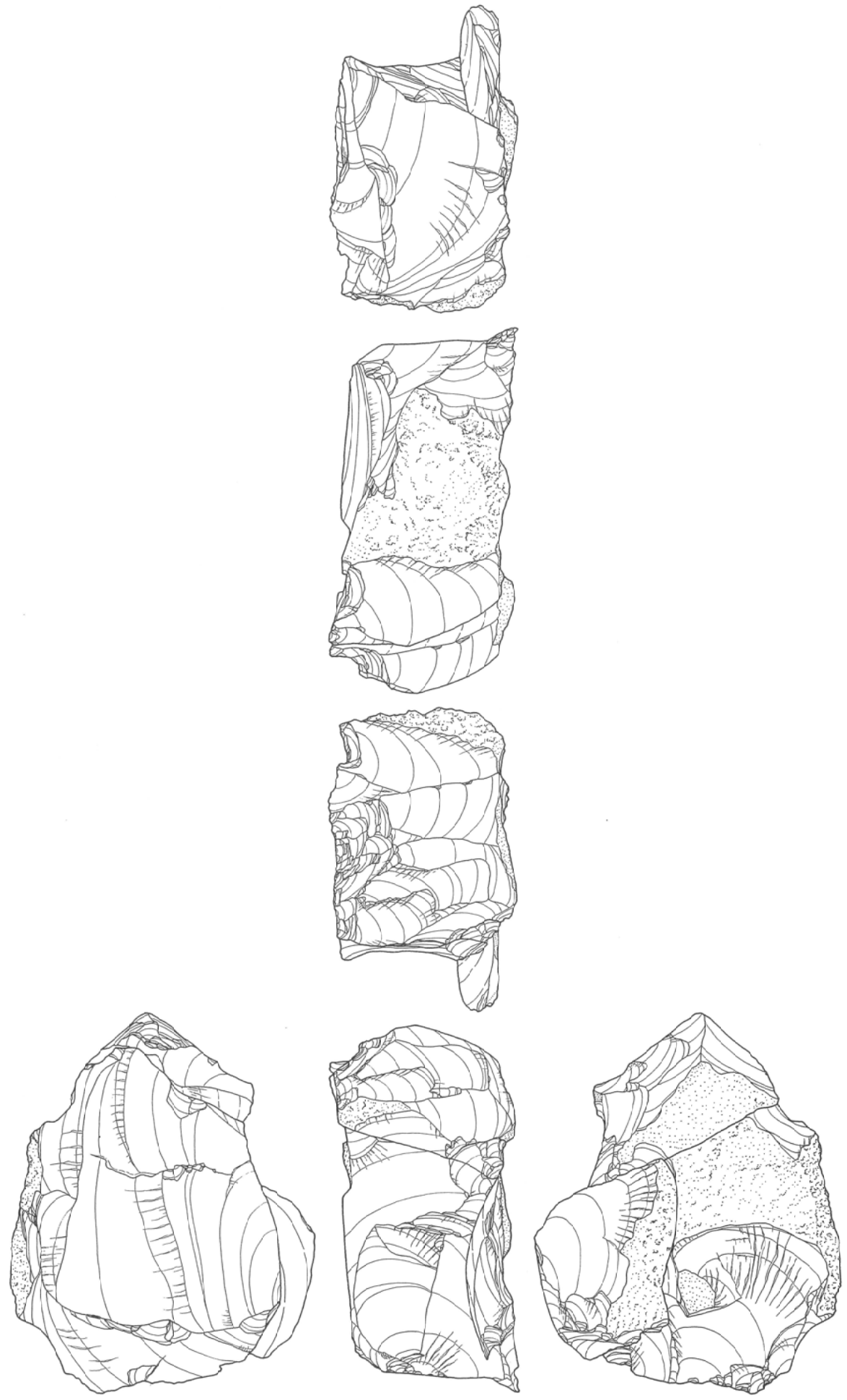
母岩25分布图



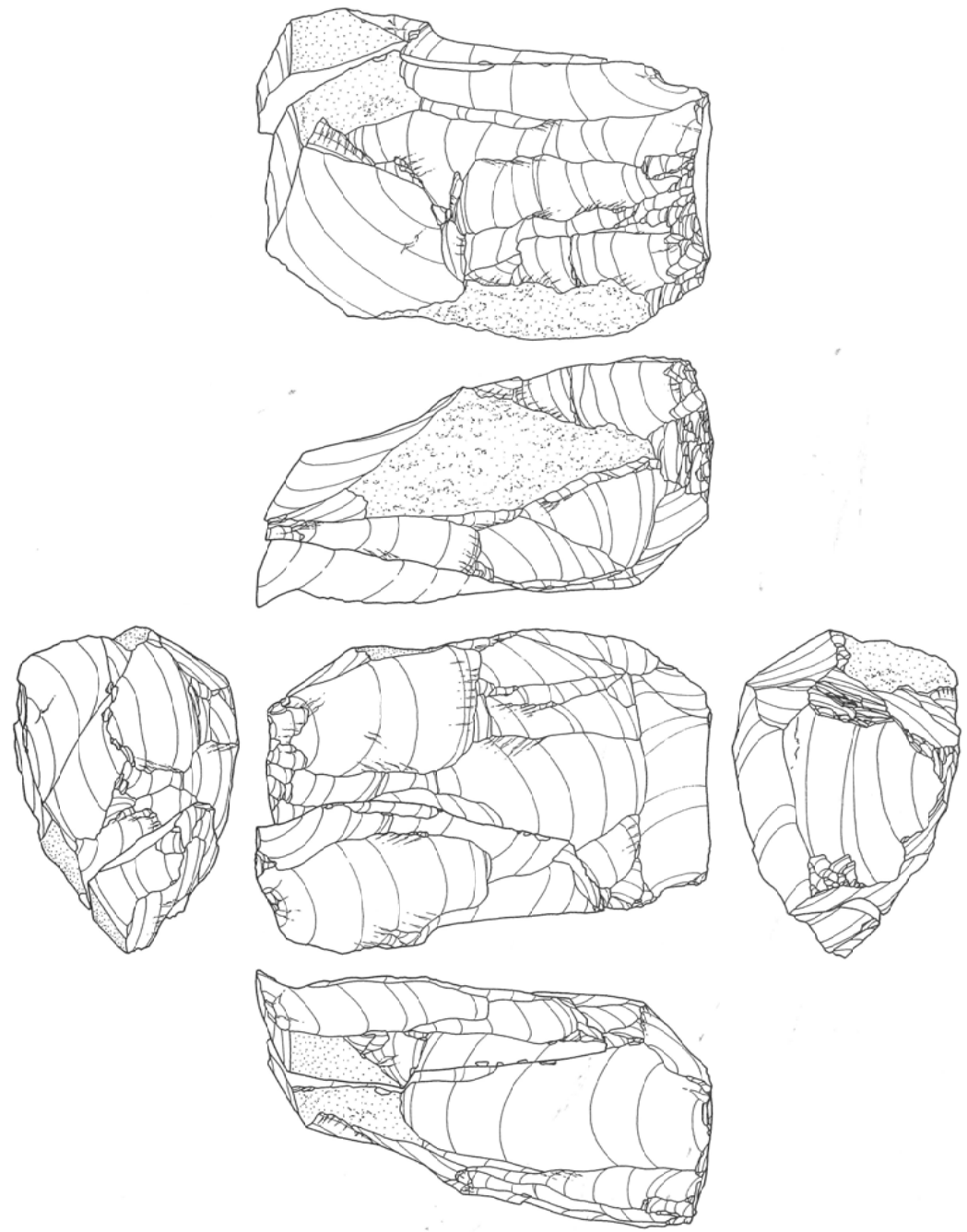
母岩23分布图



第52图 母岩25·母岩23分布图



第53图 母岩30实测图



第54图 母岩33实测图

3 属性表

(1) 石核

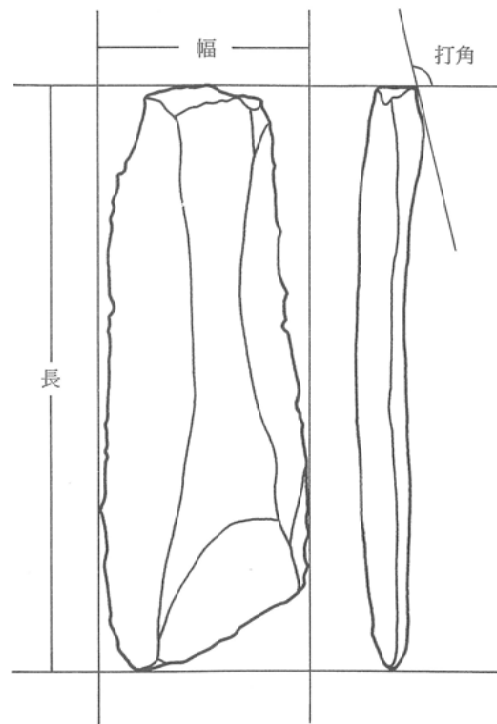
大きさ 長、幅は最終剥離のある面を正面として、その打点を上に置いたときの全長、ならびに最大幅である。厚は最大厚をとった。

(2) ナイフ・スクレーパー

- 1 大きさ 長、幅は石器の軸線を基準として、その全長を長、みかけの幅を幅、最大厚を厚の欄に記した。
- 2 打面・打角・末端 打面および末端の表記法、ならびに打角の計測は石刃、剥片類に準じた。
- 3 加工部位と種類 素材の主要剥離面側を下に置き、ナイフの場合は基部側を下位に、スクレーパーの場合は基部側を上位に置いた時の左側をa、右側をb、先端をe、基部をg、この状態から正位で裏返した時の左側をc、右側をd、先端をf、基部をhと区分した。加工の種類はP85に記載した石匙に準じている。

(3) 剥片・石刃

- 1 大きさ 長、幅は、第55図に示すように基部を上位に置いた時の全長ならびに最大幅である。厚は最大厚を記載した。折損するものは残存値を記したが、ネガティブ面により復元可能な場合はその値を()内に示した。
- 2 打面 打面にみられる調整が1枚の剥離によるものを単、複数の剥離によるものを



第55図 剥片・石刃計測模式図

複、点状となるものを点、表皮を打面としているものを表皮、節理面を打面としているものを節理面、欠損するものを欠と記し、二次調整もしくは切断等により不明なものは空欄とした。

3 打角 打角は第55図に示すように打面とパルプの頂点がなす角度を計測した。打面が欠損し、あるいは点となるものは空欄とした。

4 末端 末端の表記は、
 F：フェザーフラクチャー
 H：ヒンジフラクチャー
 S：ステップフラクチャー
 RH：リバースヒンジフラクチャー
 (ウートラパッセ)

欠：末端の欠損するものとし、不明なもの、もしくはどれにもあてはまらないものは空欄とした。

表-1 石核属性表

遺物番号	出土区	層位	プロック	石材	大きさ(mm)			重量(g)	打面	表皮	押凹	図版	備考
					長	幅	厚						
1144	J-97	II		頁岩	60	68	57	181.6	両設	有	6	21-2	
	T-100	I	D	#	72	69	54	212.9	多設	無	7-1		
	T-100	I	D	#	78	70	48	274.1	多設	有	7-2		
2666	X-99	III上	D	#	84	51	36	168.2	多設	無	8-1	21-6	
2711	X-97	III	D	#	111	53	37	213.1	両設	無	8-2	21-5	石刃核
2080	V-96	II	D	#	85	62	32	139.7	両設	無	9-1	21-4	石刃核
3799	AI-2	III上	G	#	94	57	50	241.0	両設	有	9-2	21-1	石刃核
3211	AA-99	III上	E	#	114	48	52	284.6	両設	有	10-1		石刃核
	AB-99	I	E	#	94	60	30	210.0	両設	無	10-2	21-3	石刃核
4800	AA-100	III	E	#	208	87	97	2083	両設	有	11		石刃核
174	H-94	III	A	#	121	137	87	1428	単設	無	12		
5884	AN-98	II		#	86	141	38	417.2	多設	無	13-1		
6341	AI-98	II		玉髓質	68	71	37	178.0	多設	有	13-2		
6328	AI-97	II		頁岩	87	72	44	311.9	多設	有		22-1	
3499	AG-2	III	G	#	105	77	45	432.8	両設	有		22-2	
2977	AF-1	III上		#	89	74	39	253.8	単設	有		22-3	
2167	V-97	II	D	#	108	130	35	445.1	多設	有		22-4	
2187	W-100	III	D	#	91	48	34	161.9	多設	有		22-5	
	AH-100	I		#	88	84	42	337.0	多設	有		23-1	
	AS-2	I		#	50	68	43	191.1	多設	無		23-2	
	AL-100	I		#	47	75	49	189.5	多設	無		23-3	
	AE-100	I		#	31	60	37	65.7	多設	有		23-4	
	AO-1	I		#	59	58	44	149.6	多設	有		23-5	
	W-100	I	D	#	64	82	36	139.2	多設	有		23-6	
	AC-2	I		#	60	76	37	182.1	単設	有		23-7	
2625	X-97	III上	D	#	52	81	66	368.4	単設	有		24-1	
4110	AQ-2	II		#	91	125	39	394.5	多設	無		24-2	
	AA-99	I	E	#	132	113	54	889	多設	有		24-3	
	X-97	I	D	#	94	54	35	168.0	多設	有		24-4	
	AG-1	I	G	#	108	70	35	332.4	両設	有		24-5	石刃核
	表採			#	52	100	35	134.8	多設	有			
	AW-3	I		#	89	126	63	620	多設	有			
	AN-1	I		#	100	140	74	1008	多設	有			
7620	AT-100	II		#	91	98	39	233.1	多設	有			

表-2 ナイフ形石器・スクレーパー属性表

No	出土区	層位	器種	石材	大きさ(mm)			重量(g)	打面	打角	末端	表皮	加工部位と種類								折断	押凹					
					長	幅	厚						a	b	c	d	e	f	g	h							
2006	W-99	III上	ナイフ	頁岩	65	35	9	19.3						1A		3C									基部	14-1	
3297	Z-98	III	ナイフ	#	74	28	7	13.8	複	129			1B	1C													14-2
2640	X-97	III上	ナイフ	#	74	34	12	28.3			欠		1C	1B													14-3
1953	W-98	II	ナイフ	#	97	24	8	16.0			欠		1C	1C	3C												14-4
5895	AI-99	II	ナイフ	#	36	25	7	5.7	欠				1C	1A													14-5
2918	Z-100	II	ナイフ	#	147	42	17	105.9	複	117	欠					1C											15-1
2772	X-99	II	ナイフ	#	143	59	24	169.7	欠		F		1C	1C													15-2
2825	X-100	III上	スクレーパー	#	136	42	22	118.6			H																15-3
930	R-99	II	エンドスクレーパー	#	79	32	8	16.8	複	106						2-1A											15-4
1364	P-96	III上	スクレーパー	#	34	41	11	15.0	表皮	126					1B												15-5
746	I-94	IV	スクレーパー	#	97	40	12	43.2	欠		F				1C	DB											15-6
5204	AI-99	III	スクレーパー	#	37	65	15	36.0								DA											15-7

表-3 母岩36属性表(第19図・図版28)

母岩	相対剥離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量(g)	打面	打角	末端	表皮	備考
						長	幅	厚						
36	1	389	I-94	III	石核調整剥片	68	67	23	67.5	単	130	F	有	
36	2	692	I-94	III	石核調整剥片	24	29	5	2	欠			無	
36	3	521	I-94	III	石核調整剥片	38	14	5	2.2	点			F	無
36	4	473	I-94	III	石核調整剥片	24	25	4	2	単	98	H	無	
36	5	430	I-94	III	石核調整剥片	46	39	10	13.5	複	114	H	無	
36	6	116	I-94	III	稜付石刃	69	21	9	10	点		S	無	
36	7	17G	I-94	II	打面調整剥片	50	53	13	28.9	単	122	F	有	
36	8	134	I-94	III	稜付石刃	85	27	15	25.2	複	120	F	無	
36	9	65G	I-94	II	石刃	92	39	8	23.9	複	125	H	無	
36	10a	137	I-94	III	石刃	24(120)	15	5	1.7	複	114	欠	無	
36	10b	136	I-94	III	石刃	64	31	7	9.3	欠		欠	無	
36	10c	62	I-94	III	石刃	34	11	5	1.5	欠		欠	無	
36	11	125	I-94	III	石刃	76	32	11	20.4	点		H	無	
36	12a	85G	I-94	II	石刃	43(97)	23	6	4.3	複	107	欠	有	
36	12b	22G	I-94	II	石刃	73	34	12	26.9	欠		H	有	
36	13	103	I-94	III	石刃	70	30	8	13.4	複	106	H	無	
36	14	489	I-94	III	石核調整剥片	40	31	5	4.7	欠		欠	有	
36	15	384	I-94	III	打面調整剥片	56	57	15	33.6	単	110	RH	無	
36	16	50	J-94	III	石刃	135	40	17	98.3	複	121	RH	有	
36	17	493	G-94	III	打面調整剥片	66	47	12	23.8	単	99		無	
36	18	124	I-94	III	剥片	64	45	13	20.8	欠			無	
36	19a	709	I-94	III	剥片	61	38(45)	10	15.9	複	93	H	無	
36	19b	67G	I-94	II	剥片	27	38	6	4.8	欠		H	無	
36	20	719	I-94	III	打面調整剥片	14	24	4	0.9	欠		F	無	
36	21	594	J-95	III	石刃	82	33	11	25.9	複	107	H	無	
36	22	587	I-95	III	石刃核	134	72	66	680	両設			無	

表一4 母岩38属性表(第16図・図版30・31)

母岩	相對 剝離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考
						長	幅	厚						
38	1	121	I-94	III	打面調整剥片	55	80	18	49.6	単	108	F	有	
38	2	693	I-94	III	打面調整剥片	31	23	5	3.3	欠		H	無	
38	3a	390	I-94	III	石核調整剥片	46(103)	47	13	27.9	複	99	欠	無	
38	3b	172	H-94	III	石核調整剥片	72	64	9	22.3	欠		H	無	
38	4a	42	I-95	III	打面調整剥片	38(111)	35	7	8.9	点		欠	無	
38	4b	597	I-95	III	打面調整剥片	82	62	13	33.2	欠		RH	有	
38	5a	122	I-94	III	石核調整剥片	78(95)	53	8	32	複	121	欠	無	
38	5b	36G	I-94	II	石核調整剥片	22	31	7	4.8	欠		S	無	
38	6	71G	I-94	II	石刃	83	32	7	15.1	欠		F	無	
38	7	373	I-94	III	石刃	100	43	12	46.6	複	124	H	無	
38	8a	14G	I-94	II	打面調整剥片	41(87)	40	11	17.7	複	112	欠	有	
38	8b	501	I-94	III	打面調整剥片	46	34	9	16	欠		F	有	
38	9	386	I-94	III	打面調整剥片	38	35	5	3.7	点		F	有	
38	10	62G	I-94	II	石核調整剥片	48	45	11	13.8	複	110	F	無	
38	11	576	I-94	III	石核調整剥片	64	51	14	22.4	複	106	欠	無	
38	12	397	I-94	III	打面調整剥片	43	30	12	9.5	欠		RH	無	
38	13a	65	I-94	III	石核調整剥片	75(91)	72	16	52.4	欠		H	無	
38	13b	G3	I-94	III	碎片	20	33	6	1.8			H	無	
38	14	35G	I-94	II	打面調整剥片	46	49	10	13.1	欠		F	有	
38	15a	581	I-94	III	石刃	70(169)	60	12	50.3	複	124	欠	無	節理による折損
38	15b	577	I-94	III	石刃	109	76	14	93.5	欠		H	無	節理による折損
38	16	41G	I-94	II	石刃	61	39	10	18.5	欠		欠	無	
38	17	378	I-94	III	剥片	39	24	6	4.6	欠		J	無	
38	18a	114	I-94	III	剥片	46(85)	55	10	21.9	複	104	欠	無	
38	18b	91G	I-94	II	剥片	45	62	8	23.4	欠		H	無	
38	19a	588	I-95	III	打面調整剥片	29	35(53)	7	3.7	欠			無	
38	19b	374	I-94	III	打面調整剥片	33	30	4	3	欠		F	無	
38	20	583	I-94	III	打面調整剥片	77	48	11	20.8	欠		RH	有	
38	21	59	I-95	III	打面調整剥片	62	64	6	19.6	単	105	F	有	
38	22	590	I-95	III	打面調整剥片	84	94	11	58.2	単	120	RH	有	
38	23	472	I-94	III	打面調整剥片	33(43)	24(38)	3	1.9	欠		欠	無	
38	24a	77	I-94	III	打面調整剥片	100	78	28	163.7	単	124	F	有	77剝離時の破砕
38	24b	395	I-94	III	碎片	32	34	13	9.6	欠		欠	無	
38	25	73G	I-94	II	剥片	33	42	9	8.4	欠		S	有	
38	26a	388	I-94	III	石刃	28(75)	28(33)	4	3.5	欠		S	無	
38	26b	G3	I-94	III	石刃	23	17	3	1.1	欠		S	無	
38	27	147	I-94	III	石刃	48	21	5	3	複	98	欠	無	節理による折損
38	28	69G	I-94	II	石刃	73	40	8	23.3	複	104	H	無	
38	29	73	I-94	III	石核調整剥片	67	81	14	45.9	単	112	欠	無	
38	30	523	I-94	III	石核調整剥片	43	24	5	3.1	単	97	欠	無	
38	31	64	I-94	III	石刃	103	54	14	56.7	複	120	F	無	
38	32	394	I-94	III	石刃	88	43	10	23.8	複	109	F	無	
38	33	153	I-94	III	石刃	57	22	8	8.3	複	107	欠	無	
38	34	315	H-94	III	石刃	44	20	9	8.3	複	109	欠	無	
38	35	391	I-94	III	石核調整剥片	35	28	6	3.2	欠		欠	無	
38	36a	193	I-94	III	石刃	44	27	9	12.1	欠		欠	無	
38	36b	146	I-94	III	石刃	74	33	13	28.2	欠		欠	無	
38	37	399	I-94	III	石刃	70	40	11	19.1	複	103	F	無	
38	38a	155	I-94	III	打面調整剥片	36(57)	36	7	6.9	複	113	欠	無	
38	38b	381	I-94	III	打面調整剥片	26	57	6	9.5	欠		H	有	
38	39a	569	I-94	III	打面調整剥片	86	51	11	41.8	単	102	F	有	
38	39b	273	J-94	III	碎片	44	27	8	3.1				無	
38	40	60	I-95	III	剥片	116	70	29	130.1	単	121	F	有	
38	41	522	I-94	III	打面調整剥片	30	33	2	1.9	欠		F	無	
38	42	44	I-95	III	石刃	59	30	9	18	複	109	欠	無	
38	43	61	J-95	III	石刃	99	51	10	47.9	複	114	F	無	
38	44	59G	I-94	II	石刃	80	29	12	19.4	複	107	F	無	
38	45	60G	I-94	II	石刃	84	31	10	21.9	複	106	F	無	
38	46	380	I-94	III	石刃	69	20	8	10.6	複	110	欠	無	
38	47	57G	I-94	II	石刃	83	39	14	39.4	複	130	H	無	
38	48	167	I-94	III	石刃	64	28	8	8.6	複	109	欠	無	
38	49	589	I-95	III	石刃	83	38	16	55.9	複	100	H	無	
38	50	161	I-94	III	打面調整剥片	96	62	15	66.4	単	105	RH	有	
38	51a	526	I-94	III	剥片	17(45)	22	4	1.1	複		欠	無	
38	51b	376	I-94	III	剥片	34	25	4	2.5	欠		F	無	
38	52	546	I-94	III	剥片	31	16	3	1.6	点		欠	無	
38	53	43	I-95	III	石刃	106	62	17	87.4	複	114	F	無	
38	54	133	I-94	III	打面調整剥片	53	70	19	54.8	複	113	RH	有	
38	55	532	I-94	III	石刃	61	32	7	12.4	欠		H	無	
38	56	696	I-94	III	打面調整剥片	37	33	5	4.8	複	106	H	無	
38	57	480	I-94	III	石刃	57	18	6	5.3	欠		H	無	
38	58	56	J-94	III	石刃	132	56	32	125.8	複	98	RH	無	
38	59	15G	I-94	II	石刃	65	28	9	16.6	欠		H	無	
38	60	58	I-95	III	石刃核	122	61	55	408.6	両設			無	

表一5 母岩35属性表(第17・18図・図版27)

母岩	相對 剝離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考
						長	幅	厚						
35	1	196	I-94	III	石核調整剥片	53	43	6	12	単	123	F	有	
35	2	322	H-93	III	石核調整剥片	64	84	14	65.5	単	122	RH	有	
35	3	496	I-94	III	石核調整剥片	78	70	11	46.2	複	105	F	有	
35	4	324	I-94	III	石核調整剥片	49	62	13	17.1	複	104	F	無	
35	5	550	I-94	III	石核調整剥片	50	77	19	58	表皮	112	F	有	
35	6	592	I-95	III	石核調整剥片	52	44	11	25.8	単	121	欠	有	
35	7	105	I-94	III	石核調整剥片	56	56	15	31.9	表皮	122	F	有	
35	8	325	I-94	III	石核調整剥片	100	91	23	222.9	単	121	F	有	
35	9	558	I-94	III	石核調整剥片	59	63	23	45.1			RH	有	105剝離時の破砕
35	10	83	I-94	III	石核調整剥片	61	65	12	30.9	単	113	F	有	
35	11	3	H-97	III	石核調整剥片	48	57	14	29.5	単	125	欠	有	
35	12	751	I-94	III	石核調整剥片	55	55	13	25.5	点		F	有	
35	13	697	I-94	III	石核調整剥片	63	75	17	68.2	単	122	RH	有	
35	14	758	I-94	III	打面調整剥片	48	33	7	6.2	単	112	RH	有	
35	15	37G	I-94	II	打面調整剥片	91	62	35	168.7	単	112	F	有	
35	16	599	J-95	III	稜付石刃	120	46	25	100.9	複	128	欠	有	
35	17	67	I-94	III	打面調整剥片	103	63	29	176.9	単	107	F	有	
35	18	57	J-94	III	稜付石刃	168	51	26	149.9	単	109	F	無	
35	19	72	I-94	III	石核調整剥片	60	96	18	51.4	複	116	F	有	
35	20	70	I-95	III	打面調整剥片	88	77	20	144.6			F	有	節理による破砕
35	21	78	I-94	III	打面調整剥片	43	45	11	13.2	単	113	欠	無	
35	22	571	I-94	III	石刃	89	32	8	24.8	複	116	F	有	
35	23	11G	I-94	II	石刃	100	39	12	36.6	複	101	欠	有	
35	24	66	I-94	III	打面調整剥片	31	33	7	7	表皮	123	欠	有	
35	25	586	I-95	III	石刃	84	46	8	31.7	欠		F	有	
35	26a	40G	I-94	II	石刃	45(108)	43	6	10.8	複	105	欠	有	
35	26b	591	I-95	III	石刃	62	34	7	8.2	欠		F	無	
35	27a	762	I-94	III	石核調整剥片	31	39	8	7.1	複	100	欠	有	
35	27b	575	I-94	III	石核調整剥片	63	53	6	16	欠		欠	有	
35	28	88G	I-94	II	稜付石刃	180	47	23	156.5	複	102	F	有	
35	29a	756	I-94	IV	打面調整剥片	49(66)	41(47)	8	11.2	単	110	欠	無	
35	29b	579	I-94	III	打面調整剥片	51	27	11	13.1			F	有	節理による破砕
35	30	580	I-94	III	剥片	33	23	5	4.4	複	104	H	無	
35	31	71	I-94	III	石刃	161	65	18	163.7	複	108	F	有	
35	32	555	I-95	III	石刃	61	21	7	7.9	点		欠	無	
35	33	69	I-94	III	石刃	97	42	12	38	欠		F	無	

表一6 母岩37属性表(第21・22図・図版29)

母岩	相对 剥離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考
						長	幅	厚						
37	1	498	I-94	III	石核調整剥片	28	38	5	4.6	欠		H	有	
37	2	158	I-94	III	石核調整剥片	73	50	15	26.6	単	116	S	有	
37	3	19G	I-94	II	剥片	84	46	10	24.5	複	110	F	無	
37	4	407	I-94	III	石刃	98	44	15	45	複	107	H	無	
37	5	117	I-94	III	石核調整剥片	54	51	7	16.9	単	103	S	有	
37	6	764	I-94	III	剥片	103	57	10	53.4	欠		H	有	
37	7a	18G	I-94	II	打面調整剥片	46(70)	30(73)	8	9.7	単		欠	有	
37	7b	144	I-94	III	打面調整剥片	55	73	7	19.3	欠		S	有	
37	8	56G	I-94	II	石刃	54	30	9	11	複	124	欠	無	
37	9	135	I-94	III	剥片	35	22	5	3.3	欠		欠	無	
37	10	82G	I-94	II	剥片	70	50	7	19.2	点		S	無	
37	11	175	H-95	III	剥片	87	62	8	35.1	単	112	欠	無	
37	12	143	I-94	III	剥片	48	25	5	3.8	点		F	有	
37	13a	185	H-95	II	剥片	34(71)	47(96)	9	14.7	単	113	欠	有	
37	13b	216	I-94	III	剥片	62	94	9	45.8	欠		S	有	
37	14a	74	I-94	III	剥片	29	34	7	7.8				無	節理による破砕
37	14b	554	I-94	III	剥片	17	27	7	1.8				無	節理による破砕
37	14c	582	I-94	III	石刃	63	30	7	10.7			F	無	
37	15a	127	I-94	III	石刃	45(74)	23	5	5.2	欠		欠	無	
37	15b	128	I-94	III	石刃	27	33	3	3.7	欠		欠	無	
37	16	460	I-94	III	石刃	26	13	3	1.1	欠		H	無	
37	17a	474	I-94	III	剥片	46	24	5	4.1	単	120	欠	無	474,140,163同時剥離
37	17b	140	I-94	III	剥片	43	26	6	7.7	欠			無	
37	17c	163	I-94	III	剥片	41	51	7	14.1	欠		H	無	
37	18	152	I-94	III	石刃	63	31	5	8.5	単	108	欠	無	
37	19	110	I-94	III	石刃	42	20	9	7.5	複	117	欠	無	
37	20	520	I-94	III	剥片	42	27	3	5.9	欠		F	無	
37	21	27G	I-94	III	石刃	113	43	12	63.2	複	110	H	無	
37	22	54G	I-94	II	剥片	59	42	16	36.1	複	117	欠	無	
37	23	585	I-95	III	石核調整剥片	90	78	10	58.7	複	113	F	無	
37	24	410	I-94	III	石刃	95	42	16	45.9	複	113	H	無	
37	25	494	I-94	III	剥片	47	59	18	23.6	点		F	無	
37	26	323	H-94	III	剥片	98	52	13	64.1	複	113	H	無	
37	27a	393	I-94	III	剥片	52	93	17	74.9	単	111	S	無	
37	27b	396	I-94	III	剥片	49	45	11	20.2			F	有	393と同時剥離
37	28	86G	I-94	II	剥片	66	49	9	29.5	単	97	F	無	
37	29	265	I-93	III	石刃	55	18	6	5	点		F	無	
37	30	324	I-94	III	石刃	61	25	9	13.5	複	109	H	有	
37	31	55G	I-94	II	石刃	62	23	6	7	複	111	欠	無	
37	32	7G	I-94	II	打面調整剥片	27	19	4	2.2	欠		F	有	
37	33	113	I-94	III	打面調整剥片	26	13	7	2.3	欠		F	有	
37	34	518	I-94	III	石刃	42	24	5	5.3	欠		F	無	
37	35	21G	I-94	II	剥片	143	63	27	340.4				有	節理による破砕
37	36	744	N-98	III	石刃核	143	83	99	1470	両設			有	

表一7 母岩39属性表(第23図・図版32)

母岩	相对 剥離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考
						長	幅	厚						
39	1	402	I-94	III	剥片	65	35	17	28	点		H	無	
39	2	542	I-94	III	打面調整剥片	58	49	9	15.6	複	120	F	無	
39	3	459	I-94	III	打面調整剥片	40	38	10	9.1	複	110	F	無	
39	4	12G	I-94	II	石刃	129	51	17	79.1	複	110	F	有	
39	5	403	I-94	III	打面調整剥片	50	49	6	12.5	欠		F	無	
39	6	533	I-94	III	剥片	34	18	2	1.4	欠		欠	無	
39	7a	409	I-94	III	打面調整剥片	58	54(57)	6	16.6	単		F	無	
39	7b	377	I-94	III	剥片	39	18	4	2.1	欠		F	無	
39	8	49	J-94	III	石刃	132	63	15	82.4	複	101	F	無	
39	9	12	H-96	II	石刃	121	48	15	68.7	複	112	F	無	
39	10a	104	I-94	III	剥片	53(62)	47(54)	6	10.1	単	100	欠	無	
39	10b	52G	I-94	II	剥片	30	25	5	3.9	欠		F	無	
39	11	1G	H-94	II	打面調整剥片	35	47	10	19.1	単	113	欠	無	
39	12	64G	I-94	II	剥片	95	50	13	33.4	複	110	F	無	
39	13a	45G	I-94	II	石刃	56(136)	37	12	19.1	複	103	欠	無	
39	13b	13G	I-94	II	石刃	84	58	13	54.4	欠		F	無	
39	14	13	H-96	II	打面調整剥片	39	56	7	16.8	単	103	H	無	
39	15	754	I-94	IV	打面調整剥片	44	43	6	8.2	複	117	F	無	
39	16a	115	I-94	III	剥片	54(92)	51	10	23.1	複	119	欠	無	
39	16b	400	I-94	III	石刃	38	31	5	6.5	欠		欠	無	
39	17a	385	I-94	III	打面調整剥片	56(64)	36(45)	9	16	点		欠	無	
39	17b	111	I-94	III	打面調整剥片	28	33	14	9	欠		RH	無	
39	18	48	J-95	III	石刃	129	52	22	105.8	複	112	RH	無	
39	19	156	I-94	III	石刃	94	45	22	72.6	複	121	H	無	
39	20	20G	I-94	II	石刃	96	41	10	34	複		H	無	
39	21	51	J-95	III	石刃	131	60	23	145	単	115	RH	無	
39	22	24G	I-94	II	打面調整剥片	34	26	9	7.1	欠		RH	無	
39	23	154	I-94	III	打面調整剥片	50	50	18	23.9	欠		RH	無	
39	24	164	I-94	III	打面調整剥片	57	37	9	13.9	複	100	RH	無	
39	25	53	J-95	III	石刃	76	27	11	20.1	欠		F	無	
39	26	528	I-94	III	剥片	42	26	7	5.6	単	112	欠	無	
39	27	101	I-94	III	打面調整剥片	47	23	11	7	点		RH	無	
39	28	209	I-93	III	石刃核	119	62	43	400.7	両設			無	

表一8 母岩40属性表(第24図・図版32)

母岩	相对 剥離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考
						長	幅	厚						
40	1	173	H-94	III	石核調整剥片	63	35	8	11.3	欠		欠	無	
40	2	184	H-94	II	石核調整剥片	62	35	10	15	複	115	欠	無	
40	3	535	I-94	III	打面調整剥片	60	46	11	18.7	欠		F	無	
40	4	478	I-94	III	石刃	83	38	13	38.1	複	127	欠	無	
40	5	469	I-94	III	石刃	88	30	12	29.2	複	128	欠	無	
40	6	119	I-94	III	石刃	45	28	9	7.7	欠		S	無	
40	7	84G	I-94	II	石刃核	112	64	38	270	両設			無	

表一9 母岩8属性表(第25図・図版33)

母岩	相对 剥離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考
						長	幅	厚						
8	1	1227	R-95	III上	石核調整剥片	66	40	6	13.5	欠		F	有	
8	2	1599	R-95	III	砕片	30	18	12	5.9				有	
8	3	1097	Q-96	III	石刃	141	53	39	317	複	125	RH	有	
8	4	2946	R-95	III	打面調整剥片	65	48	14	21.9	単	95	F	有	
8	5a	1823	R-95	III	石刃	34	28	8	5.2	欠		欠	有	
8	5b	1225	R-95	III上	石刃	39	14	6	3.4	欠		欠	有	
8	5c	2027	R-95	III	石刃	9	12	2	0.2	欠		F	有	
8	6	1479	R-95	III	打面調整剥片	45	54	21	52.2	欠		RH	有	
8	7	1092	Q-95	III	石刃	108	49	25	57.6	複	104	RH	有	
8	8	2023	R-95	III	打面調整剥片	31	15	3	1.5	欠		欠	無	
8	9	1090	Q-95	III	石刃核	98	64	52	358	両設			有	

表一10 母岩15属性表(第25図・図版34)

母岩	相对 剥離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考
						長	幅	厚						
15	1	1607	R-95	III	打面調整剥片	53	41	6	7.8	欠		欠	有	
15	2	1226	R-95	III上	石核調整剥片	28	35	6	6.2	欠		S	有	
15A	1	1772	R-95	III	剥片	50	44	14	25.3				有	節理起源の破砕
15A	2a	1588	R-95	III	石核調整剥片	68	47(74)	10	22.3	複	118	F	有	
15A	2b	1491	R-95	III	石核調整剥片	44	36	10	11.2	複	118	F	有	
15A	3	1636	R-95	III	打面調整剥片	33	32	5	3.3	表皮	109	RH	有	
15A	4	1609	R-95	III	打面調整剥片	38	48	10	11.4	表皮	106	S	有	
15A	5	2455	R-95	III	打面調整剥片	11	18	3	0.4	点		S	有	
15A	6													

表一12 母岩3属性表(第27図・図版35)

母岩	相對 剝離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考	
						長	幅	厚							
3A	1	2115	W-97	II	剥片	47	90	46	130					無	節理による破砕
3A	2	841	R-100	II	剥片	41	58	29	44.3			F		無	節理による破砕
3A	3	1935	V-96	II	剥片	48	56	15	22.4	節理面	122	H		無	
3A	4		W-97	I	剥片	39	21	5	2.4	単	103	F		無	
3A	5	1959	W-97	II	剥片	52	41	16	20.1	節理面	105	F		無	
3A	6	2098	W-97	II	剥片	81	59	22	78					無	節理による破砕
3A	7		Y-98	I	石核	70	102	57	326	多股				無	
3B		2093	V-97	II	石刃核	86	45	33	147	単股				無	

表一13 母岩6属性表(第28図・図版36)

母岩	相對 剝離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考	
						長	幅	厚							
6A		1943	W-97	II	石核	116	52	35	226.9	単股				有	
6B	1	1961	W-98	II	剥片	28	69	33	59.5					有	節理による破砕
6B	2	1955	W-98	II	剥片	108	45	40	165			H		有	節理による破砕
6B	3		V-96	I	剥片	15	47	12	6.4					無	節理による破砕
6B	4	2079	V-96	II	石核	87	79	38	141	単股				有	

表一14 母岩9属性表(第29図)

母岩	相對 剝離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考	
						長	幅	厚							
9	1	2219	U-100	III	剥片	116	63	34	307.4	単	119	F		有	
9	2	2188	W-100	III	剥片	52	40	9	13.9	表皮	111	F		有	
9	3	2329	W-100	III	剥片	37	53	10	18.9	表皮	105	H		有	
9	4	2353	V-100	III	石核	76	82	28	214.7	多股				有	

表一15 母岩4属性表(第30図・図版36)

母岩	相對 剝離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考	
						長	幅	厚							
4	1	2149	W-96	II	剥片	75	45	19	35.9	節理面	122	F		有	
4	2	2113	W-97	II	剥片	55	95	31	93.9			H		無	節理による破砕
4	3	2082	V-96	III	石刃	48(76)	29	14	13.6	単	103	欠		無	
4	4	2140	W-96	II	石刃核	79	36	63	185.1	単股				無	

表一16 母岩10属性表(第30図・図版37)

母岩	相對 剝離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考	
						長	幅	厚							
10	1	2735	X-100	III	剥片	83	47	17	59.6	単	107	F		無	
10	2	1956	W-98	II	剥片	52	41	9	16	複	85	F		無	
10	3	2706	X-97	III	剥片	35(62)	40	7	8.7	複	欠	無		無	
10	4	2119	W-97	II	剥片	68	51	15	43.4	単	118	F		無	
10	5	2429	W-97	II	石核	92	73	56	248.3	多股				有	

表一17 母岩43属性表(第31・32図)

母岩	相對 剝離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考	
						長	幅	厚							
43	1	1947	W-97	II	石刃	80	33	13	34.7	表皮	101	H		有	
43	2	1960	W-98	II	石刃核	214	127	104	2520	単股				有	

表一18 母岩5属性表(図版37)

母岩	相對 剝離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考	
						長	幅	厚							
5	1	2096	V-97	III	剥片	43	60	19	19	単	113	F		無	
5	2	2103	W-97	III	石核	85	63	48	242.5	多股				無	

表一19 母岩13属性表(図版37)

母岩	相對 剝離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考	
						長	幅	厚							
13	1	1971	V-98	II	剥片	121	93	27	216.8	複	132	F		有	
13	2	2766	X-99	III	剥片	64	51	8	23.5	点		F		有	
13	3	2412	W-97	II	石核	98	130	59	800	多股				有	

表一20 母岩44属性表(図版37)

母岩	相對 剝離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考	
						長	幅	厚							
44	1	2659	W-98	II	石刃	66	12	7	3.4	点	欠	無			
44	2		W-96	I	石刃核	81	45	25	102.5	単股				有	

表一21 母岩11属性表(第33図・図版38)

母岩	相對 剝離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考	
						長	幅	厚							
11	1	1433	U-99	III	打面調整剥片	39	33	13	12.6	単	127	S		有	
11	2		U-100	II	打面調整剥片	76	53	24	98.4	単	129	F		有	
11	3	2599	U-100	III	剥片	65(78)	64	17	76	単	欠	H		有	
11	4	2210	V-100	III	剥片	44	33	10	14.5	単	123	H		無	
11	5	3332	AB-98	III	石核	124	100	74	800	多股				有	

表一22 母岩12属性表(第34図)

母岩	相對 剝離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考	
						長	幅	厚							
12	1a	3052	AB-99	III上	剥片	74	84	15	77.9	欠				有	節理による破砕
12	1b	5430	AB-99	III	剥片	66	42	29	88.7	欠		欠		有	節理による破砕
12	2	2858	AB-99	II	剥片	26	64	11	13.2					有	
12	3	7122	AB-99	III	剥片	78	29	15	30.7	点		欠		有	
12	4	3675	AB-98	III	剥片	72	97	37	289					有	4450からの折損
12	5	4490	AB-99	III	石核	76	122	37	399.4	多股				有	

表一23 母岩17属性表(第35図・図版39)

母岩	相對 剝離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考	
						長	幅	厚							
17	1	TP5-96	AA-99	IV	石核調整剥片	120	124	33	318	単	106	F		有	
17	2	7390	AB-98	II	打面調整剥片	74	53	13	33.6	点		RH		有	
17	3		AA-98	I	打面調整剥片	46	29	6	5.1	単	93	F		有	
17	4a		AA-98	I	石刃	25(86)	24	9	4.3	複	108	欠		有	
17	4b	4542	AB-99	III	石刃	62	22	5	8.1	欠		H		有	
17	5	TP5	AA-99	I	石刃	68	24	10	13.9	複	115	S		無	
17	6	3055	AB-99	III	石刃	82	17	13	11	欠		欠		無	
17	7	2846	AB-99	II	剥片	34(45)	21	8	2.7	複	85	欠		無	
17	8a	6083	AB-99	III	石刃	67	20	8	7.5	欠		欠		無	
17	8b		AB-98	I	石刃	53	22	7	5.4	欠		欠		無	
17	9	2840	AB-99	III	石刃	126	57	16	78.5	複	99	F		無	
17	10	3320	AA-98	III	石刃	83(95)	33	8	17.8	複	108	F		無	
17	11		AA-99	I	石刃	46	32	5	5.4	欠		H		無	
17	12		AA-99	I	石刃	51	22	8	5.7	複	99	H		無	
17	13	6997	AB-99	III	石刃	148	41	17	87.4	複	95	F		無	
17	14	6133	AB-99	III	石刃	64	15	7	6.3	複	100	H		無	
17	15	3070	AA-99	III	剥片	29	20	9	3.1	複	128	H		無	
17	16		AB-98	I	石刃	67	17	9	7.1	複	102	欠		無	
17	17a	4541	AB-99	III	石刃	46(77)	30	8	10.6	複	105	欠		無	
17	17b		AB-98	I	石刃	35	20	7	5	欠		H		無	
17	18a	5457	AB-99	III	石刃	40	19	5	2.4	欠		欠		無	
17	18b	5451	AA-99	III	石刃	28	15	4	1.4	欠		H		無	
17	19		AA-99	I	石刃	35(110)	21	4	2.3	欠		欠		無	
17	20		AA-99	I	石刃	58(9									

表一26 母岩18属性表(第39図・図版40)

母岩	相对 剥離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考
						長	幅	厚						
18	1a	2889	AA-99	III	石刃	29(114)	26	10	6.4	複	110	欠	無	
18	1b	4644	AA-99	III	石刃	87	26	7	16.1	欠		F	無	
18	2a	3410	Z-97	III	石刃	52(115)	39	7	12.4	複	108	欠	無	
18	2b	5-92	AA-99	IV	石刃	64	37	8	20	欠		F	無	
18	3	7811	AB-100	III	石刃	94	36	9	26.5	複	111	H	無	
18	4	5-145	AA-99	IV	打面調整剥片	64	73	20	83.1	単	104	RH	無	
18	5		AA-98	I	剥片	94	54	15	50.6	複	103	F	無	
18	6	4801	AA-100	III	打面調整剥片	32	20	4	1.9	欠		欠	無	
18	7	4630	AA-99	III	石刃	78	25	5	9.7	単	94	欠	無	
18	8	3035	AB-99	III	石刃	130	49	19	97	複	97	H	無	
18	9	3043	AB-99	III	石刃	65(85)	18	4	5.6	複	99	欠(H)	無	
18	10	4816	AB-100	III	石刃	92	16	11	24.3	複	96	H	無	
18	11a		AA-97	I	石刃	25(89)	24	6	3.8	複	99	欠	無	
18	11b	7308	AA-98	III	石刃	65	30	12	21.1	欠		H	無	
18	12	3194	AA-99	III	石刃	99	27	18	35.5	単	98	H	無	
18	13		Z-100	I	石刃核	150	55	83	910	両設			無	

表一27 母岩20属性表(第40図・図版41)

母岩	相对 剥離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考
						長	幅	厚						
20	1	3024	AB-99	III	打面調整剥片	70	49	9	18.9	点		F	無	
20	2		AA-99	I	剥片	91	50	16	67.6	複	105	H	無	
20	3	4664	AA-99	III	石刃	33	23	10	7.4	複	113	欠	無	
20	4	4537	AB-99	III	石刃	51	30	6	10.7	欠		F	無	
20	5	4802	AA-100	III	砕片	7	12	3	0.2				無	打面調整時の破砕
20	6	3083	AA-99	II	打面調整剥片	28	35	10	7.4	単	105	S	無	
20	7	6905	AB-99	III	打面調整剥片	34	36	9	6.9	複	93	H	無	
20	8	6507	AB-99	III	打面調整剥片	81	52	25	72.1	複	106	RH	無	
20	9	6030	AB-99	III	打面調整剥片	57	49	14	22.8	単	106	F	無	
20	10	TP5-31	AA-99	II	石刃	123	53	16	81.8	複	108	RH	無	
20	11	TP5-71	AA-99	IV	石刃	119	46	21	74.2	複	108	RH	無	
20	12	3067	AA-99	III	剥片	84	38	14	30.8	点		欠	有	
20	13	TP5-62	AA-99	III	石刃	53	29	18	22.7	複	117	欠	無	
20	14		AA-99	I	打面調整剥片	42	35	5	6.5	欠		F	無	
20	15	4457	AB-99	III	打面調整剥片	35	33	5	4.4	単	122	H	無	
20	16	7396	AB-98	III	石刃核	113	61	64	631	両設			有	

表一28 母岩21属性表(第42図・図版44)

母岩	相对 剥離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考
						長	幅	厚						
21	1a	TP5-54	AA-99	IV	打面調整剥片	56(117)	33	9	24.2	表皮	118	欠	有	
21	1b		AB-98	I	打面調整剥片	63	32	11	21.6	欠		F	有	
21	2	TP5-90	AA-99	IV	打面調整剥片	35	34	3	3.2	単	111	RH	有	
21	3	TP5-15	AA-99	II	石刃	79	35	12	27.2	複	89	H	有	
21	4		Z-97	I	石刃	97	33	14	33.4	複	103	H	有	
21	5	TP5-2	AA-99	II	剥片	40	37	7	7.6	点		F	有	
21	6a		AB-98	I	石刃	27(116)	19	7	3.3	複	94	欠	無	
21	6b	TP5-84	AA-99	IV	石刃	93	42	35	81.2	欠		RH	有	
21	7	3257	AA-100	III	石刃	67	30	8	11.3	複	110	F	有	
21	8	4621	AA-99	III	石刃	94	30	30	46.3	複	103	RH	有	
21	9		AA-99	I	石刃核	73	42	54	206.9	両設			有	

表一29 母岩22属性表(第45図・図版42)

母岩	相对 剥離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考
						長	幅	厚						
22	1	7310	AA-98	II	打面調整剥片	51	33	12	17.1	点	99	RH	有	
22	2	4689	AA-99	III	打面調整剥片	48	58	18	54.1	点	120	RH	有	
22	3a	3146	AA-99	III	石刃	96(113)	39	14	55.1	複	115	欠	有	
22	3b	4750	AA-99	III	石刃	23	26	6	3.4	欠		F	有	
22	4	4754	AA-99	III	剥片	38	47	6	11.4	欠		欠	有	
22	5a	TP5	AA-99	I	石刃	26(115)	33	8	55.7	複	105	欠	有	
22	5b	TP5-41	AA-99	IV	石刃	95	51	13	7.8	欠		H	有	
22	6	3249	AA-100	III	石刃	116	46	15	66.4	複	110	H	有	
22	7a	2915	Z-99	III	石刃	62(112)	38	12	27.6	単	107	欠	有	
22	7b	TP5-35	AA-99	IV	石刃	59	33	6	11.1	欠		F	無	
22	8	TP5-27	AA-99	III	石刃	135	46	13	65.9	複	108	H	有	
22	9	TP5-107	AA-99	IV	石核調整剥片	50	48	14	23.5	単	126	RH	有	
22	10	5271	AA-99	III	石刃	111	38	16	56.7	複	100	F	無	
22	11	4668	AA-99	III	打面調整剥片	41	61	8	17.4	単	97	RH	無	
22	12		AA-99	I	打面調整剥片	59	27	6	8.5	単	97	RH	無	
22	13a	4606	AA-99	III	剥片	33(72)	32	6	6.4	複	103	欠	無	
22	13b		AB-97	I	剥片	46	29	8	10.1	欠		S	無	
22	14	TP5-89	AA-99	IV	石刃	84	31	6	8	複	87	F	無	
22	15	4585	AA-99	III	石刃	83	11	31	17.1	複	101	F	無	
22	16	TP5-137	AA-99	II	打面調整剥片	55	31	11	13.4	点		RH	無	
22	17	2863	AA-99	II	石刃核	136	62	79	760	両設			有	

表一30 母岩26属性表(第43・44図・図版48)

母岩	相对 剥離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考
						長	幅	厚						
26	1	6255	AA-99	III	石核調整剥片	33	32	5	4.5	単	100	H	無	
26	2	TP5-78	AA-99	IV	石核調整剥片	80	67	11	34.1	単	101	F	無	
26	3	TP5-10	AA-99	II	打面調整剥片	81	41	18	43.4	欠		F	有	
26	4	4483	AB-99	III	打面調整剥片	43	34	12	6	単	97	欠	有	
26	5	TP5-53	AA-99	IV	石核調整剥片	70	43	8	19.5	複	118	欠	有	
26	6	2892	AA-99	III	石核調整剥片	132	80	14	112.8	複	110	F	有	
26	7	TP5-98	AA-99	IV	石核調整剥片	97	50	17	47.2	複	121	欠	無	
26	8		AB-98	I	打面調整剥片	45	53	5	12.5	欠		RH	有	
26	9	TP5-120	AA-99	IV	打面調整剥片	26	39	8	5.7	単	107	欠	有	
26	10	3108	AA-99	III	剥片	23	21	3	1.2	点		F	有	
26	11	3153	AA-99	III	石核調整剥片	107	101	18	155.2	単	105	H	有	
26	12	2898	AA-99	III	打面調整剥片	41	39	7	10.1	単	102	欠	無	
26	13	4609	AA-99	III	打面調整剥片	40	30	3	2.6	欠		F	無	
26	14a	2893	AA-99	III	石刃	89(123)	52	19	63.7	複	115	欠	有	
26	14b	TP5-97	AA-99	IV	石刃	35	62	4	9.8	欠		F	無	
26	15	3209	AA-99	II	複付石刃	159	43	23	115.7	複	110	F	無	
26	16	2894	AA-99	III	剥片	41	36	17	19.8	欠		S	無	
26	17	3131	AA-99	III	剥片	37	29	5	4.4	複	107	欠	無	
26	18a	TP5-112	AA-99	IV	複付石刃	63(180)	48	15	43.9	複	115	欠	無	
26	18b	TP5-113	AA-99	IV	複付石刃	119	69	27	247.8	欠		H	無	
26	19	TP5-117	AA-99	IV	打面調整剥片	112	119	14	130.6	単	101	RH	有	
26	20	3066	AA-99	III	打面調整剥片	59	55	19	34.5	複	96	F	有	
26	21	6213	AA-99	III	石刃	125	43	14	83.2	単	121	F	有	
26	22	4643	AA-99	III	剥片	26(35)	37	8	7.8	欠		S	有	
26	23a	TP5-122	AA-99	IV	石核調整剥片	86	120	20	183.9	単	116	H	有	
26	23b	2907	AA-99	III	砕片	22	39	6	5.9			S	有	
26	24	TP5-116	AA-99	IV	石核調整剥片	65	97	23	116.8	単	109	S	無	
26	25	TP5-118	AA-99	IV	剥片	37	48	7	9.5	複	129	欠	無	
26	26a	4620	AA-99	III	打面調整剥片	57	48	8	18.7	点		欠	有	
26	26b	2887	AA-99	III	打面調整剥片	44	46	10	12.9	欠		F	有	
26	27	TP5-102	AA-99	IV	剥片	134	71	17	118.4	単	101	F	有	
26	28	TP5-40	AA-99	III	石刃	135	48	12	55.5	複	108	H	無	
26	29a	5296	AA-99	III	石刃	34(89)	20	12	4.3	複	106	欠	無	
26	29b	5299	AA-99	III	石刃	57	20	9	8.9	欠		F	無	
26	30a		AA-99	I	石刃	47(114)	36	8	13.6	点		欠	有	
26	30b	TP5-55	AA-99	III	石刃	72	36	8	10.7	欠		F	有	
26	31	3144	AA-99	III	石刃	50	21	9						

表一31 母岩27属性表(第47図・図版46・47)

母岩	相對 剝離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考
						長	幅	厚						
27	1	6275	AA-99	III	穂付石刃	67	17	9	9	複	117	欠	有	
27	2	2865	AA-99	II	剝片	116	65	15	76.5	表皮	109	H	有	
27	3a	7431	AA-98	III	打面調整剝片	29	26	4	2.7	欠		欠	有	
27	3b	5525	AB-99	III	打面調整剝片	49	11	3	2.7	欠		欠	有	
27	3c	7395	AB-98	III	打面調整剝片	75	41	11	20.2	欠		RH	有	
27	4	3332	AB-98	III	打面調整剝片	97	98	8	120.9	表皮	132	RH	有	
27	5		Z-98	I	石核調整剝片	35	22	3	2.6	欠		欠	無	
27	6a		AC-97	I	石核調整剝片	40(115)	37(52)	7	9.8	単	112	欠	無	
27	6b	5575	AB-99	III	石核調整剝片	95	71	8	58.5	欠		RH	無	
27	7a	7393	AB-98	III	石核調整剝片	71(112)	72	14	48.1	単	106	欠	有	
27	7b	6589	AB-99	III	石核調整剝片	52	54	7	15.2	欠		F	有	
27	8	3334	AB-98	III	石核調整剝片	73	57	9	31.1	複	107	F	有	
27	9	3036	AB-99	III	石核調整剝片	53	50	6	10.5	単	96	H	無	
27	10	4453	AB-99	III	石核調整剝片	40	54	15	31.8	単	113	欠	無	
27	11a	2902	AA-99	II	石刃	62(130)	59	16	70.7	単	105	欠	有	
27	11b	3166	AA-99	III	石刃	68	63	13	43.8	欠		F	有	
27	12	3391	AA-97	III	石刃	80	47	7	35.3	欠		欠	有	
27	13	7289	AA-98	III	剝片	54	51	9	32.3	欠		H	有	
27	14	2854	AB-99	II	剝片	61	35	10	16.3	単	123	F	有	
27	15	TP5-42	AA-99	II	穂付石刃	134	39	22	97.4	複	105	H	無	
27	16		AA-99	I	剝片	107	91	14	119.7	単	122	F	有	
27	17	TP5-52	AA-99	II	石刃	156	75	20	226.3	複	117	F	有	
27	18	7387	AB-98	III	打面調整剝片	85	40	15	34.1	点		RH	無	
27	19	7392	AB-98	III	打面調整剝片	86	66	24	126.5	単	125	RH	有	
27	20a		AB-98	I	石刃	51	40	8	21.8	単	110	欠	無	
27	20b	TP5-105	AA-99	III	石刃	89	52	10	50.6	欠		欠	有	
27	21	3325	AB-98	III	打面調整剝片	39	41	6	4.3	点		F	無	
27	22	6001	AB-99	III	打面調整剝片	47	36	8	13.3	複	97	F	無	
27	23	TP5-56	AA-99	III	石核調整剝片	54	43	4	7.3	単	110	F	有	
27	24	3027	AB-99	III	剝片	75	48	13	32.5	複	114	F	無	
27	25a	3093	AA-99	III	石刃	66	32	12	24.1	点		欠	無	
27	25b	4691	AA-99	III	石刃	23	36	5	4.7	欠		欠	無	
27	26a	7652	AB-98	III	打面調整剝片	60	63(66)	15	33.9	単	119	RH	無	
27	26b		AA-99	I	打面調整剝片	16	33	8	4.3	欠			無	
27	27	7445	AA-98	III	打面調整剝片	71	62	19	89.7	単	107	F	有	
27	28	7377	AB-98	III	剝片	116	65	20	104.2	複	123	F	無	
27	29	7361	AB-98	III	打面調整剝片	51	49	8	18.6	複	121	RH	有	
27	30		AA-98	I	打面調整剝片	38	34	6	7.1	単	112	H	無	
27	31	TP5-5	AA-99	IV	石刃	114	33	10	43.4	欠		H	無	
27	32		AB-99	I	石核調整剝片	59	64	14	30.2	単	111	F	無	
27	33	3330	AB-98	III	石核調整剝片	75	78	11	45.5	複	110	F	無	
27	34	6410	AB-99	III	石核調整剝片	64	79	12	49.7	単	102	H	無	
27	35	6810	AB-99	III	石核調整剝片	62	28	5	7.6	単	108	欠	無	
27	36	4465	AB-99	III	石刃	110	40	17	70.1	複	112	H	無	
27	37a	7379	AB-98	III	石刃	49(96)	15	10	8.8	複	114	欠	無	
27	37b		AB-98	I	石刃	47	24	6	7.9	欠		H	無	
27	38a		AB-98	I	石刃	47(98)	25	5	8.5	欠		欠	無	
27	38b	3322	AA-98	III	石刃	55	35	9	18.7	欠		S	有	
27	39a		AA-98	I	石刃	81	41	12	34.5	欠			有	
27	39b		AA-98	I	石刃	53	30	7	13	欠		H	有	
27	40	6435	AB-99	III	石刃	79	23	8	13.4	欠		H	無	
27	41	6012	AB-99	III	石刃	54	33	4	8.8	欠			無	
27	42	3060	AB-99	II	石刃	112	42	14	56.5	複	118	H	無	
27	43	4506	AB-99	III	石刃	94	23	9	13.7	複	116	欠	無	
27	44	3671	AB-98	II	石刃	113	44	11	52.7	複	111	F	無	
27	45	7134	AB-99	III	打面調整剝片	26	19	4	2.2	複	93	欠	無	
27	46	5477	AB-99	III	石刃	95	37	8	29.1	複	104	H	無	
27	47	4438	AB-99	III	石刃	55	27	5	8.3	欠		F	無	
27	48	6031	AB-99	III	石刃	90	31	9	23.1	複	101	S	無	
27	49	6493	AB-99	III	打面調整剝片	55	37	12	20.8	単	101	RH	有	
27	50		AB-99	I	打面調整剝片	23	42	5	4.6	欠			有	
27	51a		AB-98	I	石刃	69(109)	31	14	31.4	単	124	欠	無	
27	51b		AB-98	I	石刃	55	19	7	7.3	欠		H	無	
27	52	7460	AB-99	III	石刃	19	8	3	0.5	欠		欠	無	
27	53	7734	AB-98	III	石刃	68	19	6	8.1	複	109	H	無	
27	54	3210	AA-99	III	石刃核	149	51	46	550	両設			有	

表一32 母岩24属性表(第49図・図版44)

母岩	相對 剝離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考
						長	幅	厚						
24	1	3029	AB-99	III	打面調整剝片	57	39	7	10.6	複	117	F	有	
24	2	3068	AA-99	III	打面調整剝片	51	44	11	28.3	単	118	RH	無	
24	3	6230	AA-99	III	石核調整剝片	58	67	17	24.3	複	107	RH	有	
24	4	6227	AA-99	III	石核調整剝片	54	34	7	14.2	複	103	RH	無	
24	5	2847	AB-99	II	石核調整剝片	45	53	11	19.4	複	120	RH	有	
24	6	4450	AB-99	III	石核調整剝片	55	52	10	20	単	99	RH	有	
24	7	3319	AA-98	II	石核調整剝片	54	54	7	13.3	欠		欠	有	
24	8	7167	AB-99	III	穂付石刃	51(89)	21	8	7.2	欠		欠	有	
24	9	6165	AB-99	III	石刃	97	41	13	45.3	点		H	有	
24	10a	6853	AB-99	III	石刃	67(142)	34	11	30.5	複	118	欠	有	
24	10b	1815	R-95	III	石刃	80	36	14	41.6	欠		F	有	
24	11a	6475	AB-99	III	石刃	47	26	10	11.5	点		欠	有	
24	11b	7264	AB-98	III	石刃	53	23	6	7	欠		欠	無	
24	12	3290	Z-98	II	石刃	97	28	9	25.1	複	103	欠	有	
24	13	3059	AB-99	III	石刃	107	31	16	49.4	複	124	H	無	
24	14		AB-98	I	石刃	82	21	6	19.1	欠		H	有	
24	15	3674	AB-98	III	石刃	83	35	9	25.2	複	108	欠	無	
24	16	7665	AB-99	III	石刃	84	36	8	17.4	複	105	F	無	
24	17		AB-98	I	剝片	59	32	17	31.6	単	112	欠	有	
24	18		AB-99	I	石刃	74	22	7	19.9	欠		欠	無	
24	19	TP5-69	AA-99	III	石刃	105	42	16	59.5	単	109	RH	無	
24	20	TP5-79	AA-99	IV	石刃核	118	58	48	339.1	両設			有	

表一33 母岩28属性表(図版50・51)

母岩	相對 剝離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考
						長	幅	厚						
28A	1	7340	AA-100	III	打面調整剝片	93	95	54	349.6	表皮	129	H	有	
28A	2		Z-98	I	剝片	41	29	9	6.8	単	129	欠	有	
28A	3		AA-98	I	剝片	53	36	10	13.7	単	120	F	有	
28A	4	4700	AA-99	III	石刃	75	28	10	13.7	単	117	欠	有	
28A	5	2683	U-96	III	石刃	102	40	23	51.4	単	120	F	有	
28A	6	7352	AA-99	III	剝片	16	33	14	4.6				有	節理による破砕
28A	7	2832	Y-99	III	剝片	26	32	5	2.4	単	111	F	有	
28A	8	5353	AA-99	III	剝片	26	13	5	1.4	単	109		無	
28A	9	3285	Z-98	III	剝片	25	18	12	3.9				有	節理による破砕
28A	10	3282	Z-98	II	剝片	33	21	5	2.5	欠		欠	有	
28A	11	3230	Z-99	III	剝片	43	58	22	40.5	単	70	F	有	
28A	12	7355	Z-99	III	剝片	73	48	15	37.3	単	115	RH	有	
28A	13	7323	Z-98	III	剝片	27	20	6	2.1	欠		欠	有	
28A	14	4712	AA-99	III	剝片	50	79	26	94.9	節理面	132	H	有	
28A	15	5385	Z-100	III	剝片	56	37	14	18.4	点		F	有	
28A	16a	5384	Z-99	III	剝片	77	49	17	66.3	表皮	100	欠	有	
28A	16b		AA-1	I	剝片	34	35	12	11.1	欠		F	有	
28A	17	3229	Z-99	III	剝片	61	39	15	24.4	単	117	欠	有	
28A	18a	7407	AA-98</											

表一34 母岩25属性表(第50図・図版45)

母岩 剥離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考
					長	幅	厚						
25 1	4452	AB-99	III	石核調整剥片	73	75	21	72.7	表皮	124	F	有	
25 2	4479	AB-99	III	石核調整剥片	38	56	12	20.1	表皮	116	F	有	
25 3a	4601	AA-99	III	石核調整剥片	24(71)	39	12	9.4	表皮	120	欠	有	
25 3b	TP5-59	AA-99	III	石核調整剥片	53	46	12	21	欠		F	有	
25 4	5564	AB-99	III	石核調整剥片	53	70	9	24	表皮	112	F	有	
25 5	4622	AA-99	III	石核調整剥片	59	57	14	34.5	表皮	120	RH	有	
25 6	6003	AB-99	III	石核調整剥片	97	49	18	67.4	表皮	114	欠	有	
25 7	6059	AB-99	III	石核調整剥片	63	40	5	10.9	単	101	欠	有	
25 8	4469	AB-99	III	石核調整剥片	36	45	6	8.1	欠		S	有	
25 9	6100	AB-99	III	石核調整剥片	72	35	11	14.7	欠		欠	有	
25 10		AA-99	I	石核調整剥片	52	63	9	20	点		欠	有	
25 11	TP5-72	AA-99	III	石核調整剥片	59	56	9	28.5	複	114	欠	有	
25 12	5365	Z-99	II	打面調整剥片	68	104	27	159.1	複	118	RH	有	
25 13a	4507	AB-99	III	打面調整剥片	37(55)	52	15	13.5	節理面	116	欠	無	
25 13b	5570	AB-99	III	打面調整剥片	38	33	4	3.6	欠		F	無	
25 14a	4446	AB-99	III	石刃	74(100)	39	8	30.1	複	123	欠	有	
25 14b	3082	AA-99	II	石刃	34	37	5	5.2	欠		欠	有	
25 15	6570	AB-99	III	石刃	90	43	10	33.9	複	105	欠	有	
25 16a	6166	AB-99	III	石刃	98(116)	47	14	58	単	123	欠	有	
25 16b	7644	AB-98	III	石刃	31	31	6	2	欠		F	有	
25 17	6996	AB-99	III	石核調整剥片	56	69	9	18	欠		RH	有	
25 18a	6159	AB-99	III	石刃	31(80)	28	5	5	複	101	欠	有	
25 18b	6065	AB-99	III	石刃	48	27	5	5	欠		欠	有	
25 19a	3308	AA-98	II	石刃	98(139)	37	9	31.3	複	121	欠	有	
25 19b	7038	AA-99	III	石刃	47	20	6	5.2	欠		F	有	
25 20	6161	AB-99	III	打面調整剥片	73	43	17	48.9	単	118	F	有	
25 21a	6490	AB-99	III	剥片	16(49)	34	4	2.7	単	102	欠	無	
25 21b	6428	AB-99	III	剥片	34	31	5	3.9	欠		H	有	
25 22	7397	AB-98	III	剥片	62	50	6	18.4	単	105	S	有	
25 23	4470	AB-99	III	石刃	73	33	6	12.3	複	115	欠	無	
25 24a	4516	AB-99	III	石刃	58(133)	31	11	22	複	117	欠	有	
25 24b	6626	AA-99	III	石刃	77	40	30	53.2	欠		RH	有	
25 25	4638	AA-99	III	打面調整剥片	37	25	5	3.5	点		F	無	
25 26	5563	AB-99	III	剥片	48	27	7	5	複	107	F	無	
25 27	4521	AB-99	III	石刃	70(94)	37	12	21.1	単	110	F	無	
25 28		AB-98	I	石刃	57	24	7	9	点		F	無	
25 29	TP5-73	AA-99	IV	石刃核	121	55	72	450.3	両設			有	

表一35 母岩29属性表(図版49)

母岩 剥離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考	
					長	幅	厚							
29 1a	4788	Z-100	III	石核調整剥片	52	53	21	52.8				RH	有	節理による破砕
29 1b	TP5-146	AA-99	IV	石核調整剥片	91	68	27	163.5				RH	有	節理による破砕
29 1c	5357	AA-99	III	石核調整剥片	87	63	24	67				RH	有	節理による破砕
29 2	4698	AA-99	III	石核調整剥片	66	84	23	91.5	表皮	114	F	有		
29 3a	TP5-139	AA-99	III	石核調整剥片	50(100)	36(64)	12	21.1	単	120	欠	有		
29 3b	5356	AA-99	III	石核調整剥片	75	43	15	42.7	欠		F	有		
29 4a	7576	Z-99	III	石核調整剥片	54	42	12	16.9	点		欠	有		
29 4b	3191	AA-99	III	石核調整剥片	57	53	8	20	欠		H	有		
29 5		Z-98	I	石核調整剥片	63	31	10	11.8	単	117	F	有		
29 6	5358	AA-99	III	石核調整剥片	146	48	29	161.4	単	112	F	有		
29 7	5355	AA-99	III	石核調整剥片	59	49	14	32.6	単	103	欠	有		
29 8	3250	AA-100	III	石核調整剥片	44	46	5	11.4	単	113		有		
29 9	3228	Z-99	II	石核調整剥片	38	34	5	6.1	点		H	有		
29 10	TP5-37	AA-99	III	剥片	53	47	17	34	単	108	欠	有		
29A 1	3226	Z-99	II	石刃	69	27	12	18.9	単	134	RH	有		
29A 2	3246	AA-100	III	石核	79	60	34	223.7	単設			有		
29B 1	4791	AA-100	III	石核	94	66	47	224.8	単設			有		
29C 1a		Z-98	I	打面調整剥片	24(48)	44(46)	12	12.8	複	125	欠	有		
29C 1b		AA-99	I	打面調整剥片	25	41	8	7.6	欠		F	有		
29C 1c	5366	Z-99	II	剥片	37	33	10	7.7			RH	有	Z-98+AA-99と同時破砕	
29C 2	4799	AA-100	III	剥片	48	37	12	24.2	単	121	欠	無		
29C 3	3299	Z-98	III	剥片	33	43	8	9.6	複	124	欠	有		
29C 4	4670	AA-99	III	石刃	88	39	17	55.8	単	118	F	有		
29C 5	TP5-130	AA-99	IV	石核	81	44	42	107.1	単設			有		
29D 1	3291	Z-98	III	打面調整剥片	36	27	10	6.7	欠		H	有		
29D 2	TP5-140	AA-99	III	打面調整剥片	58	39	17	26.1	単	133	F	有		
29D 3		Z-98	I	剥片	63	33	12	23.6	単	110	欠	有		
29D 4	3177	AA-99	II	石刃	51	24	7	9.6	単	117	欠	無		
29D 5	4690	AA-99	III	石核	71	37	32	74.9	単設			有		
29E 1	7341	AA-100	III	石刃核	96	31	30	157.7	単設			有		
29F 1	3245	Z-100	III	剥片	47	31	10	12	単	120	欠	有		
29F 2	7350	AA-99	III	稜付石刃	100	28	29	89.1	単	102	F	有		
29F 3	7348	Z-100	III	石刃	85	42	9	19.7	欠		欠	有		
29F 4	TP5-144	AA-99	IV	剥片	102	75	38	285.8	欠		RH	有		
29F 5	7353	AA-99	III	剥片	57	59	13	32.7	単	111	F	有		
29F 6	4795	AA-100	III	剥片	53	32	11	17	単	110	H	無		
29F 7	2913	Z-99	II	剥片	55	32	11	20.6	単	128	H	無		
29F 8	5335	AA-99	III	剥片	70	38	18	40.3			F	有		
29F 9	4787	Z-100	III	石刃核	95	71	52	326.8	両設			有		

表一36 母岩23属性表(第51図・図版43)

母岩 剥離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考		
					長	幅	厚								
23 1	3046	AB-99	III	打面調整剥片	91	40	14	39.9			複	116	RH	有	
23 2a	3020	AB-99	II	剥片	41(85)	29	5	5			複	115	欠	無	
23 2b	7124	AB-98	III	石刃	53	57	10	27.2	欠		H	無			
23 3	2855	AB-99	II	石刃	90	36	9	23.1	単	104	F	有			
23 4	3672	AB-98	II	剥片	63	68	14	56.4	単	94	F	有			
23 5	3089	AA-99	III	石刃	132	54	26	130.2	単	119	F	無			
23 6	4590	AA-99	III	砕片	40	20	8	3.9						無	節理による破砕
23 7		AA-98	I	剥片	64	21	7	9.6	点			RH	無		
23 8	3044	AB-99	III	剥片	78	42	10	26.9	複	107	F	無			
23 9	4543	AB-99	III	剥片	38	18	6	2.8	欠		欠	無			
23 10	5458	AB-99	III	石刃	76	28	8	17.8	複	94	H	無			
23 11	6072	AB-99	III	石刃	56	20	8	11.1	複	102	H	無			
23 12	2857	AB-99	II	石刃	98	37	8	25.6	単	96	欠	無			
23 13	6182	AB-99	III	石刃	81	35	13	31.9	複	107	欠	無			
23 14	2885	AB-100	II	石刃	108	37	36	91.6	単	105	RH	無			
23 15	TP5-134	AA-99	IV	石刃核	101	50	40	242.2	両設						

表一37 母岩42属性表(第48図)

母岩 剥離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考		
					長	幅	厚								
42 1	TP5-81	AA-99	IV	石刃	68	33	9	16.7			複	117	F	無	
42 2	3233	Z-99	III	石刃核	133	62	63	674			両設			有	

表一38 母岩30属性表(第53図・図版52)

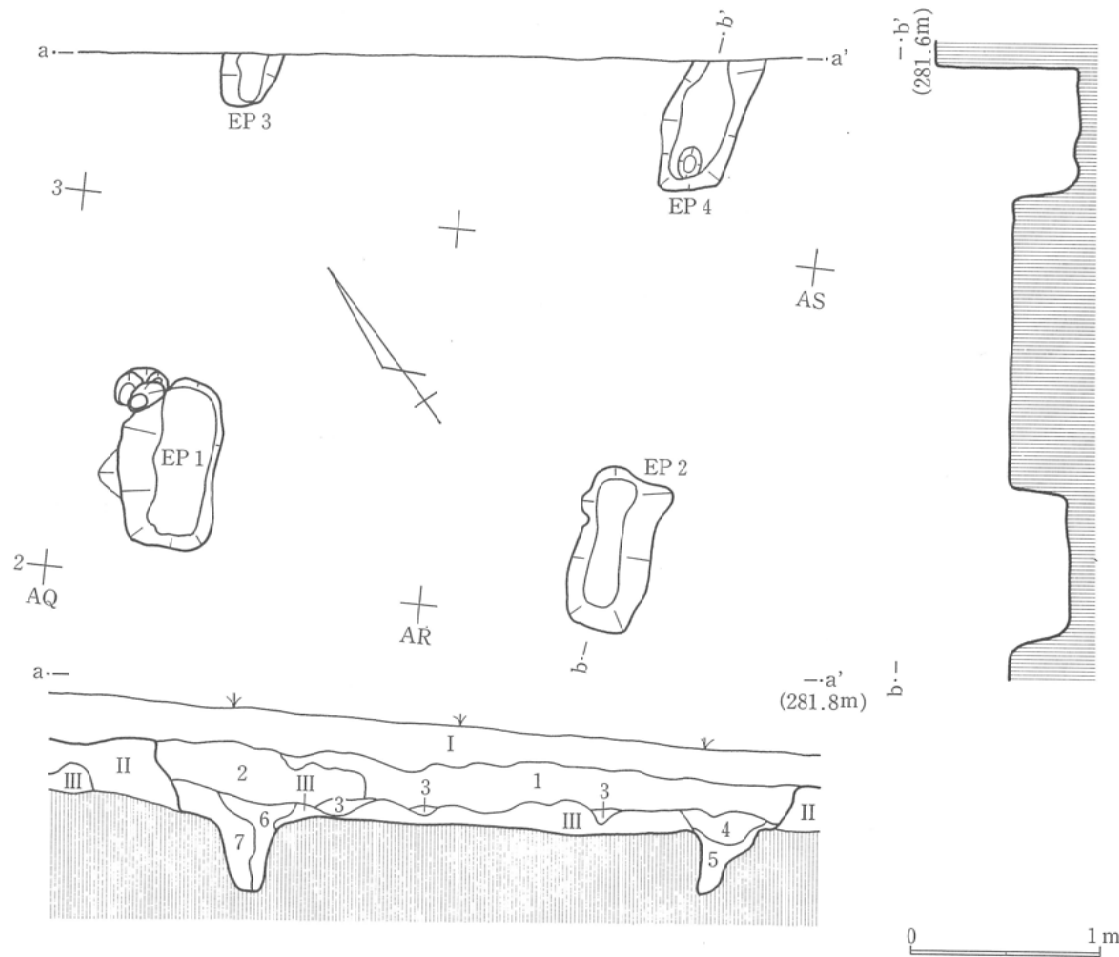
母岩 剥離順	遺物番号	出土区	層位	器種	大きさ(mm)			重量 (g)	打面	打角	末端	表皮	備考		
					長	幅	厚								
30 1	4393	AH-2	III		76	44	15	50.9	節理面	134	RH	有			
30 2	3811	AH-2	III		65	48	12	40.8	単	123	RH	有			
30 3	4824	AH-2	III	剥片	54	68	15	57.6	点		S	有			
30 4		AH-2	I	剥片	56	41	15	37	単	131	H	有			
30 5	3809	AH-2	III	剥片	107	58	18	79.3	単	127	F	有			
30 6	3798	AH-2	III	剥片	66	68	25	157.8	節理面	117	F	有			
30 7	3800	AH-2	III	石核	63	58	123	815	多設					有	

表一39 母岩31属性表(図版52)

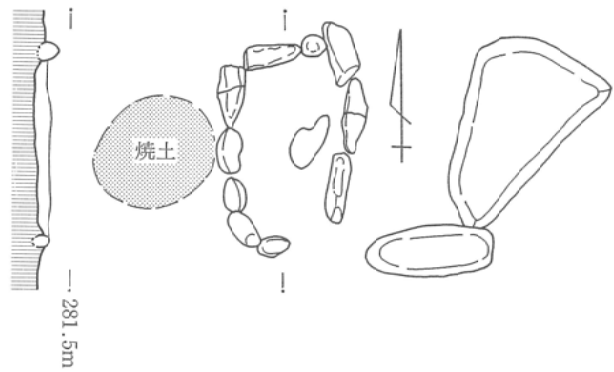
VI 縄文時代以降の遺構と遺物

1 住居跡 (第56図)

AQ・AR-2・3区から1棟検出された(ST1)。面的な確認はできなかったが、4基の柱穴の配置および断面観察の結果から北東-南西方向を長軸とする長方形プランの竪穴住居跡と考えられる。北東半は調査区外となる。炉、貼床等の屋内施設は検出されなかった。EP1から縄文土器片が2点出土しており(第59図1・2)、それらの所属時期から本住居跡は縄文時代中期大木8a式期以降の所産と考えられる。



第56図 ST1実測図



ST1 土層注記

1. 7.5YR4/4 褐色シルト
III層を粒状に若干含む。しまりなく軟らかい。
2. 7.5YR1.7/1 黒色シルト
III層を粒状に若干含む。
3. 10YR4/6 褐色粘土
10YR4/3 におい黄褐色粘土を塊状に含む。
4. 10YR4/3 におい黄褐色シルト
しまりなく軟らかい。EP4堆積土。
5. 10YR4/4 褐色粘土質シルト
風化礫を多量に含む。EP4堆積土。
6. 10YR4/4 褐色粘土質シルト
風化礫を多量に含む。5層に同じ。EP3堆積土。
7. 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト
風化礫・III層塊を含む。EP3堆積土。

SL5 土層注記

- 10YR2/2 黒褐色シルト
III層塊を含む。炭化物を若干含む。焼土は顕著ではない。

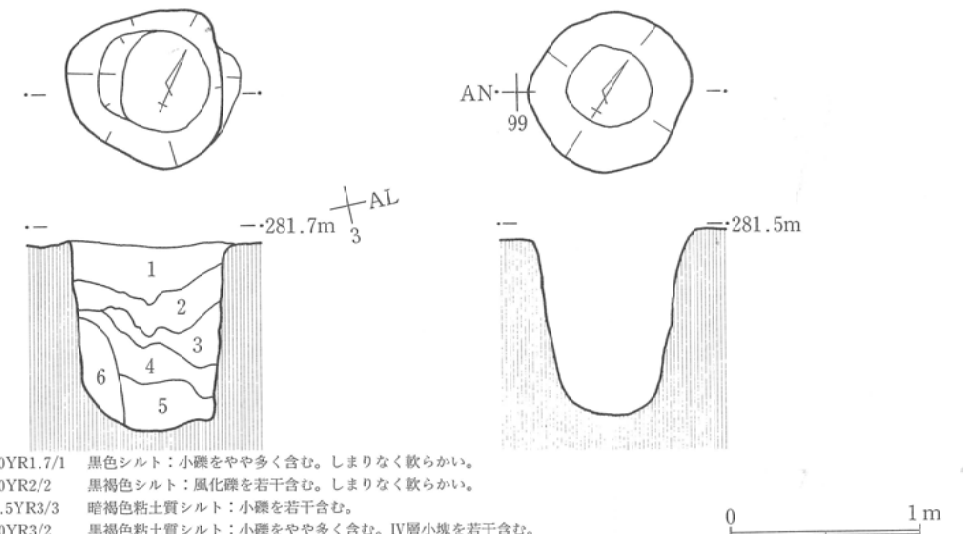
第57図 SL5実測図

2 石囲炉 (第57図)

AO-100区内、II層中から1基検出された(SL5)。長軸長57m、短軸長40mのほぼ南北方向に軸線をもった石囲炉である。周囲の状況から屋外炉として使用されたものと考えられる。焼土の堆積は顕著ではなく、炉の西に接して直径約30mの範囲に焼土が分布する。また、炉の東には長径55mの偏平な礫が同じレベルから検出された。その形態および検出層位から縄文時代のものと思われるが、出土遺物がなく詳細は不明である。

3 土壌 (第58図)

土壌はII層中を確認面として同程度の規模、形態のものが2基検出された。SK2はAL-2区内検出の直径90m前後の不整形円形、SK4はAM・AN-99区検出、直径80mの円形プランをもつ。いずれも深さ1m、壁の立ち上がりは急である。堆積土中からは剥片、破片が出土しているが、所属時期および機能は不明である。



1. 10YR1.7/1 黒色シルト：小礫をやや多く含む。しまりなく軟らかい。
2. 10YR2/2 黒褐色シルト：風化礫を若干含む。しまりなく軟らかい。
3. 7.5YR3/3 暗褐色粘土質シルト：小礫を若干含む。
4. 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト：小礫をやや多く含む。IV層小塊を若干含む。
5. 10YR1.7/1 黒色シルト：小礫を多量に含む。
6. 10YR3/3 暗褐色シルト：風化礫をやや多く含む。IV層粒状を含む。

第58図 SK2・SK4実測図

4 縄文土器 (第59図)

縄文土器片は3点出土している。1・2は同一個体とみられる深鉢の口縁部および体部破片である。外反する器形で波状口縁となる。口唇部は肥厚し太い沈線が1条巡る。頸部は無文となり単節RLの縦位施文上に沈線文が描出される。焼成は良好である。縄文時代中期大木8a式に比定される。3は貼付、半截竹管沈線、刺突等により文様構成されるが、器面が荒れており詳細は不明である。胎土中に繊維を若干含む。



第59図 縄文土器拓影図

5 石器

今回の発掘調査では1,2154点出土した石器のうち、縄文時代のtoolと考えられるものは58点ある。それらはすべて剥片素材の打製石器であり、磨製石器、礫石器は出土していない。その内訳は石鏃2点、石錐1点、尖頭器12点、石匙5点、石筥27点、搔器・削器・加工痕ある剥片11点である。出土層位別では、表面採集2点、I層36点、II層17点、III層2点、遺構内堆積土1点となっており、I・II層中から出土したものが圧倒的に多い。平面上では、AD~AX区内で約66%にあたる38点が出土し、調査区南東半にやや偏って分布する傾向が看取された。なお、今回出土した石器はすべて頁岩を使用して製作されている。今回の発掘調査では縄文時代中期(大木8a式期)の土器資料を得ているが、これまでに本遺跡からは縄文時代前期初頭(上川名II式期)に比定される土器片の出土も報告されており、これらtoolの所属時期についてはなお検討を要する。以下に各器種ごとに分類を中心にその概要を述べる。

石鏃(第62図1・2)

石鏃は2点出土している。第62図1は表面採集の無茎石鏃で背面、主要剥離面ともに一次調整面を残す。先端部の加工は鋭利さに欠けており、あるいは失敗品とも考えられる。第62図2はAブロックIII層上面からの出土である。左右が非対称となる無茎石鏃で、二次調整が全面におよぶ。いずれも最大長20m前後、重量0.7mと小形である。

石錐(第62図3)

AK-100区II層から1点出土している(登録番号3845)。基部を失っているが、最大長(残存値)26m、最大幅12m、重量1.7mを測る。尖頭部は長さ17m、幅8m、厚さ4mで主要剥離面側が縁辺部のみに加工が施されているため断面五角形を呈する。先端部には使用の際の摩滅が認められる。

尖頭器(第62図4~7・第63図)

尖頭器は12点出土した。いずれも基部資料であるが両面加工により尖った先端部を作出していると推定できる。推定の最大長が100mを越える大形のものが多い。加工方法の相違や平面形態により以下のように分類できる。

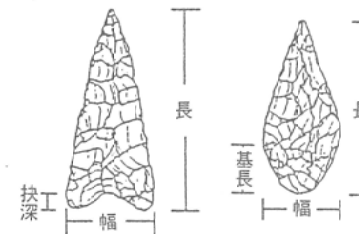
I類:両面加工で背面、主要剥離面ともに素材の中央部に達する面的な加工が施されているもの(第62図4・5、第63図1~4・8)。

II類:両面加工であるが、背面側に表皮を残すもの(第63図5)。幅広の形態となる。

III類:両面加工であるが、主要剥離面側が縁辺部加工となるもの。幅の狭いIIIa(第62図6、第63図7)と、幅広で木葉形となるIIIb(第62図7、第63図6)がある。

属性表注

- 1 大きさ 長、幅は第60図に示したように、その全長、ならびに最大幅である。厚は最大厚を測定した。折損品については()を付し残存値を示した。単位はmmである。
- 2 抉深・基長 第60図に示したように、抉深は無茎の石鏃の抉りの深さ、基長は最大幅の位置より下位の長さを測定した。前者には一、後者には十を付して示した。単位はmmである。
- 3 最大幅 最大幅の位置をつぎのように示した。尖頭部にあるものをA、基部、脚部にあるものをB、また、下端にある場合はB'を付した。
- 4 側縁 側縁の形態を直線状のa、凸弧のb、凹弧のc、「く」の字状に曲るdに分けて示した。
- 5 折損部位 尖頭部先端をa、左の脚部(図左の)をb、右をc、円基部分をdとして示した。



第60図 石鏃模式図

表-44 石鏃属性表

No	出土区	層位	石材	大きさ(mm)			重量(g)	抉深(基長)	最大幅の位置	側縁		折損部位	挿図
				長	幅	厚				左	右		
	表採		頁岩	19.6	13.9	2.1	0.7	±0	A	b	b	—	62-1
186	H-94	III上	〃	22.0	14.1	3.2	0.7	-2.4	B	a	b	—	62-2

属性表注

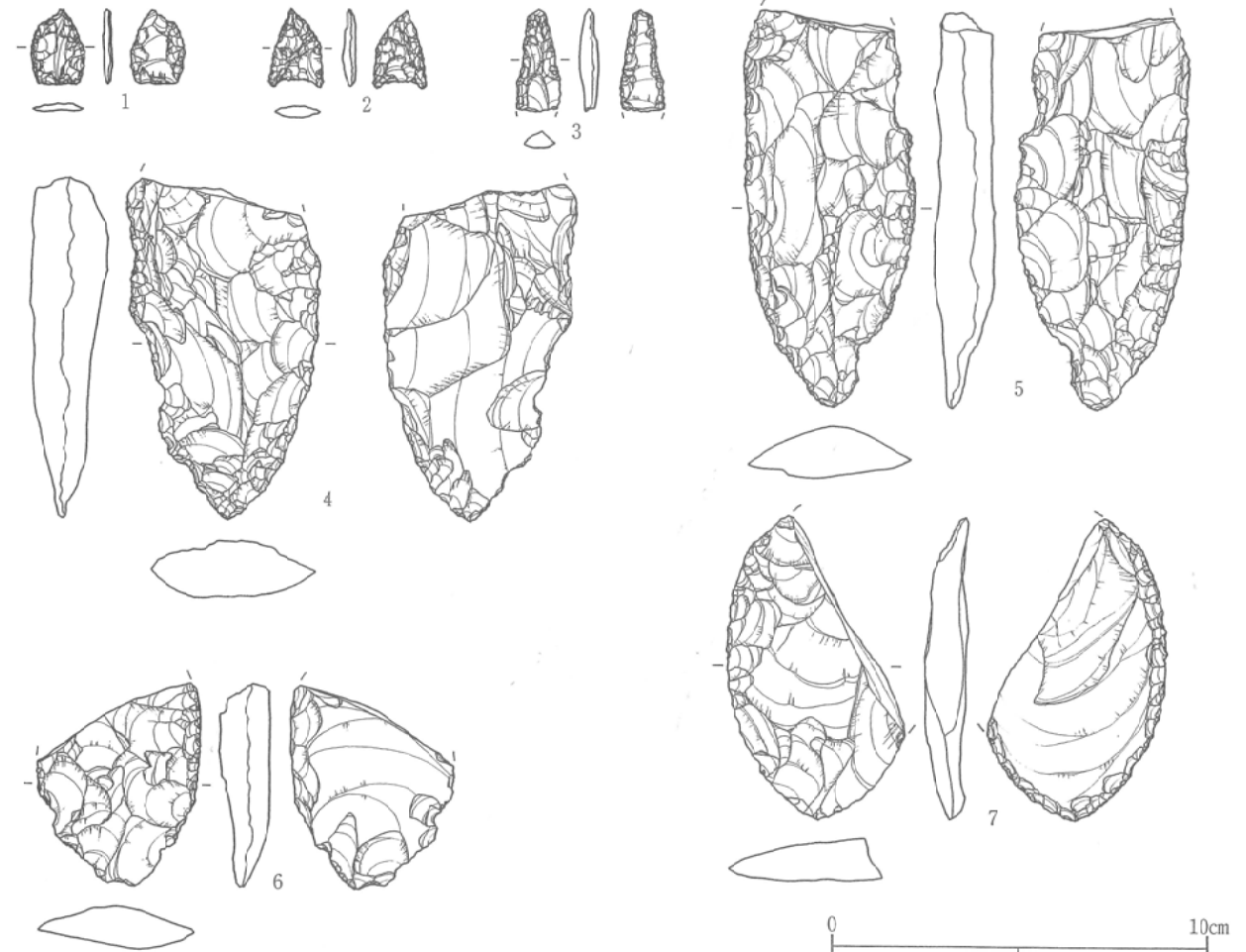
- 1 大きさ 長、幅は、第61図に示したように、その全長、ならびに最大幅である。厚は最大厚とした。折損品については()を付し残存値を示した。
- 2 最大幅の位置 全長を二分した場合、その上半部にあるものをA、下半部にあるものをBとし、下端にあるものはB'とした。
- 3 側縁 先端部を上に向け、調整加工により入念な方を上にして置いた時の左側を左、右側を右とし、尖頭部から基部までの側縁の形態を、直線状に示すa、凸弧を描くb、凹弧をc、「く」の字状となるdの四種類に分けて示した。
- 4 折損部位 全長を三等分して、先端部をA、中央部をB、基部側をCとして、折損品の残っている部分を示した。



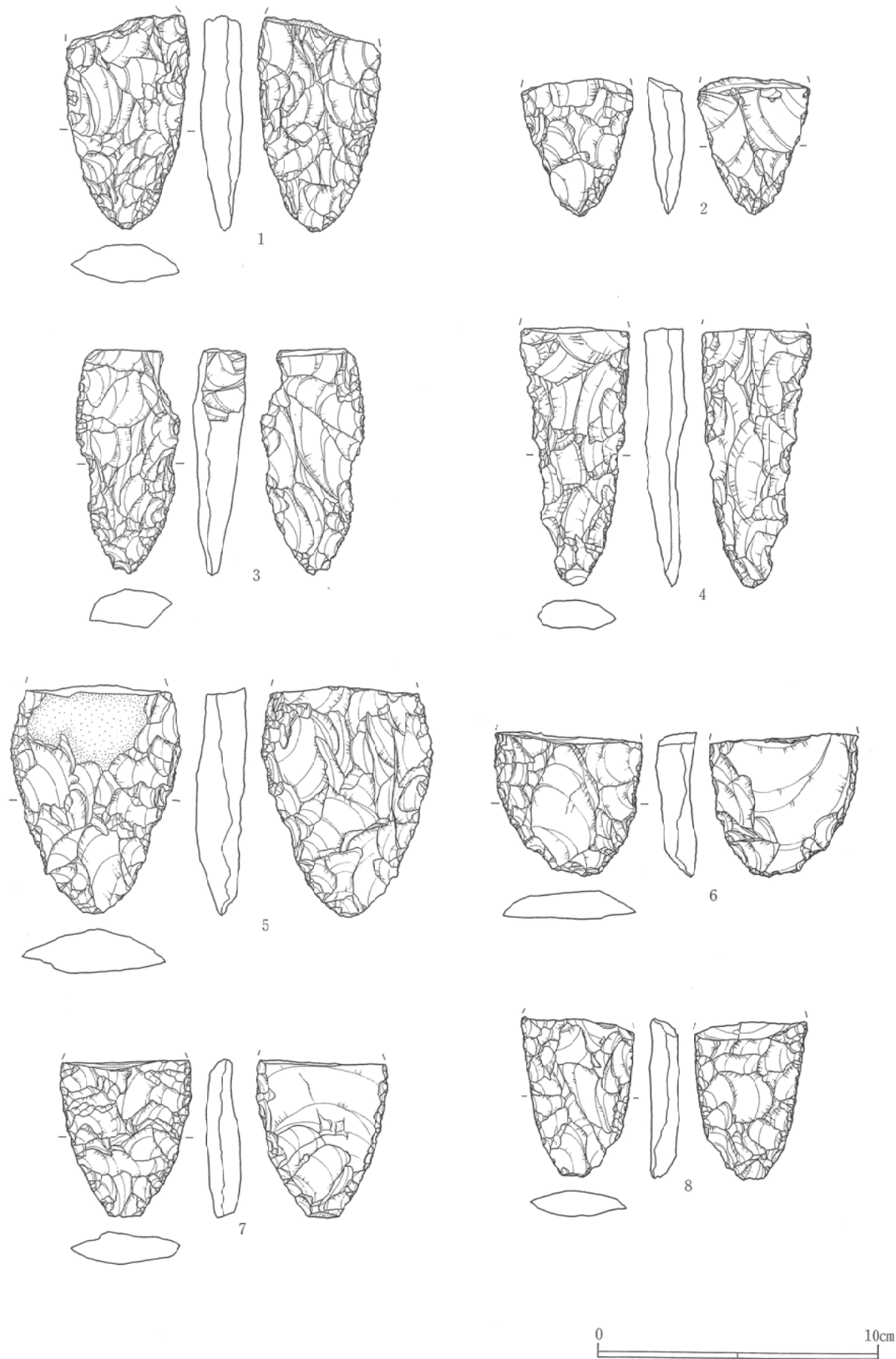
第61図 尖頭器模式図

表-45 尖頭器属性表

No	出土区	層位	石材	大きさ(mm)			重量(g)	最大幅の位置	側縁		折損部位	分類	挿図
				長	幅	厚			左	右			
	TP-6	I	頁岩	(92)	52	21	74.9	B	b	b	B+C	I	62-4
	AK-1	I	〃	(104)	56	15	78.1	B	b	b	B+C	I	62-5
5004	AV-1	II	〃	(55)	(44)	13	26.7		b	b	C	IIIa	62-6
4107	AQ-2	II	〃	(82)	(49)	20	40.7	A	b	b	B+C	IIIb	62-7
	AF-1	I	〃	(77)	45	15	46.9	B	b	b	B+C	I	63-1
	TP-6	I	〃	(49)	(40)	12	13.7		b	b	C	I	63-2
	T-97	I	〃	(80)	38	18	40.5	B	b	b	B+C	I	63-3
	AB-1	I	〃	(92)	(39)	13	40.7	A	a	b	C	I	63-4
	AJ-2	I	〃	(82)	61	17	82.1	B	b	b	C	II	63-5
	AJ-2	I	〃	(52)	53	15	39.2	B	b	b	C	IIIb	63-6
	AK-2	I	〃	(55)	47	12	29.0	B	b	b	C	IIIa	63-7
	AE-98	I	〃	(57)	(41)	11	22.1		b	b	C	I	63-8



第62図 石鏃・尖頭器実測図



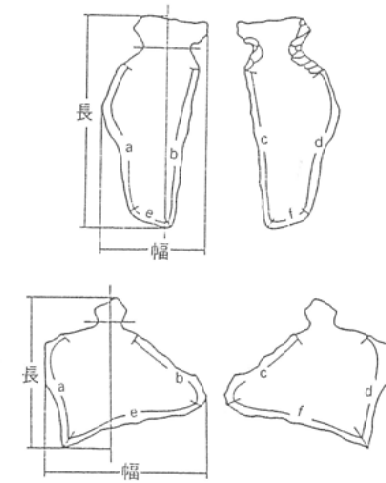
第63図 尖頭器実測図

石匙 (第65図)

相対する二つのノッチを入れることによって作出されたつまみをもつ石器を石匙とした。5点が出土している。いずれもつまみを上方に置いたときの側縁が刃部となる縦形のものである。

1は刃部を大きく欠損しており縁辺状況の詳細は不明である。残存部の調整加工は、つまみおよびノッチも含めて背面のみに縁辺加工が施される完全な片面加工となっている。

2・3・5は左側縁が凸弧状となり、右側縁が直線または凹弧状となる形態をもつものである。背面の全



第64図 石匙模式図

属性表注

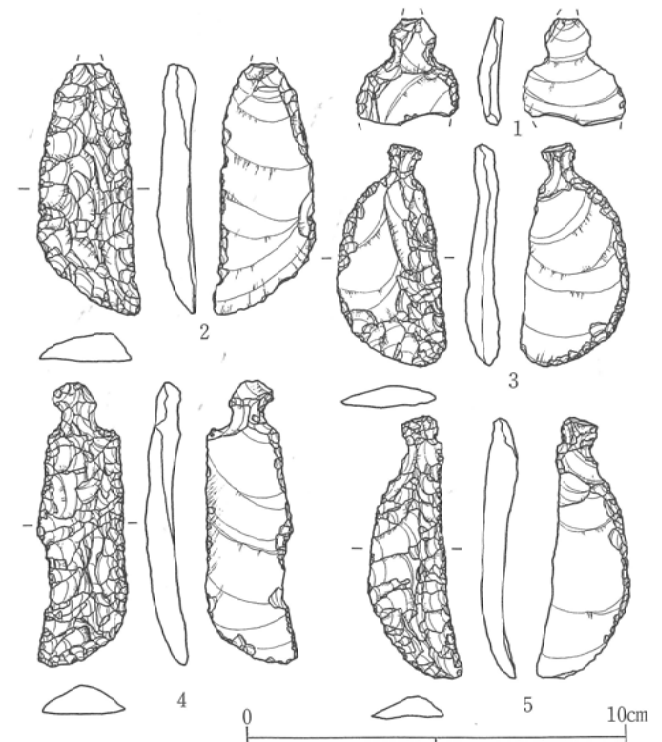
- 1 大きさ 第64図に示したように、長は左右のノッチの最奥部を結んだ線に垂線を引き、上端、下端の最も突出する位置から、この垂線に直交する線を引きその距離を計測した。幅はこの垂線を軸として、左、右の最も突出する位置から、垂線に平行な線を引き、その距離を計測した。したがって、長、幅ともみかけの大きさとなる。厚は最大厚をとった。
- 2 加工部位と種類 第64図のように素材の背面を上にして、つまみ部を上方に置いた場合、表面の左側をa、右側をb、裏面の左側をc、右側をd、また、表面の下縁をe、その裏面をfとし、それぞれの部位の加工状況を示した。先端の尖がるものは、e、f欄に×を入れ、加工のないものは一とした。加工の種類は1：通常剥離 2：フルーティング様剥離 3：奥行2mm前後の微細な剥離、の三種類に分け、縁辺の全長にわたるものについてはA、縁辺を三等分した場合、その1/3以上が加工されているものをB、1/3未満のものをCとして、その組み合わせで表記した。また一縁辺が異なる種類の剥離で加工されているものは、上部から順に、3・1・Aのように記した。なお、加工が素材の中央部に達する面的な加工が施されているものは、数字を○で囲み、縁辺全体が加工されているが、折損しているものは*を付した。折損によって縁辺の失なわれたものは空欄とした。
- 3 縁辺の状況と平均刃角 縁辺が直線状になるものをA、凸弧を描くものをB、凹弧を描くものをCとし、たとえば第64図1のa・dのように凸弧を二つともつものについては、B・Bというように上部から順に表記した。また刃角についてはa・d、b・c、e・fによって構成される各縁辺について、加工の有無を問わずに2cmに1ヶ所ずつ、5度ごとにキザミを入れたボール紙を使って計測しその平均値を記した。

表一46 石匙属性表

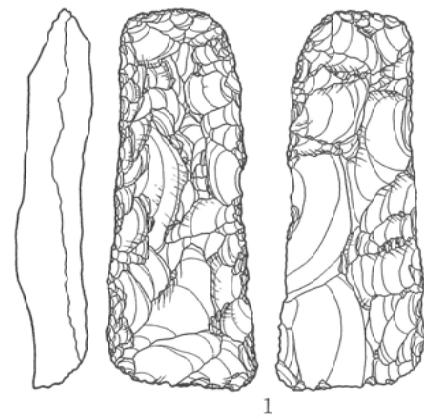
No	出土区	層位	石材	大きさ(mm)			重量(g)	加工部位と種類						縁辺状況と平均刃角				折れ	挿図		
				長	幅	厚		a	b	c	d	e	f	a・d 刃角	b・c 刃角	e・f 刃角	e・f 刃角				
	表採		頁岩	28	27	6	3.4	1A*	1A*	—	—	—	—	B	47	B	52		下半	65-1	
	AJ-1	I	#	67	27	9	12.0	①A	①A	—	1B	②A	—	B	43	A	52	B	43	つまみ	65-2
1524	R-98	II	#	59	29	9	9.6	1B	①A	—	3A	②A	1B	B	51	A	54	B	45		65-3
	AJ-1	I	#	76	24	8	12.5	①A	①A	—	3B	①A	3C	A・C	38	A	37	B	42		65-4
	AK-98	I	#	70	25	8	8.9	①A	②A	—	1・2B	②A	—	B	61	C	47	B	68		65-5

域にわたって入念な調整加工が施されるもの(2・5)と、一次調整面を中央部に大きく残すもの(3)があるが主要剥離面側の加工の状況はつまみの作出を除けば右側縁に縁辺加工がなされている程度であり、一縁辺の全長にわたる加工は3に施されているだけである。

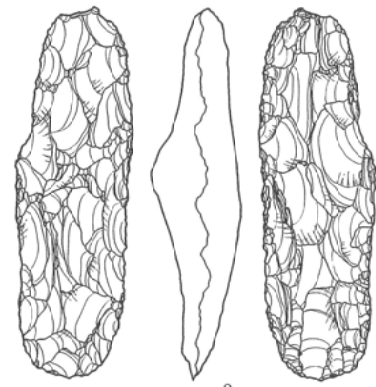
4の形態は左側縁が直線から凹弧状、右側縁が直線状をなす。調整加工の状況は2・3・5と同様であり、背面側は調整がほぼ全体におよぶが、主要剥離面側はノッチの作出部以外では右側縁上部に若干の調整が認められる程度である。



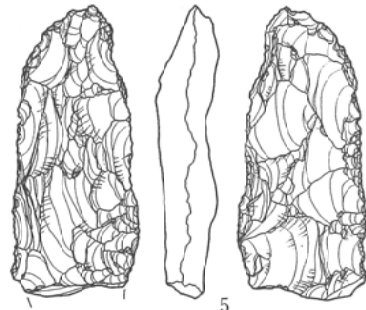
第65図 石匙実測図



1



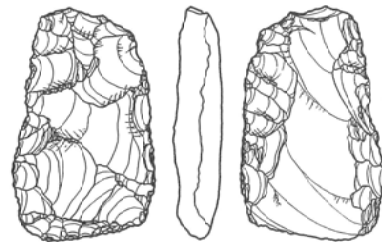
3



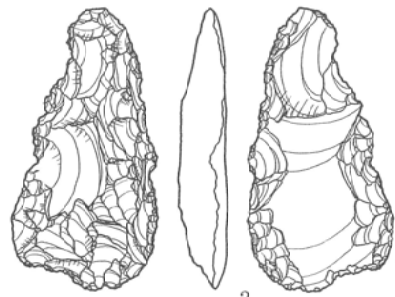
5



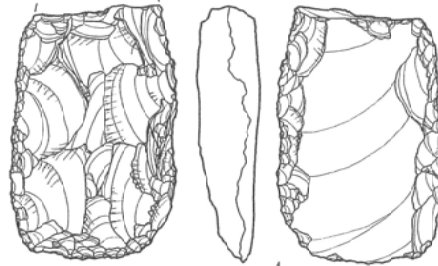
7



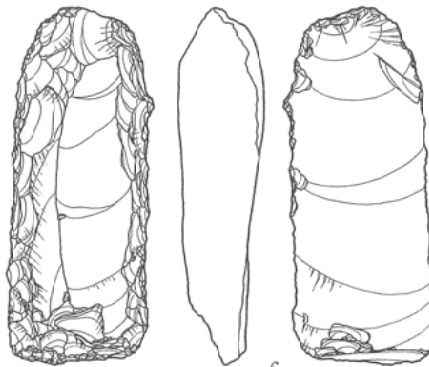
9



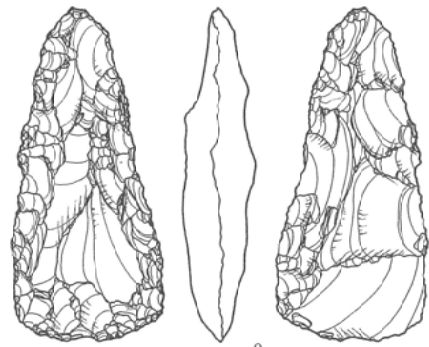
2



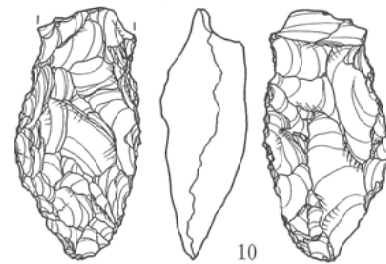
4



6



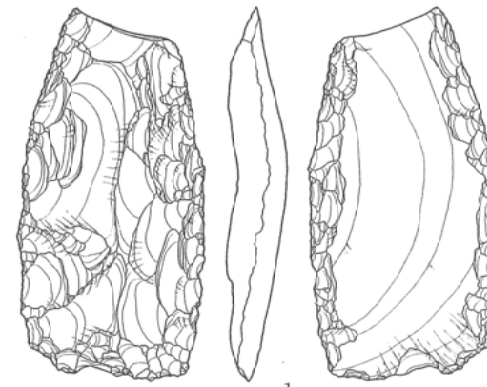
8



10



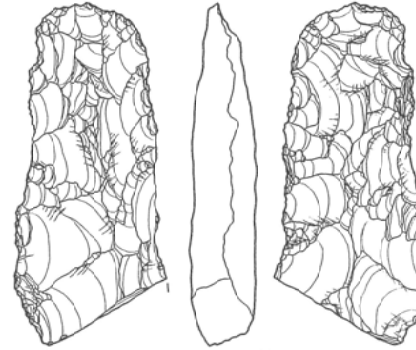
第67图 石筭実測図(1)



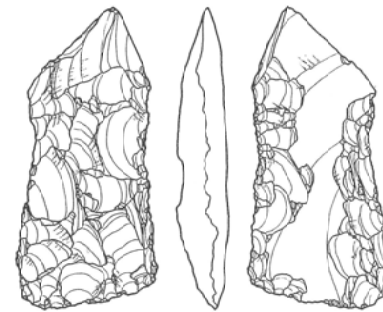
1



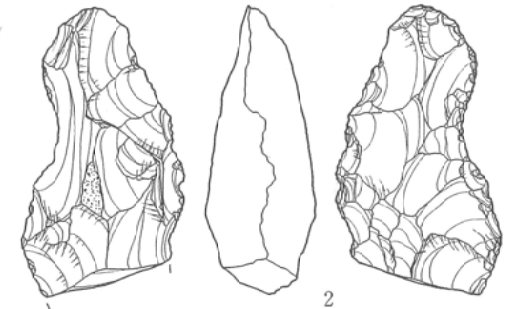
3



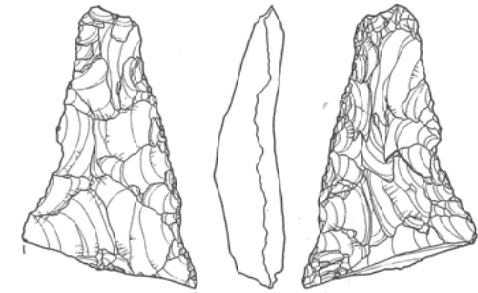
5



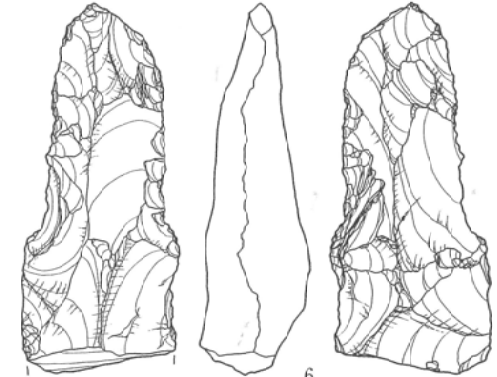
7



2



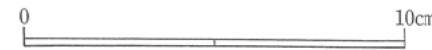
4



6



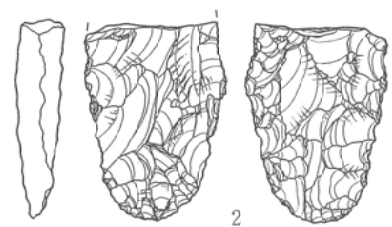
8



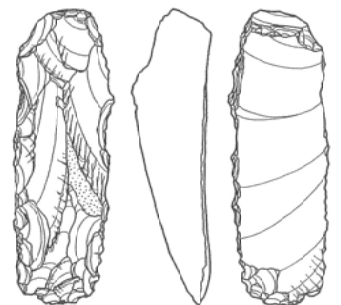
第68图 石筭実測図(2)



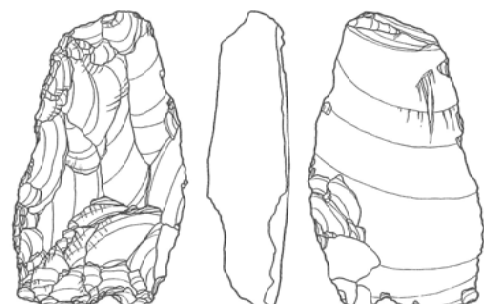
1



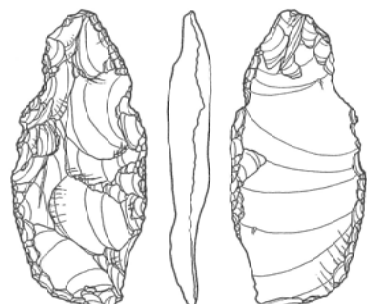
2



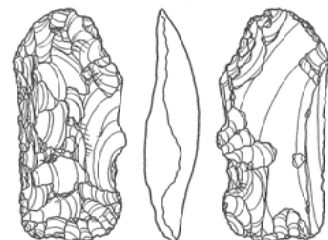
3



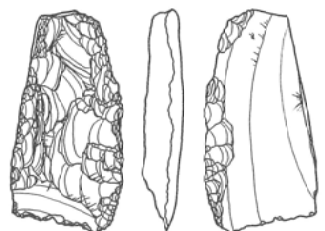
4



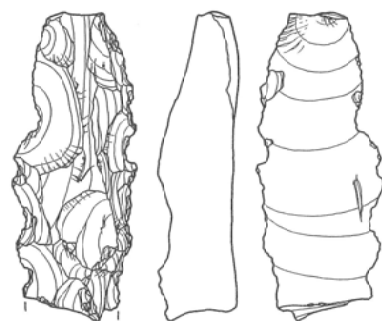
5



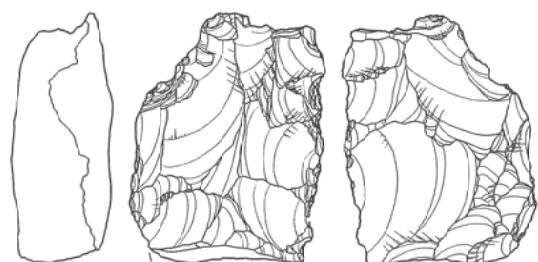
6



7



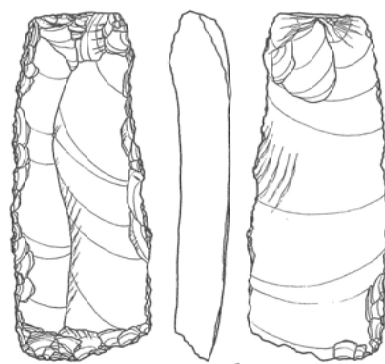
8



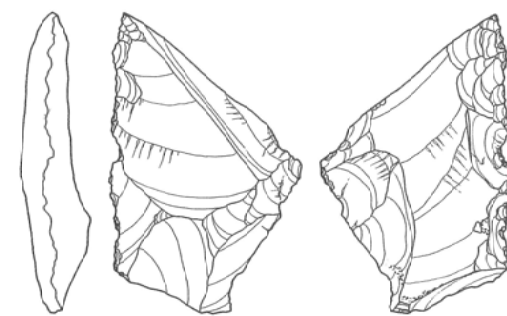
9



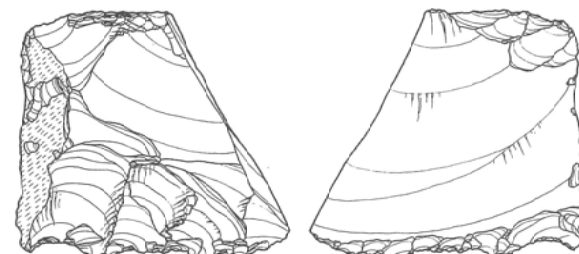
第69図 石筥実測図(3)



1



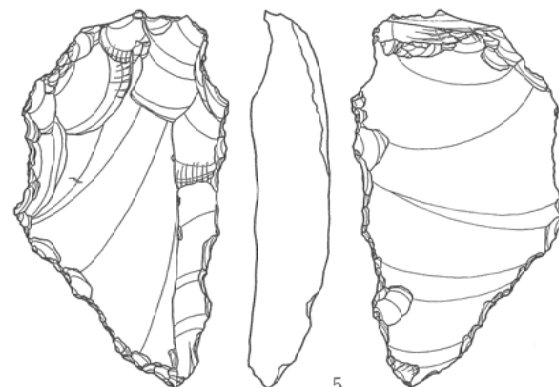
2



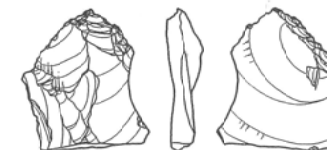
3



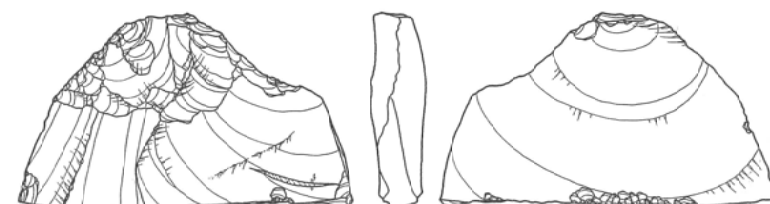
4



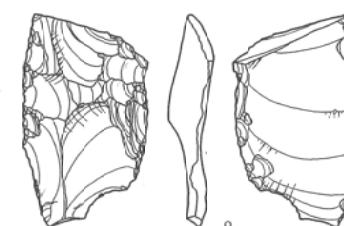
5



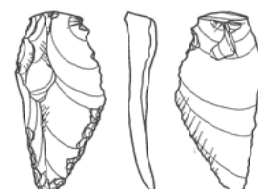
6



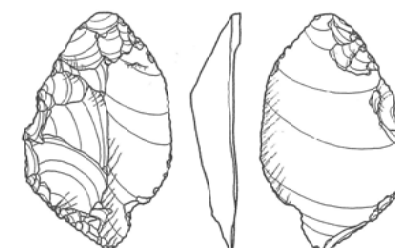
7



8



9



10



11



第70図 搔器・削器・加工痕ある剥片実測図

VII 考察

1 遺物集中地点について

お仲間林遺跡は昭和51年(1976)宇野修平氏によってナイフ形石器と石刃が採集され、その存在が明らかとなった(宇野1986)。その後、昭和54年(1979)に山形県総合学術調査会が実施した試掘調査では尖頭器、ナイフ形石器、彫刻刀形石器、石刃、剥片、石核等が出土し、両設打面をもった石刃核と尖頭器の存在が注目されている(荒木・宇野・高橋・加藤1982)。さらに昭和57年(1982)山形大学学生の菊地重則氏が木葉形尖頭器、搔器、石刃等を採集した報告がなされた(菊地1982)。この遺跡に本格的な学術調査のメスが入れられたのは、昭和61年(1986)慶應義塾大学民族学考古学研究室によってであった。同年8月に実施された綿密な調査と、その後の詳細な分析により、一般的な集落としての機能のほかに、石材供給地に近接する「原産地型遺跡」としての性格を色濃くもちあわせていることが指摘された(阿部・五十嵐1991)。同研究室では平成4年(1992)に再度調査をおこなっている。

今回の発掘調査では、I層からIV層にかけて11,370点余りの遺物が出土した。このうち旧石器時代後期に所属するものは、III・IV層から出土したものおよび接合資料に関連するものを中心としたI・II層出土遺物をあわせて6,000点以上になると考えられる。III層を中心とした石器群は、前述したようにA～Gの7カ所に集中して分布することが確認された(第4図)。本書をまとめるにあたっては、時間的な制約もあり資料の整理、分析が不十分であったため、本項では各ブロックの構造について予察を含めた若干の考察を述べるにとどめる。今後出土資料の詳細な分析をすすめ、山形県総合学術調査会、慶應義塾大学民族学考古学研究室での各調査区相互の総合的な比較検討による遺跡の性格のより具体的な把握が課題となろう。

<Aブロック>

集石遺構にもつとも近接した位置にあるブロックである。H～J-93～95区内II層からIV層にかけて535点の遺物が集中して出土した。特に密度が高いのは、I-94区を中心とした直径約2.5mの範囲である。石核は6点あり、5点が両設打面をもった石刃核である。他の1点は第12図に掲載したものであるが、分割礫を素材とした単設打面をもった石核である。この石核に接合した剥片はなく、若干の打面調整と数回の剥片剥離作業を実施しただけで放棄されている。目的剥片に連続して発生した末端のヒンジフラクチャーが原因と思われる。このブロックを形成する主体は母岩35、母岩36、母岩37、母岩38、母岩39、母岩40の6母岩である。このうち母岩38を除いた他の5母岩は上記5点の石刃核に接合したものである。以下に各母岩ごとの分布状況を検討する。

母岩35(第20図) I・J-94・95区に分布するが、I-94区東半部分に集中域が存在する。石刃核はこの集中域から離れてJ-94区から出土した。

母岩36(第20図) I・J-94・95区に分布する。I-94区ほぼ中央に集中するが、石

刃核を含む4点がこの集中域から離れ、I・J-95ライン付近に分布する。

母岩37(第22図) H～J-94・95区に分布する。I-94区南から中央付近に集中し、母岩36の集中域と重なるが、I-94区東端付近にも小規模な集中がみられる。なお、この母岩の石核はN-98区とブロック外から出土した。

母岩38(第16図) H～J-94・95区に分布する。母岩36・37の集中域と重なるI-94区南から中央付近に大きな集中があり、J-95グリッド杭付近に石刃核を含むもう一つの集中域があるが、相対剥離順の検討から作業位置の移動にともなうものとはいきれない。

母岩39(第24図) I-94区南から中央付近に集中し母岩36～38の集中域と重複するが、J-95区、H-96区にも各4点、2点が分布する。また、石刃核も集中域から外れてI-93区から出土している。

母岩40(第23図) H・I-94区に分布する。石核はI-94区II層出土である。接合点数が少ないため傾向が判然としないが、I-94区の中央付近に分布の中心があると思われる。素材は分割礫と考えられる。

このように、Aブロックには、I-94区東半部分に集中する母岩35と、同じく南から中央付近にかけて集中域をもつ母岩36～40の2つのグループの存在が指摘できる。また、各母岩の石刃核が、これらの集中域を外れて出土していることにも注意する必要がある。これらの母岩別資料にはI層出土遺物の接合例がなく、このブロックはこれまでにあまり大きな攪乱を受けていないと考えられ、石刃生産の痕跡を純粋な状態で残している例として注目される。

<Bブロック>

O・P-95・96区内、III層を主体とした48点の遺物からなる集中地点である。集中域にはtool 1点(第15図5)が含まれるが、その他は剥片、碎片であり、接合も現在のところ確認できない。おそらく剥片素材の二次加工にかかわるブロックであると考えられるが詳細は不明である。

<Cブロック>

Q～S-95・96区、III層を主体とした403点の遺物からなる集中地点である。遺物分布の中心はR-95区であり、ブロック南端部は調査区外となる。本ブロックを形成する主体は、3点の両設打面の石刃核を中心とする母岩8および母岩15A・15Bである。母岩15Bは初期の石核調整段階の途中で節理面によって破碎した剥片を素材として利用している。ブロック内での各母岩の分布状況は次のようになる。

母岩8(第26図) 総てIII層から出土している。Q・R-95・96区を中心に分布するが、集中域はR-95区東半である。石刃核は集中域から離れ、Q-95区南西側から出土した。

母岩15(第26図) Q・R-95・96区を中心に分布する。特にR-95区の中央北寄りの直径約1.5mの範囲に、母岩8の分布域に半弧状に取り囲まれた状態で集中して

いる。母岩15A・15Bおよび分割以前の剥片も含めて一つの集中域を形成する。石刃核はA・Bともに集中域の北辺付近にある。なお、母岩15も総てⅢ層から出土している。

Cブロックの分布は集中域が約2mの範囲におさまる小型のものであり、主体となる母岩も2点にとどまるが、各母岩を構成する石器が総てⅢ層内から出土していることから、Aブロック同様、遺存状態が極めて良好であるといえる。また、各母岩の平面分布の比較から両者の同時性はかなり高いと考えられる。今後の分析により石刃の製作工程の復元にとって有効な資料となり得る。

〈Dブロック〉

DブロックはQ～Y-96～100区の広範囲にわたり1,062点が出土している。もともとは複数の集中地点が存在していたと考えられるが、この区域は特に抜根による攪乱が著しく、破壊がかなり進行しているものとみられる。本ブロックから出土した石核は22点あるが、このうち母岩別資料にかかわるものは12点である。これらの構成は最大でも母岩3の8点の接合にとどまり、各接合資料ごとの分布状況はまとまりを欠く。以下に各母岩の分布範囲を列記する。

母岩3 主体はV・W-96・97区Ⅰ・Ⅱ層に分布する。また、R-100区Ⅱ層から出土した剥片が1点接合した。3Aの石核はY-98Ⅰ層からの出土であり、これも3m以上分布の主体から離れている。石刃核のみの3Bは、V-97区Ⅱ層から出土している。

母岩4 V・W-96・97区Ⅱ・Ⅲ層に分布する。石刃核はW-96Ⅱ層出土である。

母岩5 W-97区Ⅲ層出土の石核にV-97区Ⅲ層出土の剥片が接合した。

母岩6 V・W-96～98区Ⅰ・Ⅱ層に分布する。石核単体の6AはW-97区Ⅱ層、6Bは4点で構成されるが、W-98区・V-96区からそれぞれ2点ずつの出土である。なお6Bの石核はV-96区Ⅱ層から出土している。

母岩7 V～X-97区Ⅱ・Ⅲ層に分布する。石核はW-97区Ⅲ層上面からの出土である。

母岩9 U～W-100区Ⅲ層に分布する。石核はV-100区Ⅲ層出土。

母岩10 主体はW・X-97・98区Ⅱ・Ⅲ層に分布するが、X-100区Ⅲ層出土の剥片が1点接合している。石核はW-97区Ⅱ層出土。

母岩11 U・V-99・100区Ⅱ・Ⅲ層に分布するが、石核のみAB-98区Ⅲ層からの出土である。

母岩13 石核がW-97区Ⅱ層、剥片2点がV-98区Ⅱ層、X-99区Ⅲ層に分布する。

母岩43 石刃核がW-98区Ⅱ層から出土し、それに接合する1点の石刃がW-97区Ⅱ層から出土した。

母岩44 2点から構成されるが、石刃核はW-96区Ⅰ層、それに接合する石刃がW-98区Ⅱ層から得られた。

これらのうち、母岩3～母岩7、母岩9・母岩11はそれぞれもとは同一母岩であった可

能性がある。母岩3～母岩7の分布域は概ねV・W-96・97区を中心としており、母岩9・母岩11はU～W-100区付近にまとまって分布する傾向が看取される。このほかT-100区を中心としてⅠ層から多設打面の石核2点(第7図)を含む、多量の石刃・剥片が出土した。土層の断面観察からこの地点が後世の攪乱によってⅢ層がほとんど消滅していることが確認されている。以上のことからDブロックの石器群は、ほぼ3つの支群に別れていたものと推察される。Dブロックから得られた22点の石核のうち、石刃核は6点であり、このうち両設打面をもつものは2点のみである。このことは、本ブロックが石刃の生産よりも、それ以外の剥片を目的とした生産活動を中心におこなっていた可能性を示唆するものであり、その点、石刃の生産をダイレクトに看取させるA・Cブロックとはかなり様相を異にする。ブロック内における各母岩の時期差あるいは縄文時代の石器群の混入の可能性なども含めて検討する必要がある。

〈Eブロック〉

Z～AC-98～100区内Ⅰ層からⅣ層にかけて、各ブロック中最大の2,753点の遺物が出土した。このうち特に遺物の集中が顕著なのは、AA・AB-99区を中心とした南北約5m、東西約3mの範囲である。石核は27点あり、その中の15点が石刃核である。母岩別資料にかかわる石核は、石刃核12点、その他の石核が10点あり、それらを中心に16の母岩がブロックを構成する主体となる。各母岩ごとの分布状況は以下のとおりである。

母岩12(第36図) AB-98・99区に分布するが、主体はAB-98区西半にある。分割作業中の廃棄とみられる。接合資料点数が少ないため集中はそれほど顕著ではない。

母岩16(第37図) 両端を除く全面を作業面とした両設打面の石刃核を含む11点で構成される。AA・AB-98・99区に分布するが、AA-99区南東からAB-99区中央付近に分布の中心がある。Ⅰ層出土の石刃が1点ある他は総てⅢ層出土である。石刃核はAB-98区から出土し、分布の中心からは約2mの距離がある。

母岩17(第36図) AA・AB-98・99区に分布する。AB-99区西半に集中域が存在する。Ⅰ層出土の石刃が10点接合する。石刃核は集中域の北東端部から出土している。

母岩18(第41図) AA-99区の全域およびAB-99区北西辺を中心に散漫な分布を示す。石刃核はZ-100Ⅰ層から出土しており、そのほかにも石刃、剥片が各1点Ⅰ層出土である。

母岩19(第38図) AB-99区南東半に3点の石刃がまとまるが、石刃核はAA-98区から出土し、これらのまとまりから約2m離れている。またZ-98区Ⅰ層出土の剥片が1点接合する。

母岩20(第41図) AA・AB-98～100区に分布するが、AB-99ライン付近に集中する傾向が看取される。石刃核は集中の西端に位置する。Ⅰ層の出土遺物が2点接合している。

母岩21 (第42図) AA-99・100区に分布し、AA-99区中央付近にまとまる傾向がある。I層の遺物は石刃核を含み4点が接合している。

母岩22 (第46図) AA-99区のほぼ全域を中心に分布する。石刃核は西端部分から出土している。I層の遺物が3点接合した。

母岩23 (第52図) AA・AB-98~100区に分布するが、AA・AB-99区に南北方向に緩い集中が認められる。石刃核はこの集中の北端にやや離れて出土した。I層の出土遺物は剥片1点が接合した。

母岩24 (第49図) AA-99区南東端からAB-99区西半にかけて集中域をもつ。石刃核は集中域の北端部分から出土した。

母岩25 (第52図) AA-99区南東からAB-99区北西にかけて集中域が存在する。石刃核は集中域の北東端部にある。I層出土の遺物は2点接合している。

母岩26 (第46図) AA-99区南半から中央付近に顕著な集中域が認められる。石刃核は集中域北端部分から出土した。

母岩27 (第48図) AA・AB-98~99区にかけて直径約3mの広い集中域をもつ。石刃核はこの集中域の北端部分に位置している。

母岩28 (第71図) Z~AA-99・100区を中心に分布する。1つの原礫を3分割してそれぞれ剥離作業をおこなっている。U-96III層出土の石刃1点が接合した。

母岩29 (第71図) Z~AA-99・100区を中心に分布し、母岩28とその分布域がほぼ重なる。石刃核2点、石核4点が含まれるが、このうち最大の石刃核は集中域の北約2mから出土した。

母岩42 石刃核はAA-99区から出土し、最終剥離による石刃がZ-99区III層から出土した。接合作業が不十分なため、詳細は不明である。

Eブロックの母岩別資料は、III層およびIV層の出土遺物が主体となる。各母岩ごとの分布はA・Cブロックに比較して散漫に見えるが、これは、母岩ごとの接合点数の差によるものと思われる。それらは、AA・AB-99区に極端に集中しており、剥片剥離の技術的側面においても近似するものが多い。したがって各母岩の同時性はかなり高いと考えられ、作業場所としての使用頻度は今回検出した各ブロックの中でもっとも高いといえる。また、I層から出土した石器の接合がめだつものの、全体としては安定した分布状況を示しているということができ、攪乱の影響はおそらくIII層上面までと考えられる。また、母岩28・母岩29については、分布域がその他の母岩とは若干異なるが、石刃核とその他の石核がひとつのブロックにおいて共存する例として注目される。

<Fブロック>

AI-99区II・III層から検出された。直径20cmの範囲に424点の剥片が集中している。これらの剥片は、本ブロック内から出土したスクレーパーとは同一母岩とみられ、接合作業を実施したが、現在のところ接合していない。今後の分析により二次加工の技術的側面を具体的に把握し得る資料と考えられる。

<Gブロック>

AG~AI-1・2区内III層を中心に分布するが、一部を検出したのみで、集中地点の大半は調査区外となっている。この範囲から遺物が212点出土しているが、このなかに8点の石核が存在する。このうち7点が接合資料となっている。以下に各母岩の分布状況をみる。

母岩30 AH-2区西半に直径1m程の集中域をもつ。石核は集中域のほぼ中央から出土した。これらの出土層位はIII層を中心としており、接合点数の割にまとまった分布といえる。

母岩31 III層から出土した石核2点を含む3点で構成されるが、出土地点にはまとまりがない。

母岩32 AH-2区III層に分布する。

母岩33 AH・AI-2区IIIに分布する。

母岩34 AH~AI-1・2区III層に分布する。AH-2区西半を中心に石核を含む5点が集中する。

母岩41 母岩41AはAG-I・2区III層に分布する。41BはI層出土であるが、一つの原石から分割した素材を利用して剥離された剥片である。

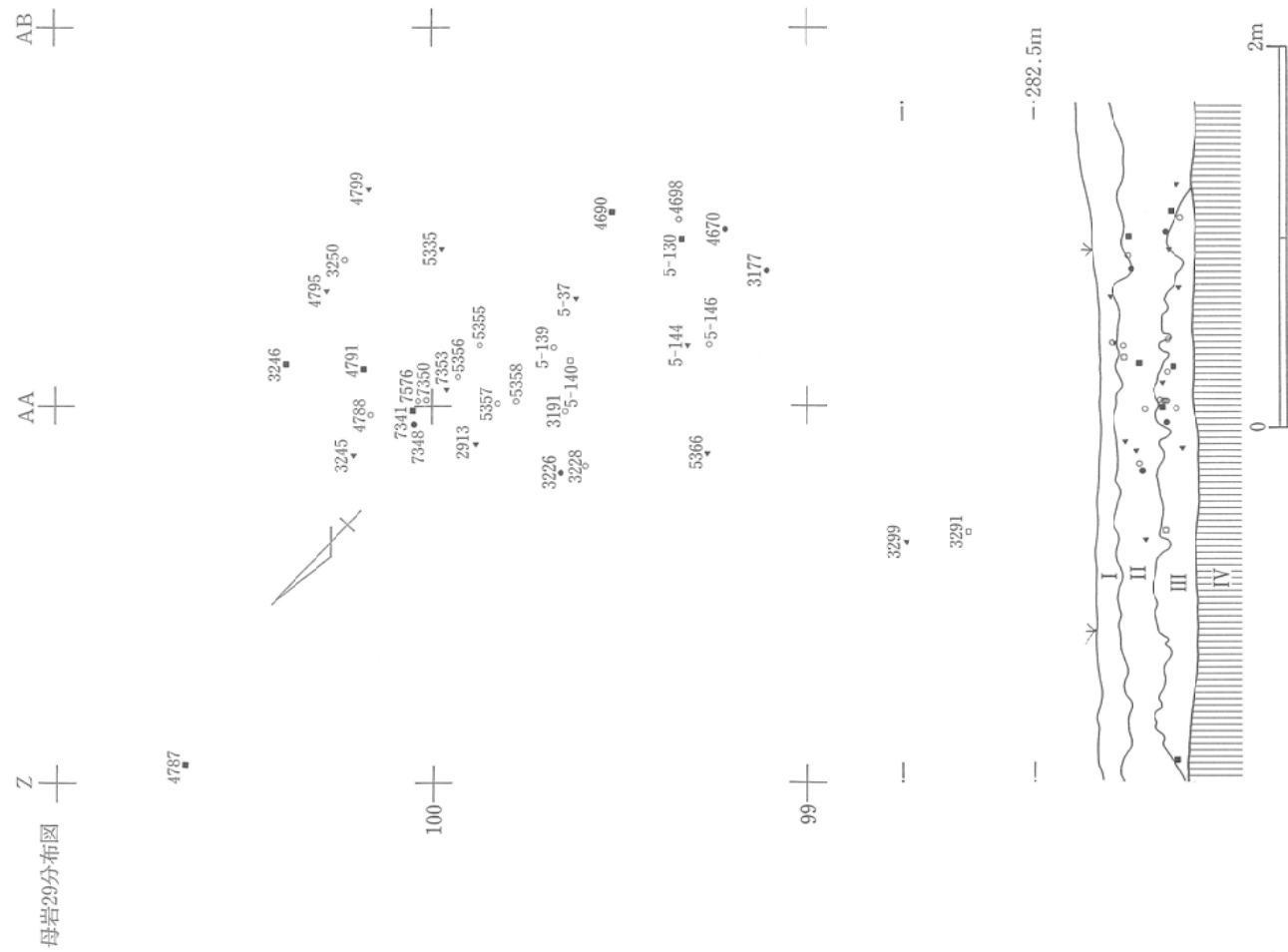
Gブロックは部分的な検出であり、個々の接合資料点数も少ないことから、全容は把握できないが、母岩別資料におけるIII層出土遺物の比率が高く、良好な保存状態を保っていたといえることができる。

A・C・Eの各ブロックは、両設打面の石刃核を中心として、いわゆる東山型ナイフ形石器の素材となる石刃の生産をおこなった跡と考えられる。Gブロックも同様に1カ所でいくつかの原石を用いて石器製作をおこなった跡と思われるが、母岩に関連する石器群の中で単打面の剥片類が殆どであり、また、両設打面の石刃核の場合も作業面の設定などにA・C・Eの各ブロックの石器群とは技術的な相違が認められる。Dブロックの場合も攪乱等により不明瞭な点が多いが、技術的な側面では明らかに前記の3つのブロックとは相違する。このように各ブロック間の性格の相違が看取されるものの、今回の調査区域内において、石器生産を主体とする活動が、盛んに行われていたことは確言できよう。

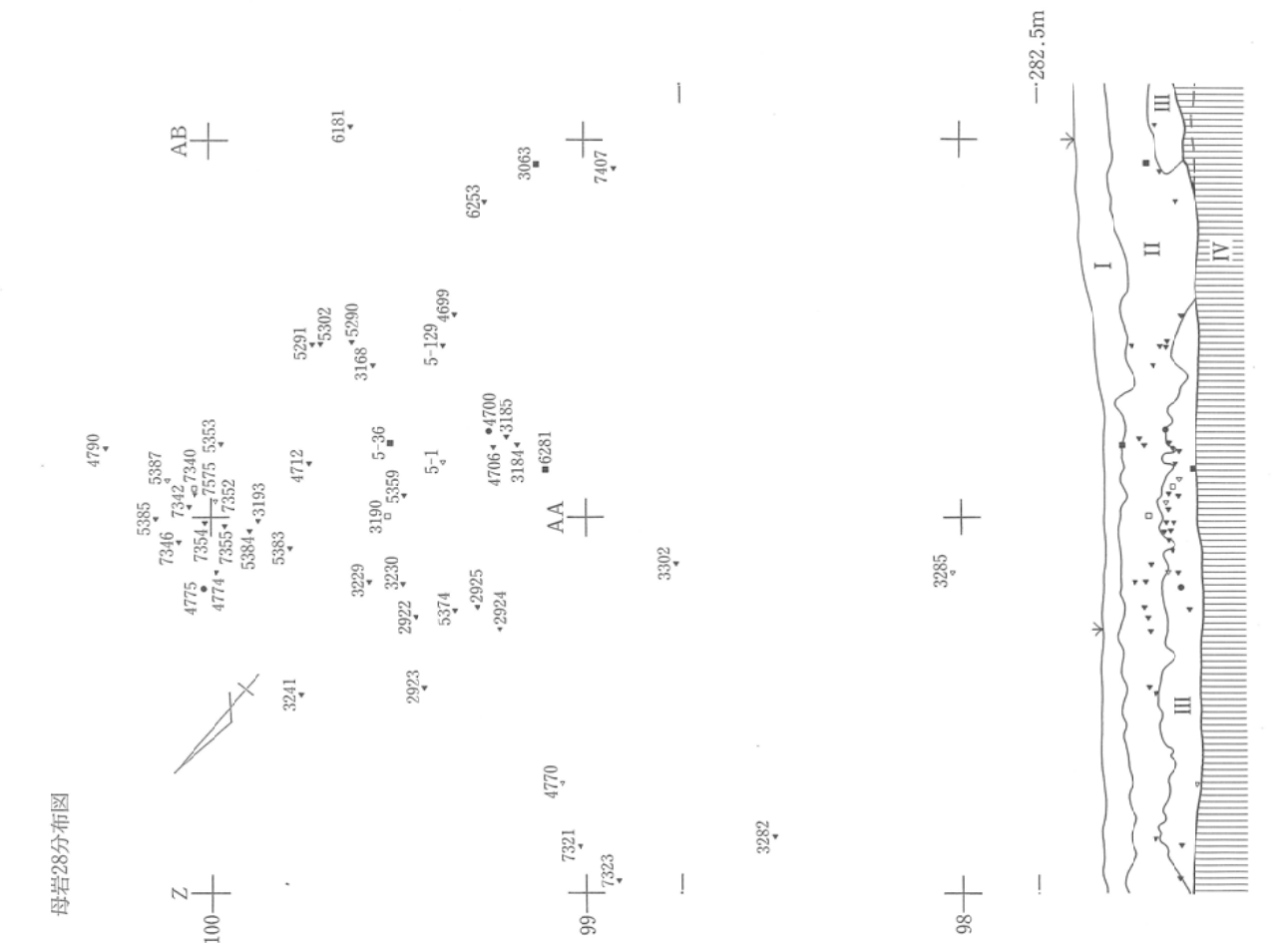
石器製作に使用された石材は、玉髄質の石核が1点(第13図2)と、それと同一母岩と思われる剥片がI・II層を主体として散見されるほかは、総て頁岩である。したがって、今回の調査区での石器群のありかたは、集石遺構の存在も含めて、先に慶應義塾大学の報文で指摘された石器素材としての頁岩資源に立脚した「原産地型遺跡」としての性格をより具体化させるものであるといえる。

引用・参考文献

- 宇野修平(1987) 「寒河江川流域の先土器文化」 西村山の歴史と文化 pp.74~98
荒木利見・宇野修平・高橋郁夫・加藤 稔(1982) 「西川町お仲間林遺跡とその周辺 - 両面調整尖頭器を中心に -」 最上川 pp.749~767
菊地重則(1982) 「お仲間林遺跡採集の石刃と尖頭器」 越中山かわら版6 pp.13~16
阿部洋人・五十嵐彰(1991) 「お仲間林遺跡 1986」 慶應義塾大学文学部 民族学・考古学研究室 小報8



第71図 母岩28・29分布図



2 お仲間林遺跡出土の硬質頁岩原石について

はじめに

本遺跡から出土した硬質頁岩原石資料(以下原石)は合計401点であり、その総重量は318キログラムにも達する。これは、最上川中流域における旧石器時代の他の遺跡に比べて数量の上でも、重量の上でも膨大なものである。このような出土傾向は、遺跡を形成した人々が遺跡周辺から安定的に原石を入手、そして利用していた結果と捉えることもでき、東北地方硬質頁岩地帯では今まで確たる形で捉えることのできなかった「石材の入手過程」を明らかにできる可能性がある。よって本稿では、この遺跡から出土した原石資料の分析を通して、その入手・利用過程について考察を行なう。分析対象とする原石とは以下のものである。

- ①硬質頁岩であること
- ②粗割を含めて石器製作を意図した一切の加工が行われていないこと

以上の、定義を満たす資料401点について次の項目に従い記載・分析を行う。

1. 遺跡周辺の硬質頁岩の分布・産出状況
2. 遺跡出土原石と採取原石の比較検討
3. 遺跡出土原石の性格とその利用

(1) 遺跡周辺の硬質頁岩の分布・産出状況

本遺跡で出土した硬質頁岩の原石がいかに遺跡内に搬入され、そして使用されたかを論じる上で、遺跡周辺の硬質頁岩の分布・産出状況を正確に把握しておくことは重要である。よって本章では、1992・93年の2度にわたって行われた慶應義塾大学による本遺跡別地点の発掘調査時に、筆者が調査計画の一環として行った遺跡周辺の硬質頁岩分布調査(渡辺 印刷中)をふまえて、遺跡周囲の硬質頁岩の分布・産出状況を述べることにする。

遺跡付近の表層地質をみると、その多くは月布泥岩部層に覆われている。この層は硬質頁岩を大量に内包することで知られる草薙層(隣接する秋田県では女川層)に比定され(山形県商工会議所1979)、同地域内の大入間川の現河床において硬質頁岩が多量に散布する事実はこの地質構造によると思われる。しかしながら、地質構造上、硬質頁岩が多量に散布することが予測されても、実際は細かな沢筋ごとにその分布状況が異なるとの報告もなされている(中村1986)。よってよりマイクロなレベルで遺跡周辺の硬質頁岩の分布状態を知るためには、遺跡周囲での硬質頁岩のより精緻な分布調査を行わなければならない。筆者が同遺跡周辺の硬質頁岩分布調査を行ったのは、まさにこの問題を解決するためであった。遺跡を中心として半径5km内の範囲において行われた分布調査の結果、硬質頁岩を産出し得るのは大入間川河床、お仲間林遺跡側中位段丘礫層(大入間川右岸)、そして対岸(左岸)の低位段丘礫層であることがわかった。大入間川の支流である征矢形沢川・小山川の現河床にはかなり軟質な頁岩が散布しているが、石器石材として利用可能な硬質頁岩はほとんど確認できない。更に本流寒河江川については、合流点より下流ではやや軟質な

頁岩を確認できたが、上流では採取する事はできなかった。以上の結果から考え、大入間川に散布する硬質頁岩の給源については、その最上流部に位置する獅畑山^{しばたけやま}付近と見て良いと考えられる。

(2) 遺跡出土原石と採取原石の比較検討

a 比較方法

前章において示した通り遺跡周辺で硬質頁岩の分布する場所は、大入間川現河床及び、お仲間林遺跡側中位段丘、対岸低位段丘である。お仲間林遺跡を形成した人々が石器製作を行うために硬質頁岩を採集したとすれば、それらの場所から採集した蓋然性が高いと考えられる。しかしながら、堆積岩が珪化作用を受けることにより生成される硬質頁岩は、黒曜石などとは異なり蛍光X線分析等の理化学的手法による産地推定が困難なため、正確な採集地点を特定することができない。それゆえ、遺跡周辺から硬質頁岩を採集することが可能であったとしても、そこから採集していたと確定することはできず、さらに本遺跡を形成した人々が如何なる石材採集活動を行っていたのかを論じることが困難である。よって本論では、前述した分布調査のデータを用いて理化学的分析とは異なる方法で、遺跡で出土する硬質頁岩がいかに採集されたかについて考察する。具体的には遺跡で出土した硬質頁岩原石の形態と、遺跡周辺で採取可能な硬質頁岩の形態を比較検討し、遺跡出土の硬質頁岩が遺跡周辺から如何なる形で採集されたのかを検討していく。

b 計測項目

比較検討の際に用いる計測項目は、岩石学で礫の磨滅度を示す円磨度と、礫形態の2つである。円磨度は礫の磨滅状態を示す尺度で、原石の全ての角に内接する円の半径の平均値を、内接する最大の半径で除した値である(第72図)。数値が0に近ければ近いほど、その原石は磨滅していない、いわゆる角礫ということになり、逆に数値が1に近いほどその原石は磨滅が進んだ円礫ということになる(Pettijohn 1975)。原石の磨滅度はこの数値によって角礫・亜角礫・亜円礫・円礫・超円礫の5段階に分けられる(第73図)。礫形態は原石の長径・中径・短径の3軸によって規定される尺度である。第74図に示す通り中径/長径、短径/中径の数値が双方とも $\frac{2}{3}$ 以上の場合には球状礫となり、逆に双方とも $\frac{2}{3}$ 以下の場合には葉状礫となる。そして中径/長径が $\frac{2}{3}$ 以上、短径/中径が $\frac{2}{3}$ 未満の場合には円盤状礫となり、その逆の場合は柱状礫ということになる。

c 計測対象

計測対象とした資料は、お仲間林遺跡出土資料については冒頭で述べた条件を満たす原石資料401点である。また、遺跡出土資料との比較のために、慶應義塾大学の分布調査の際に、大入間川の3地点〔A₁地点(寒河江川合流点より6.5km上流)、A₂地点(同5.3km)、A₃地点(同0.8km、遺跡直下)〕から採取した合計101点、段丘礫層の2地点〔B₁地点(大入間川右岸中位段丘)、B₂地点(大入間川左岸低位段丘)〕から採取した合計29点の硬質頁岩も同時に計測した。なお、大入間川、段丘礫層の硬質頁岩のサンプリングは以下の方法で行

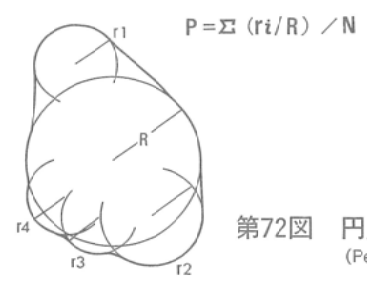
った。大入間川の場合、任意の地点から上流に向かって10m分の兩岸全体を採集区として設定した。幅は河川の状況によってやや異なるが概ね5m前後である。その約50m²の採集区の中から拳大以上の硬質頁岩を全て採取した。段丘礫層の場合も基本的に大入間川の場合に準じるが、対象の礫層を含むように10m×5mの採集区を設定し、同様の基準でサンプリングした。

d 計測結果

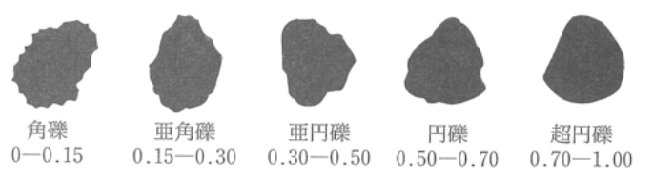
以上2つの項目について、お仲間林遺跡出土の硬質頁岩の原石、及び遺跡周辺で採集可能な硬質頁岩(大入間川3カ所、段丘礫層2カ所)の計測をおこなった結果が第75・76図である。礫形態については、各形態それぞれに分散し大きな差異は認められなかった(第75図-1~5)。それとは対照的に円磨度については各地点間かなりの差異が認められたので、主に円磨度を中心に記載しながら、遺跡出土の硬質頁岩と遺跡周辺で採集した硬質頁岩との関係について述べることにする。

円磨度について各地点の硬質頁岩を測定した結果、大入間川A₁・A₂地点は概ね0.3以下であり、角礫ないしは亜角礫に分類される(第76図-1, 2)。それに対してA₃地点は、円磨度0.3以下の角礫・亜角礫の割合が大きいの点ではA₁・A₂地点と共通した傾向を示すが、円磨度0.3以上の円礫が25%程度含まれるという点においてやや趣を異にする(第76図-3)。一方、段丘礫層で採集される硬質頁岩の円磨度については、大入間川採集の硬質頁岩が概ね角礫・亜角礫を主体とするのに対して、段丘礫層の双方(B₁, B₂地点)とも円磨度0.3以上の亜円礫・円礫を主体としている(第76図-4, 5)。しかし、後者の2地点においては微視的にはやや差がみられる。B₂地点の全点が亜円礫・円礫なのに対してB₁地点では若干の亜角礫が含まれる。しかしながらその割合は、同様に角礫・円礫の両方を含む大入間川A₃地点で角礫の割合が圧倒的に多いのに対して円礫が卓越する。次にお仲間林遺跡出土の硬質頁岩の原石をみると、全資料の89%が円磨度0.3以下の角礫・亜角礫であり、残りが0.3以上の亜円礫・円礫である(第76図-6)。角礫・亜角礫主体という内容は大入間川で採集可能な硬質頁岩の形態のグラフパターンに近似していると言える。更に詳しくみてみると、円礫・亜円礫を若干含んでいるという点において、遺跡直下に位置する大入間川A₃地点で採取した硬質頁岩の形態にやや近似していると言える。

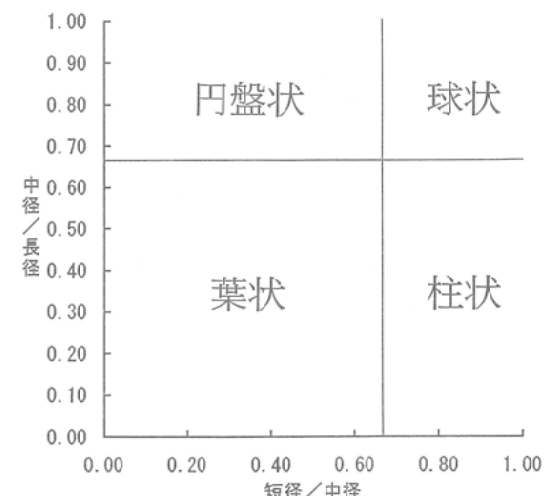
以上の分析結果からお仲間林遺跡における石材の採集傾向を考えると、次のようなことが言える。まず礫形態については明瞭な差異は認められなかったが、円磨度の面からみるとお仲間林遺跡出土の硬質頁岩の原石は段丘礫層よりも、大入間川から採取可能な硬質頁岩に近似した傾向をもつと言える。またあえて言えば大入間川の中でも、遺跡直下に位置するA₃地点で採取される硬質頁岩に近似している。このことより、仮に採集地点が単独であった場合、お仲間林遺跡を形成した人々は入間川の遺跡直下付近より硬質頁岩を採集していた可能性が高いと考えられる。一方、硬質頁岩を採集していた場所が複数であった場合も想定される。つまり、円磨度の高い硬質頁岩を主体とする段丘礫層と、逆に円磨度の低い硬質頁岩を主体とする大入間川の双方から硬質頁岩を採集していたとしても、遺



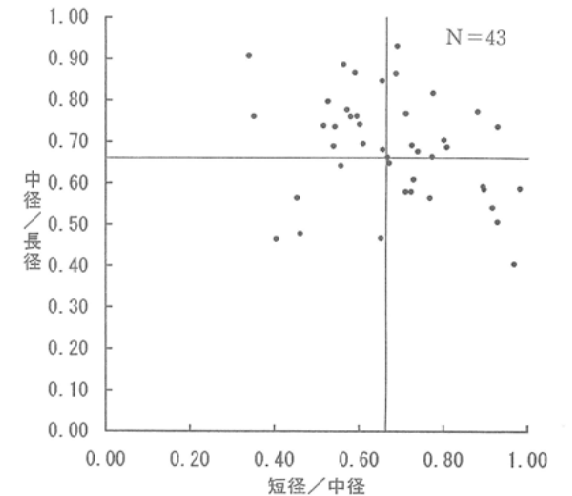
第72図 円磨度の測定法 (Pettijohn1975より)



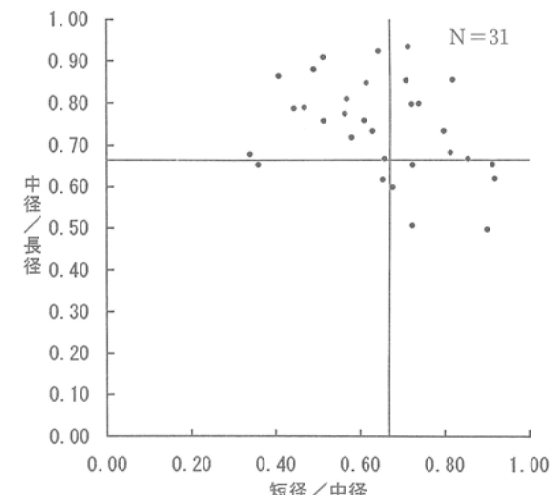
第73図 円磨の程度のクラス分け (Pettijohn1975より)



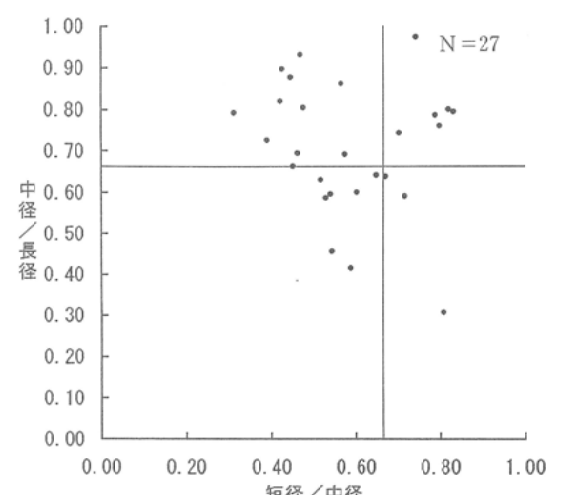
第74図 原石の形態概念図



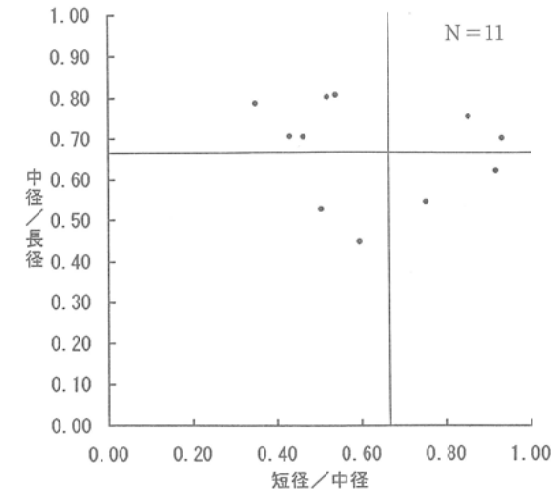
第75図一 大入間川 A 1 地点硬質頁岩の形態



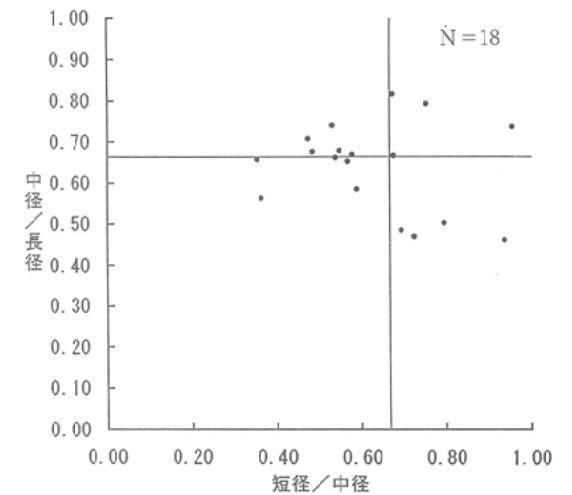
第75図二 大入間川 A 2 地点硬質頁岩の形態



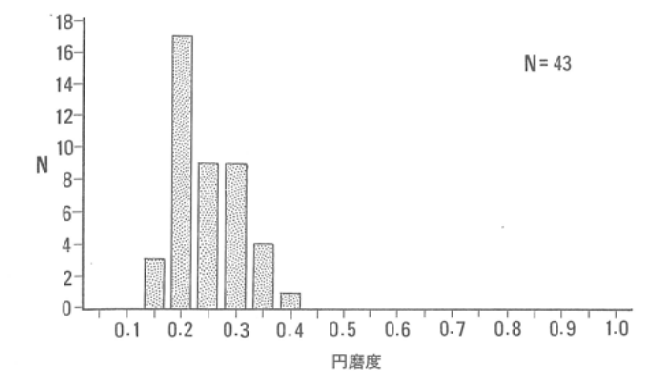
第75図三 大入間川 A 3 地点硬質頁岩の形態



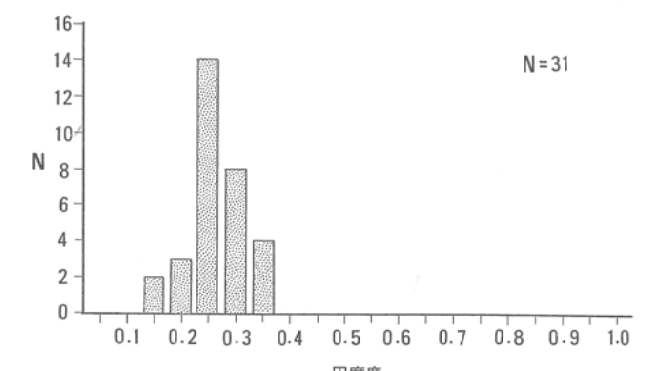
第75図四 段丘礫層 B 1 地点硬質頁岩の形態



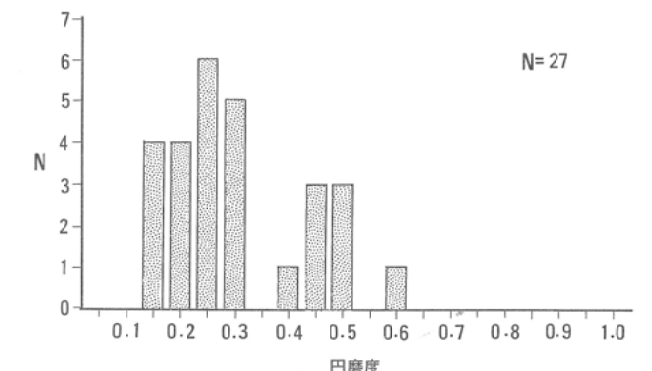
第75図五 段丘礫層 B 2 地点硬質頁岩の形態



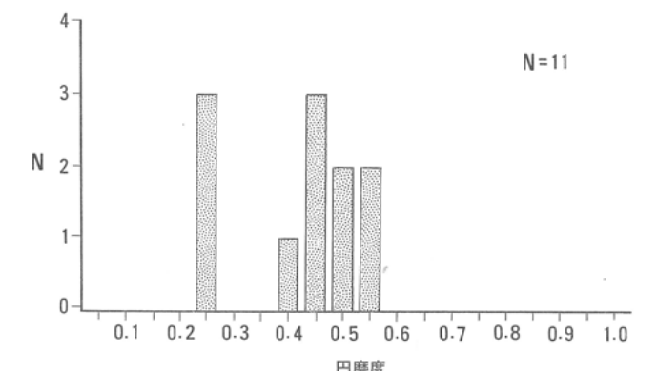
第76図一 大入間川 A 1 地点硬質頁岩の円磨度



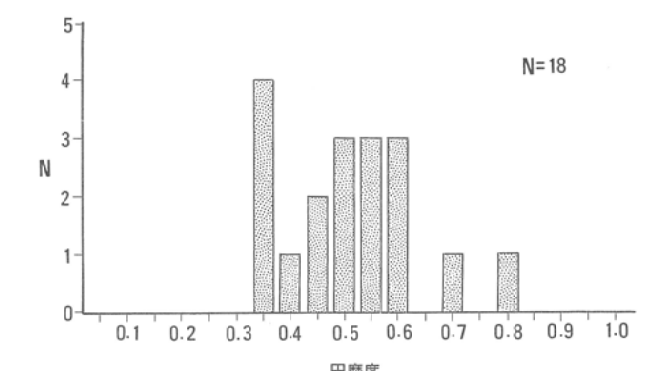
第76図二 大入間川 A 2 地点硬質頁岩の円磨度



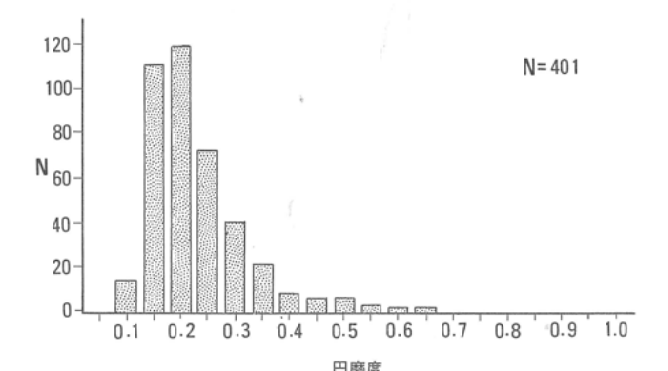
第76図三 大入間川 A 3 地点硬質頁岩の円磨度



第76図四 段丘礫層 B 1 地点硬質頁岩の円磨度



第76図五 段丘礫層 B 2 地点硬質頁岩の円磨度



第76図六 お仲間林遺跡出土硬質頁岩原石の円磨度

跡出土の硬質頁岩の表わすグラフパターンと同じパターンを描くのである。しかし、遺跡内で出土する硬質頁岩の原石の多くが、円磨度の低い角礫・亜角礫であるということを考えると、段丘礫層、大入間川の双方から硬質頁岩を採集していたとしても、大入間川に比重のかかった原石採取を行っていたと考えるのが妥当であるといえる。以上のことより、お仲間林遺跡を形成した人々の原石の採集行動は、大入間川に対する依存度の高いものであったと推測できる。

(3) 遺跡出土原石の性格とその利用

a 分析方法

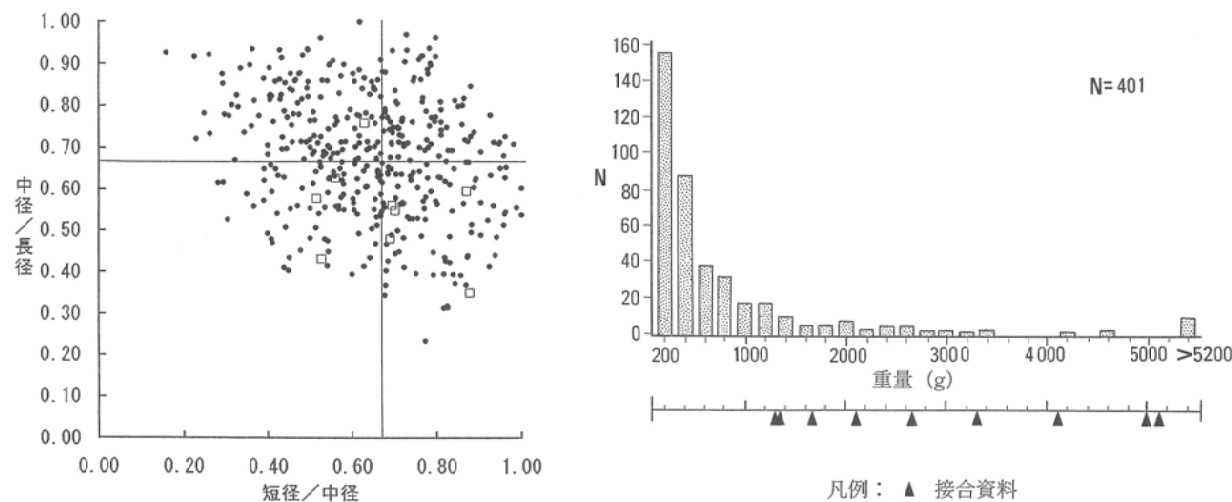
前章において、お仲間林遺跡を形成した人々がいかに遺跡周辺から硬質頁岩を採集していたかという点について述べたが、次に、遺跡内に搬入された硬質頁岩がいかに利用されていたかについて考察する。そこで本章では、前章ですでに紹介した遺跡出土の硬質頁岩と、遺跡で出土した接合資料のうち、元の原石に近い状態まで復元できた資料の比較検討を行う。本遺跡では、石器群の分析により、頻繁に180°の打面転位を繰り返しながら石刃を剥離するいわゆる石刃技法が、石器の素材剥片を製作する方法として最も卓越していることが明らかとなっている（阿部・五十嵐1991）。よって出土する硬質頁岩の原石は、石刃を製作する素材として遺跡内に搬入されたと考え、分析対象とする接合資料には、石刃技法の特徴が認められる資料を選んだ。分析項目については、前章で述べた礫形態の他に、重量をつけ加えた2項目とする。

b 遺跡で利用される硬質頁岩の原石の形態

遺跡内に搬入された原石と、接合資料中、元の原石に近い状態にまで接合できた資料の形態を第77図に示した。原石は球状礫が24%、円盤状礫が33%、柱状礫が24%、葉状礫が19%と、ほぼすべての形態の硬質頁岩が含まれている。それに対して、遺跡内に搬入された原石のうち、実際に石刃の剥離が行われた接合資料の形態を見てみると、遺跡に持ち込まれた原石の形態に比べ著しく偏った傾向をもつことがわかる。分析対象になった接合資料は本調査区から出土した接合資料6点、慶應義塾大学の調査区から出土した接合資料3点の合計9点であるが、そのうち5点が柱状礫で、球状礫は1点も含まれてはいなかった。以上の結果から考え、本遺跡で石刃技法を利用した石器製作を行うために使用される原石には、柱状礫が特に選択されていた可能性が高いと言える。

c 遺跡出土の硬質頁岩の原石の重量

次に、遺跡内に搬入された原石の重量を示したのが第78図である。この図からまず指摘できる点は、グラフのピークが200g付近にあり、以後重量が増えるに従って出現頻度が減



凡例：● 原石(N=401) □ 接合資料(N=9) 第78図 お仲間林遺跡出土硬質頁岩原石と接合資料の重量

第77図 お仲間林遺跡出土硬質頁岩原石と接合資料の形態

少することである。硬質頁岩で200gという値は、概ね大人の拳より小さい大きさであり、このグラフから見る限りにおいて、小型の資料が主として遺跡に搬入されたと認められる。それでは、石刃技法による剥離作業を行うに当たって適当な原石のサイズというのは、このように比較的小型で軽量のものであったのだろうか。この点を明らかにするために示したのが第77図中に記した、元の原石に近い状態にまで復元できた接合資料の重量である。遺跡内で出土した硬質頁岩の原石の重量が200gにピークをもつものに対して、接合資料の重量が最小で1220g、最大で5142gと、きわめて重いところに偏ることがわかる。どの資料も、接合する資料数が多いとはいえ、内部に接合しない空隙の部分もかなりあり、元の原石はさらに重量の大きいものであったことは十分予測される。いずれにしても遺跡で石刃技法を用いて石器製作を行うに当たっては、実際に遺跡内で出土した硬質頁岩の原石より、かなり大型の原石が利用されていたと考えられる。

d まとめ

以上、本遺跡で出土した硬質頁岩の原石について、形態及び重量の測定を行い、さらに本遺跡で卓越している石器製作技術である、石刃技法の認められる接合資料についても同様の検討を行った。その結果、形態・重量のどちらに関しても、遺跡に搬入された硬質頁岩の原石が搬入後、無作為にすべて使われているわけではないことがわかった。形態に関してみれば、bで述べた4種類の形態の中で特に柱状の原石ないしは、葉状の原石のうち比較的厚みのある原石が選択され利用されていることが明らかとなった。石刃技法による剥離を行う上で十分な法量の確保できない球状礫、円盤状礫、葉状礫に比較して、すでに石刃石核の形態を有している柱状礫が素材として最適であったからと考えられる。また、重量に関しても同様のことが言える。様々な重量の原石が遺跡内に搬入されながら、結局、重量の重い原石が利用されたのは、軽量の原石では十分な刃部長をもった石刃を製作することが困難であったためであろう。以上のことから、本遺跡では石刃技法によって石刃製作を行う上では素材になる原石の形態及び重量がきわめて重要な意味をもっていたと考えられる。

しかしながら、ここで重要な問題が提起される。つまり、実際には利用しないような形態・重量の原石をなぜ遺跡内に運び込んだのかという問題である。このことに関しては現状では、特に二つの解釈がとり得る。第一は、遺跡内に搬入され、実際には利用されなかったタイプの原石が、石刃製作以外の剥離目的で遺跡内に搬入されたという可能性である。しかしながら遺跡内で出土した石器資料及び接合資料の分析結果によると、石刃技法以外の方法で石器製作が行われていた可能性は現段階では非常に少ない。また、原石が石器製作以外の目的で用いられていた可能性も考えられるが、現状では遺跡内でそのような利用を示すような痕跡は見つかっていない。

第二の解釈は、重量の出現頻度を示す第78図から特に指摘できる。すなわちこの図に表された、重量の軽い方にピークをもつグラフパターンが、一回のみの搬入の結果ではなく、度重なる搬入の結果であるという解釈である。つまり、遺跡内に搬入された原石全体では、

もっと重量の重いところに偏るグラフパターンであったものが、石器製作に適した重量の重い原石が主に選択され、使用された結果、相対的に軽量の原石の割合が高くなったという見方である。そしてそのような原石の搬入・利用が繰り返されると、軽量の原石の割合がきわめて高いグラフパターンが形成されるというものである。この場合では、実際は使用されない形態（球状・円盤状・葉状）の原石が比較的多く遺跡内に存在するのも同様の要因によると考えることができる。この解釈の妥当性については、第一の解釈と同様に、直接的な証拠は得られていない。しかし、遺跡で出土した硬質頁岩製石器（原石を含む）の総重量が膨大な量で、一度のみの原石採取の結果とは考えられないこと、そして遺跡至近の大入間川からは多量の硬質頁岩の原石が産出し、繰り返しの原石採取が可能であることなども加えて考えると、より蓋然性が高いと言える。

結語

本分析では、お仲間林遺跡で出土した硬質頁岩が、遺跡周辺エリアからいかに遺跡に搬入され、そして遺跡内でいかに利用されたかの検討を行った。

前者の問題については、まず遺跡から出土した硬質頁岩の形態を把握するために、原石401点の円磨度・礫形態を測定した。ついで慶應義塾大学による遺跡周辺の硬質頁岩分布調査の結果にもとづき、遺跡周辺で採取可能な硬質頁岩の原石について同様の分析を行い、その後比較検討を行った。その結果、遺跡内から出土した硬質頁岩原石の形態が特に、遺跡至近に位置する大入間川で採取可能な硬質頁岩の形態に近似することがわかり、当遺跡に関わる原石採集活動は大入間川に非常に高く依存していた可能性が指摘できた。

次に後者の、遺跡内で搬入された原石が如何なる利用をされていたかという問題については、原石資料と、遺跡内で出土する接合資料について形態と重量の面から比較を行った。その結果、遺跡に搬入されたすべての形態・重量の資料が石器製作に供されていた訳ではなく、選択が行われた結果の、限定された形態・重量の原石が石器製作に利用されていた可能性を示し得た。さらに、実際には利用されなかったタイプの資料の割合が非常に高いことから、遺跡への原石の搬入は反復して行われたものであった可能性も指摘できた。

以上のような結果より、お仲間林遺跡を形成した人々が大入間川から繰り返して硬質頁岩原石の採取を行い、遺跡内へ搬入していたこと、そして、一度搬入した後も、二次的に選択して原石の利用を行っていた可能性が高いことが推定される。(渡辺丈彦)

参考文献

阿部祥人・五十嵐彰編 1991 『お仲間林遺跡1986』慶應義塾大学民族学考古学研究室小報 8
 中村由克 1986 「野尻湖・信濃川中流域の旧石器時代遺跡群と石器石材」『信濃』38-4
 山形県商工労働部商工課 1979 『左沢 5万分の1地質図幅説明書』
 Pettijohn, E. J. 1975 SEDIMENTARY ROCKS. HARPERS&BROTHERS

表-49 お仲間林遺跡出土硬質頁岩原石観察表(1)

No	地点	長径	中径	短径	形態	重量	円磨度	No	地点	長径	中径	短径	形態	重量	円磨度	No	地点	長径	中径	短径	形態	重量	円磨度
9	TT3	13.6	9.4	8.5	球形	760	0.27	600	B	22.6	13.1	9.2	柱状	3324	0.21	262	県	9.3	5.2	1.9	葉状	94	0.27
5	TT2	12.6	9.2	4.7	円盤	625	0.17	228	C	10.6	8.4	5.0	円盤	440	0.15	263	県	6.6	3.7	2.1	葉状	74	0.22
19	TT4	7.9	5.1	3.2	葉状	110	0.18	235	C	12.4	8.4	5.8	球形	661	0.13	296	県	18.3	7.2	5.7	柱状	820	0.19
1	RO	12.0	10.8	5.9	円盤	873	0.15	239	D	12.8	8.2	5.6	柱状	456	0.12	359	県	8.2	4.1	2.9	柱状	106	0.25
2	RO	14.7	13.1	5.3	円盤	910	0.16	241	D	6.8	5.6	2.3	円盤	56	0.19	364	県	6.2	3.5	2.5	柱状	81	0.63
3	RO	14.2	12.3	4.8	円盤	1175	0.18	245	D	12.2	5.3	3.4	葉状	239	0.29	365	県	8.3	4.6	2.3	葉状	76	0.24
4	RO	7.3	6.4	2.9	円盤	140	0.25	248	D	8.6	5.6	3.2	葉状	169	0.16	422	県	29.5	20.7	15.7	球形	9680	0.20
5	RO	24.9	11.3	5.4	葉状	2160	0.23	249	D	8.2	6.4	1.9	円盤	116	0.15	442	県	19.4	12.8	5.2	葉状	1190	0.20
6	RO	8.4	6.0	5.6	球形	280	0.42	247	D	6.8	5.8	1.7	円盤	74	0.18	444	県	9.9	6.2	3.8	葉状	181	0.21
7	RO	7.4	6.9	4.8	球形	160	0.49	4	G	11.0	6.1	4.7	柱状	337	0.33	455	県	12.8	10.0	4.6	円盤	593	0.11
8	RO	19.4	11.4	6.6	葉状	1360	0.52	449	G	14.2	9.6	5.9	円盤	772	0.24	456	県	10.4	8.6	3.5	円盤	265	0.18
10	RO	12.9	9.6	6.6	球形	810	0.16	450	G	12.2	6.8	4.6	柱状	489	0.23	457	県	10.8	7.1	4.5	葉状	380	0.20
11	RO	12.9	7.3	6.3	柱状	650	0.54	454	G	14.3	12.3	5.7	円盤	791	0.09	602	県	13.8	7.9	6.3	柱状	850	0.29
12	RO	12.0	10.1	6.3	円盤	690	0.21	667	G	20.0	9.0	6.0	柱状	1192	0.25	605	県	7.9	5.3	3.9	球形	137	0.17
13	RO	15.9	12.3	8.4	球形	1730	0.19	767	G	10.6	9.7	4.2	円盤	272	0.13	607	県	12.8	5.7	4.0	柱状	261	0.19
14	RO	16.2	13.9	6.9	円盤	1450	0.35	773	G	9.8	8.6	6.7	球形	584	0.11	610	県	19.4	7.6	6.5	柱状	810	0.31
15	RO	12.1	9.6	6.5	球形	720	0.15	778	G	22.2	14.9	4.8	円盤	946	0.12	612	県	16.9	8.4	7.4	柱状	1010	0.28
16	RO	8.4	5.5	5.3	球形	210	0.29	261	H	15.1	10.1	8.3	球形	1230	0.12	615	県	15.9	14.3	7.3	円盤	1890	0.20
17	RO	8.6	7.9	6.3	球形	340	0.28	358	I	8.1	7.8	4.1	円盤	150	0.11	616	県	14.1	12.8	8.1	円盤	1240	0.21
18	RO	6.3	4.5	3.2	球形	100	0.25	367	J	9.1	5.7	3.1	葉状	142	0.11	639	県	7.3	5.7	2.7	円盤	94	0.20
19	RO	16.0	5.1	4.2	柱状	350	0.37	316	K	13.4	9.6	6.1	円盤	631	0.08	640	県	11.4	8.3	7.3	球形	523	0.46
20	RO	18.0	13.3	11.8	球形	2600	0.16	620	L	9.2	6.0	5.7	柱状	345	0.23	645	県	9.8	8.8	4.8	円盤	368	0.11
21	RO	13.8	9.2	5.3	円盤	700	0.28	3	M	8.4	7.3	4.5	円盤	331	0.10	646	県	11.9	9.2	4.1	円盤	501	0.11
22	RO	12.6	9.4	5.1	円盤	460	0.14	7	M	10.4	7.0	4.6	球形	326	0.18	649	県	20.8	16.4	12.7	球形	4520	0.12
23	RO	15.2	12.5	6.2	円盤	1380	0.18	332	M	11.4	9.1	3.0	円盤	182	0.13	666	県	10.0	8.1	6.2	球形	569	0.46
24	RO	31.2	9.8	8.0	柱状	3020	0.17	337	M	8.1	6.1	2.2	円盤	99	0.16	669	県	9.2	4.0	1.8	葉状	77	0.42
25	RO	11.9	10.0	6.5	円盤	750	0.17	338	M	11.7	4.8	2.1	葉状	100	0.16	730	県	17.6	14.6	8.3	円盤	1890	0.13
26	RO	9.8	5.6	4.3	柱状	220	0.31	336	M	14.3	6.3	5.5	柱状	499	0.20	732	県	14.1	9.8	8.1	球形	1080	0.17
27	RO	17.8	11.2	4.9	葉状	1120	0.14	342	N	11.5	6.1	4.6	柱状	214	0.14	741	県	26.2	14.6	7.8	葉状	2940	0.14
28	RO	18.7	15.0	12.9	球形	4500	0.14	348	N	8.8	6.8	4.0	円盤	198	0.20	748	県	7.9	4.8	3.4	柱状	167	0.30
29	RO	12.9	11.9	3.1	円盤	440	0.17	617	P	8.7	5.4	3.6	柱状	189	0.10	749	県	13.8	9.7	5.9	円盤	995	0.14
30	RO	18.4	10.9	5.9	葉状	1150	0.23	5	Q	6.2	5.2	3.4	円盤	113	0.25	752	県	5.8	4.3	2.9	球形	74	0.46
31	RO	10.7	6.3	4.2	柱状	258	0.11	12	Q	10.0	7.2	3.6	円盤	228	0.09	760	県	18.5	11.8	8.3	柱状	1940	0.17
32	RO	28.7	12.9	7.0	葉状	2550	0.13	1	S	14.4	7.9	6.6	柱状	792	0.15	771	県	7.1	5.7	1.8	円盤	65	0.33
33	RO	28.5	26.2	20.1	球形	14100	0.10	2	S	15.0	7.9	2.4	葉状	325	0.14	774	県	10.5	7.5	4.3	円盤	305	0.09
34	RO	14.2	11.5	8.1	球形	1190	0.17	4	S	6.0	3.8	2.8	柱状	62	0.19	775	県	11.2	7.2	3.7	葉状	222	0.23
35	RO	9.4	5.7	3.6	葉状	250	0.21	6	S	4.4	3.3	2.3	球形	27	0.18	776	県	18.1	9.8	9.4	柱状	2140	0.27
36	RO	13.8	9.8	6.8	球形	1060	0.16	7	S	6.9	3.5	1.8	葉状	57	0.18	787	県	7.7	5.5	2.7	円盤	97	0.20
37	RO	9.8	7.0	3.2	円盤	140	0.23	8	S	13.6	12.7	6.3	円盤	1012	0.13	870	県	10.1	4.4	3.6	柱状	123	0.34
38	RO	17.2	14.4	10.1	球形	1940	0.19	9	S	11.3	7.9	3.5	円盤	296	0.13	871	県	11.4	6.3	4.1	葉状	293	0.43
39	RO	13.9	10.8	4.1	円盤	540	0.16	10	S	5.2	3.2	0.9	葉状	17	0.31	936	県	32.9	20.4	16.7	柱状	19100	0.33
40	RO	17.1	13.8	6.5	円盤	1330	0.17	14	S	10.8	5.7	4.4	柱状	242	0.20	937	県	15.8	12.9	8.2	円盤	1190	0.13
41	RO	19.6	12.2	9.0	柱状	2550	0.18	18	S	7.6	2.8	1.9	柱状	49	0.22	938	県	41.7	27.3	18.7	柱状	23400	0.24
42	RO	7.5	5.9	4.0	球形	210	0.32	19	S	10.6	5.2	3.6	柱状	221	0.14	991	県	27.6	15.6	12.5	柱状	6900	0.13
43	RO	22.1	12.1	8.1	柱状	2280	0.27	21	S	5.1	3.9	2.8	球形	54	0.23	992	県	9.1	8.5	8.2	球形	324	0.17
44	RO	12.6	11.6	5.6	円盤	880	0.15	23	S	7.3	5.3	2.3	円盤	110	0.16	993	県	13.5	8.2	5.2	葉状	500	0.16
45	RO	14.7	13.8	10.8	球形	1940	0.17	24	S	13.1	7.1	3.7	葉状	296	0.24	995	県	4.8	3.2	2.8	球形	51	0.28
46	RO	12.1	10.6	3.1	円盤	800	0.26	25	S	6.7	4.8	2.3	円盤	55	0.18	1019	県	7.6	4.3	3.1	柱状	119	0.14
47	RO	10.4	7.1	6.8	球形	430	0.19	26	S	12.1	8.3	4.2	円盤	411	0.21	1037	県	9.5	8.8	1.4	円盤	156	0.27
48	RO	17.6	12.1	6.5	円盤	1190	0.11	27	S	29.7	21.8	5.7	円盤	4093	0.13	1048	県	14.9	8.3	8.2	柱状	1375	0.42
49	RO	12.1	11.1	2.5	円盤	160	0.30	28	S	6.3	4.2	2.2	円盤	60	0.13	1057	県	5.5	4.2	3.4	球形	77	0.28
50	RO	13.7	9.3	6.6	球形	820	0.32	294	U	27.4	21.2	16.7	球形	9750	0.10	1121	県	5.8	5.0	3.3	円盤	70	0.14
51	RO	17.8	12.7	8.8	球形	1740	0.16	1	県	9.4	3.8	1.7	葉状	78	0.27	1128	県	6.7	4.8	2.8	円盤	67	0.13
52	RO	27.3	17.4	11.9	柱状	6350	0.14	3	県	15.7	12.9	8.6	球形	1725	0.13	1131	県	11.9	5.6	2.3	葉状	178	0.18
54	RO	8.1	4.6	3.6	球形	110	0.25	3	県	18.1	9.3	8.9	柱状	1290	0.25	1135	県	6.8	4.7	2.4	円盤	70	0.18
55	RO	7.1	6.3	4.9	球形	190	0.23	6	県	17.7	15.0	13.2	球形	2800	0.11	1143	県	6.7	3.7	2.1	葉状	50	0.19
56	RO	8.1	5.1	4.9	柱状	190	0.32	17	県	17.1	14.0	12.1	球形	2400	0.14	1152	県	6.2	2.9	1.9	葉状	50	0.59
57	RO	12.9	9.8	6.4	円盤	740	0.49	27	県	13.6	11.8	8.8	球形	1350	0.27	1160	県						

表一50 お仲間林遺跡出土硬質頁岩原石観察表(2)

No	地点	長径	中径	短径	形態	重量	円磨度	No	地点	長径	中径	短径	形態	重量	円磨度	No	地点	長径	中径	短径	形態	重量	円磨度
1354	県	18.7	15.2	5.6	円盤	1742	0.07	3514	県	10.3	6.7	2.8	葉状	198	0.15	6322	県	14.7	8.1	4.7	葉状	634	0.10
1369	県	7.2	5.8	4.1	球形	180	0.15	3517	県	17.7	11.6	6.1	葉状	1056	0.12	6325	県	9.4	2.2	1.7	柱状	41	0.46
1370	県	11.1	4.7	3.9	柱状	235	0.24	3561	県	5.2	4.1	1.8	円盤	46	0.20	6327	県	8.6	7.4	4.0	円盤	346	0.20
1384	県	7.0	5.0	3.3	円盤	112	0.22	3562	県	7.4	3.8	2.5	葉状	80	0.33	6363	県	17.8	10.1	6.8	柱状	1207	0.12
1388	県	6.4	5.3	3.4	円盤	118	0.15	3563	県	11.9	8.9	6.3	球形	636	0.14	6667	県	8.3	5.7	3.8	球形	178	0.19
1463	県	10.8	7.3	4.0	葉状	310	0.19	3565	県	6.9	4.8	3.7	球形	96	0.26	6669	県	6.3	4.1	1.6	葉状	49	0.15
1505	県	13.5	11.9	8.0	球形	1279	0.08	3569	県	9.9	7.1	6.2	球形	389	0.20	6672	県	10.5	6.1	3.5	葉状	174	0.17
1507	県	8.4	6.9	4.6	球形	290	0.21	3571	県	12.4	7.6	4.4	葉状	496	0.22	6673	県	17.2	9.3	5.7	葉状	746	0.14
1508	県	8.5	5.4	3.6	柱状	151	0.17	3597	県	15.7	6.7	5.5	柱状	628	0.20	6678	県	6.8	6.2	4.7	球形	190	0.15
1515	県	15.3	8.3	3.5	葉状	193	0.10	3599	県	11.4	7.6	6.8	球形	609	0.28	6679	県	11.6	7.3	5.9	柱状	438	0.15
1526	県	7.5	5.9	3.0	円盤	127	0.16	3626	県	10.2	7.1	4.5	円盤	264	0.14	6681	県	11.9	7.9	5.3	球形	540	0.17
1531	県	8.9	3.8	2.6	柱状	80	0.23	3707	県	9.0	6.8	3.8	円盤	250	0.21	6683	県	5.5	4.0	2.1	円盤	52	0.17
1532	県	13.1	5.4	3.9	円盤	280	0.38	3730	県	9.8	6.4	4.4	柱状	217	0.38	6689	県	7.3	5.2	2.7	円盤	92	0.27
1533	県	17.9	7.9	7.4	柱状	1050	0.20	3921	県	10.9	4.3	3.6	球形	190	0.24	6690	県	7.0	5.7	4.8	球形	240	0.14
1543	県	5.2	3.3	1.4	葉状	26	0.30	3926	県	14.9	7.3	6.6	柱状	724	0.16	6691	県	10.0	7.3	4.5	円盤	282	0.10
1681	県	10.1	5.4	3.6	柱状	170	0.25	3927	県	16.1	11.5	10.9	球形	2440	0.20	6692	県	10.2	3.8	3.2	柱状	163	0.13
1737	県	24.9	12.3	4.9	葉状	1856	0.12	3928	県	20.1	9.4	6.4	円盤	1040	0.25	6704	県	7.3	6.3	4.8	球形	246	0.18
1753	県	7.5	7.0	3.0	円盤	180	0.23	3962	県	7.4	6.5	3.1	円盤	127	0.17	6705	県	9.9	3.4	2.3	柱状	101	0.41
1879	県	6.7	4.3	3.2	柱状	77	0.27	4002	県	8.9	3.7	2.0	葉状	70	0.24	6708	県	5.3	4.7	2.9	円盤	67	0.17
1914	県	7.1	6.0	3.9	円盤	164	0.21	4006	県	14.8	7.1	2.9	葉状	303	0.14	6722	県	8.4	5.9	4.6	球形	254	0.16
1923	県	15.2	10.8	10.6	球形	1996	0.30	4010	県	6.2	2.5	1.7	柱状	30	0.24	6745	県	9.5	4.8	3.1	葉状	107	0.20
1927	県	9.3	8.7	4.3	円盤	353	0.12	4012	県	9.7	5.3	5.1	球形	271	0.28	6746	県	5.1	3.9	3.1	球形	63	0.22
1957	県	13.1	7.0	4.6	葉状	452	0.24	4015	県	9.3	6.7	5.8	球形	418	0.16	6750	県	6.6	4.1	1.6	葉状	46	0.15
2001	県	6.5	5.7	2.7	円盤	109	0.11	4024	県	9.4	5.8	1.7	葉状	84	0.20	6751	県	14.7	8.9	7.9	柱状	765	0.14
2003	県	19.1	11.9	10.6	柱状	2268	0.17	4025	県	12.3	5.1	3.2	葉状	237	0.24	6757	県	5.0	4.2	1.9	円盤	41	0.22
2134	県	6.8	4.8	2.6	円盤	79	0.14	4027	県	22.4	13.5	6.5	葉状	1744	0.12	6758	県	11.4	4.5	2.7	葉状	188	0.35
2136	県	10.3	5.9	2.3	葉状	151	0.13	4077	県	14.7	13.5	10.3	球形	1490	0.12	6759	県	9.4	6.4	3.4	円盤	223	0.12
2221	県	5.6	4.8	3.1	円盤	71	0.15	4139	県	11.0	8.4	5.8	球形	481	0.13	6764	県	8.4	5.3	3.5	葉状	160	0.19
2222	県	7.8	6.7	2.8	円盤	148	0.25	4140	県	10.2	7.2	5.2	球形	345	0.20	6765	県	12.1	5.9	4.5	柱状	365	0.24
2262	県	10.6	9.3	5.6	円盤	470	0.08	4319	県	8.2	5.3	3.5	葉状	164	0.07	6767	県	10.1	6.8	3.3	円盤	195	0.12
2263	県	9.0	5.8	4.4	柱状	231	0.35	4329	県	9.0	7.8	4.9	円盤	359	0.11	6769	県	6.4	4.8	3.4	球形	162	0.14
2312	県	12.6	9.3	3.2	円盤	372	0.20	4338	県	12.1	9.4	2.9	円盤	379	0.20	6773	県	9.6	3.8	3.1	柱状	96	0.17
2313	県	17.5	9.8	4.6	葉状	778	0.15	4786	県	6.5	4.1	3.3	柱状	83	0.11	6779	県	12.5	7.1	5.1	柱状	279	0.12
2337	県	5.9	3.7	3.3	柱状	78	0.27	4835	県	7.1	5.2	3.7	球形	156	0.20	6780	県	10.5	5.9	5.5	柱状	324	0.14
2386	県	3.4	3.3	2.4	球形	28	0.24	4858	県	10.5	6.7	4.8	柱状	333	0.11	6783	県	10.7	7.5	4.8	円盤	449	0.26
2513	県	10.7	4.8	3.8	柱状	190	0.53	4953	県	9.6	8.7	6.3	球形	484	0.17	6784	県	7.6	5.4	3.9	球形	148	0.16
2516	県	9.9	5.1	4.5	柱状	234	0.18	4957	県	8.9	4.3	3.1	柱状	126	0.22	6785	県	7.2	3.9	2.6	柱状	88	0.16
2538	県	6.0	3.9	2.7	柱状	90	0.29	4964	県	12.4	10.8	6.2	円盤	608	0.12	6787	県	11.4	9.3	4.0	円盤	347	0.17
2544	県	9.7	7.6	4.8	円盤	296	0.18	4965	県	11.2	7.8	4.5	円盤	428	0.15	6802	県	9.6	5.7	3.5	葉状	185	0.34
2564	県	6.7	4.1	3.4	柱状	74	0.17	4966	県	12.8	9.6	7.9	球形	859	0.19	7106	県	5.6	3.6	2.0	葉状	55	0.26
2570	県	17.4	12.1	10.1	球形	2250	0.22	4967	県	10.8	8.9	3.6	円盤	399	0.13	7107	県	11.6	9.4	7.6	柱状	850	0.19
2576	県	6.3	4.6	3.3	球形	78	0.11	4968	県	9.5	5.0	4.6	柱状	207	0.20	7111	県	11.2	6.6	2.3	葉状	155	0.14
2578	県	17.7	15.9	12.5	球形	3360	0.20	4971	県	10.9	6.2	5.6	柱状	420	0.23	7317	県	8.5	4.9	3.2	葉状	110	0.22
2584	県	7.3	6.3	2.7	円盤	116	0.12	4984	県	10.3	3.8	3.3	柱状	112	0.36	7329	県	16.1	10.2	5.7	葉状	959	0.13
2602	県	18.1	8.8	7.3	柱状	1442	0.18	4989	県	7.7	5.3	3.0	円盤	138	0.23	7330	県	8.6	6.7	4.1	円盤	213	0.22
2662	県	11.8	6.3	4.6	柱状	375	0.20	4992	県	8.6	5.4	4.2	柱状	195	0.19	7359	県	10.9	6.7	3.4	葉状	316	0.12
2679	県	12.7	10.9	6.6	円盤	771	0.32	5006	県	7.9	6.8	3.6	円盤	156	0.14	7597	県	8.6	6.3	5.1	球形	263	0.12
2682	県	15.7	6.5	6.0	柱状	740	0.39	5007	県	6.6	4.7	2.9	円盤	84	0.19	7606	県	13.1	5.2	3.9	柱状	270	0.16
2686	県	10.7	8.2	4.2	円盤	315	0.15	5008	県	7.8	5.8	4.7	球形	191	0.13	7619	県	5.3	4.2	3.4	球形	82	0.15
2691	県	12.4	9.7	2.4	円盤	330	0.23	5011	県	16.0	7.0	6.1	柱状	855	0.18	7624	県	11.2	5.4	2.7	葉状	196	0.10
2692	県	9.2	6.5	2.6	円盤	220	0.25	5012	県	7.8	5.0	3.3	葉状	118	0.23	7627	県	8.6	6.7	6.2	球形	349	0.15
2701	県	7.8	7.0	2.5	円盤	140	0.30	5016	県	13.8	9.8	7.7	球形	1197	0.16	X-1	県	7.5	5.6	3.4	円盤	138	0.17
2717	県	9.0	6.8	3.1	円盤	210	0.23	5017	県	14.0	10.2	9.8	球形	1519	0.13	X-0	県	16.4	14.6	4.9	円盤	780	0.10
2721	県	7.8	4.3	2.6	葉状	84	0.24	5026	県	16.5	14.9	11.7	球形	2479	0.14								
2722	県	5.1	3.9	2.2	円盤	45	0.11	5028	県	12.5	10.0	8.5	球形	862	0.20								
2730	県	10.6	8.2	5.5	球形	490	0.19	5032	県	7.8	5.8	4.3	球形	152	0.25								
2748	県	9.4	7.7	5.9	球形	510	0.20	5033	県	5.0	4.3	3.2	球形	72	0.16								
2749	県	8.6	7.2	3.3	円盤	205	0.18	5040	県	12.5	8.9	6.5	球形	680	0.14								
2817	県	9.2	8.1	5.5	球形	344	0.13	5044	県	8.3	6.4	4.6	球形	276	0.21								
2866	県	5.5	5.5	3.4	円盤	98	0.15	5386	県	4.8	2.9	2.9	柱状	41	0.22								
2941	県	16.8	8.9	6.6	柱状	850	0.14	5401	県	9.4	5.6	4.4	柱状	262	0.22								
3251	県	9.7	7.9	3.2	円盤	154	0.14	5713	県	9.2	6.1	3.7	葉状	163	0.20								
3362	県	11.4	6.9	5.2	柱状	445	0.14	5762	県	13.5	7.8	4.7	葉状	550	0.20								
3363	県	6.8	4.7	2.5	円盤	90	0.44	5763	県	11.1	8.3	5.9	球形	459	0.14								

報告書抄録

ふりがな	おなかまばやしせいせきはつくつちようきほうこくしょ							
書名	お仲間林遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第20集							
編著者名	佐藤 庄一・黒坂 雅人							
編集機関	財団法人 山形県埋蔵文化財センター							
所在地	〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL0236-72-5301							
発行年月日	西暦1995年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おなかまばやし お仲間林	山形県西村 山郡西川町 大字入間字 兵助新田 2677・1554-2	6322	491	38度 25分 42秒	140度 4分 57秒	19930512～ 19930729	1,080	最上川水系 寒河江川直 轄砂防事業 に係る入間 ダム工事用 道路建設事 業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
お仲間林	集落跡	旧石器時代 縄文時代	集石遺構 1 竪穴住居跡 1棟	石核 石刃 剥片 縄文土器片		旧石器時代後期の集 落跡。大入間川産の 頁岩原石に依拠し、 多量の石刃生産をお こなった原産地型の 遺跡。		

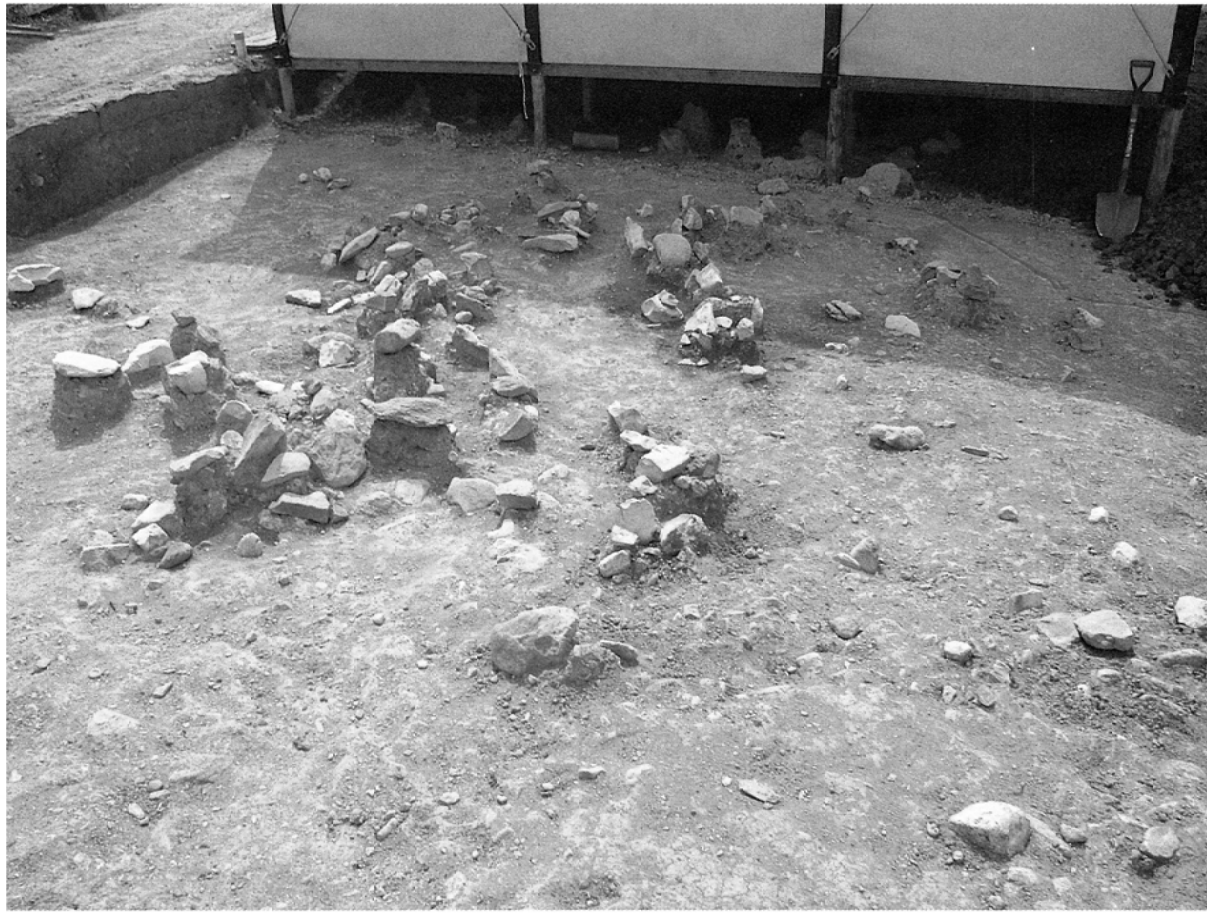
図 版



Aブロック石刃出土状況(東から)



Aブロック遺物出土状況(北から)



集石(頁岩原石)遺構検出状況(東から)



集石(頁岩原石)遺構検出状況(北東から)



G-93区頁岩原石出土状況(西から)



A区東壁土層断面(北西から)



P・S-95~98区付近調査状況(西から)



L・M-96区土層断面(西から)



V・W-97・98区遺物出土状況(南から)



X・Y-99・100区遺物出土状況(南東から)



R-95区(Cブロック)遺物出土状況(東から)



R-95区土層断面(東から)



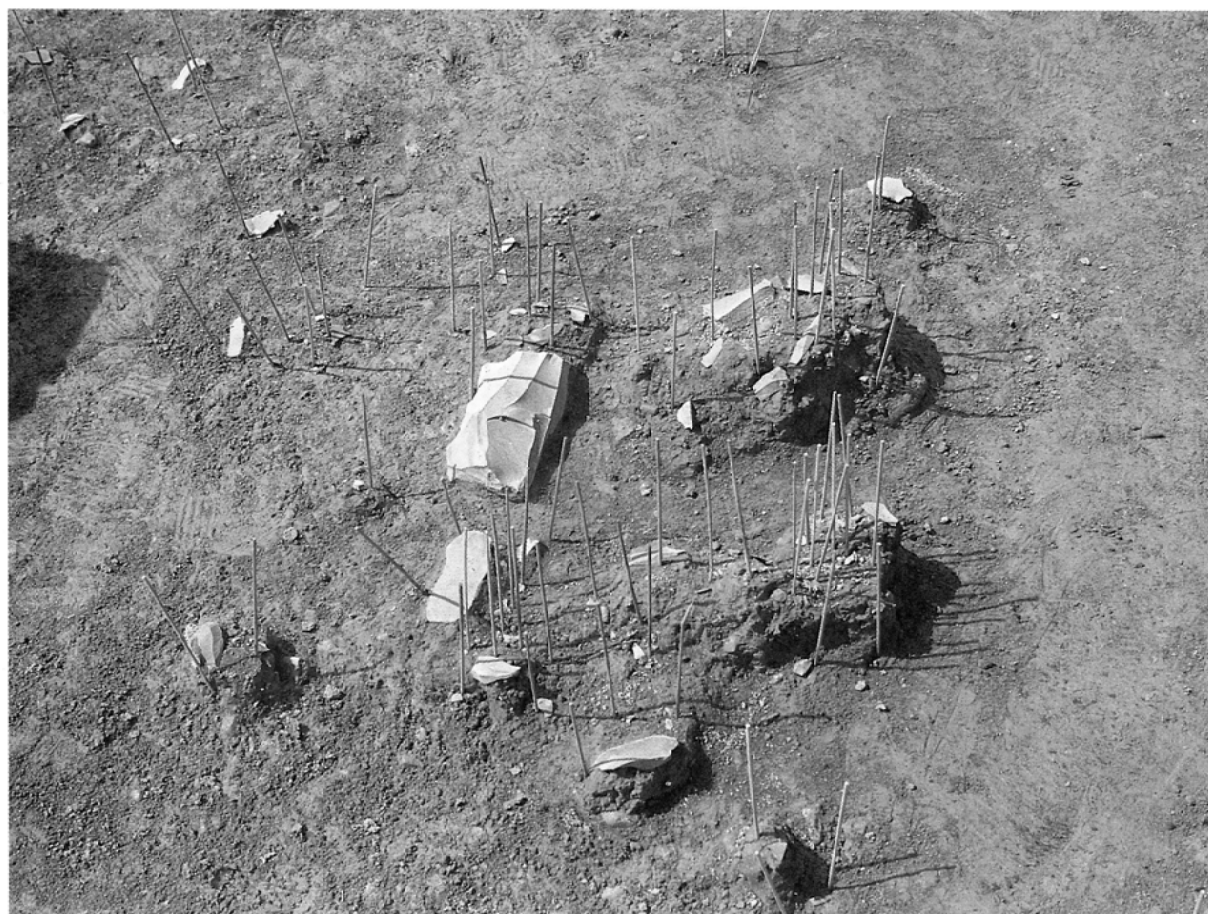
Z~AC-97~100区付近作業状況(北から)



Z~AB-99区(Eブロック)遺物出土状況(南東から)



EブロックII～III層上面遺物出土状況(北西から)



EブロックIII層上面遺物出土状況(北東から)



Eブロック作業状況(東から)



EブロックIII層遺物出土状況(北西から)



EブロックIII層遺物出土状況(南東から)



Z~AC-100区土層断面(南から)



AH-2区(Gブロック)遺物出土状況(南東から)



Gブロック遺物出土状況(南から)



AG-1・2区土層断面(西から)



AI-99区(Fブロック)遺物出土状況(北から)



Fブロック遺物出土状況(北西から)



Fブロック遺物出土状況(北西から)



Fブロック作業状況(南から)



Fブロック遺物出土状況(北から)



AL~AO-98~100区付近作業状況(西から)



AL-100区深掘土層断面(南西から)



ST 1 完掘状況(南西から)



ST 1 土層断面(南から)



SK 2 土層断面(南東から)



SK 2 完掘状況(北東から)



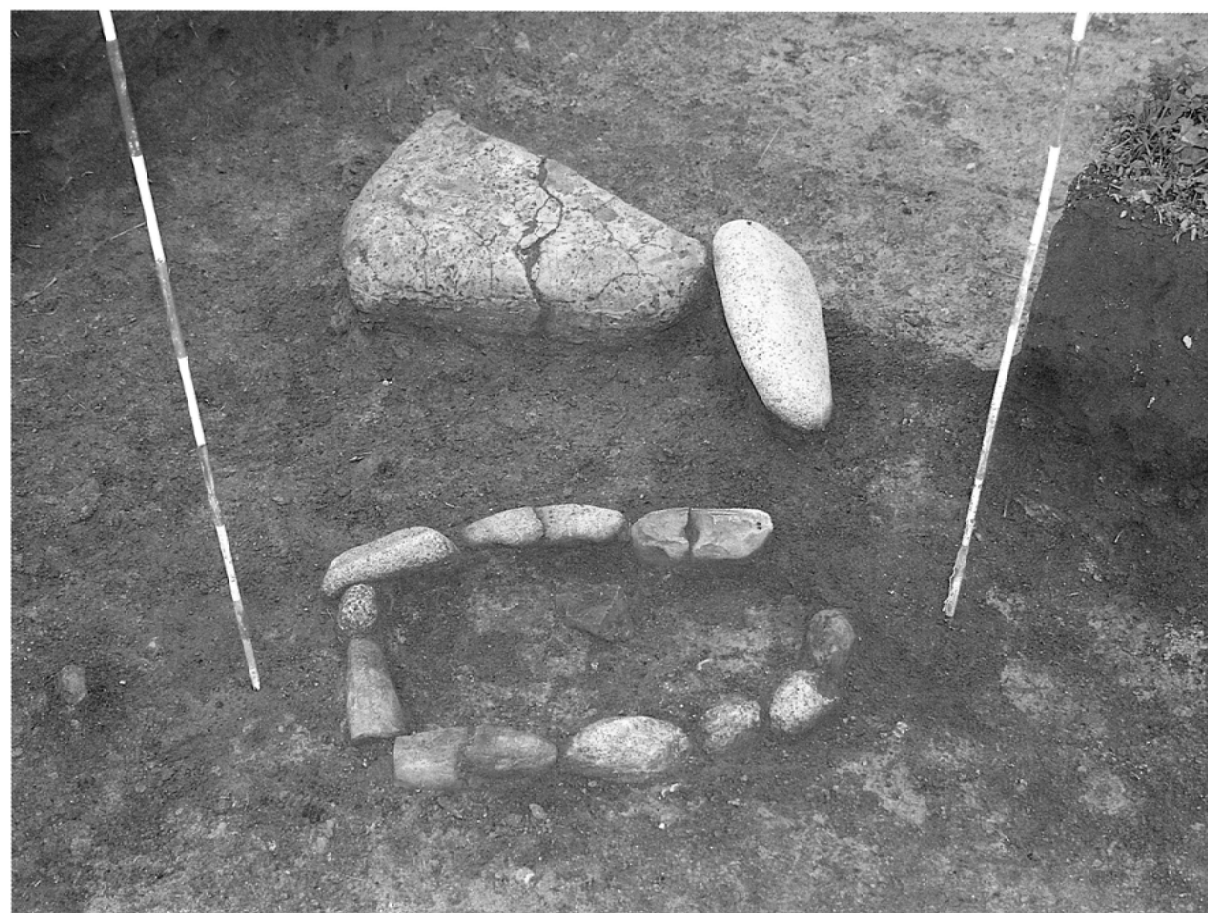
SK 4 完掘状況(南東から)



SL 5 検出状況(北から)



SL 5 土層断面(西から)



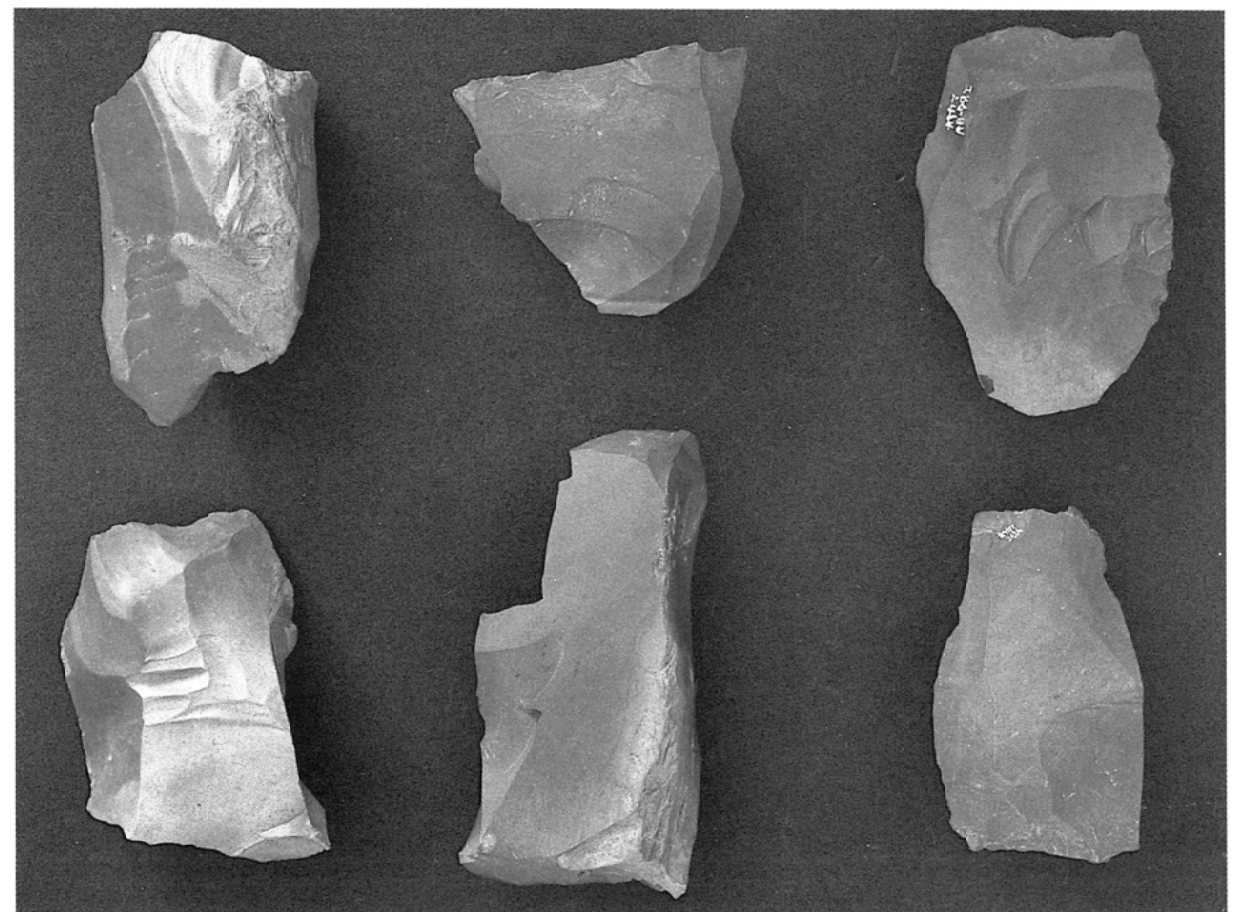
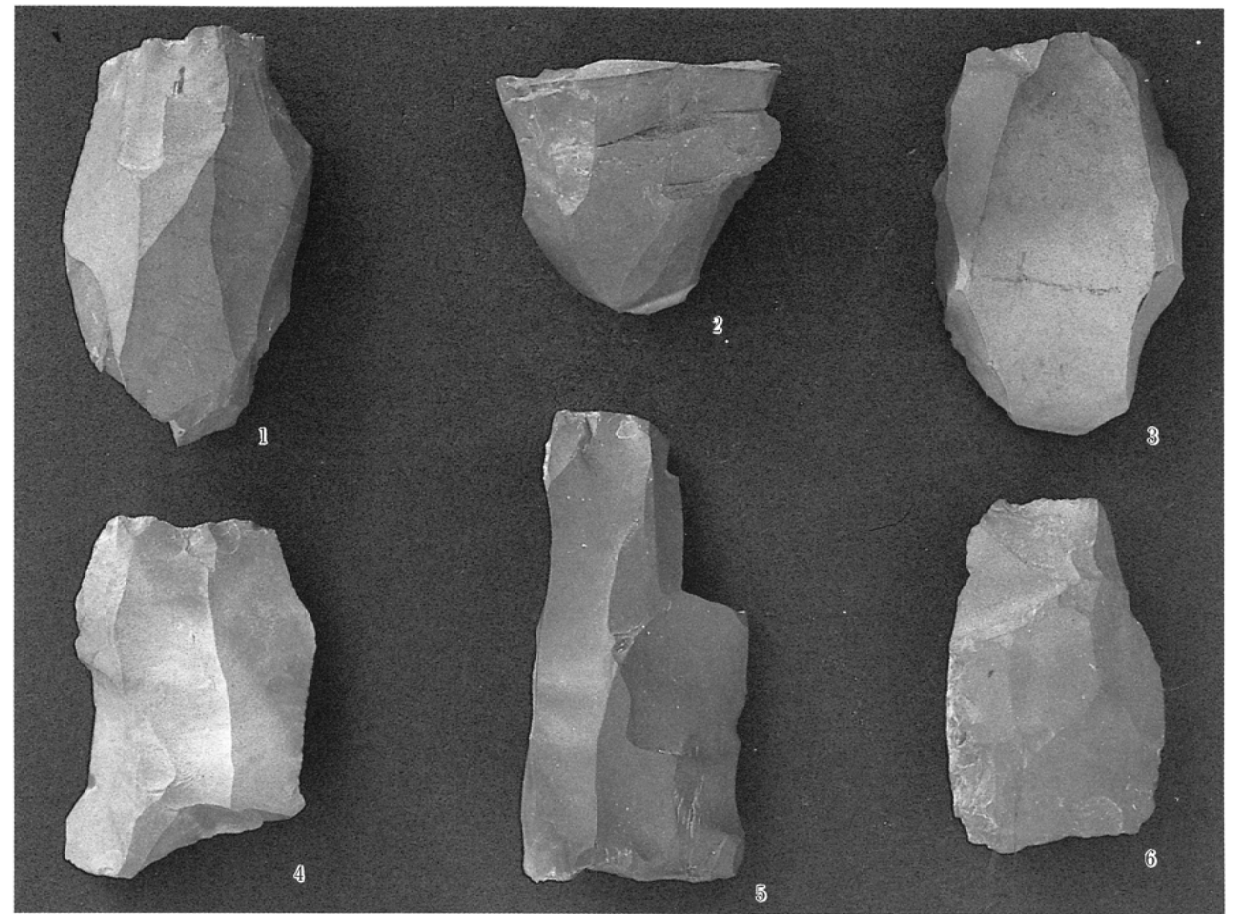
SL 5 完掘状況(西から)



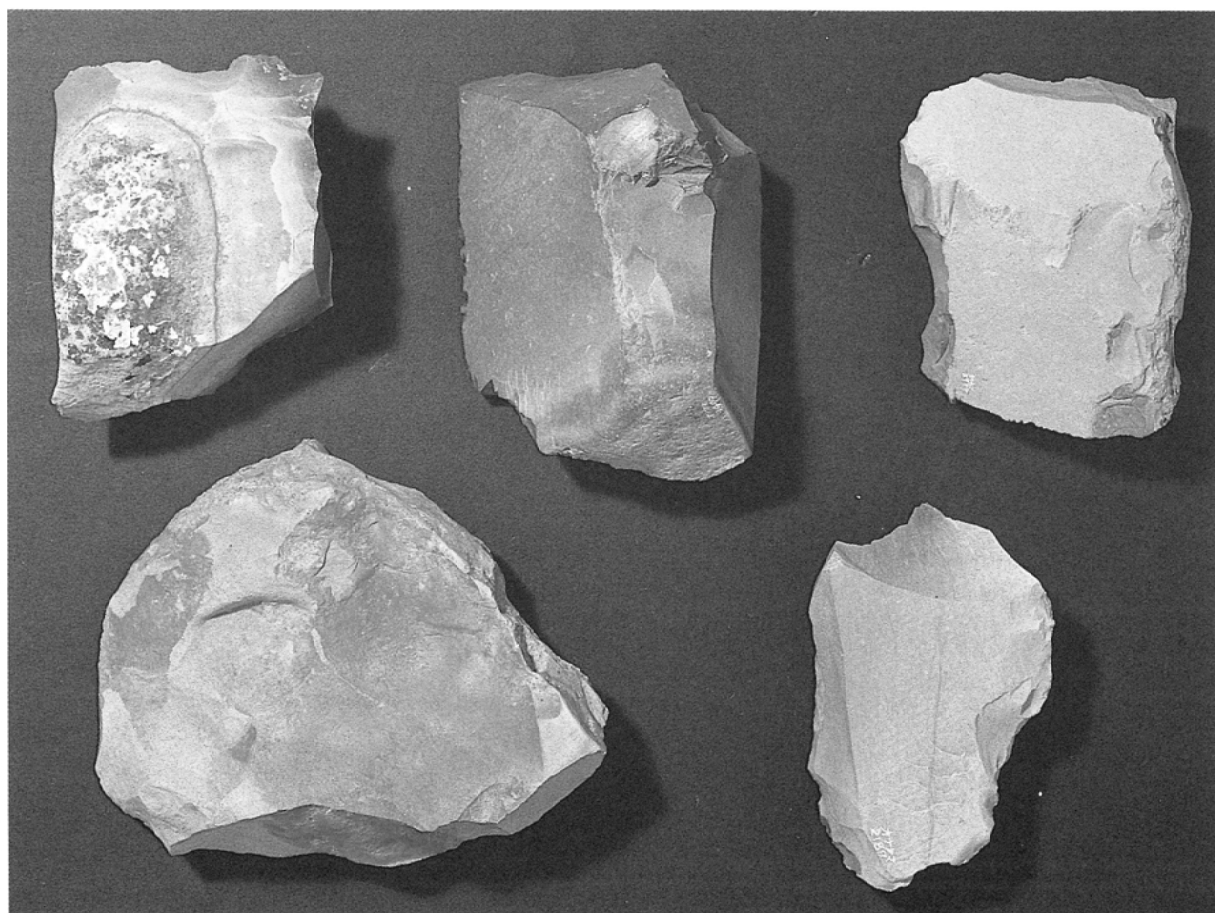
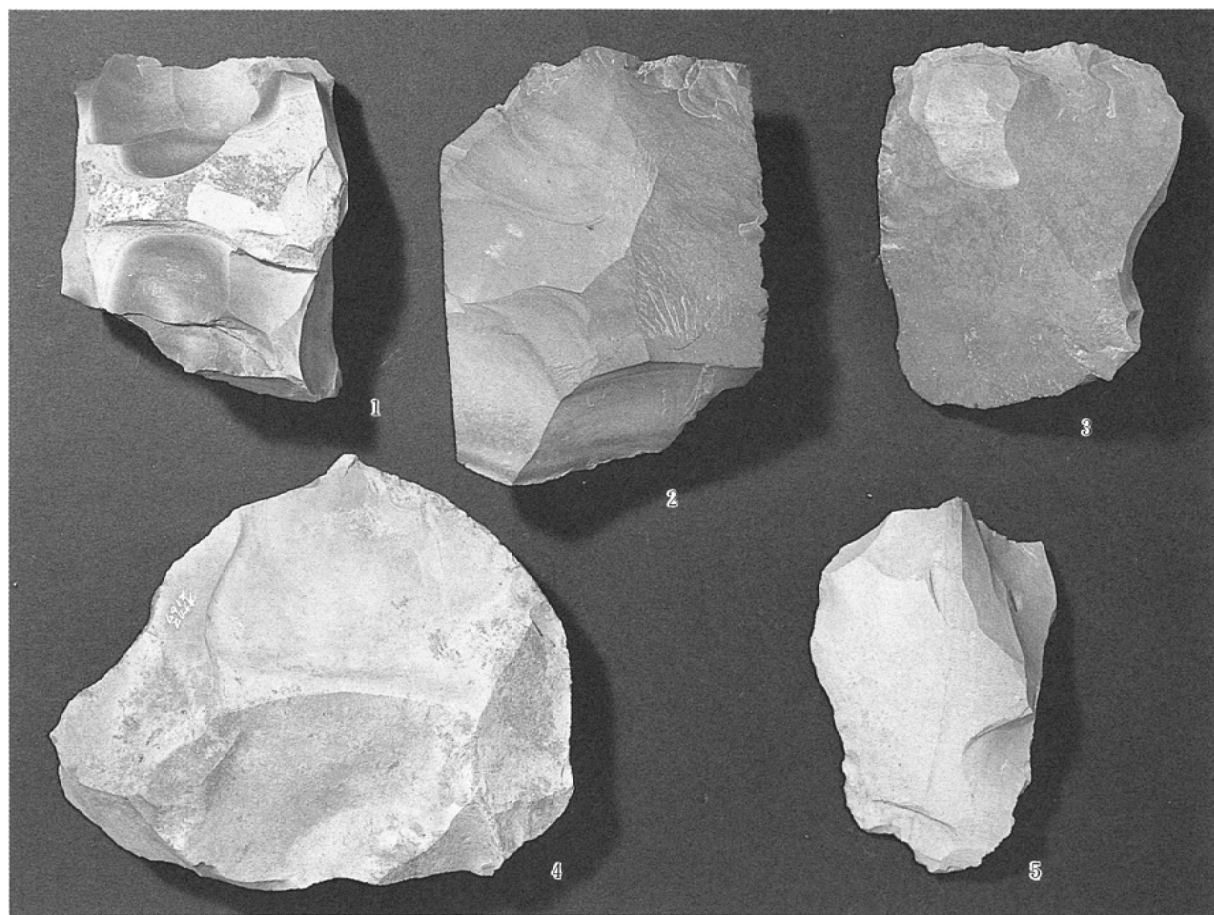
調査区完掘状況(南東から)



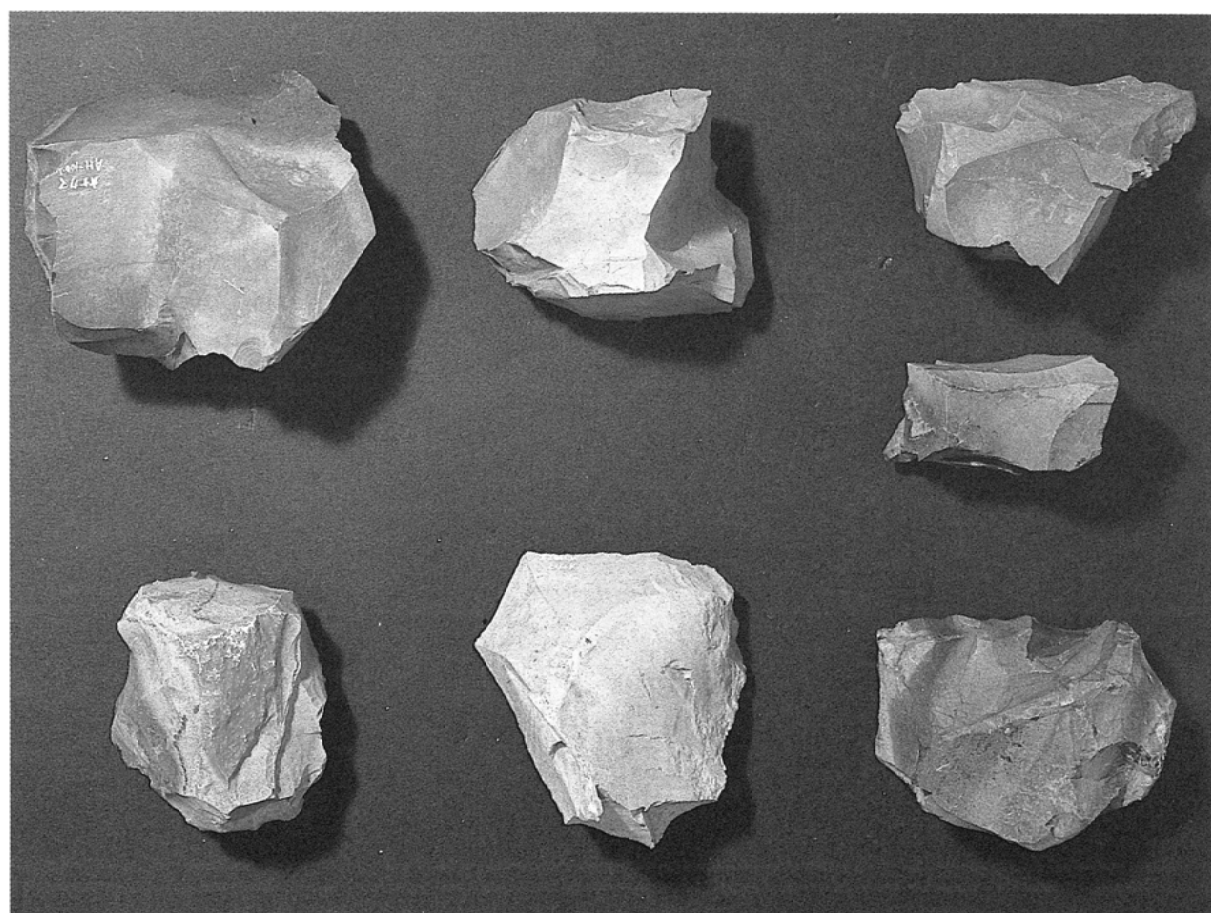
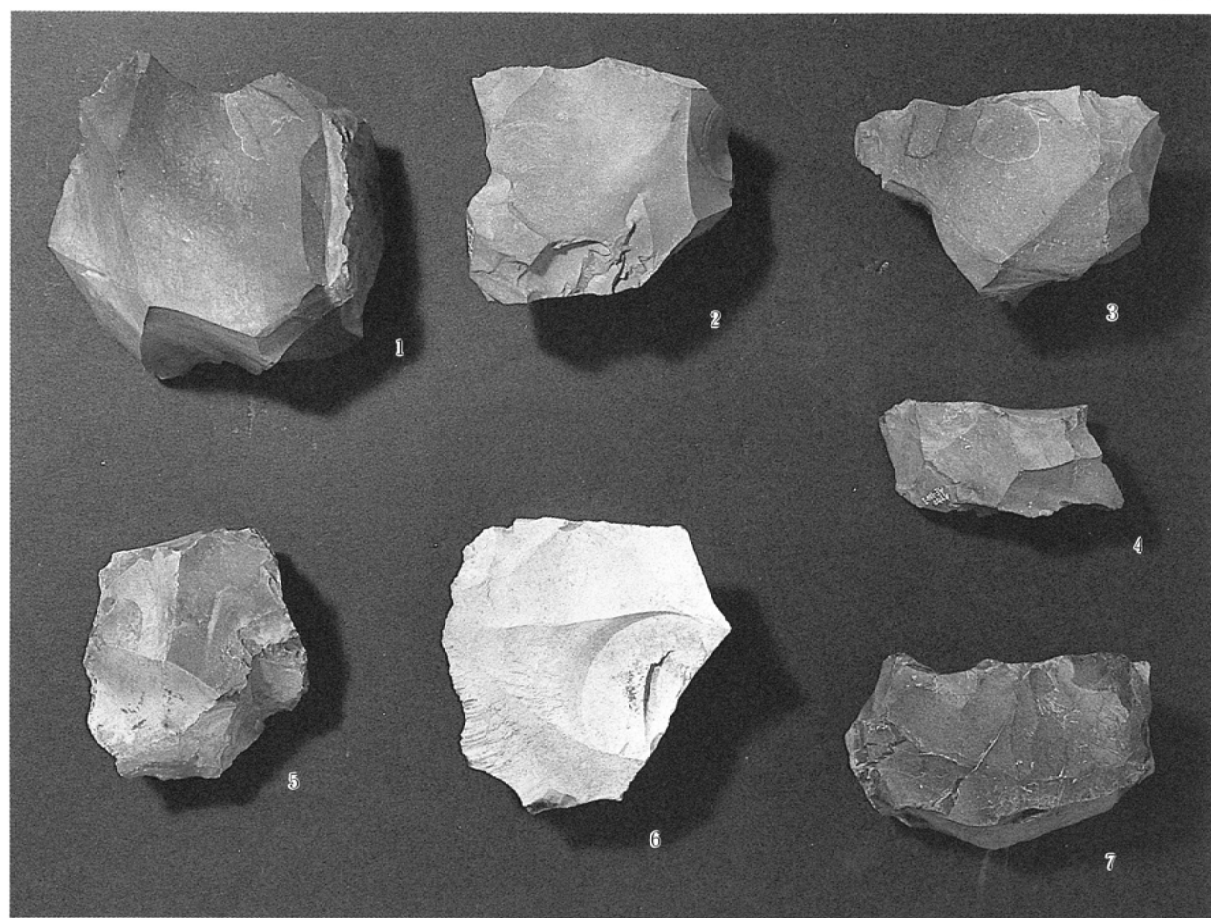
調査区完掘状況(北西から)



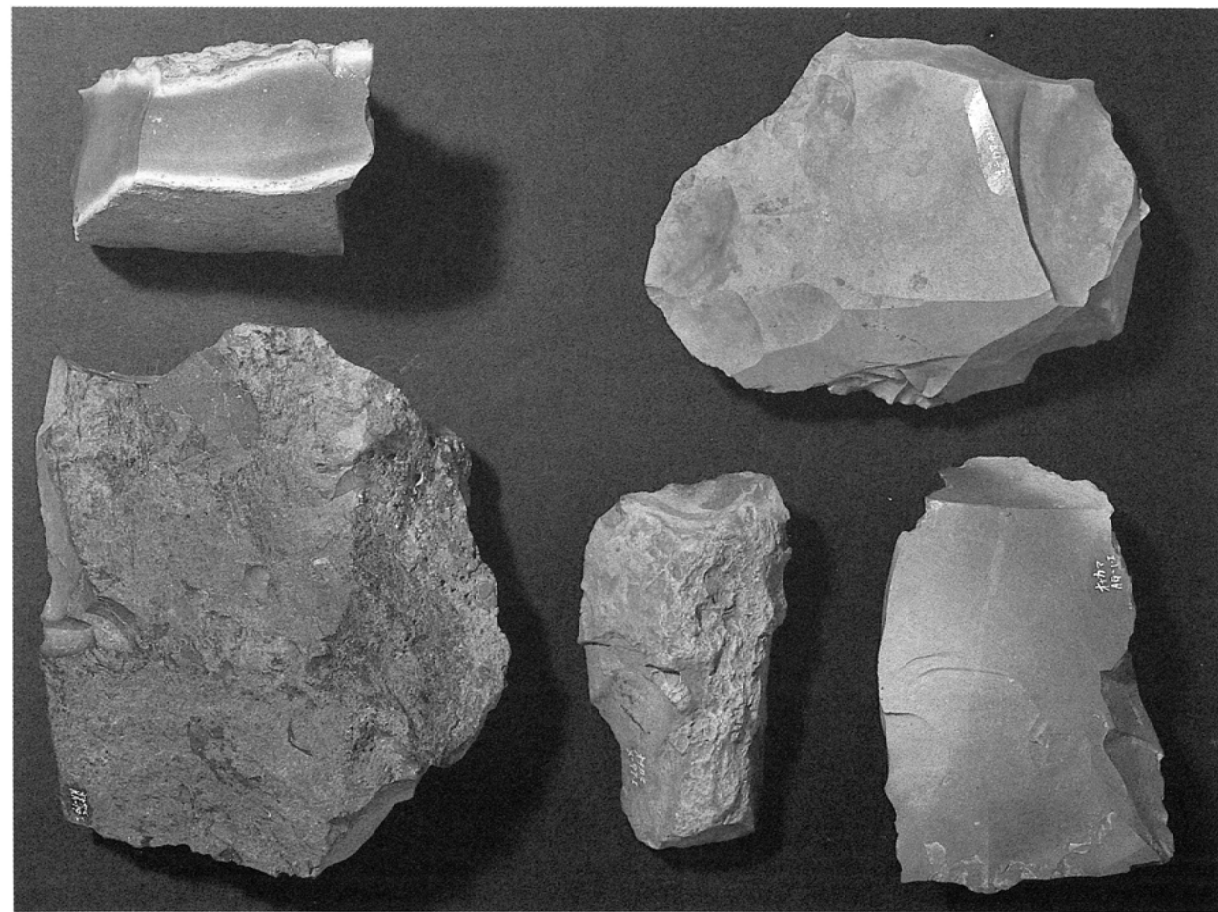
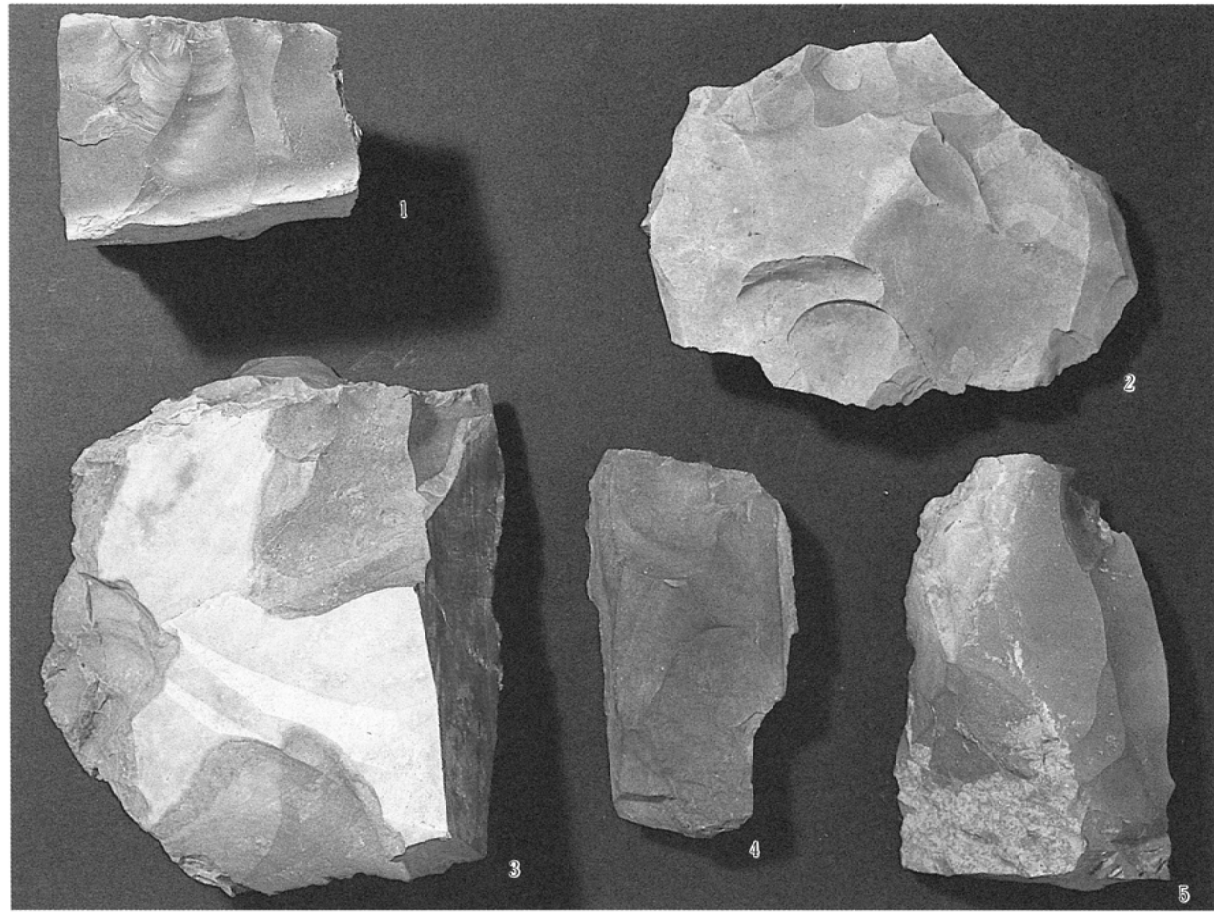
石核(1)



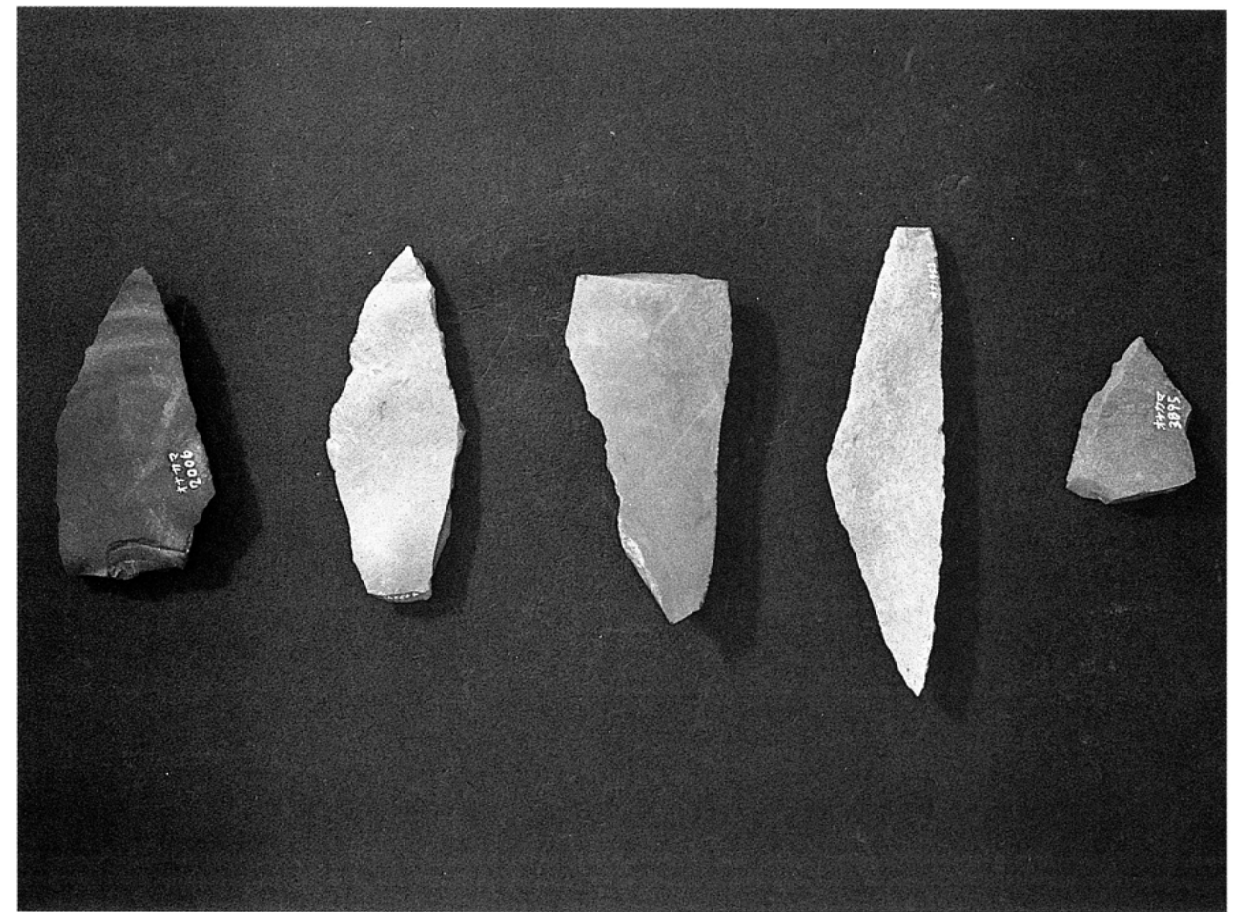
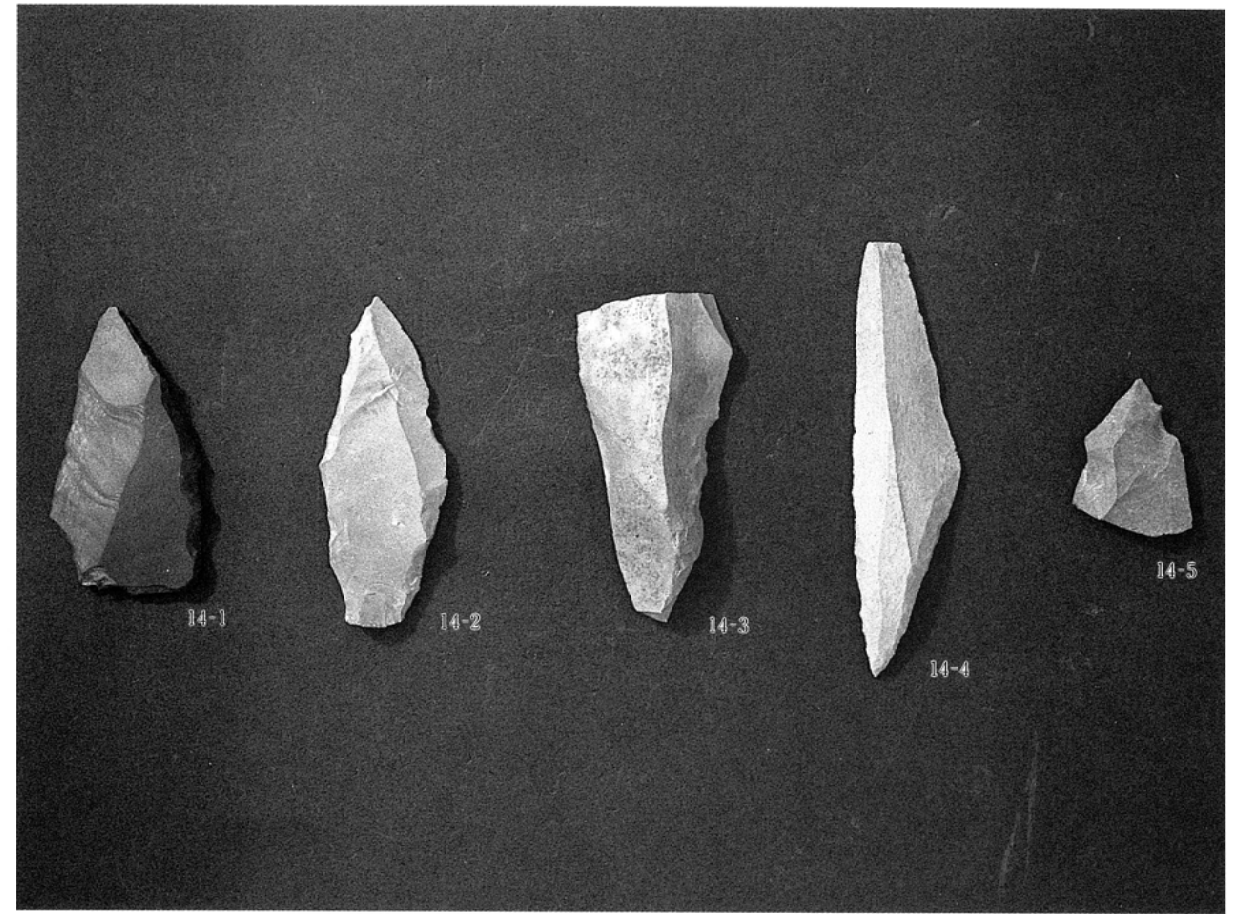
石核(2)



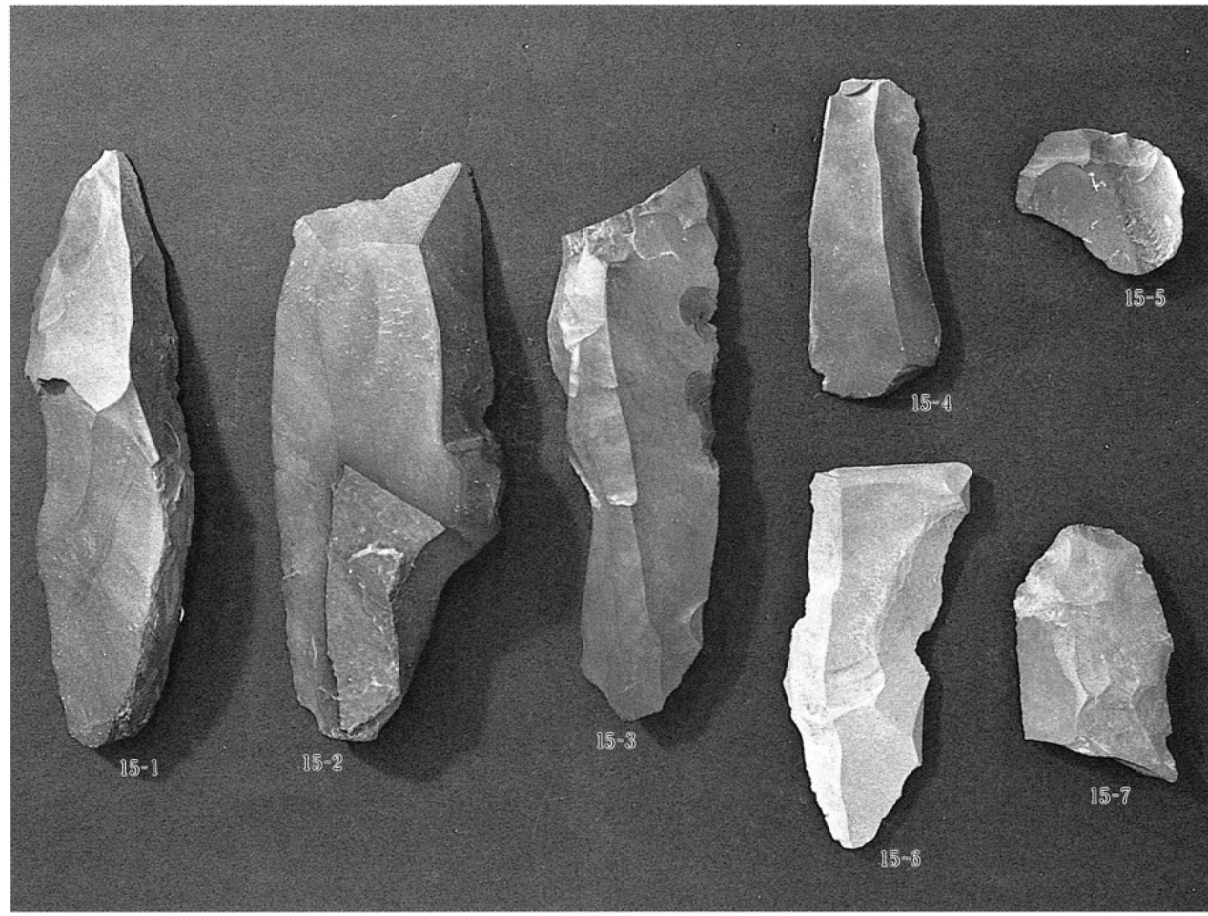
石核(3)



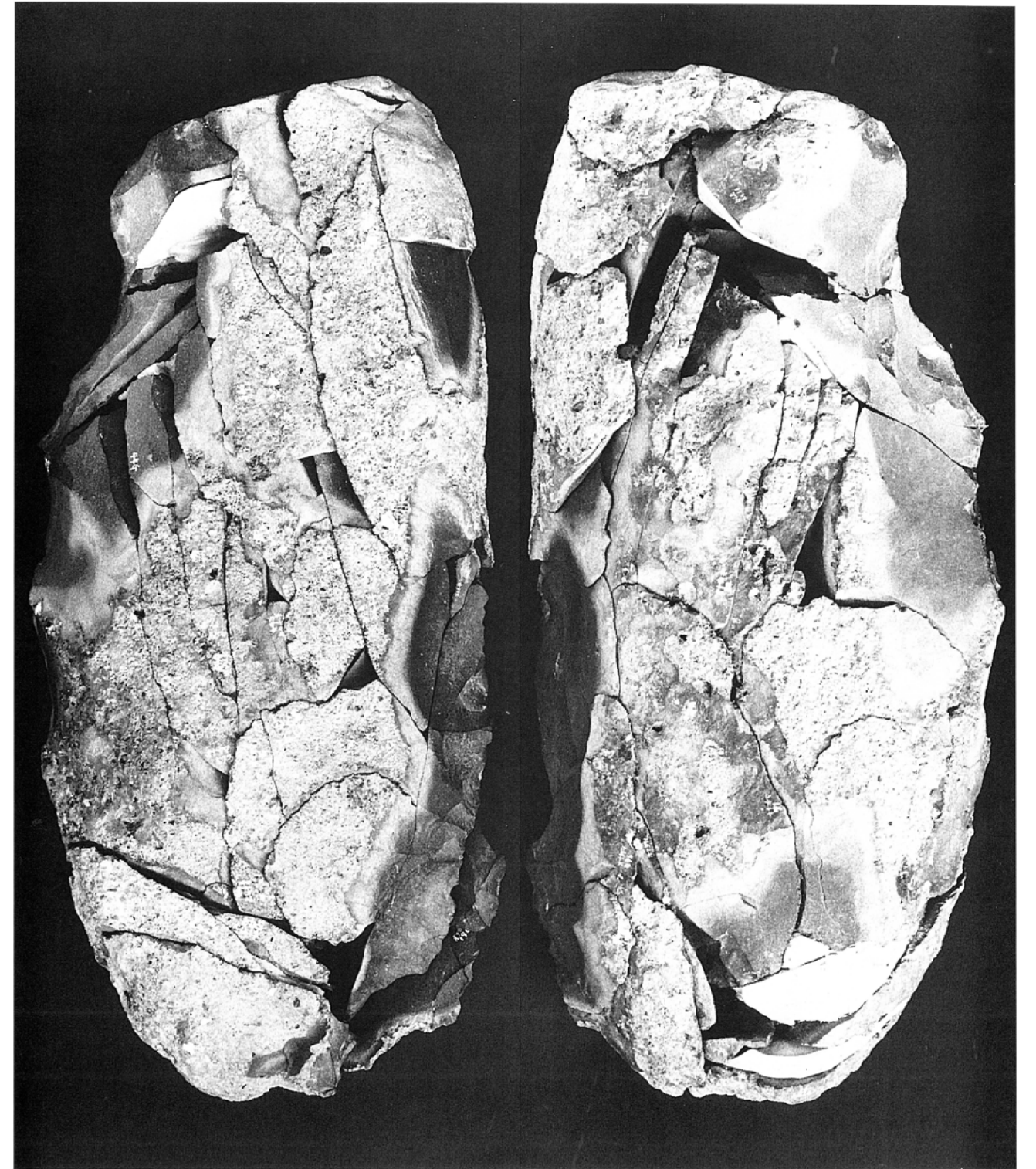
石核(4)



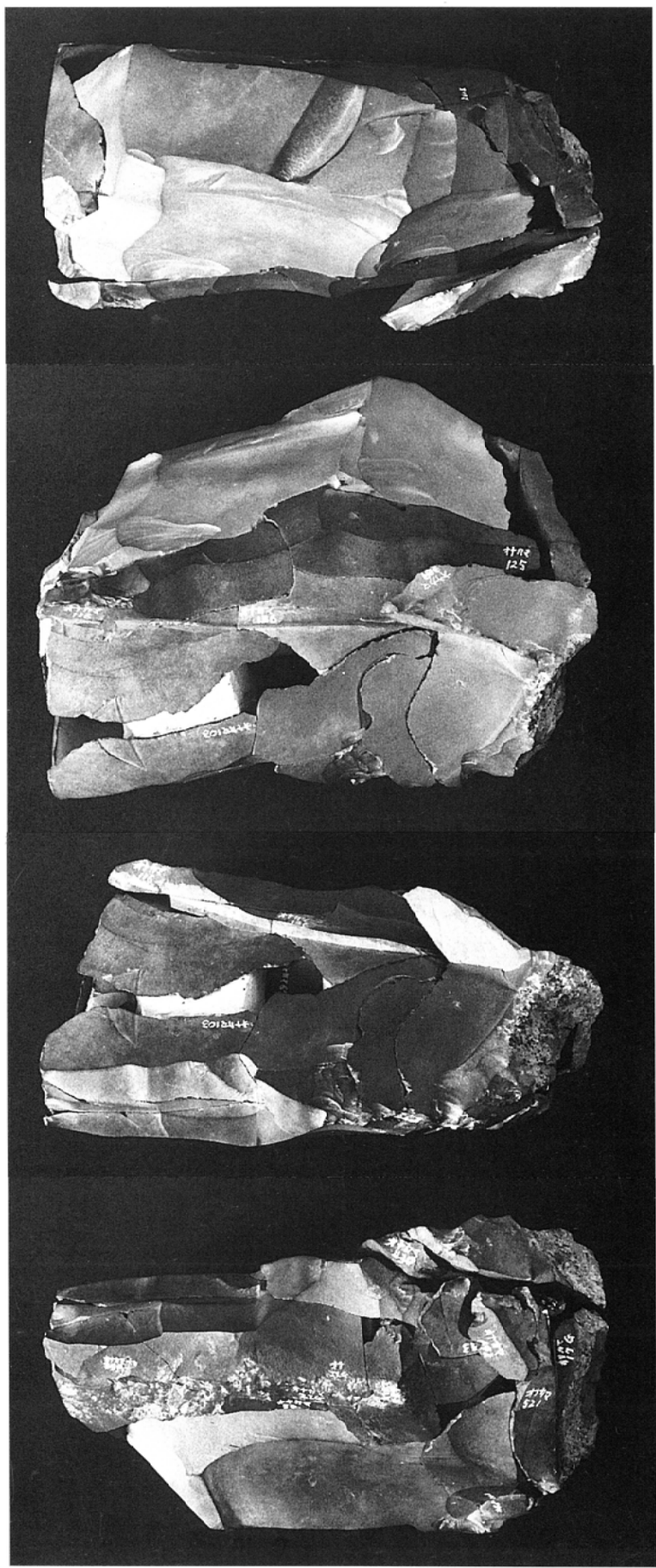
ナイフ形石器



ナイフ形石器・スクレーパー



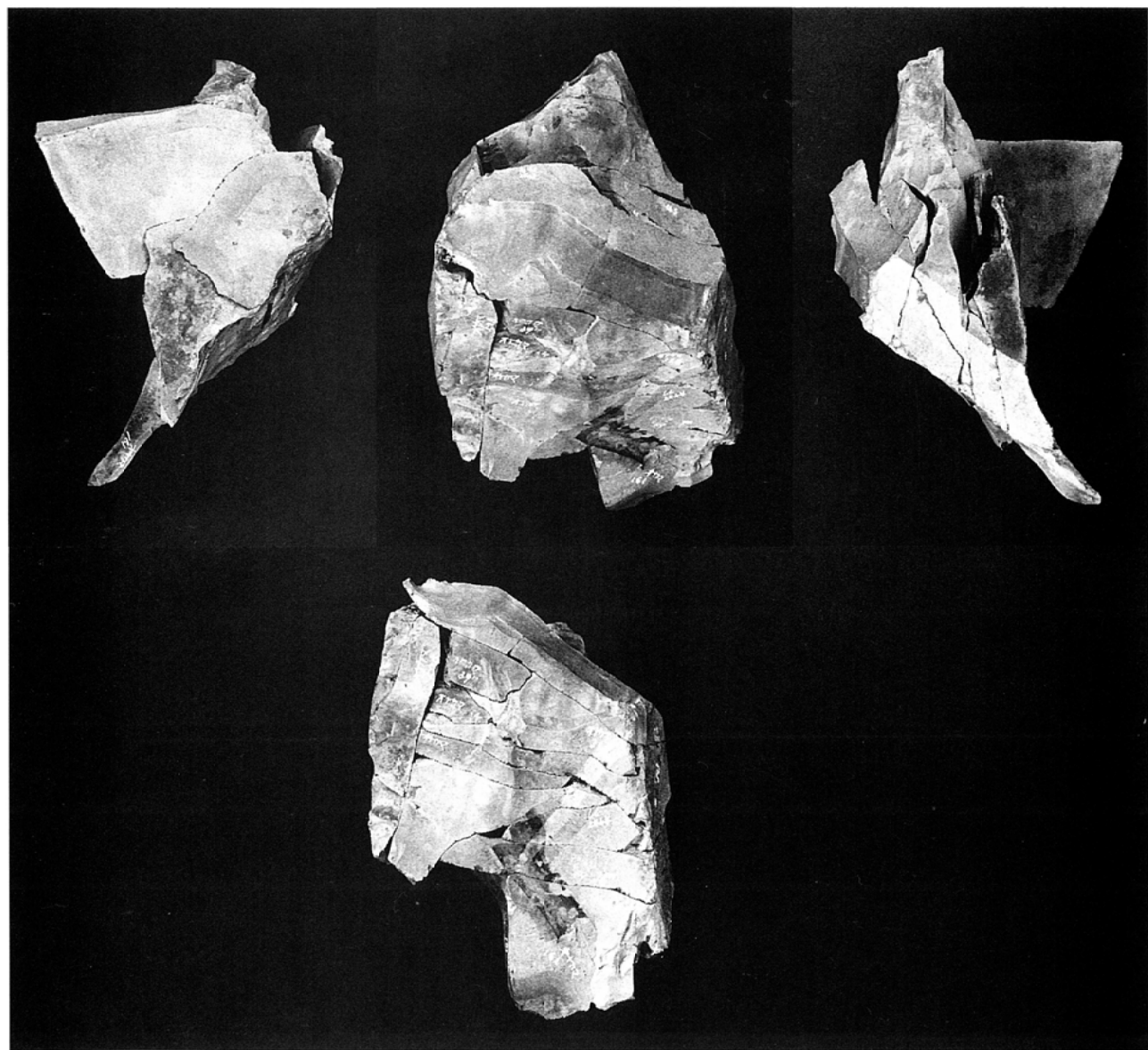
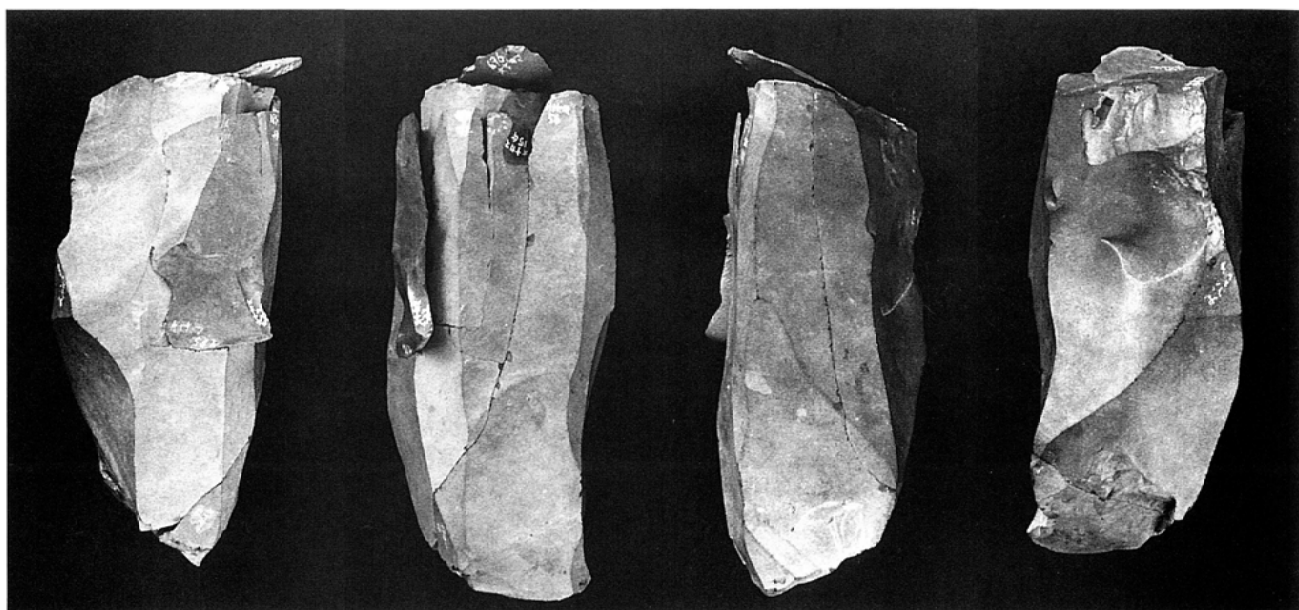
母岩35



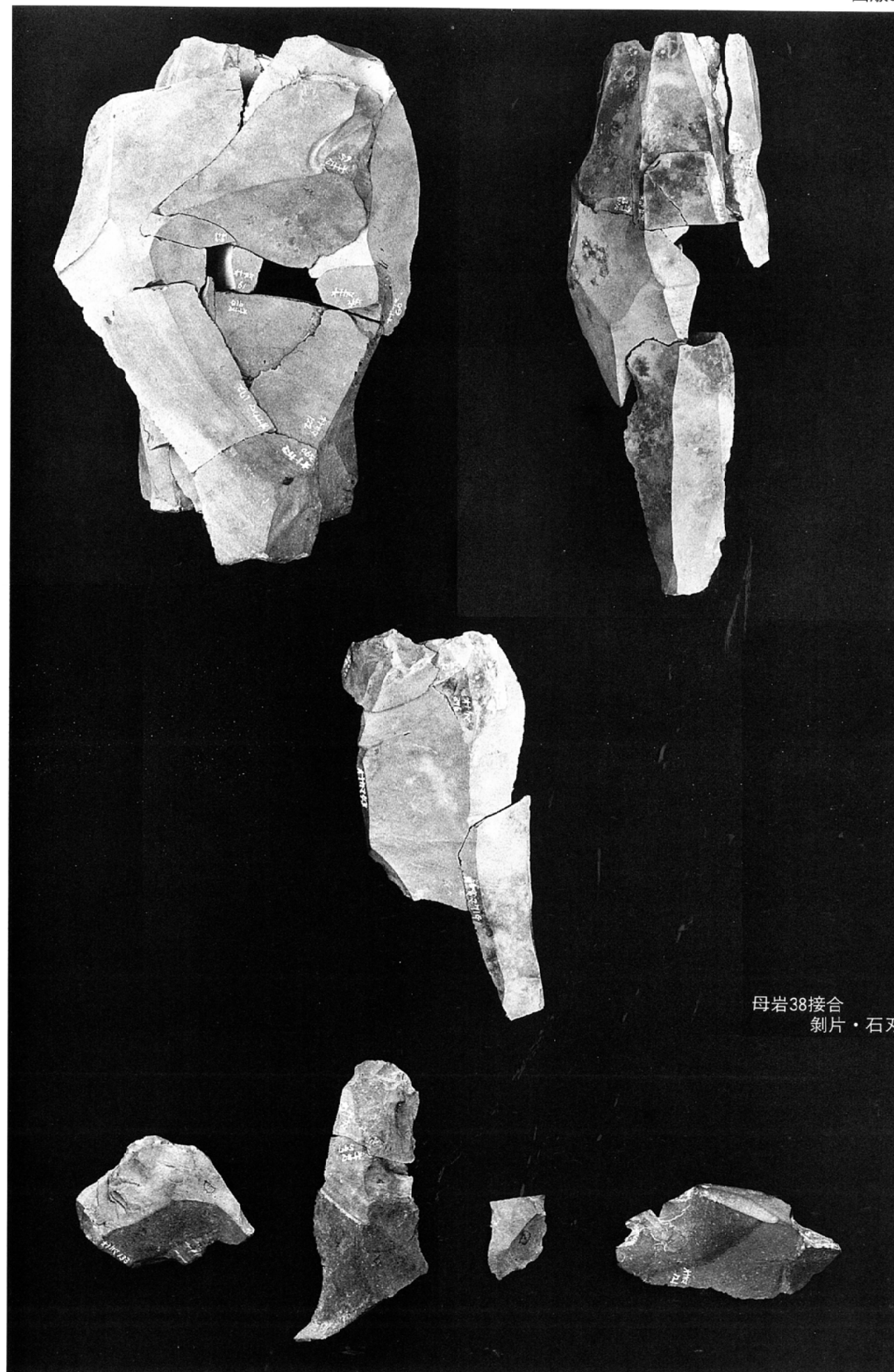
母岩36



母岩37

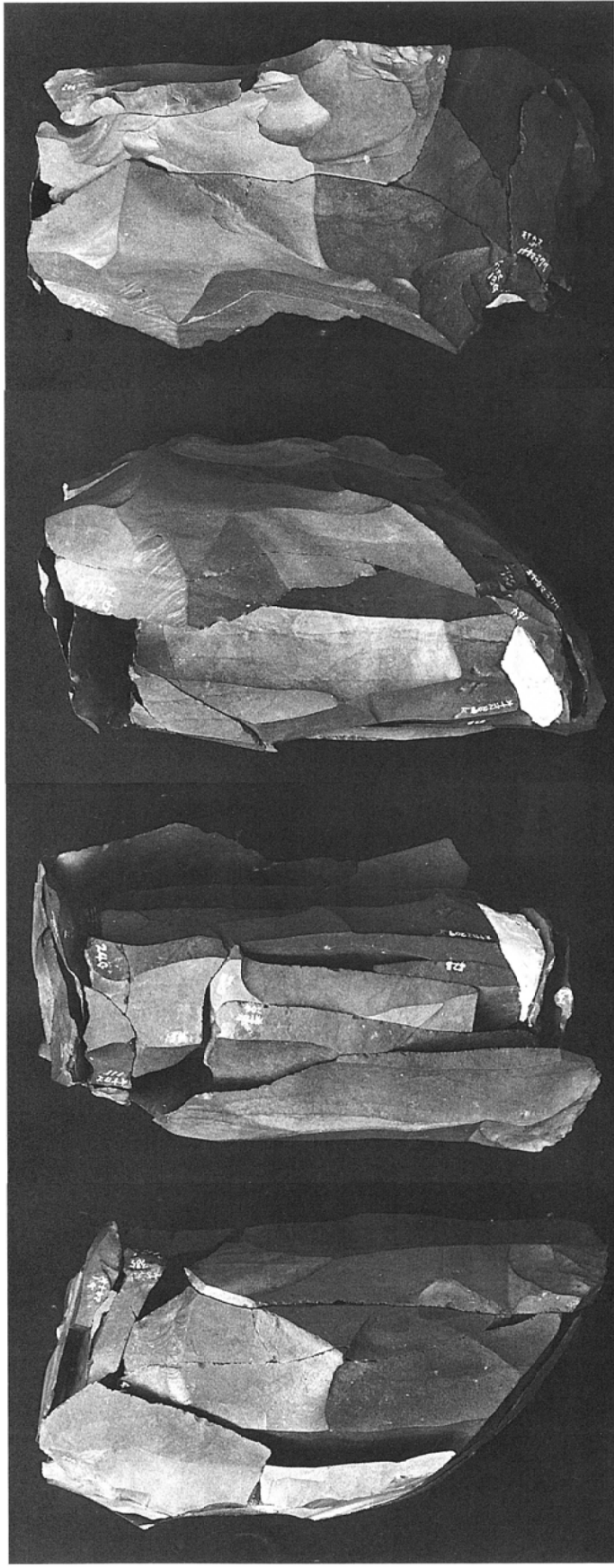


母岩38接合打面調整剝片

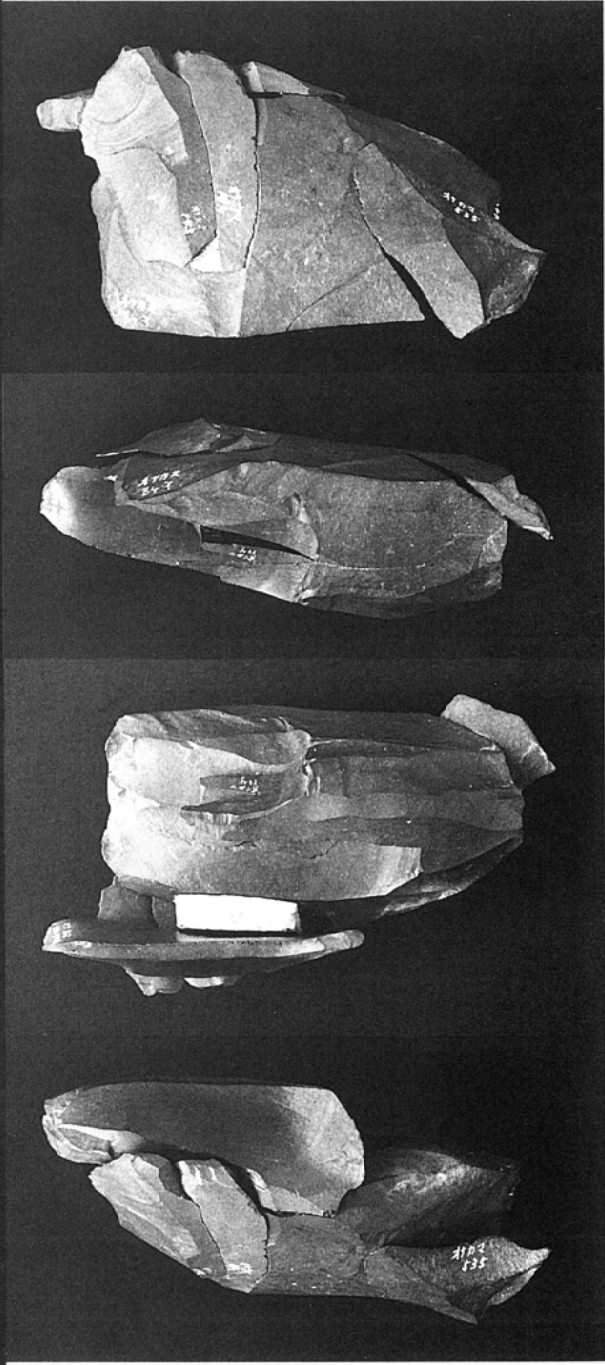


母岩38接合
剝片・石刃

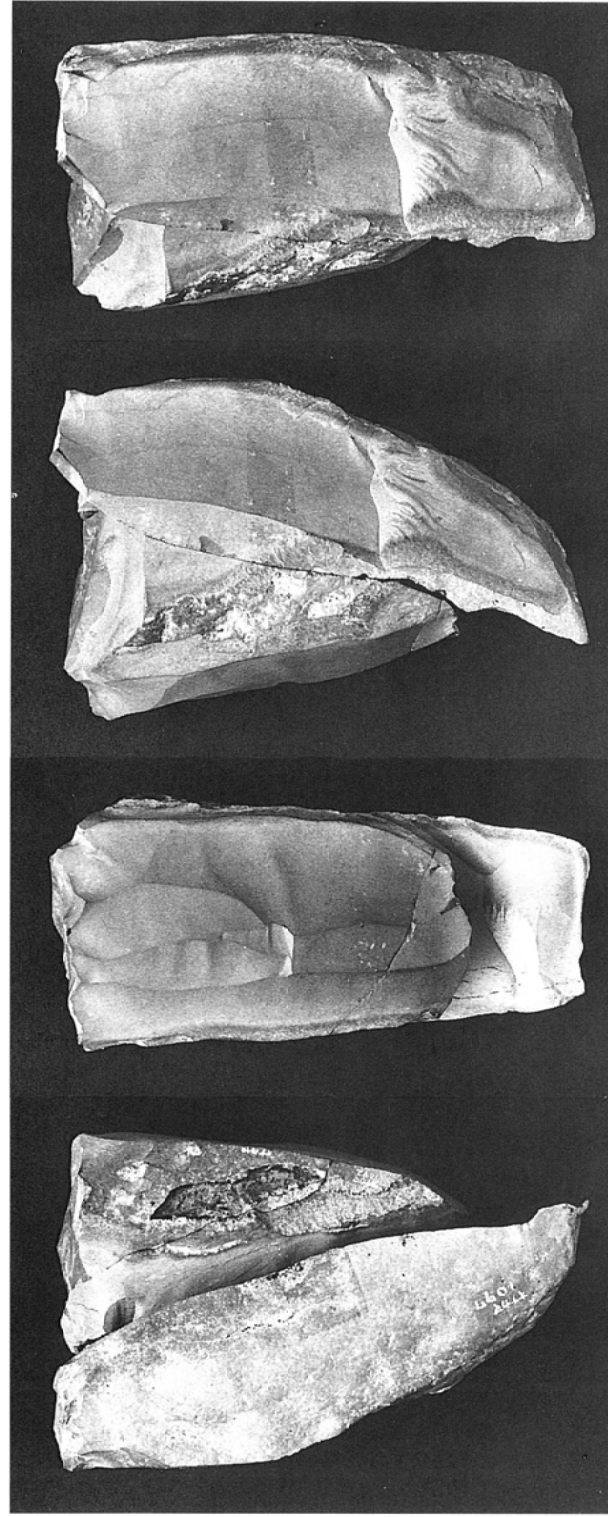
母岩38接合打面調整剝片



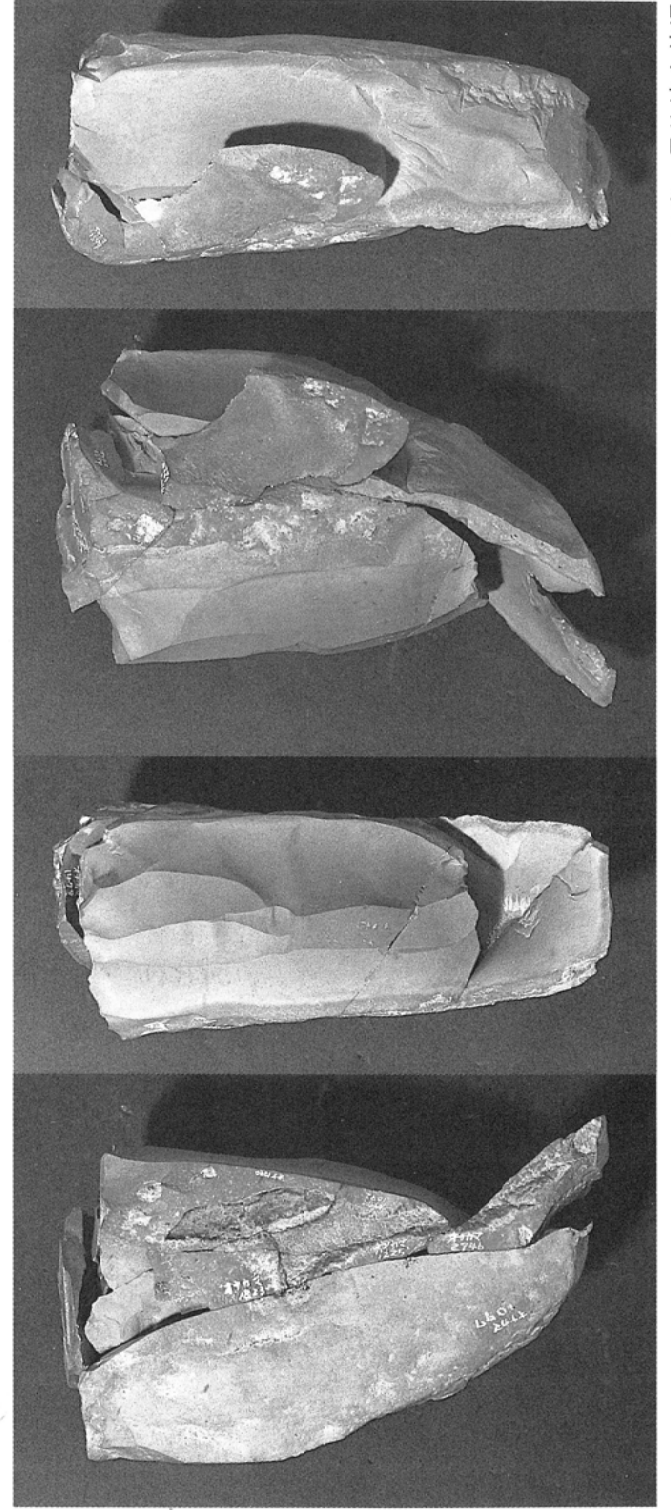
母岩39



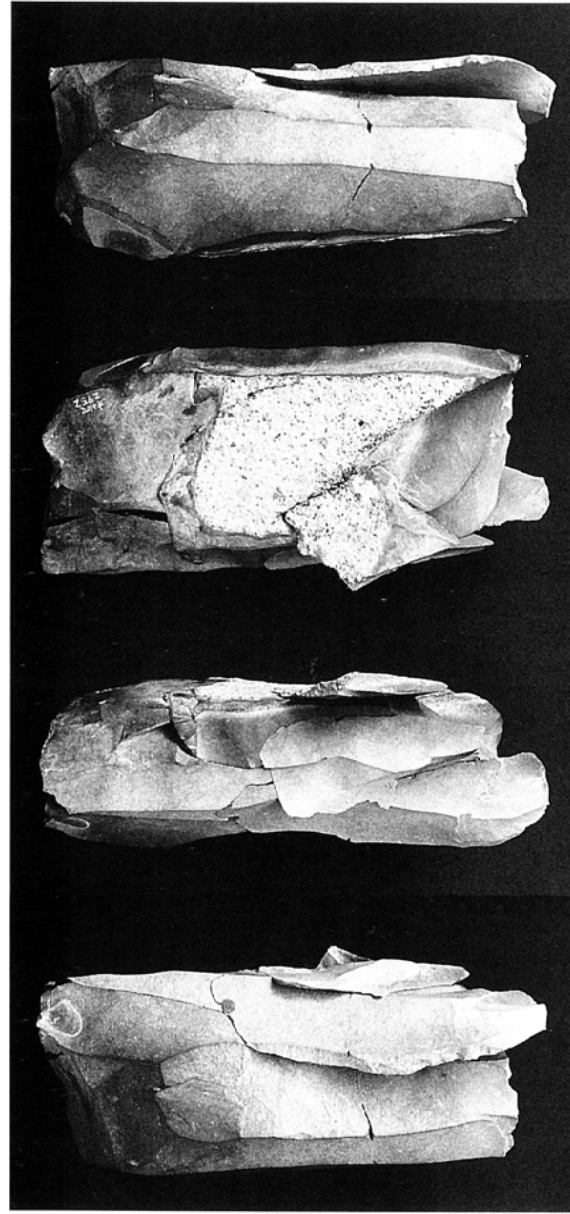
母岩40



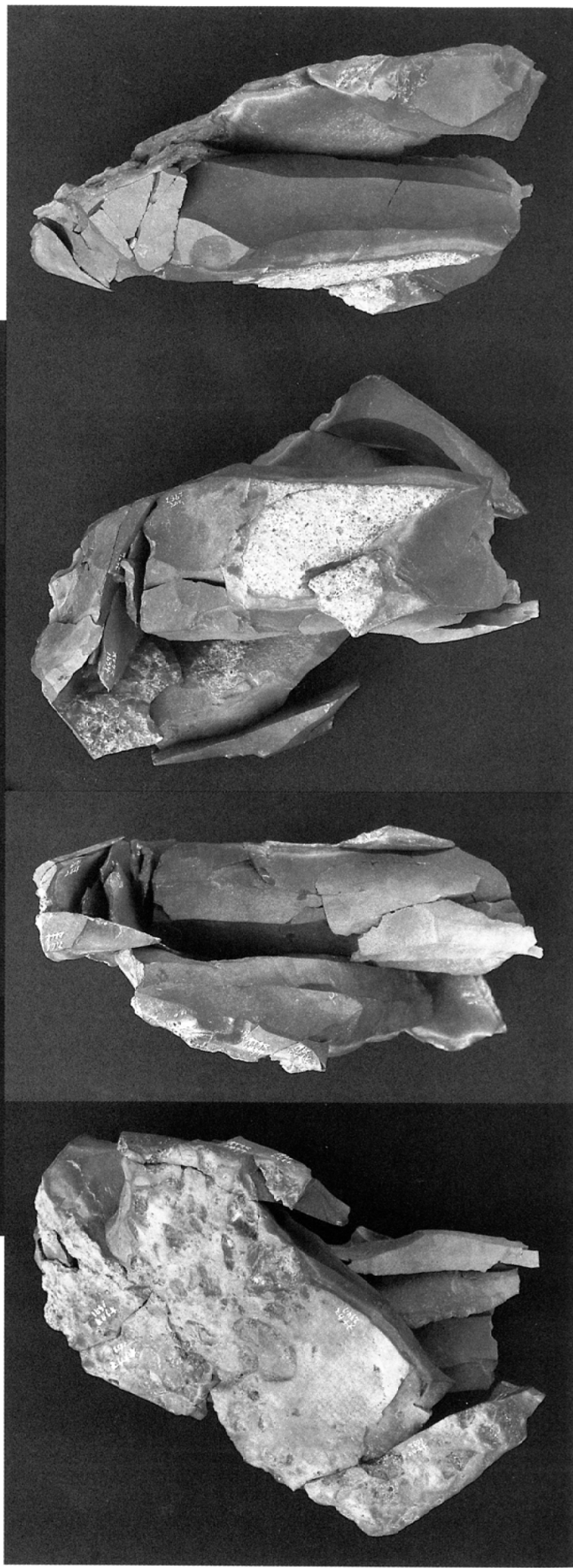
母岩8



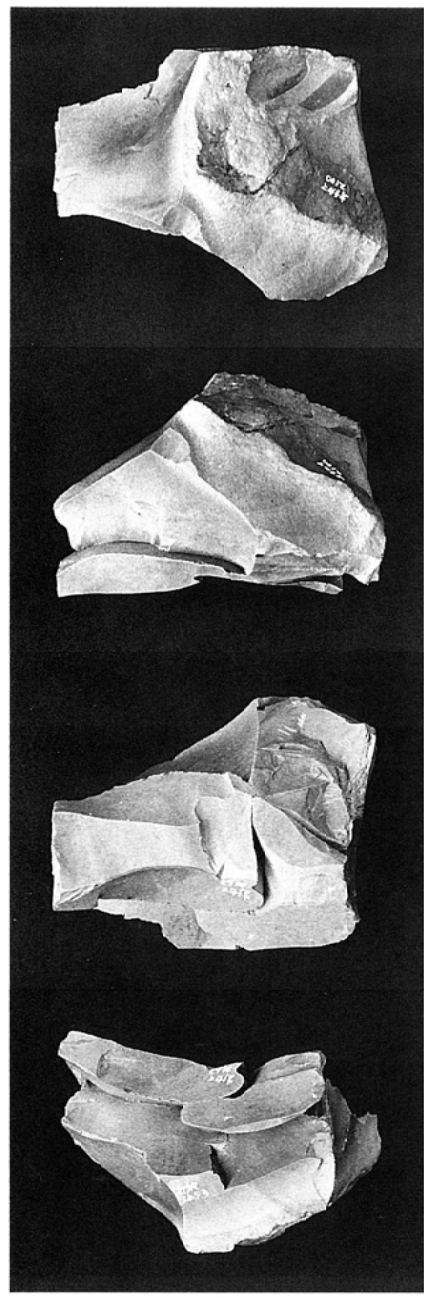
母岩8 最終接合状況



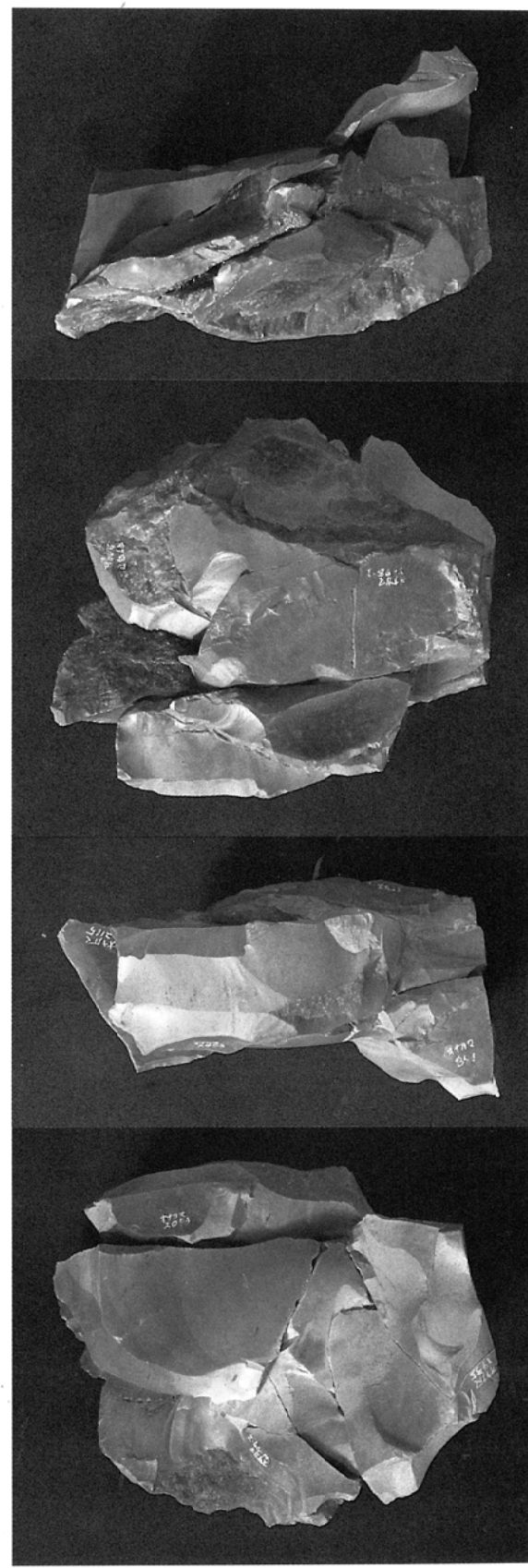
母岩 15A



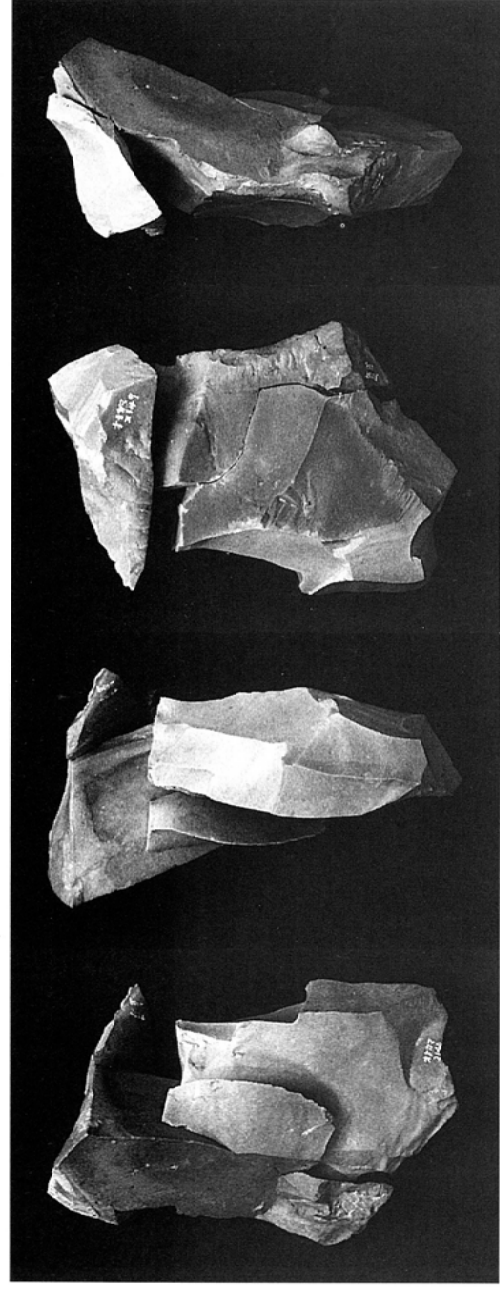
母岩 15A · 15B 接合状况



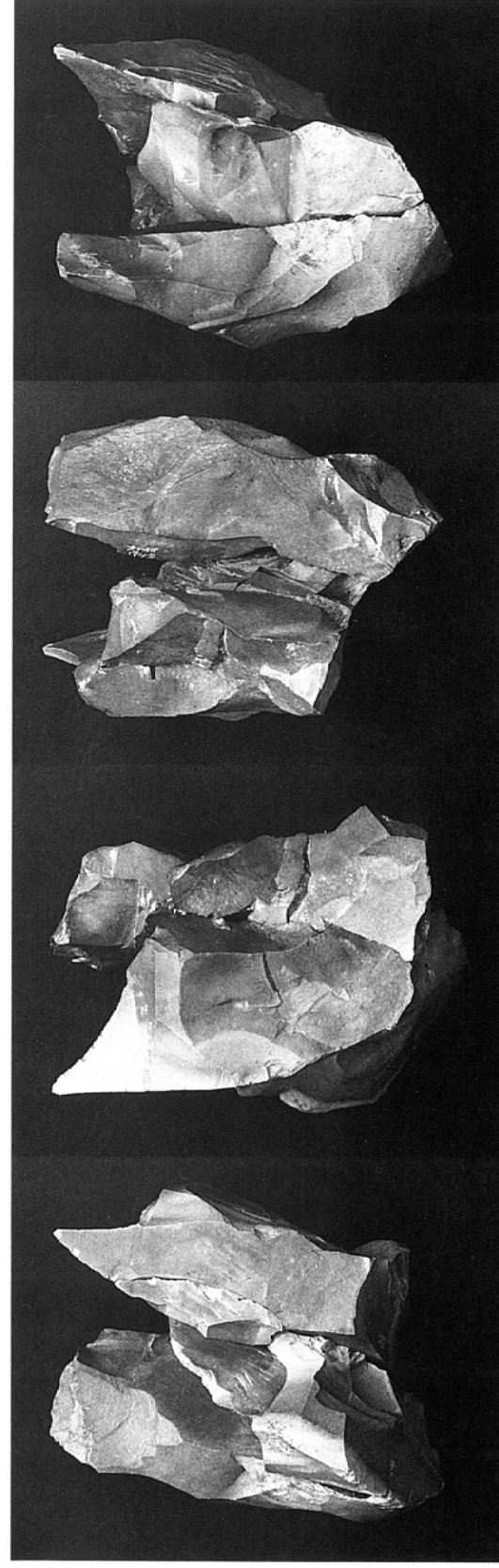
母岩 7



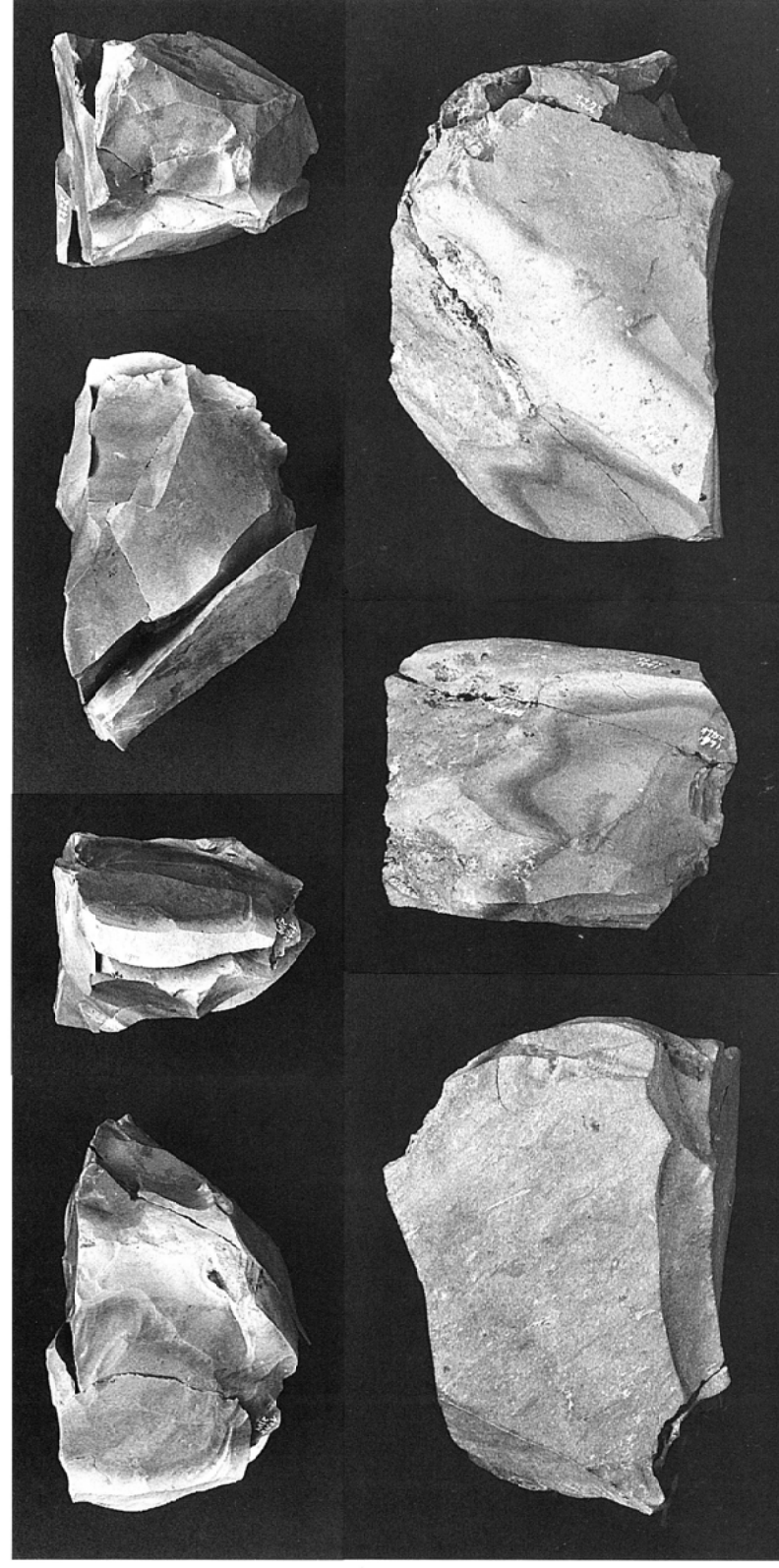
母岩 3



母岩 4

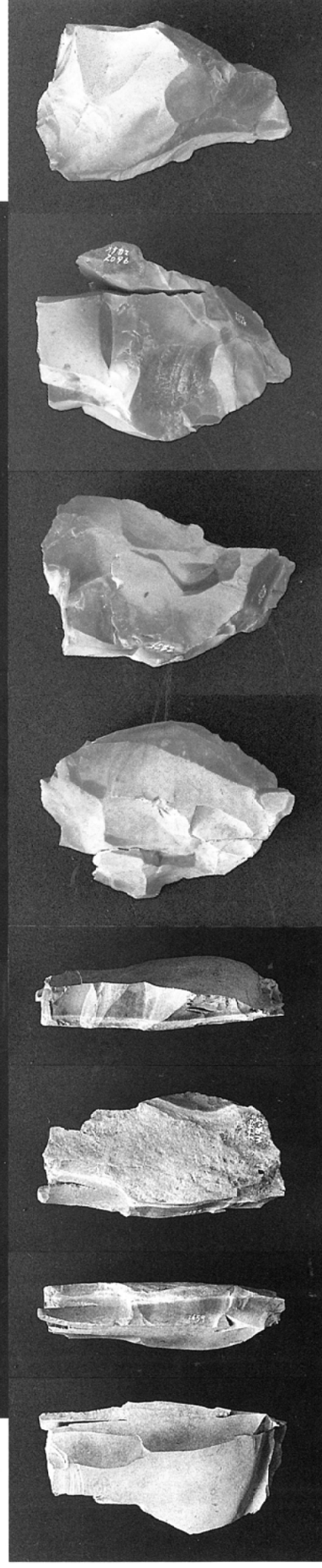


母岩 6



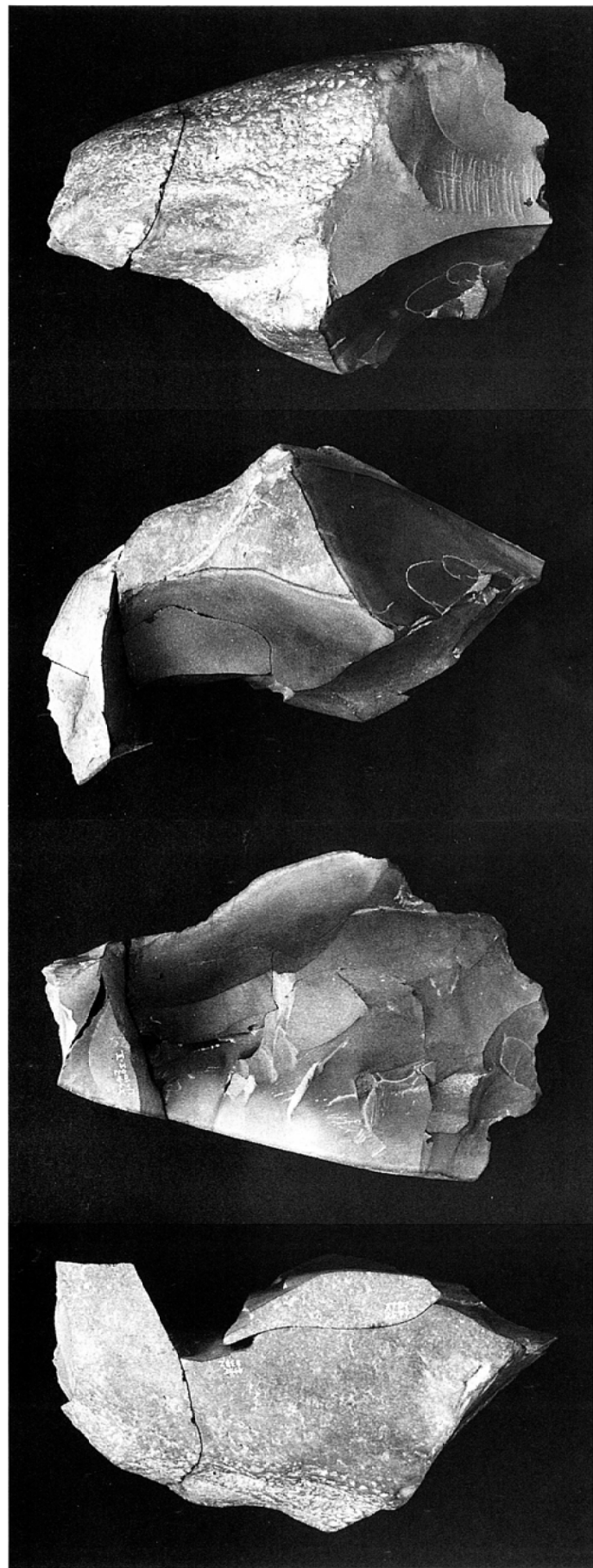
母岩 10

母岩 13

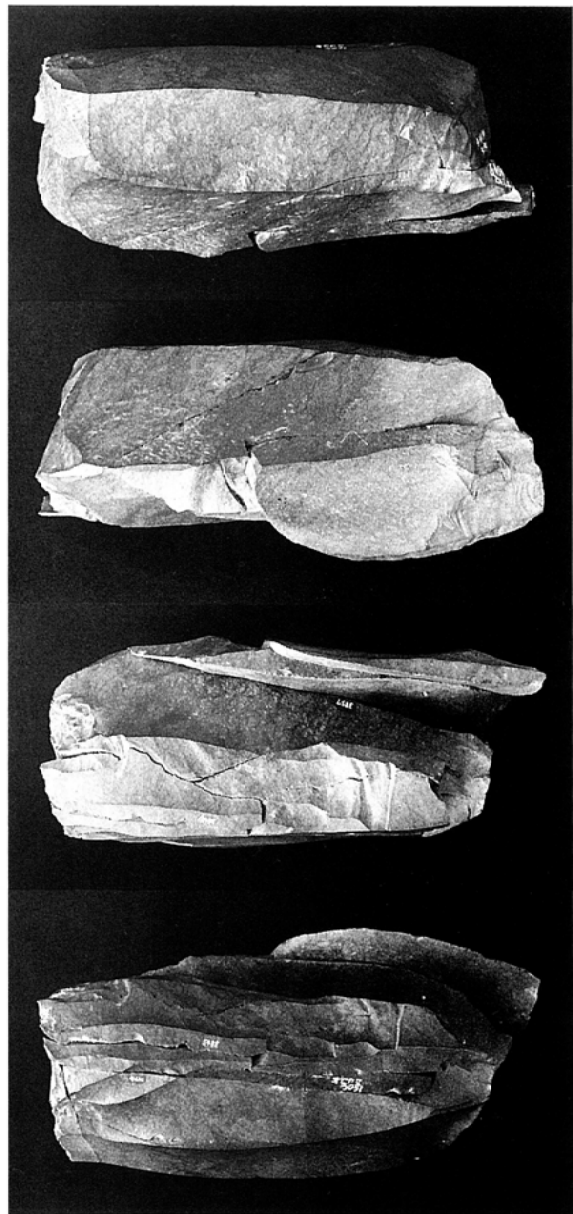


母岩 5

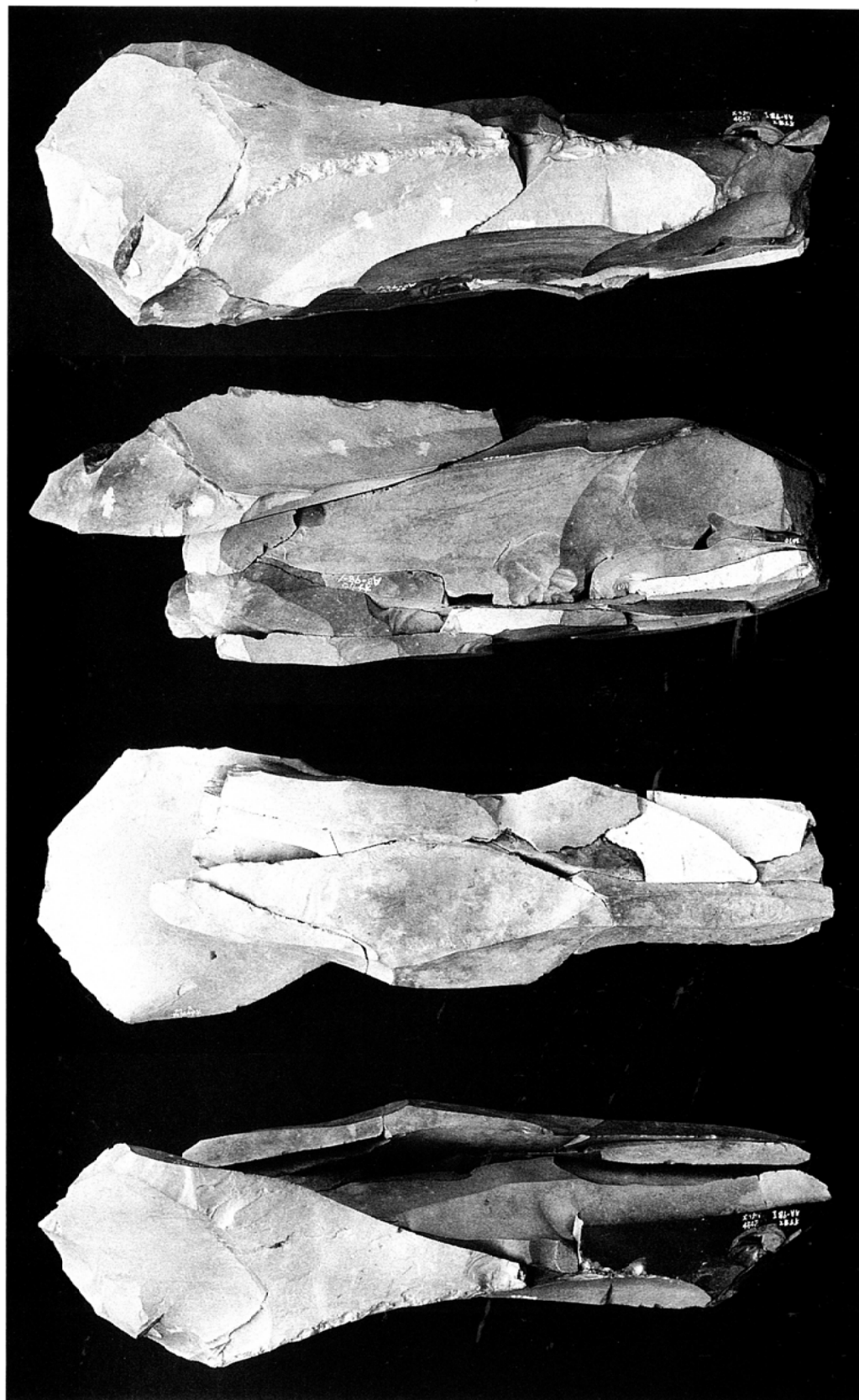
母岩 44



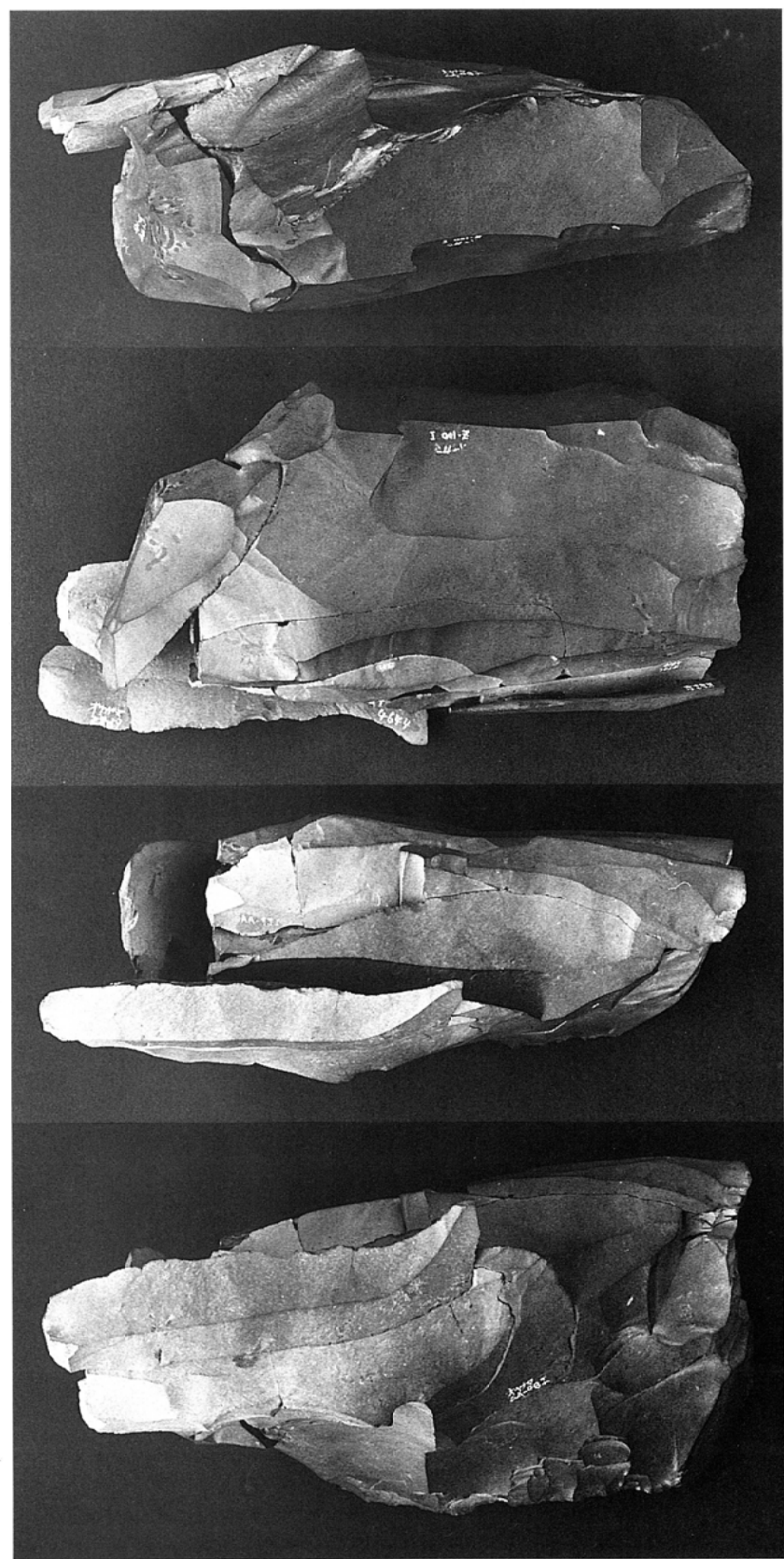
二
母



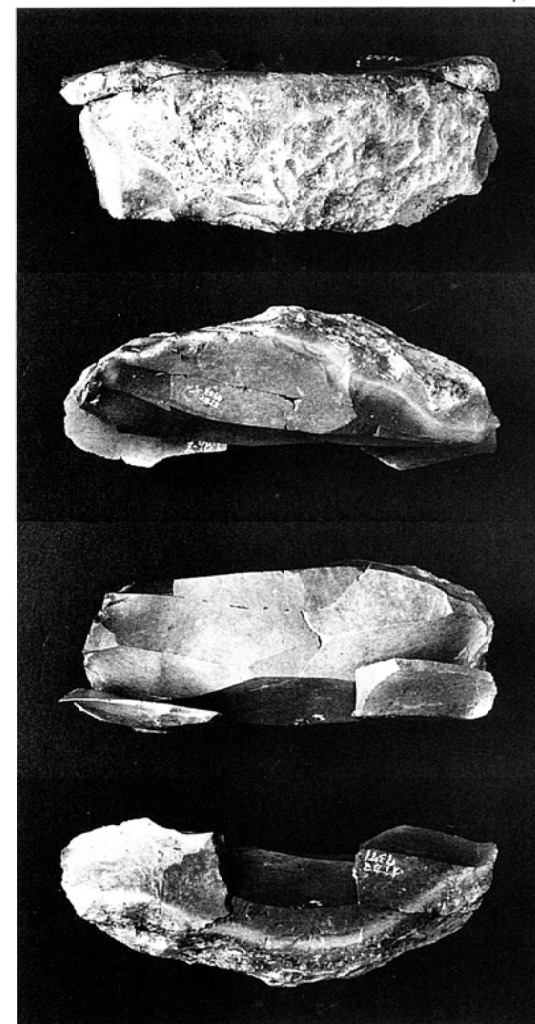
母岩16



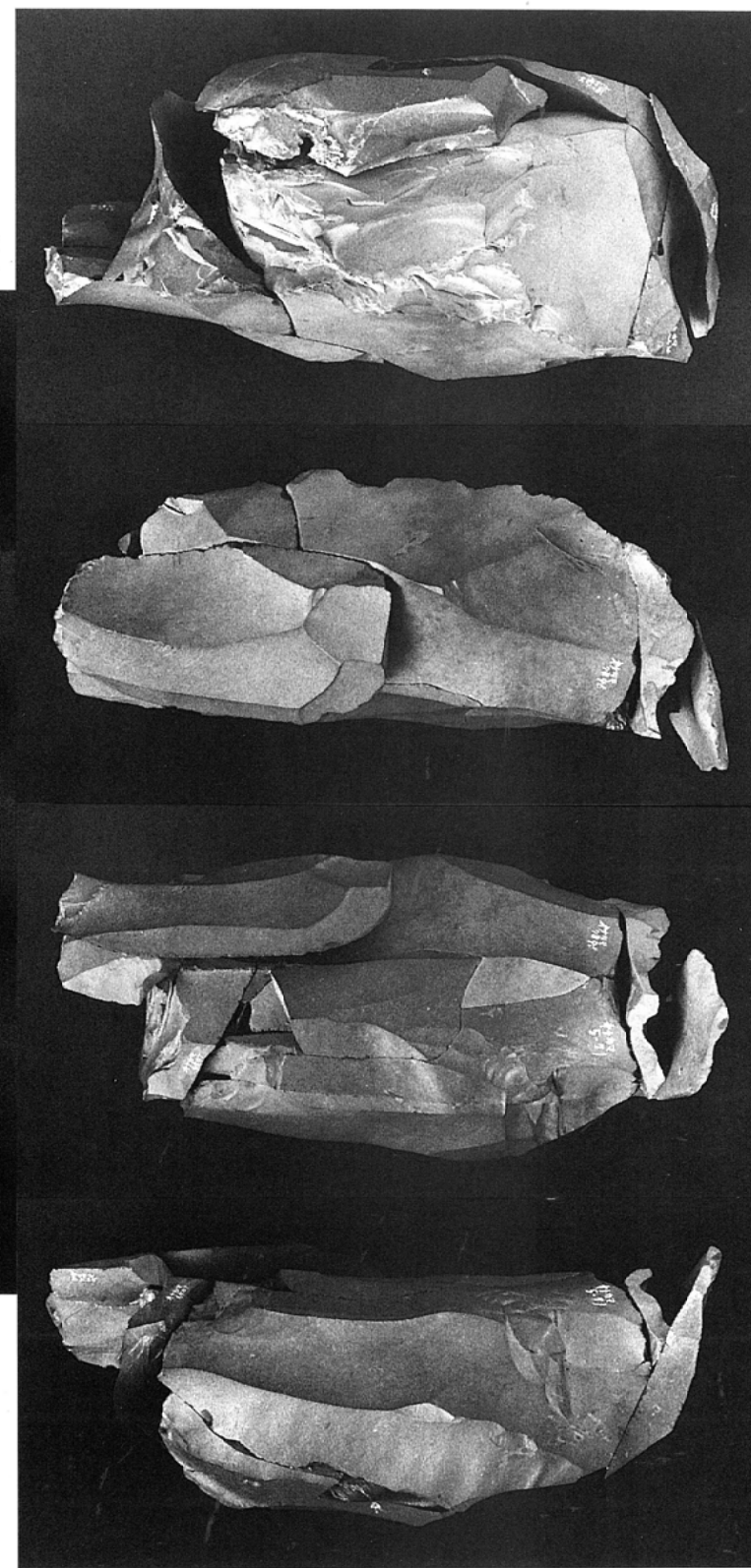
母岩17



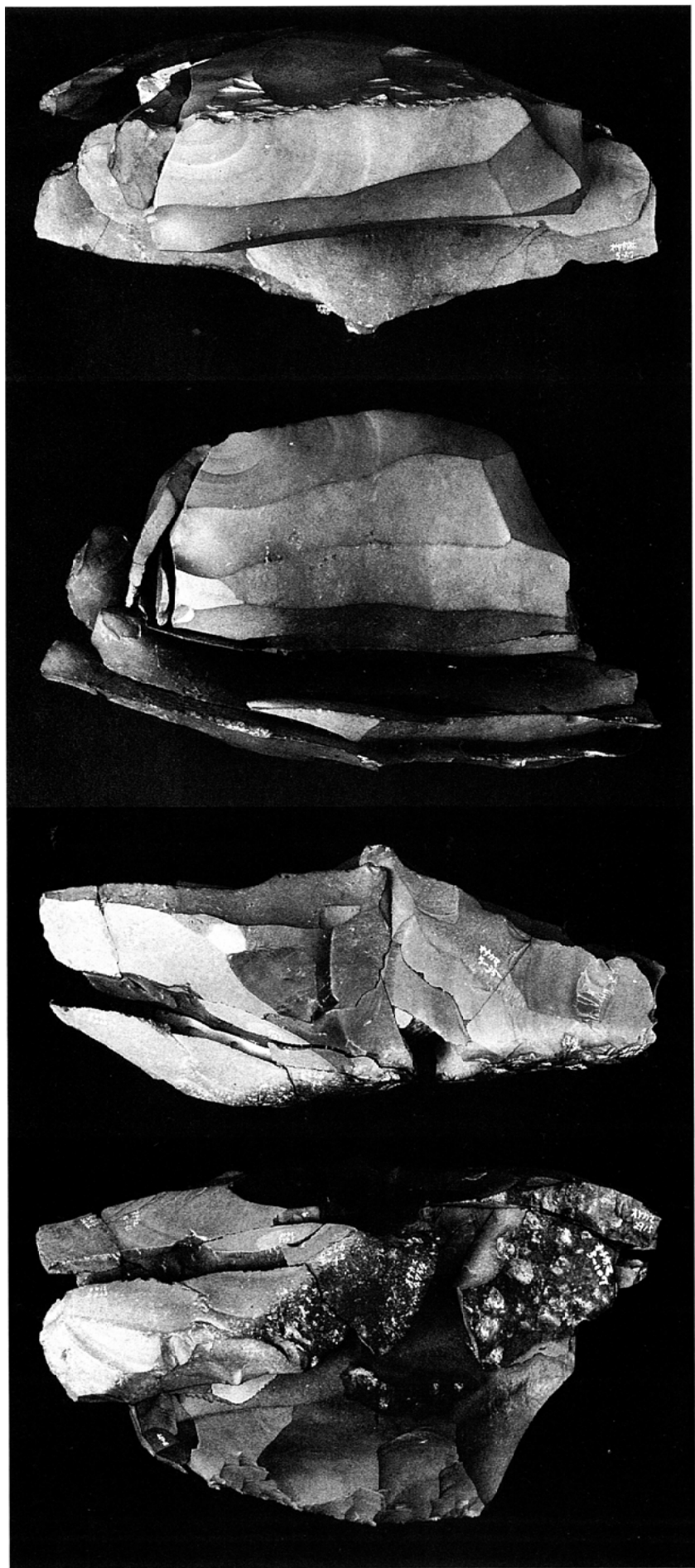
母岩18



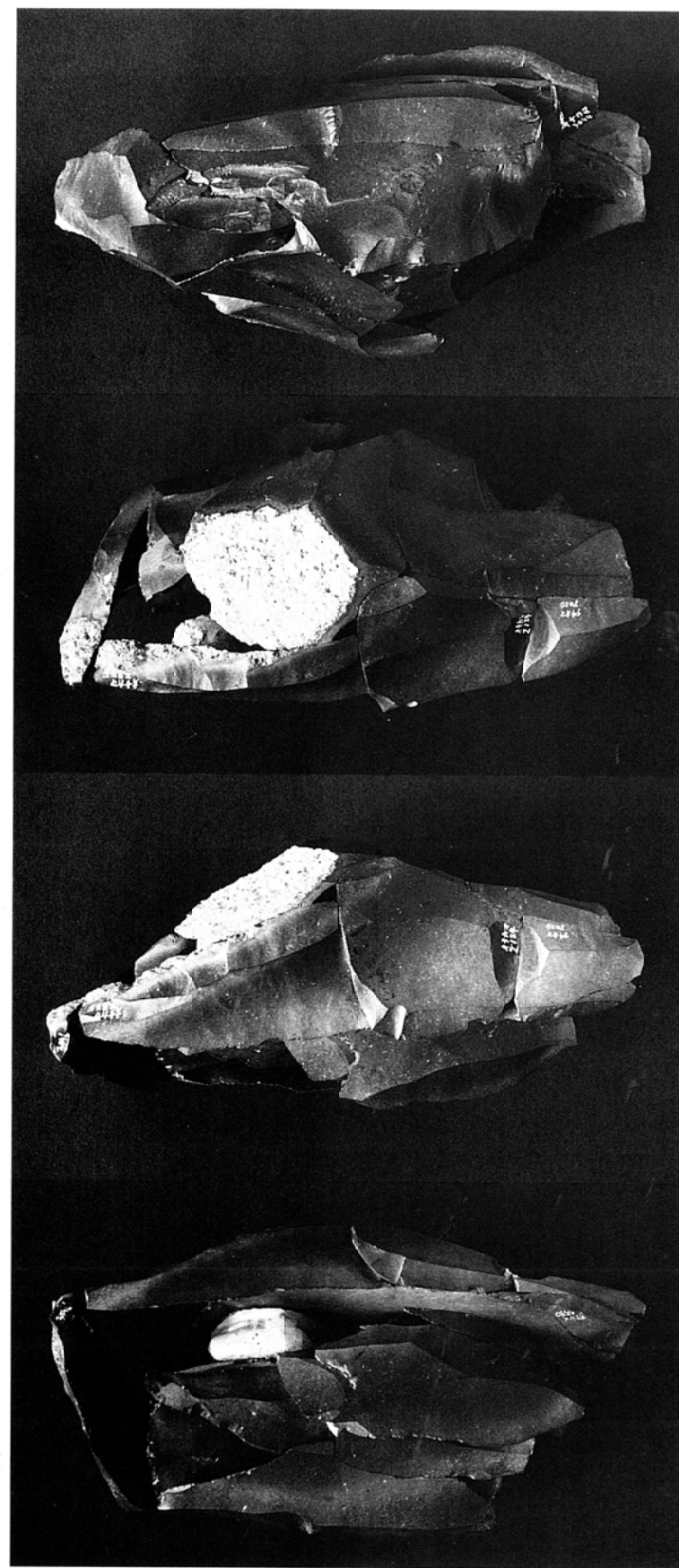
母岩19



母岩20



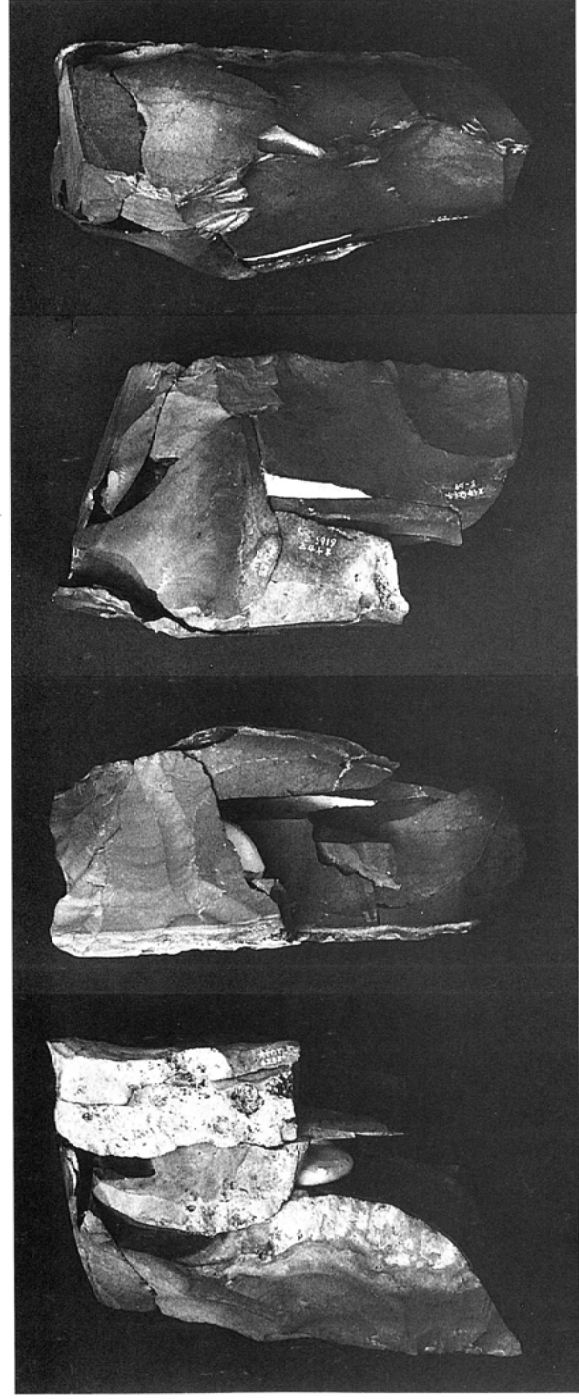
母岩22



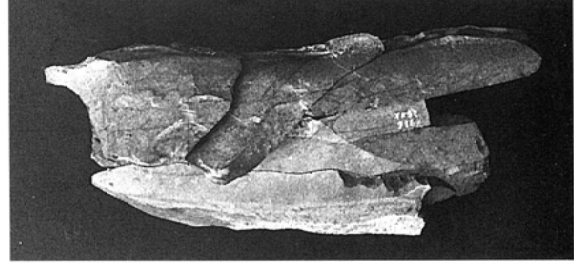
母岩23



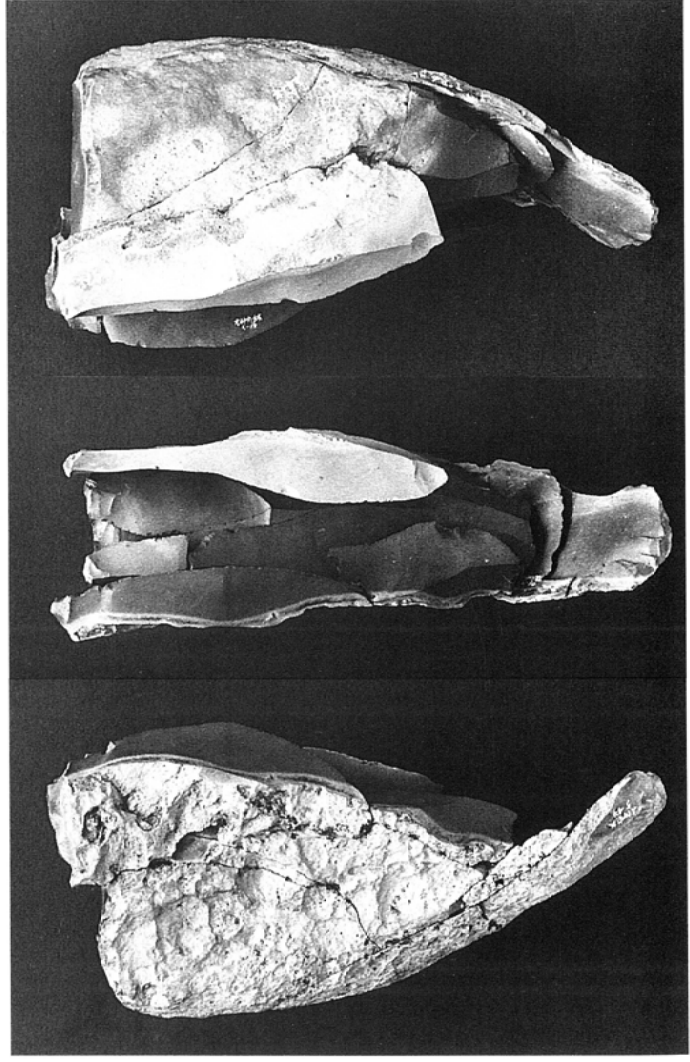
母岩24接合状况



母岩24



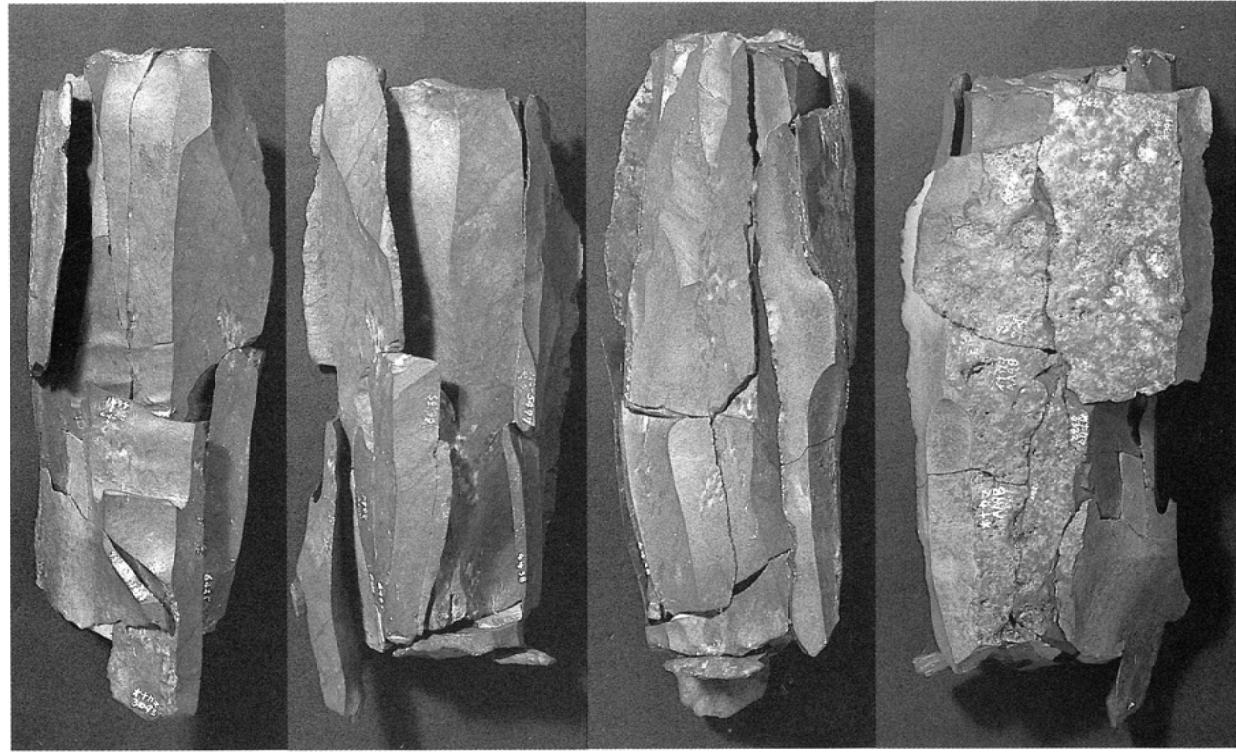
母岩24接合剥片·石刃



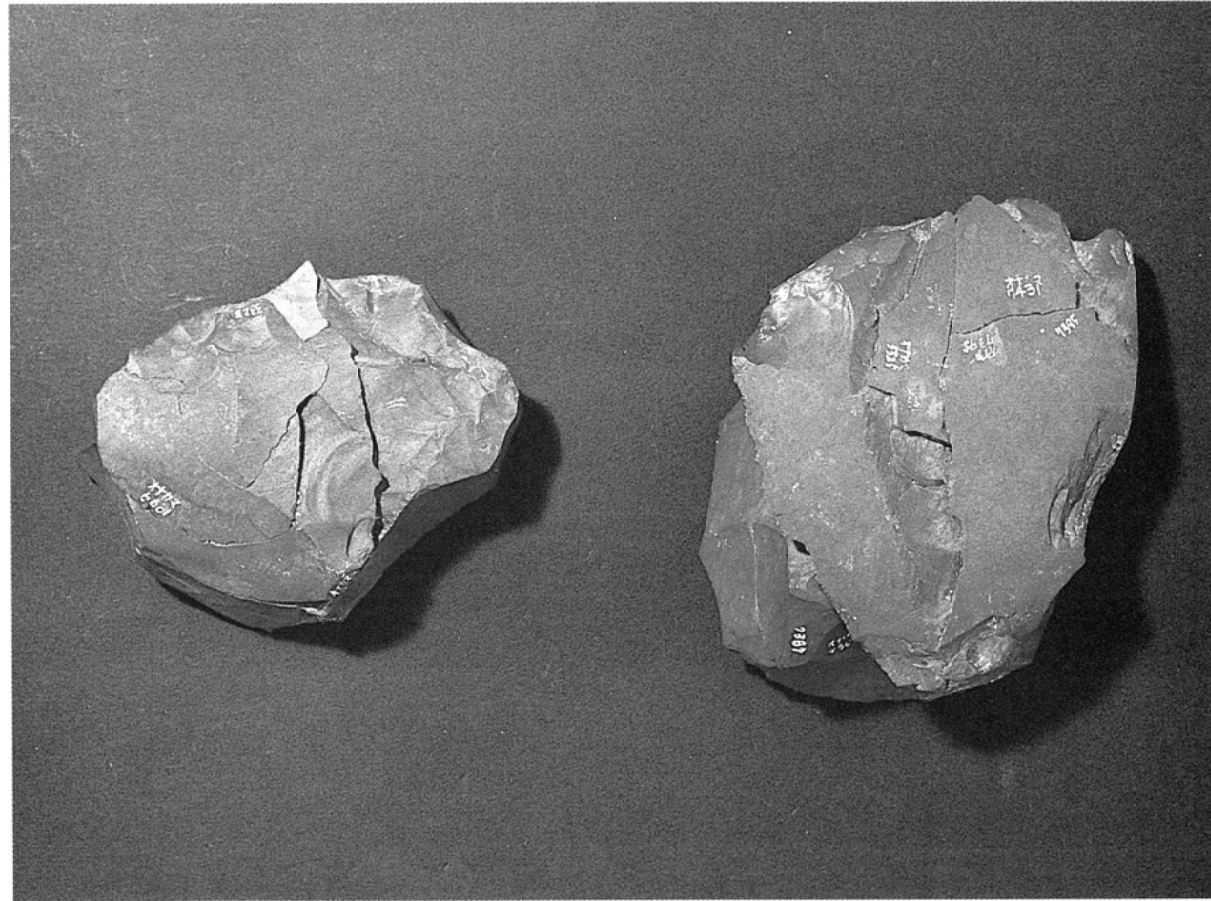
母岩21



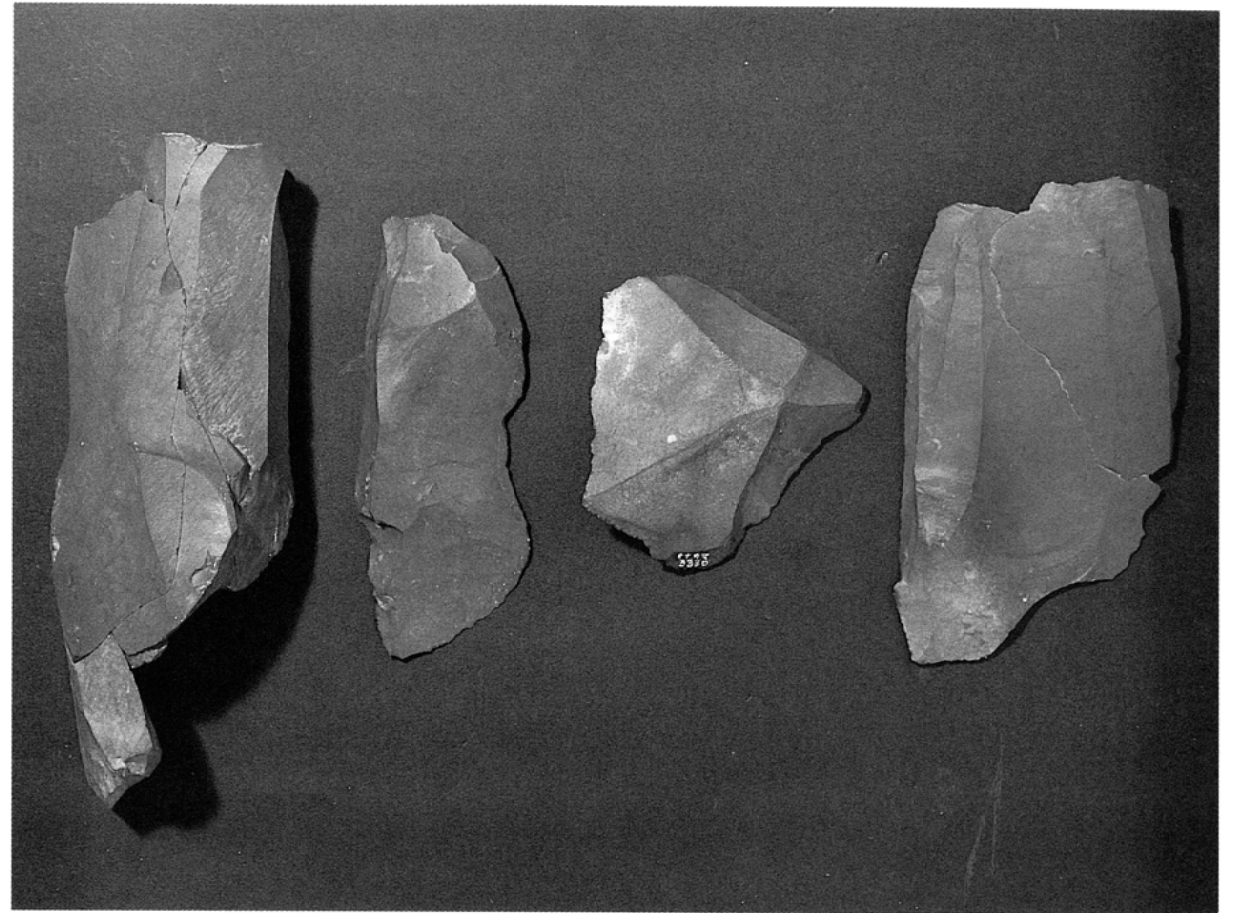
母岩25



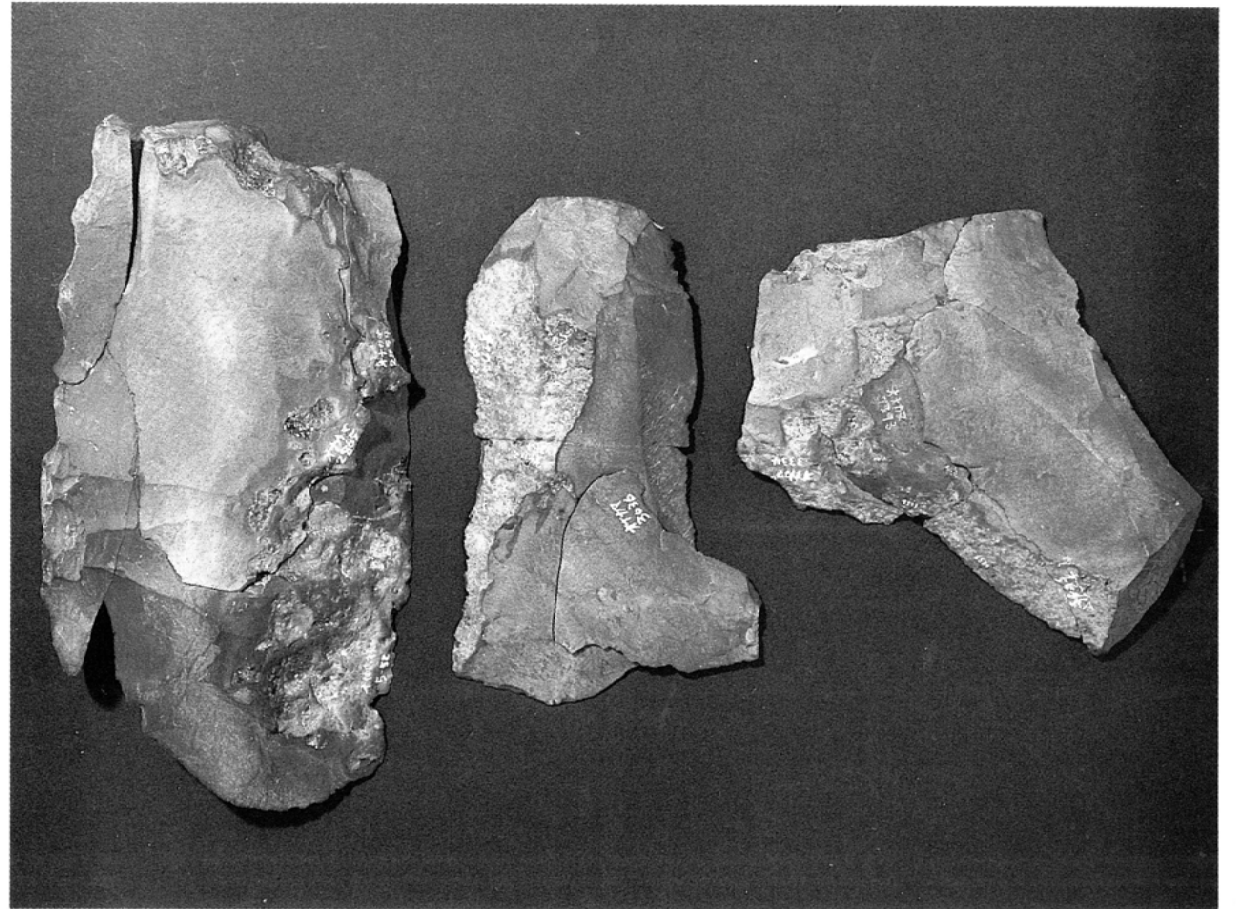
母岩27



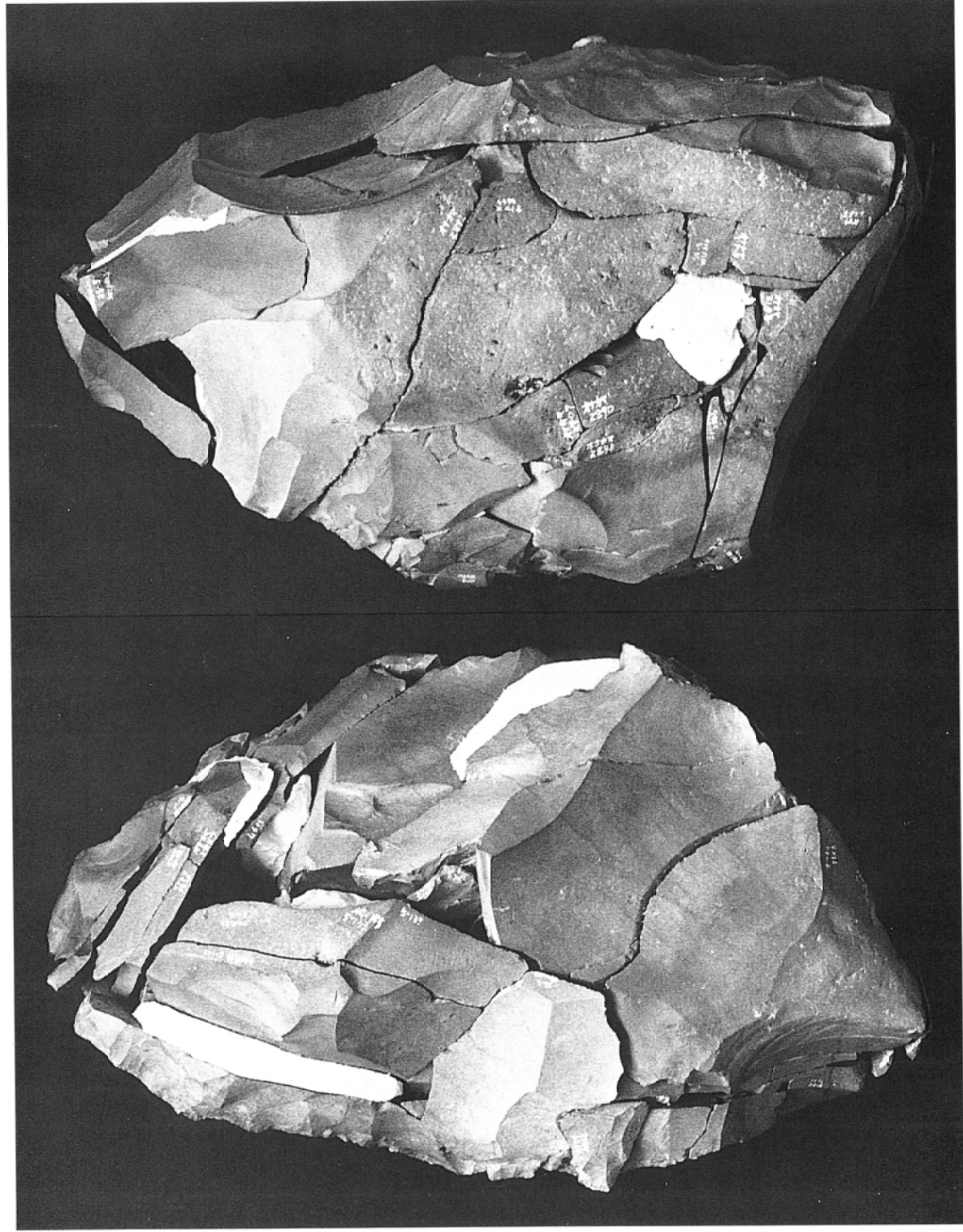
母岩27接合打面調整剝片



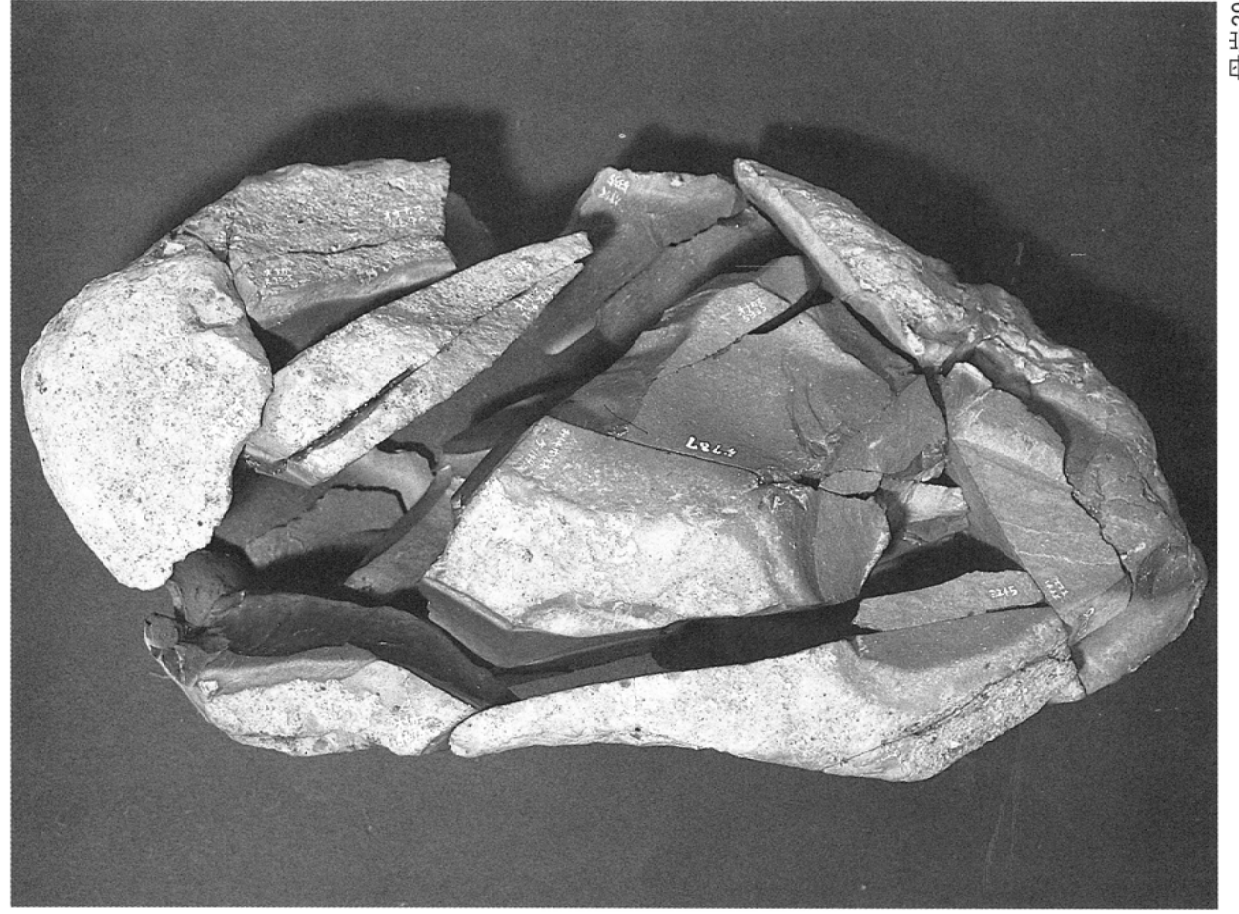
母岩27接合剝片・石刃



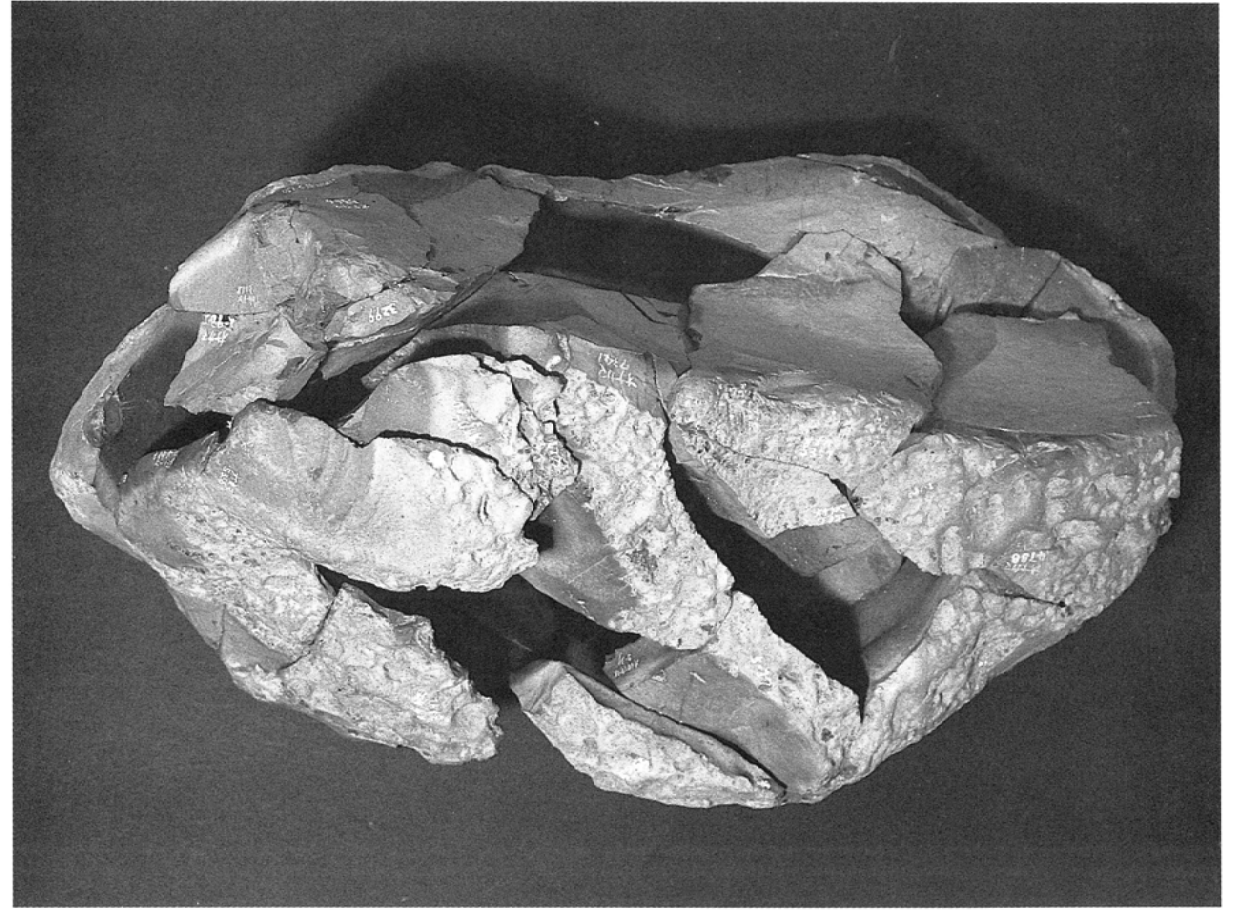
母岩27接合石核調整剝片

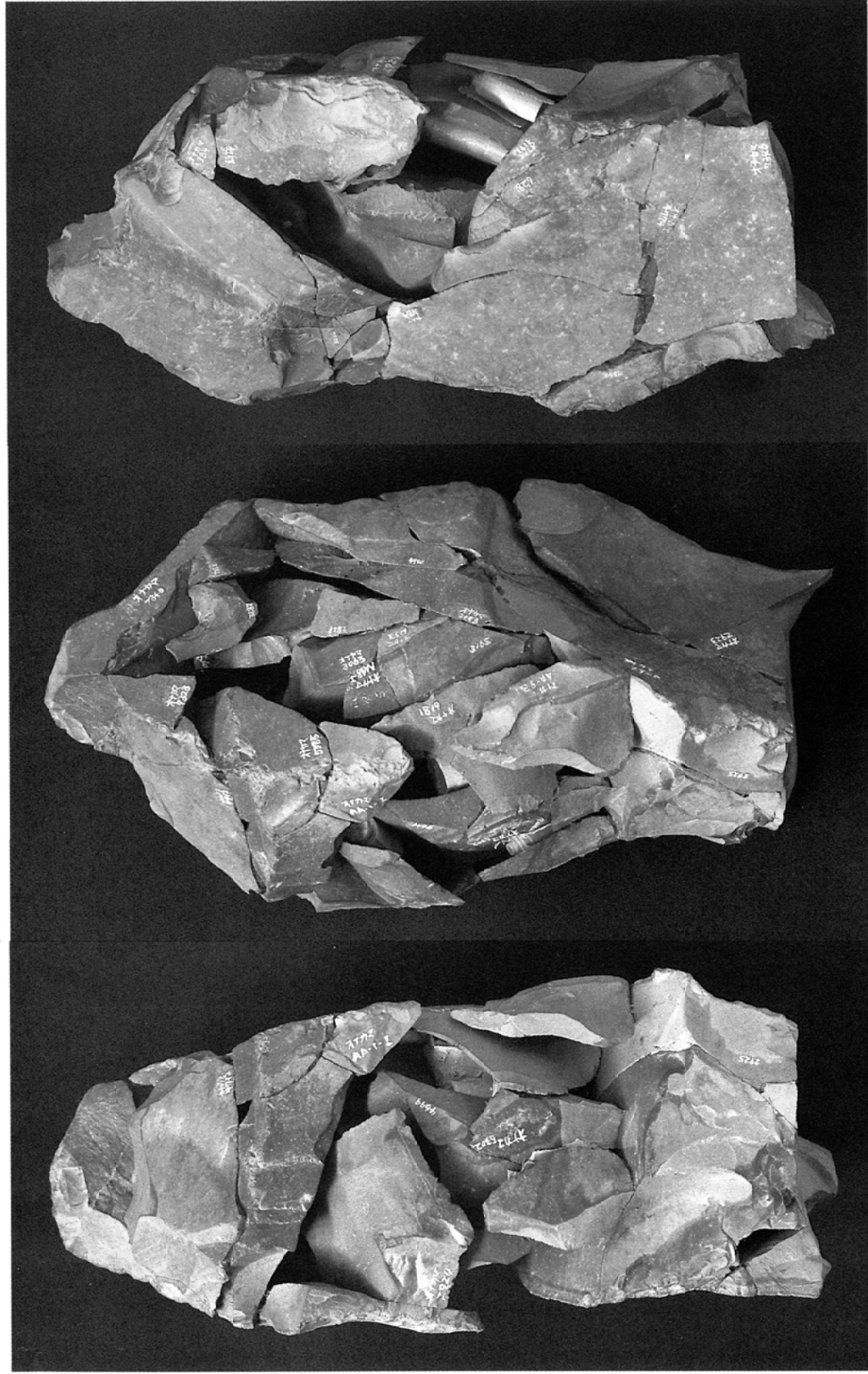


母岩26

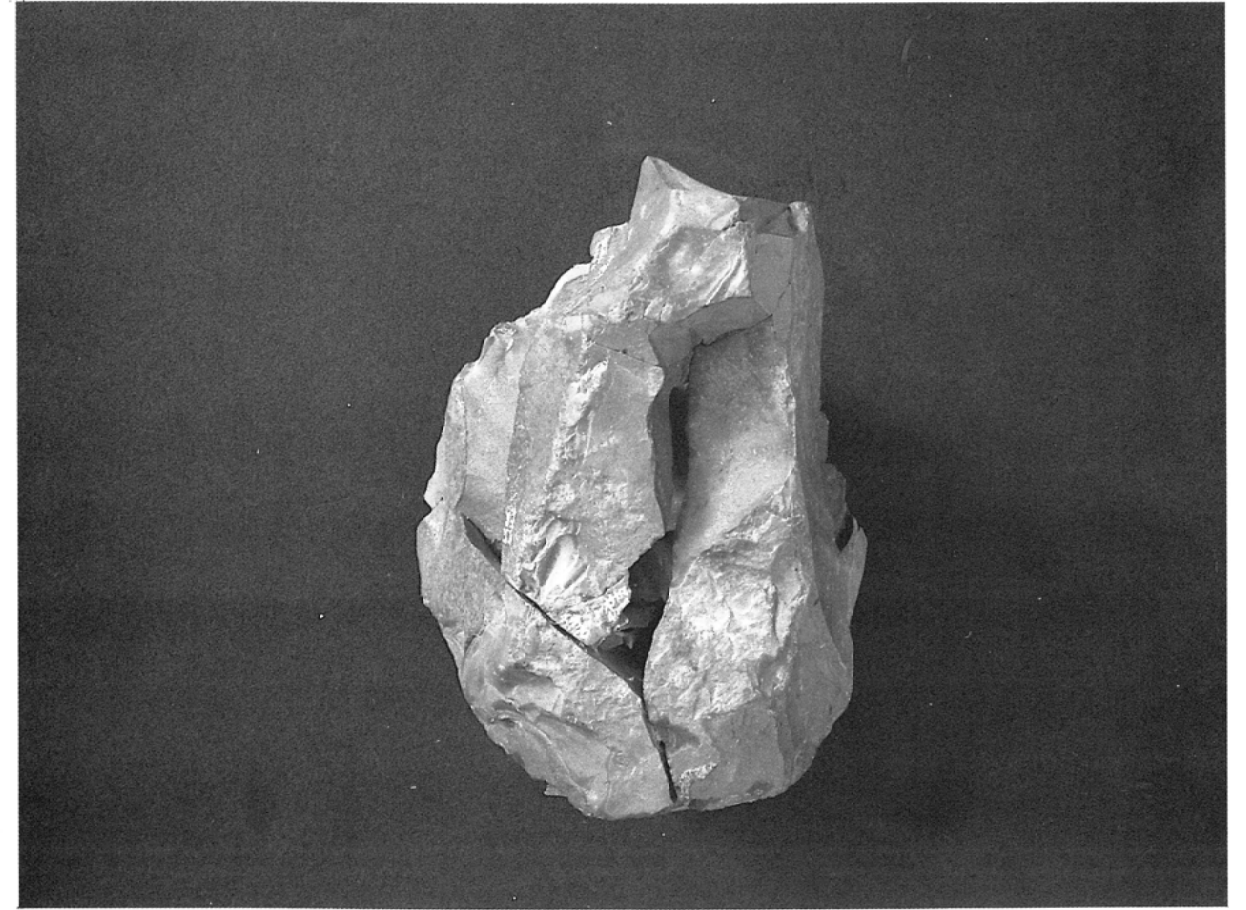
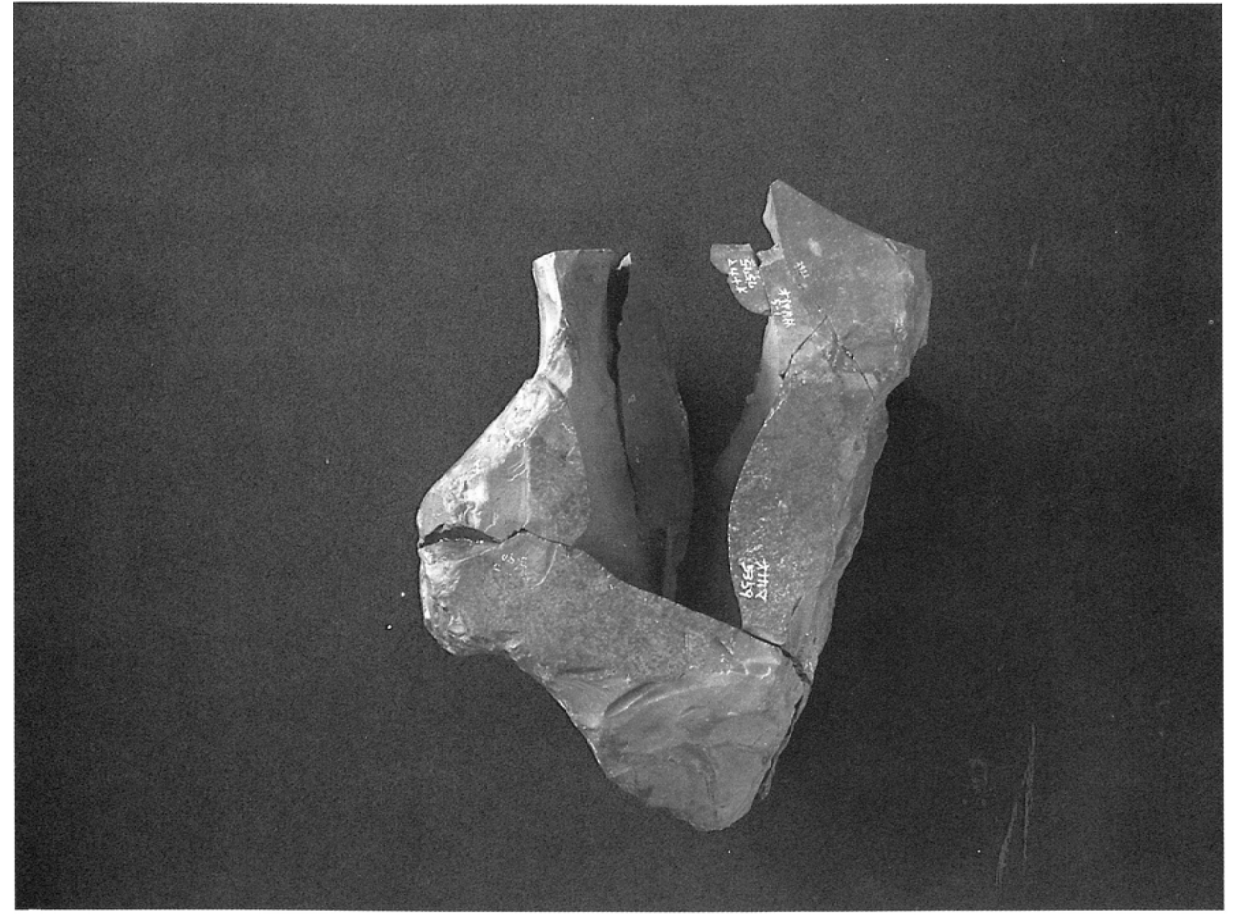


母岩29

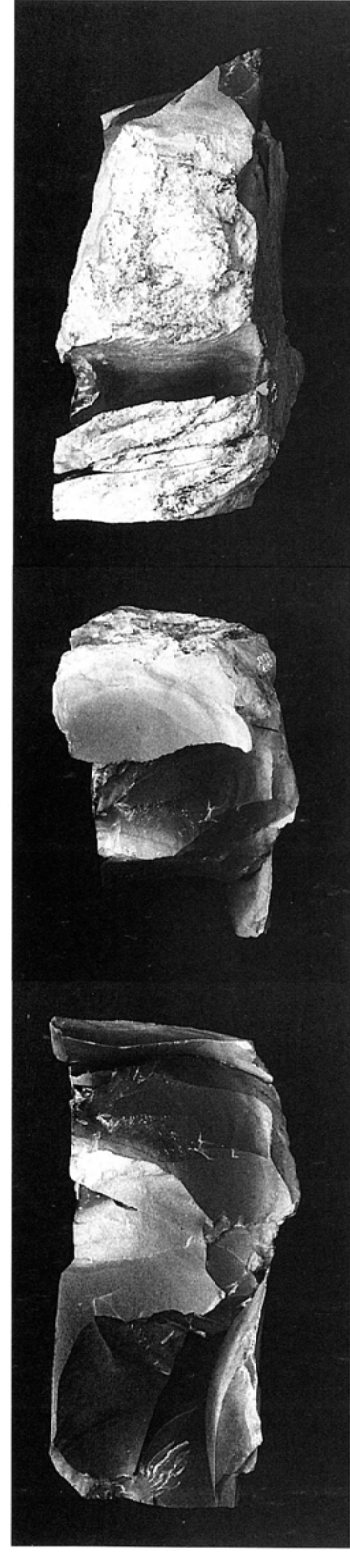




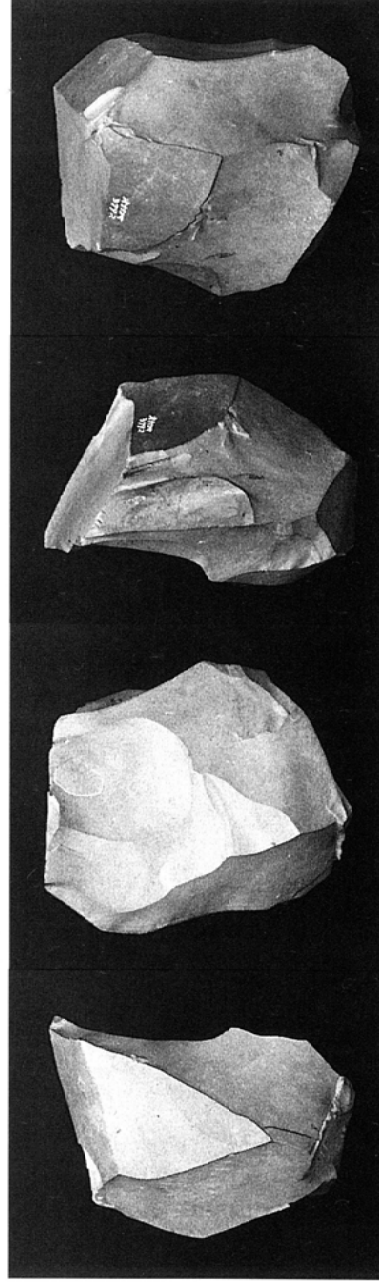
母岩28A·B



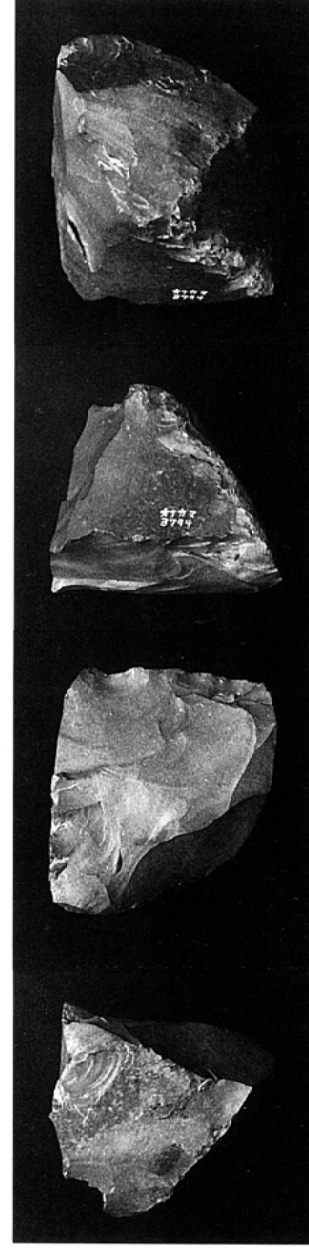
母岩28C



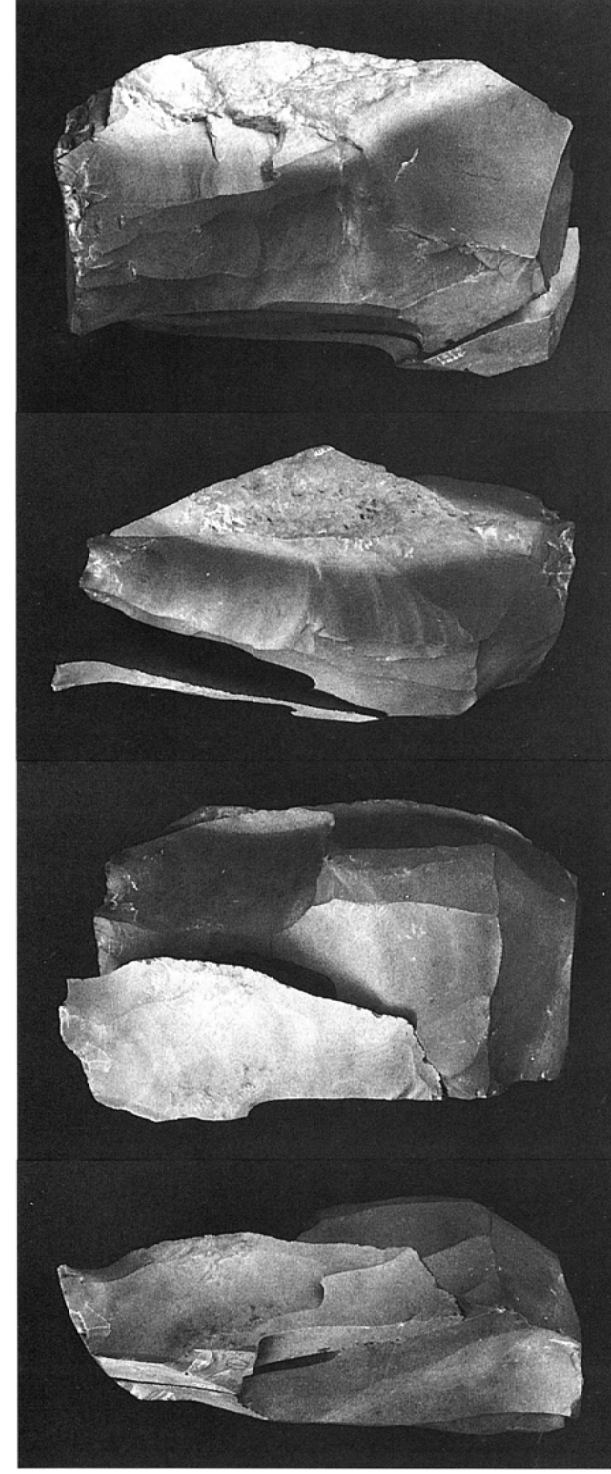
母岩30



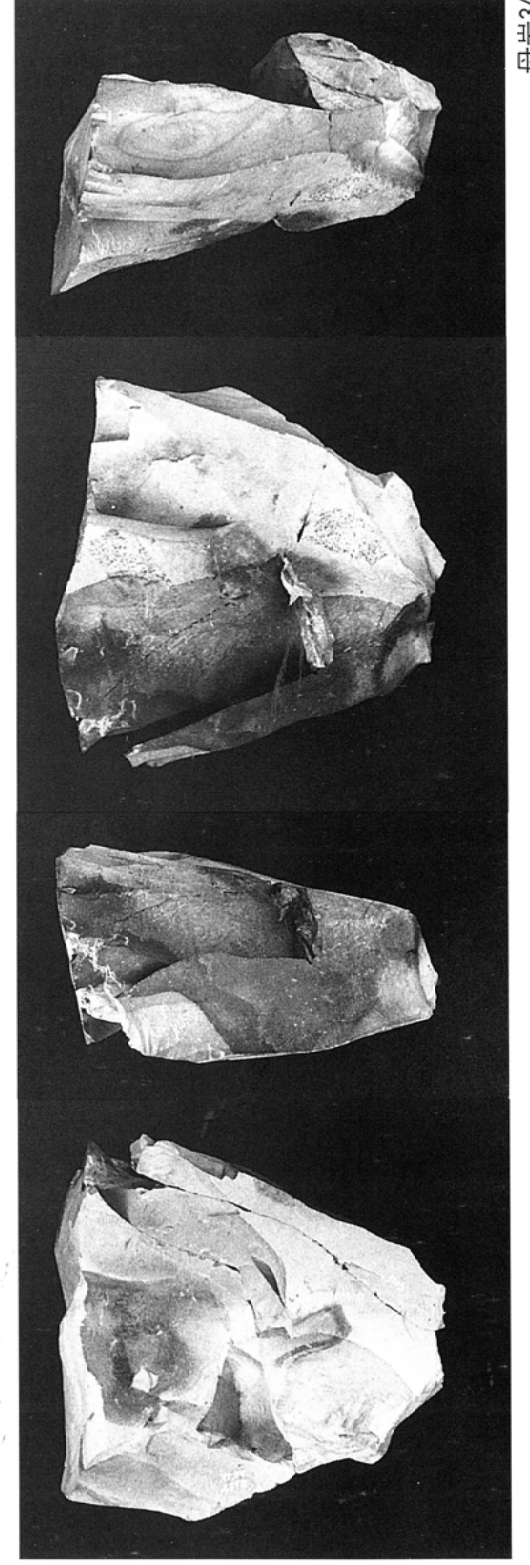
母岩31



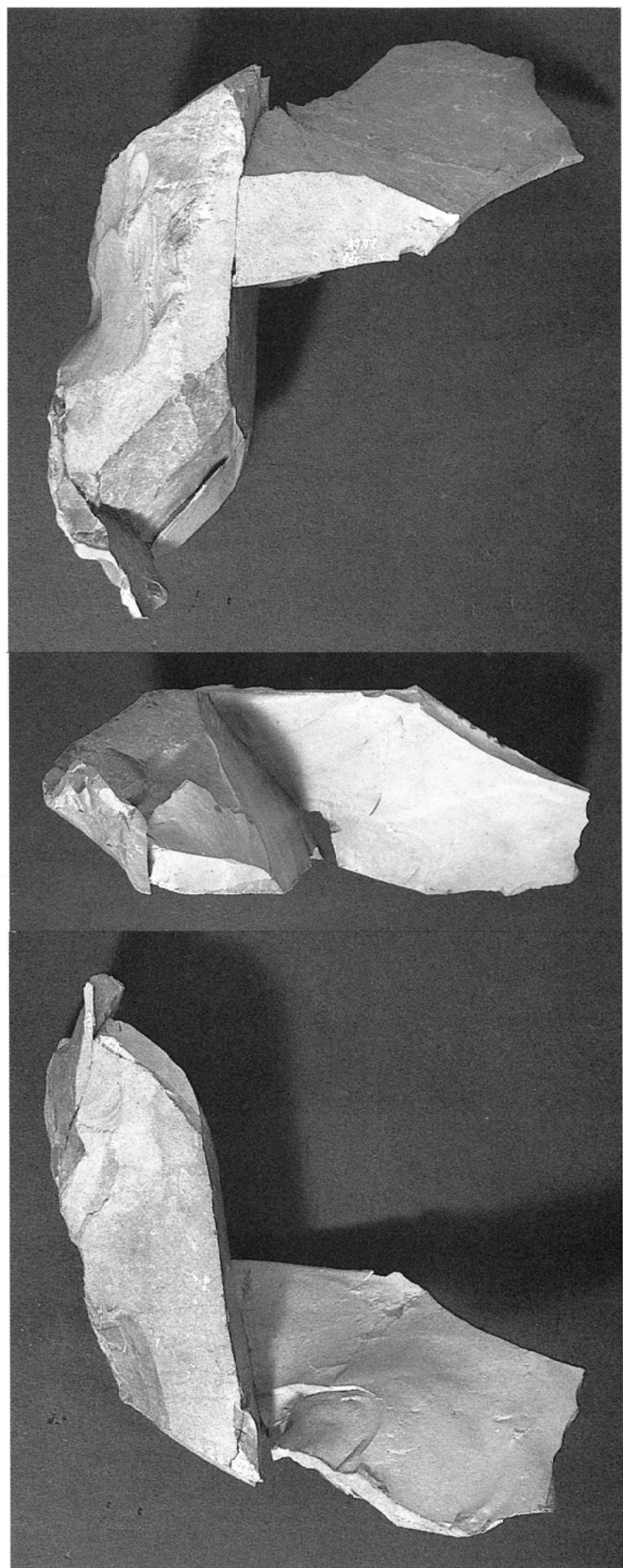
母岩32



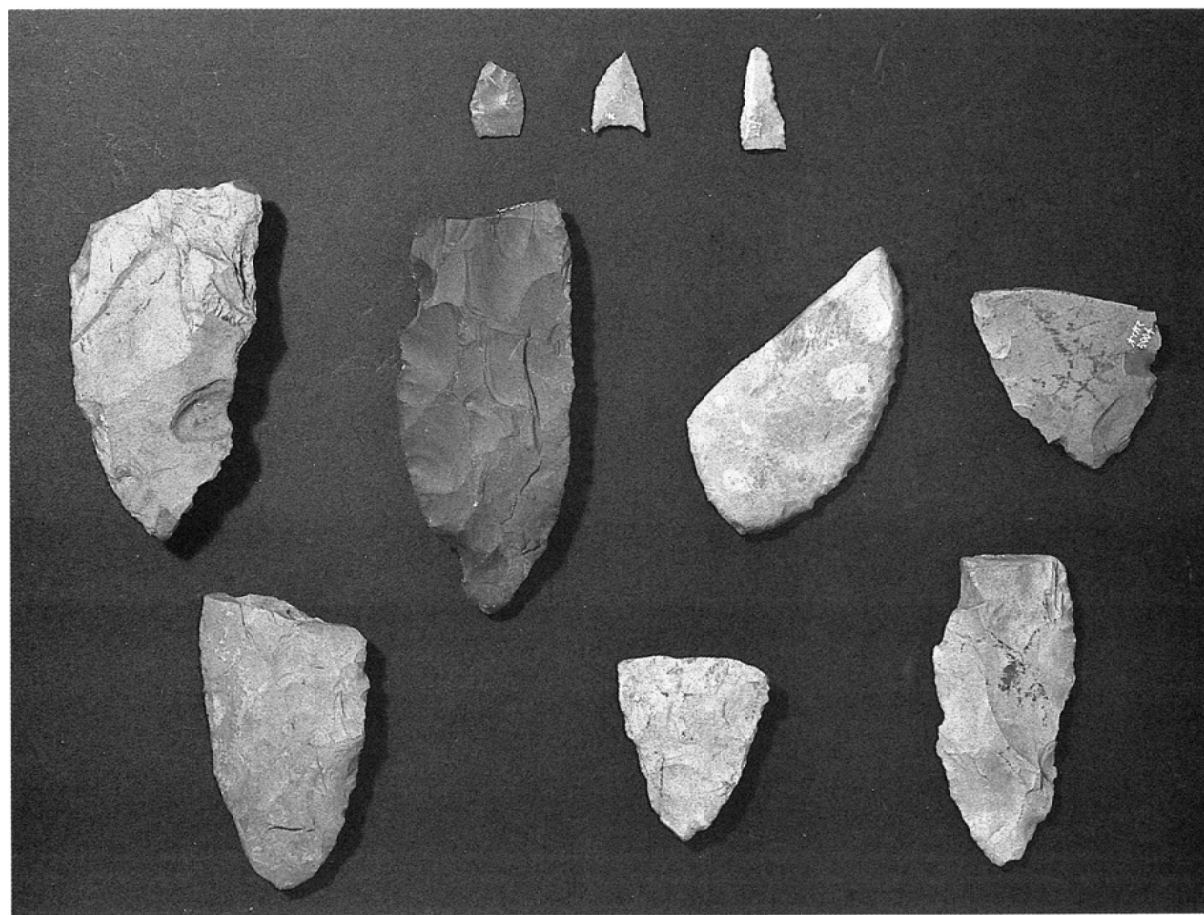
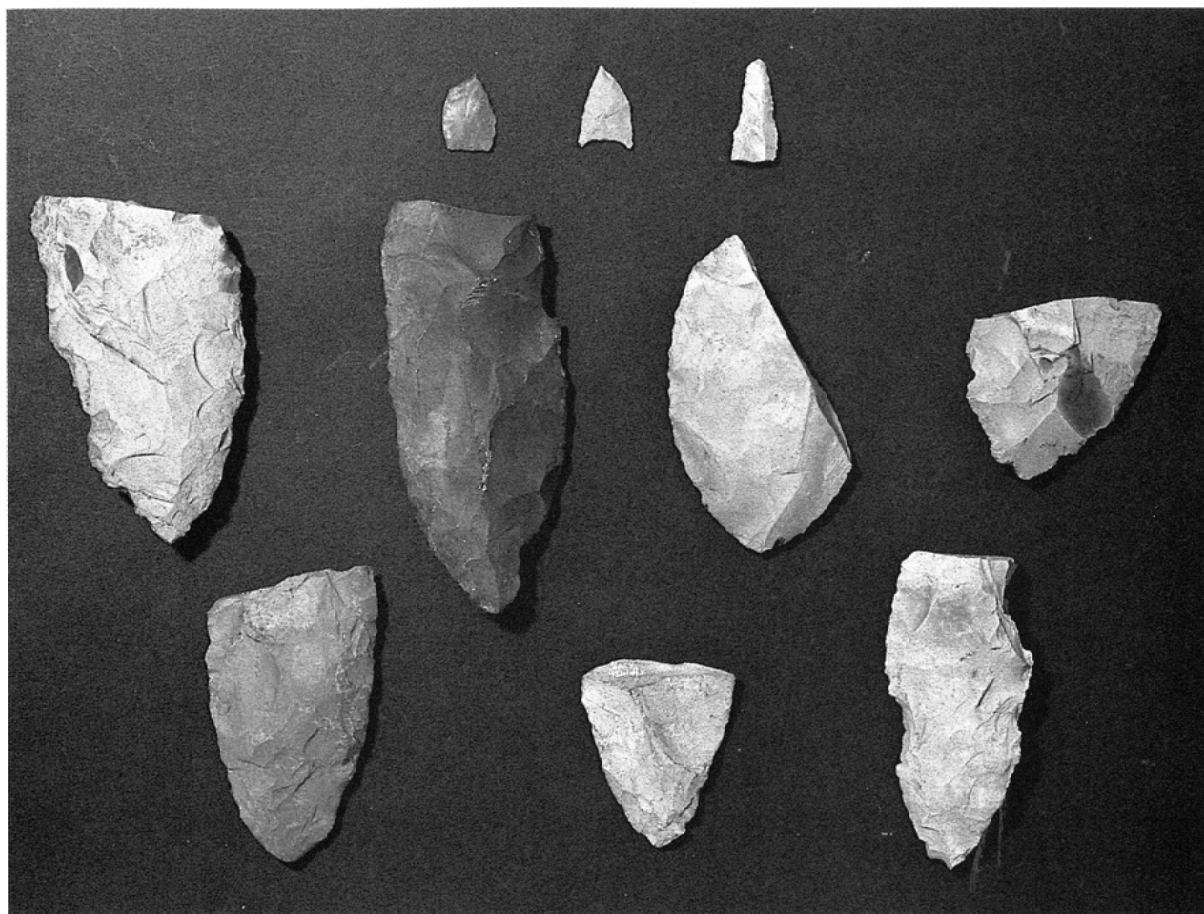
母岩33



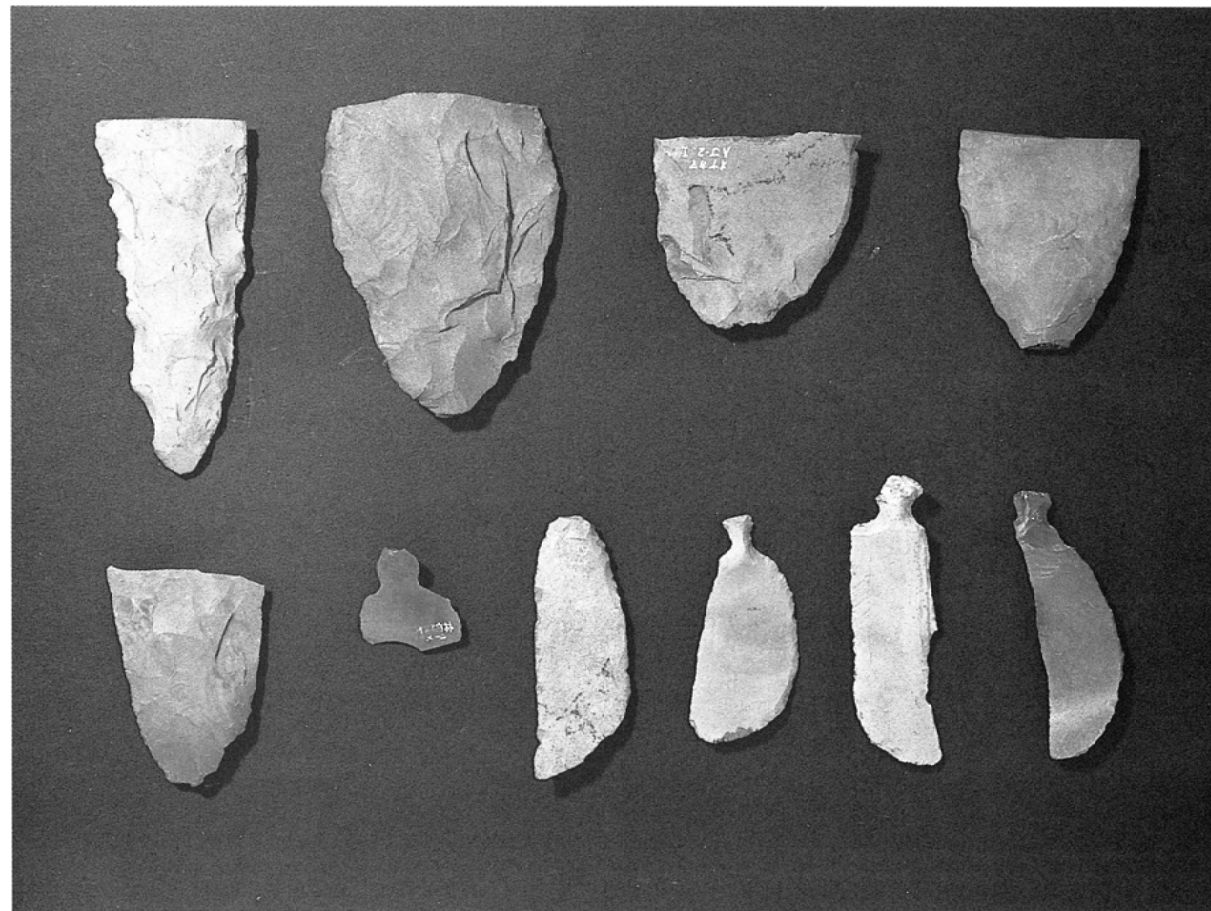
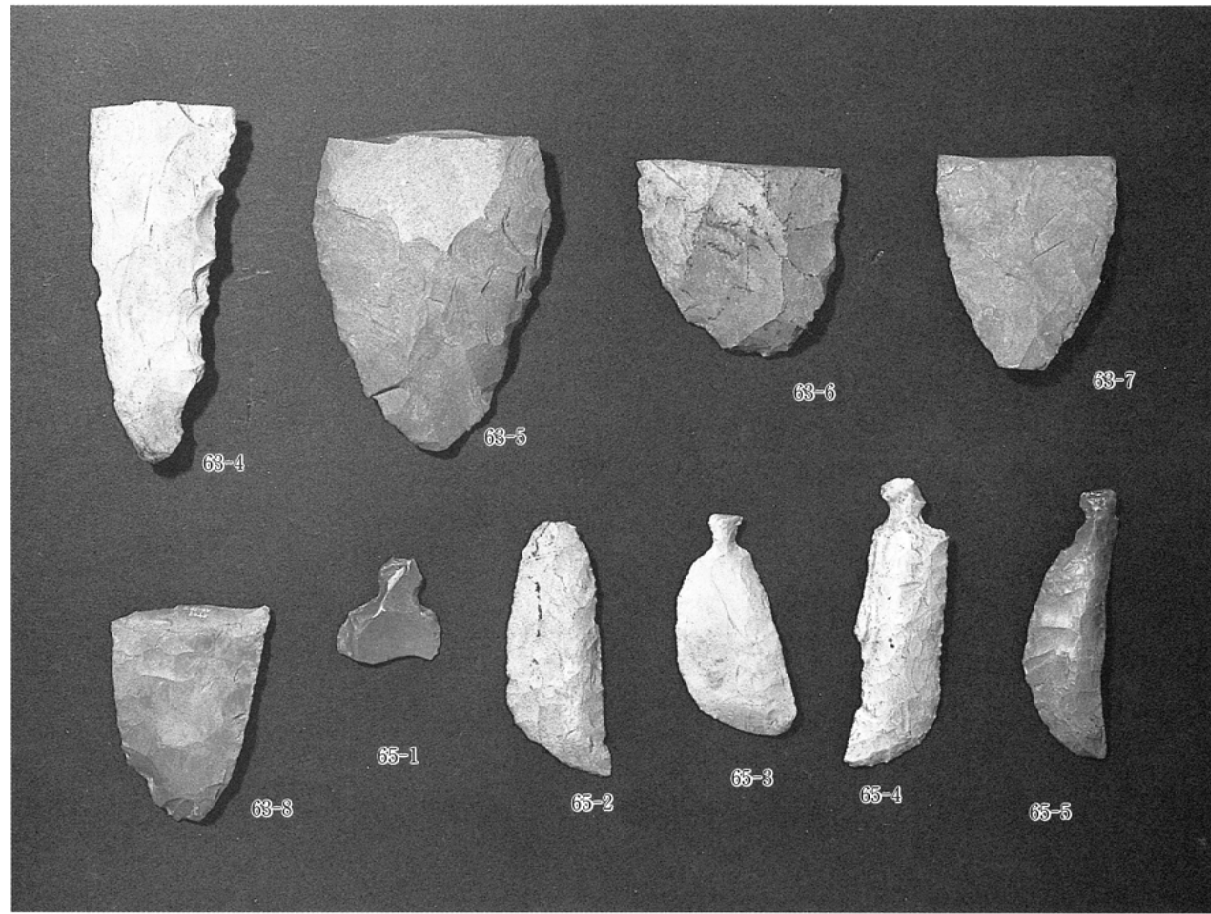
母岩34



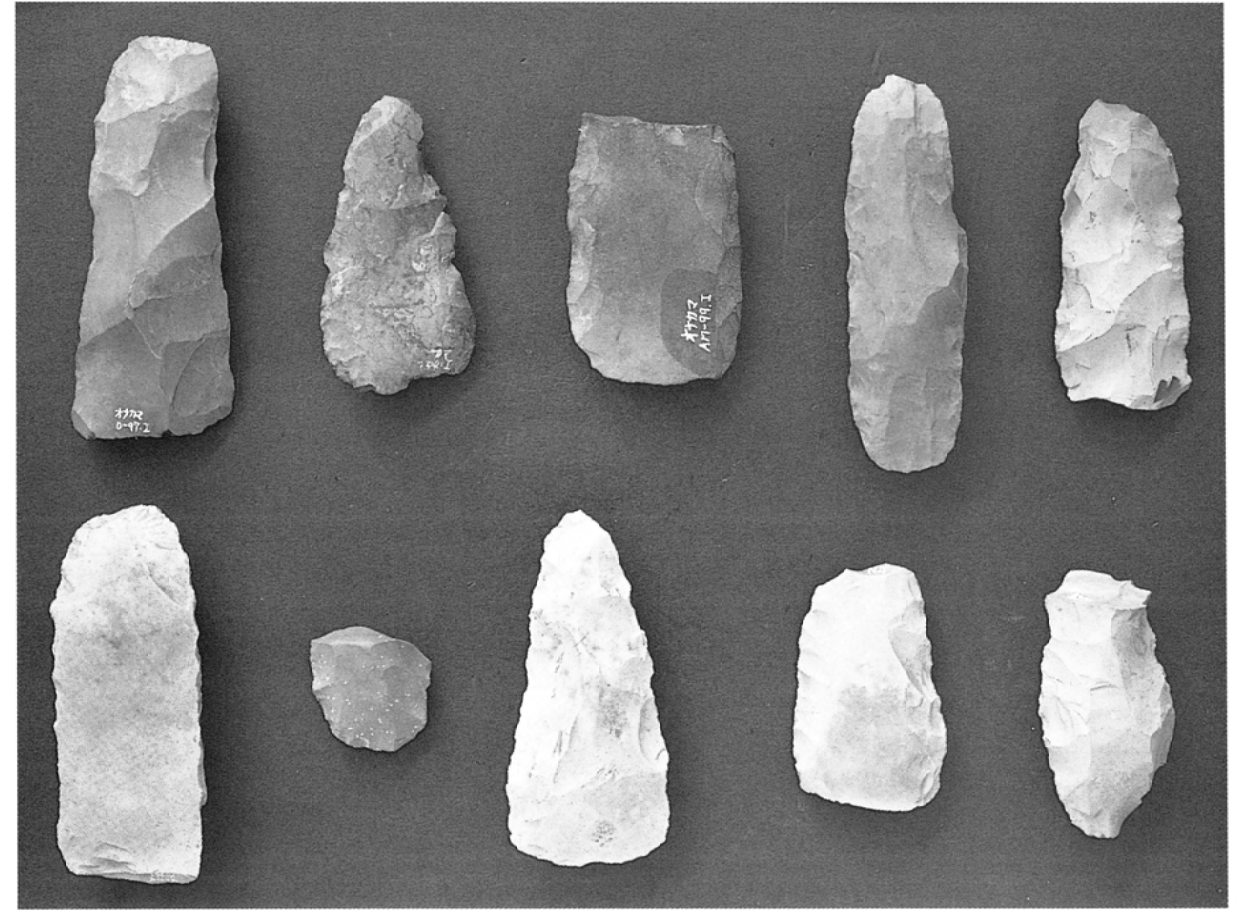
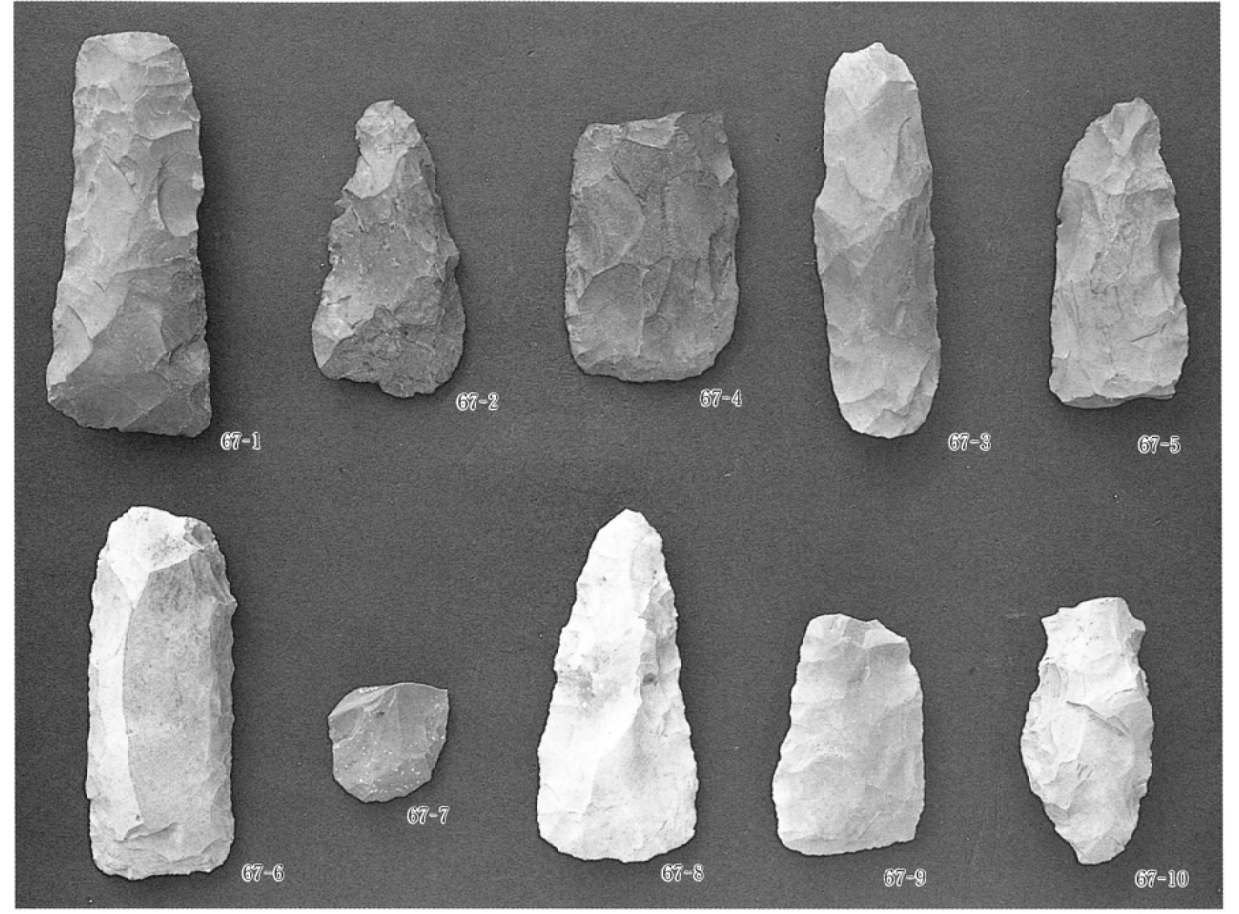
母岩41



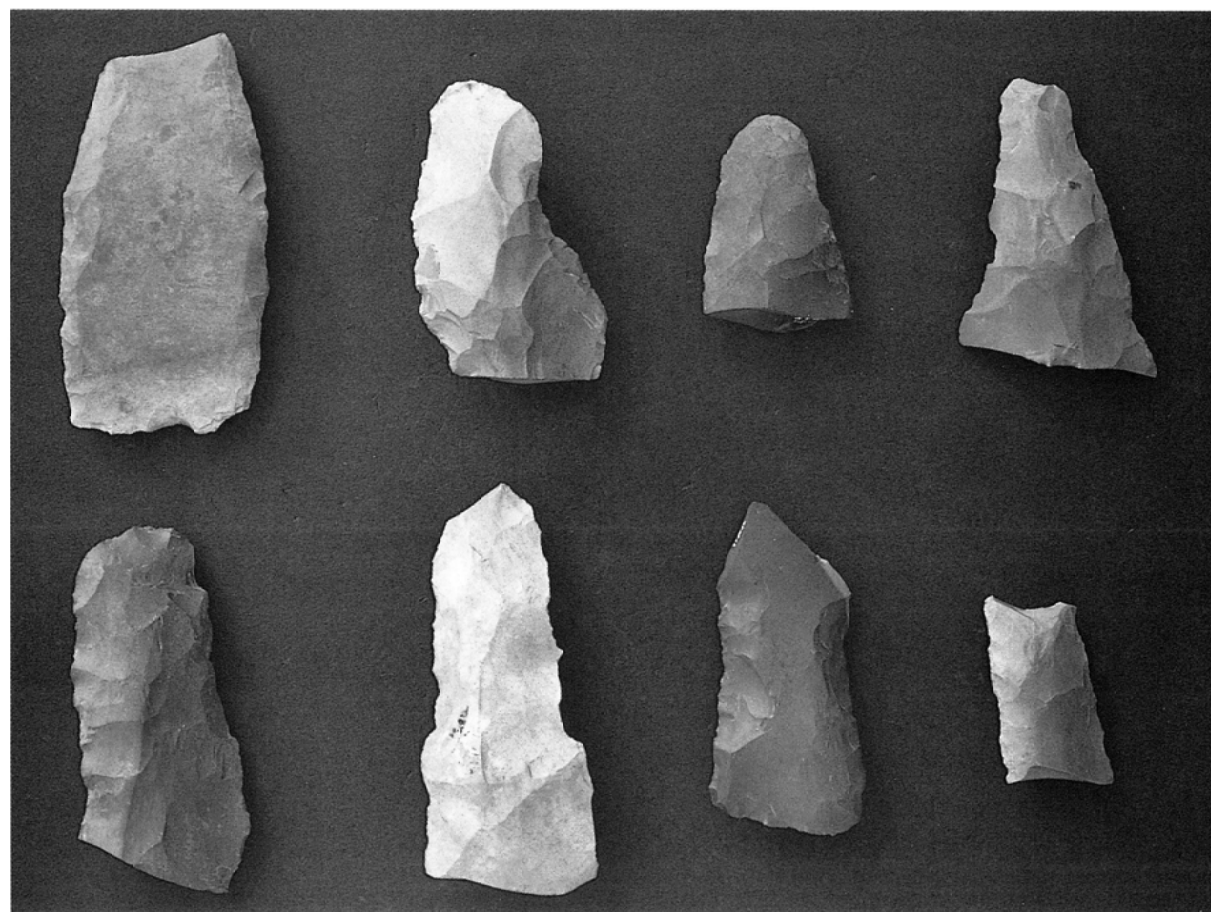
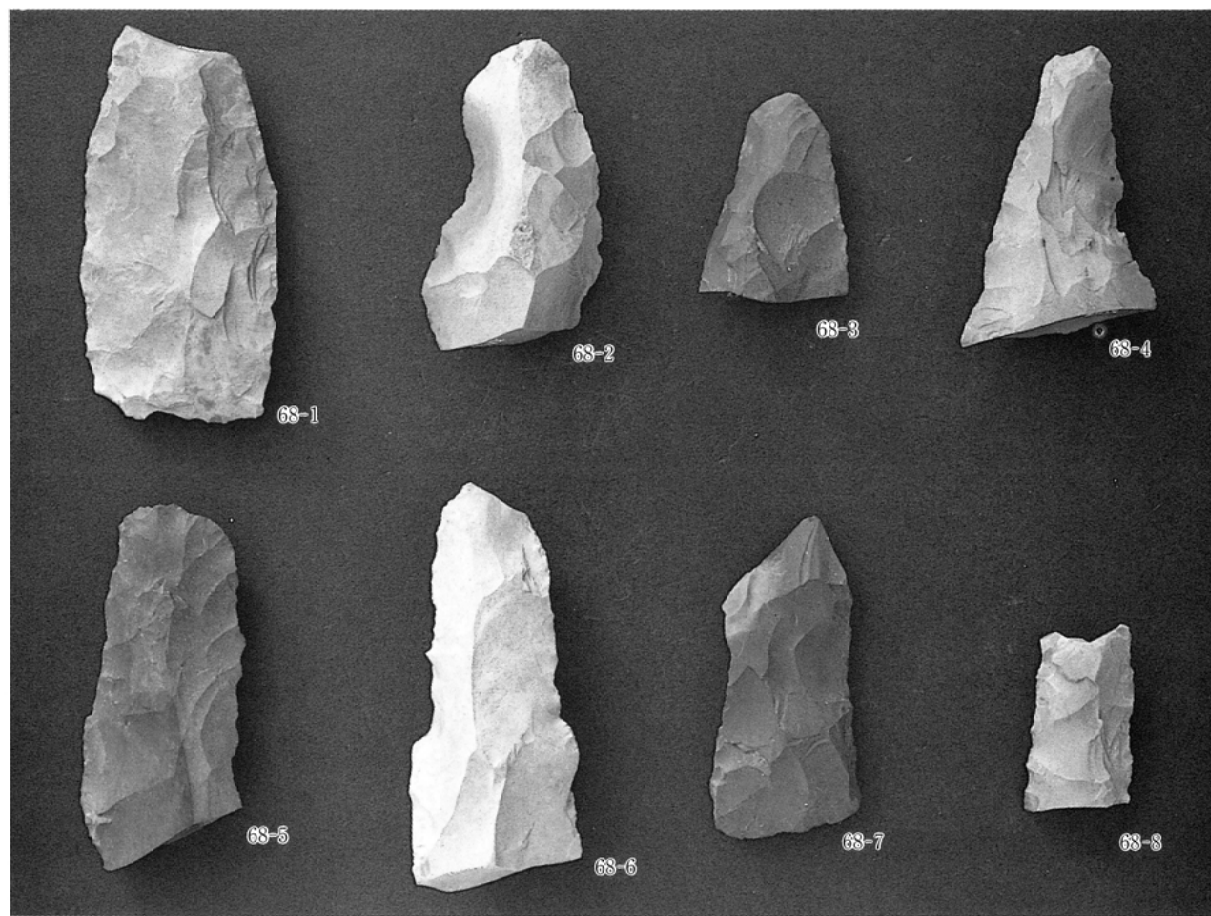
石鏃・尖頭器



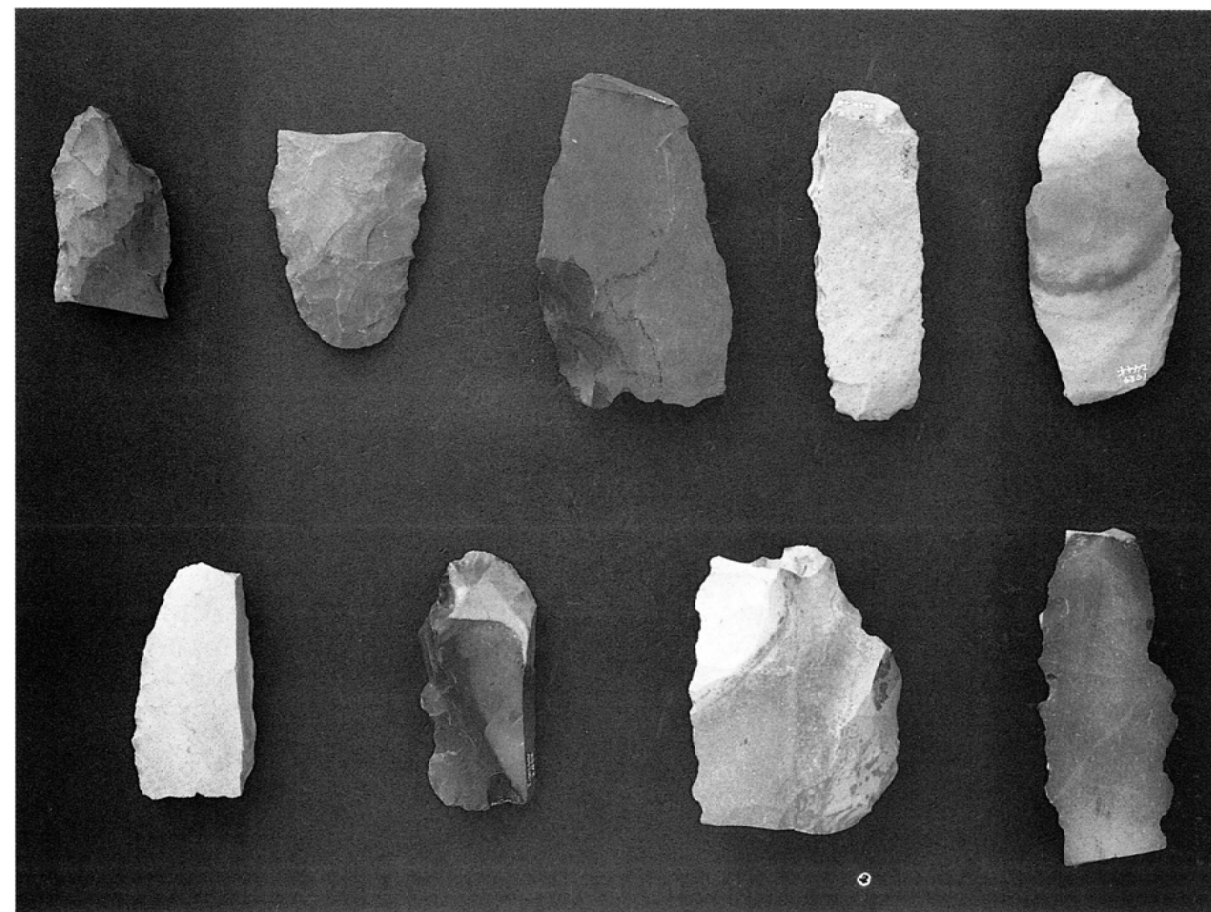
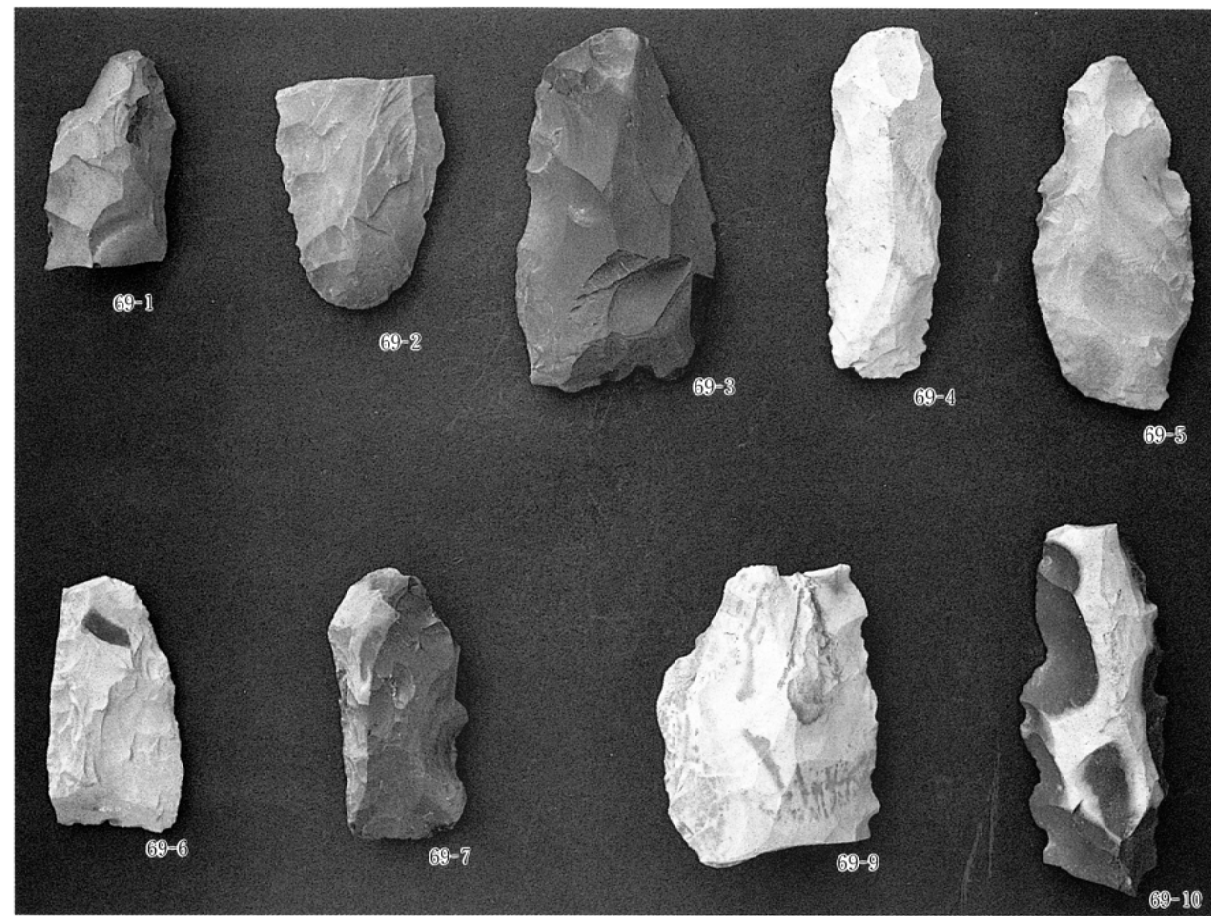
尖頭器・石匙



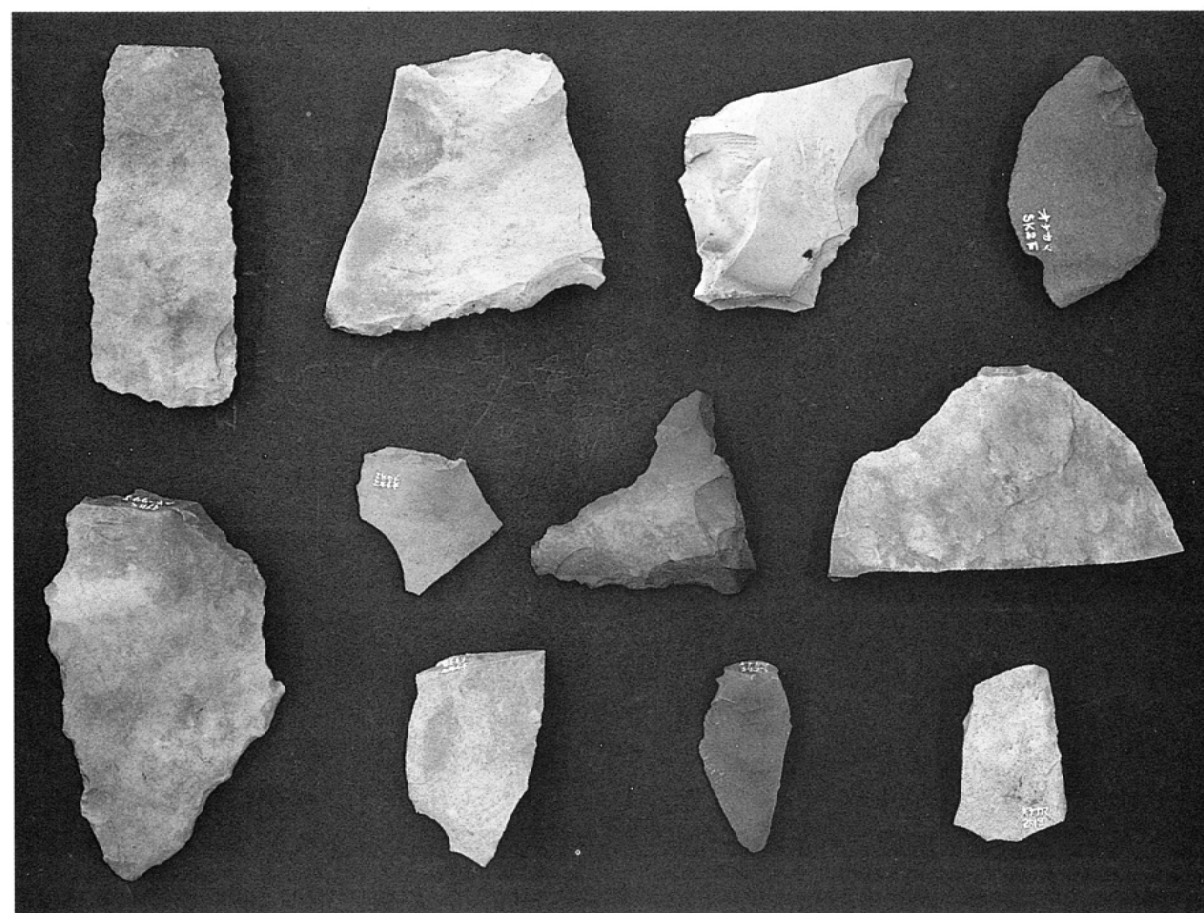
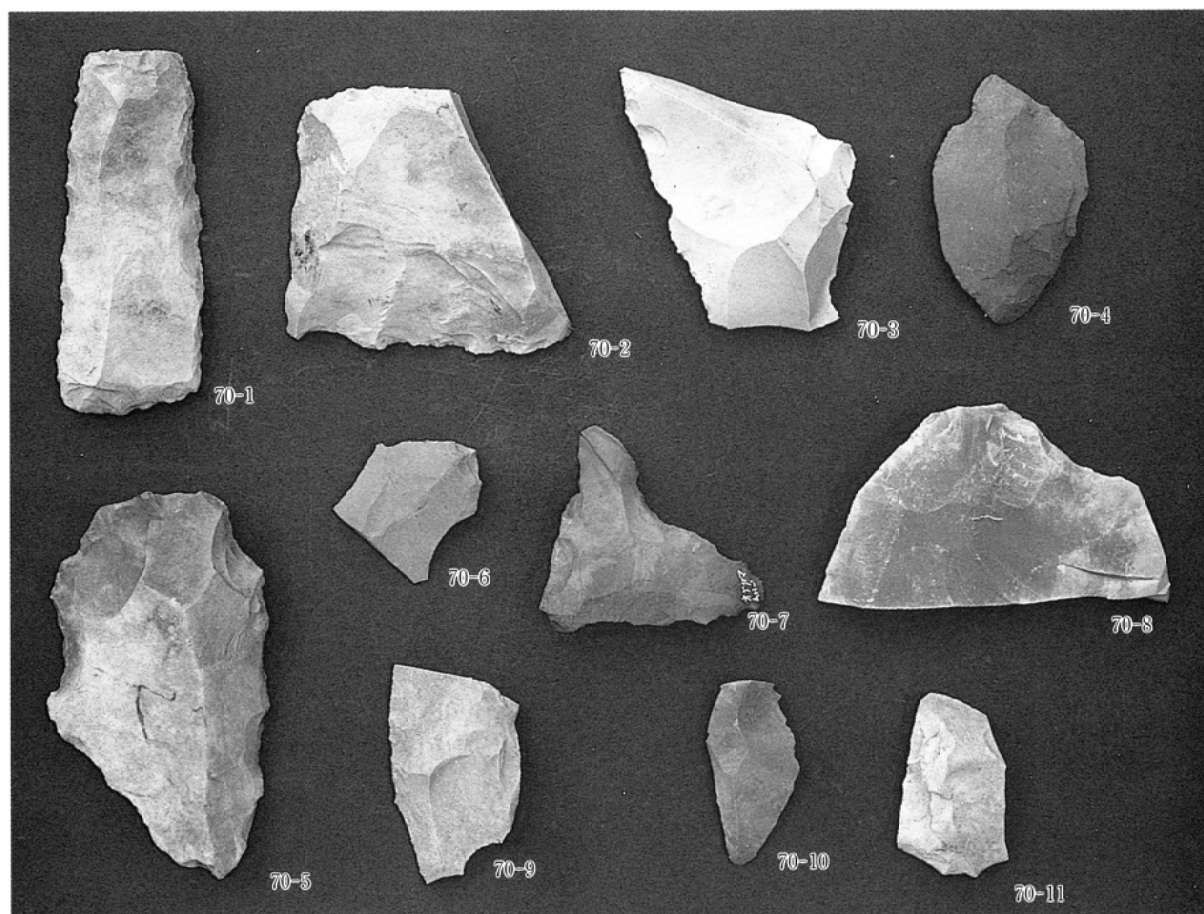
石筴(1)



石篋(2)



石篋(3)



搔器・削器・加工痕ある剥片

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第20集

お仲間林^{なかまばやし} 遺跡発掘調査報告書

1995年3月31日 発行

発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター
 〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番1号
 電話 0236-72-5301
 印刷 藤庄印刷株式会社